

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
法学（子ども）	2	1	前期開講	前原 清隆

テーマ	現代社会と法
-----	--------

科目のねらい	<p>【キーワード】法学入門 市民生活と法</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>現代の法に関する基礎的素養を習得することを目標に、いくつかの柱を立てて、法を通して現代社会の様々な側面を認識し評価することを試みます。それは、市民としての常識を身につけることによって、社会に参加するとともに、自分を守ることにもつながります。またみなさんが専門分野の学習を進めるうえでの基礎となる知識を身につけることにも役立つはずで、生きた法を学ぶため、毎回の講義の冒頭で法に関する時事的問題を取り上げます。できるだけ新聞記事やニュース映像などを活用して進めたいと思います。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>市民的常識を身につける。</p> <p>専門学習の基礎となる知識を身につける。</p>
--------	---

授業のながれ	
法とは何か・・・社会生活と法	
法の目的・・・法と正義	
法の特質・・・権利と義務	
法の分類・・・「六法」のことなど	
法と裁判・・・裁判員制度を中心に	
市民生活と法	
家族と法	
労働と法	
犯罪と法	
政治と法	
情報社会と法	
環境と法	
医療と法	
国際社会と法	
まとめ	

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>新聞やテレビなどの報道に注意を払って下さい。「自由とは他人を害しないすべてをなしうることに存する」（＝私語の自由はありません）</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p>
-------------------	--

成績評価の方法											
<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>0%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	0%	レポート	0%	中間試験	0%	定期試験	100%	その他	0%	定期試験の成績にレポートの提出状況などを加味して総合的に評価します。詳細は開講時に説明します。
課題・小テスト	0%										
レポート	0%										
中間試験	0%										
定期試験	100%										
その他	0%										

テキスト	
<input checked="" type="checkbox"/> テキストを使用する <input type="checkbox"/> レジユメを使用する <input type="checkbox"/> 未定（最初の授業で指示する）	平野武ほか 『新・生活と法』 法律文化社

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
社会学	2	1	後期開講	末盛 慶

テーマ	社会学的な視点を学ぶ
-----	------------

科目のねらい	<p>【キーワード】近代 産業化 規範 ジェンダー ジェンダー 貧困</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>本講義の目的は、社会学とはどのような学問であるかを理解し、現在起きているさまざまな現象に対する社会学的な見方を学ぶことです。現在の社会にある&lt;常識&gt;を疑い、社会のあり方には「さまざまな可能性」がありうることを学びます。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会学を理解する上で重要なキーワードである「近代」という用語を理解する。</li> <li>・社会学の古典（デュルケム、ウェーバーなど）に関する知識を得て、それを説明できる。</li> <li>・家族、仕事、地域、福祉といった具体的な生活場面を、社会学的な視点で見えていく能力を身につける。</li> </ul>
--------	---

授業のながれ	
1. 社会学ー序	
2. 近代とは何か	
3. 社会学の理論Ⅰ（デュルケム、ウェーバーなど）	
4. 社会学の理論Ⅱ（パーソンズ、ギデンズなど）	
5. 自我・アイデンティティの社会学	
6. ジェンダーの社会学	
7. セクシャリティの社会学	
8. 家族の社会学	
9. 前半のまとめ	
10. 仕事の社会学	
11. 地域・コミュニティの社会学	
12. 子ども・学校の社会学	
13. 貧困・不平等の社会学（1）	
14. 貧困・不平等の社会学（2）	
15. 全体のまとめ	

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>・講義は、配布するレジュメにそって行う予定です。・本講義では、みなさんが「社会学的にもの考える」ということを重視しています。できるだけわかりやすく説明したいと思います。ただ一部難しい内容を講義する場合もあるので、みなさんの「きちんと講義を聴く」という姿勢が大切です。毎回、レジュメを配布します。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p> <p>「家族社会学」「現代生活論」「ジェンダー論」</p>
-------------------	--

成績評価の方法											
<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>50%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>40%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	10%	レポート	50%	中間試験	0%	定期試験	0%	その他	40%	<p>・授業の終わりに「感想文」という形で出席をとります（成績に反映します）。・成績は基本的に定期試験で評価しますが、短めの課題（中間レポート）を設けるかもしれません。</p>
課題・小テスト	10%										
レポート	50%										
中間試験	0%										
定期試験	0%										
その他	40%										

テキスト	
<input type="checkbox"/> テキストを使用する <input checked="" type="checkbox"/> レジュメを使用する <input type="checkbox"/> 未定（最初の授業で指示する）	

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
哲学	2	1	後期開講	池谷 壽夫

テーマ	近代的人間観の再検討ー子ども・女性・弱者の視点から
-----	---------------------------

科目のねらい
<p>【キーワード】 優生思想 ジェンダー 生と死 発達 発達 教育</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>今日ほど、あらためて近代とそこで要請されていた人間観の問い直しが求められている時代はない。子どもの問題、教育の問題、女性問題、障害者の問題、どの問題を取ってみても、今一度根本から近代的人間観を問い直さざるをえなくなっている。その中心にあるのは、何よりも強者の論理と文化であった。例えば、それは、近代的人間観における男性中心主義や、大人中心主義（その裏返しの子ども中心主義）、そして弱者を切り捨てる優生思想などに見られる。本講義では、〈子どもー大人〉関係、〈男性ー女性〉関係、〈強者ー弱者〉関係に焦点を絞り、また具体理論的課題を検討する。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>近代的人間観のはらんでいる問題が何かを理解する。</p> <p>子ども・障害者・女性の視点から人間観を問い直す</p> <p>今日の社会の中で新たな能力観・人間観・社会観をイメージし構想する。</p>

授業のながれ
本講義ながれの目的・授業構成、内容等のガイダンス
近代的人間観の特徴ー人間とは誰か
生と死を考える（その1）—— 中絶をめぐって
生と死を考える（その2）—— 脳死を考える
「ふつう」とは何か —— 障害者問題とは
人間の優劣を決めることができるのか？（その1）— 近代的人間観と優生学、優生思想
人間の優劣を決めることができるのか？（その2）— 福祉国家の下での優生思想
男性と女性（その1）—— セクシュアリティの多様性とジェンダー
男性と女性（その2）—— 性別秩序とその構造
男性と女性（その3）—— 「男らしさ」「女らしさ」をこえて
生命をつなぐ・つむぐ（その1）—— 生命の継承性と世代交代
生命をつなぐ・つむぐ（その2）—— 近代的孩子観と発達観
生命をつなぐ・つむぐ（その3）—— 発達と教育を考える
人間の権利と平等を考える（その1）—— 生きる権利の根拠は何か
人間の権利と平等を考える（その2）—— 市民とは誰か（社会的包摂と排除）

学ぶ上での注意・担当教員からの希望
<p>・授業時にレジュメ、資料等を配布するので、授業前や後に読んでおくこと。・さまざまなジャンルの参考文献を授業時に挙げるので、できるだけ関心を持って読んだり見たりすること。・授業は学生と教員で作るものなので、授業の最低限のマナーを守り、質問や意見があればその場で大いに出すこと。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p> <p>現代基礎教養Ⅰ、Ⅱ 法学ジェンダー論</p>

成績評価の方法											
<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>80%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>0%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	20%	レポート	80%	中間試験	0%	定期試験	0%	その他	0%	授業時の課題とレポートで評価する。その際の大きな評価の基準は、①きちんと参考文献を読んでいること、②テーマにそって、論理的に事象を考察していること、である。
課題・小テスト	20%										
レポート	80%										
中間試験	0%										
定期試験	0%										
その他	0%										

テキスト
<input type="checkbox"/> テキストを使用する <input checked="" type="checkbox"/> レジュメを使用する <input type="checkbox"/> 未定（最初の授業で指示する）

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
経済学	2	1	後期開講	三木 潤一

テーマ	ミクロ経済学とマクロ経済学の基本的な考え方を把握する。
-----	-----------------------------

科目のねらい	<p>【キーワード】 需要と供給 市場メカニズム 政府の役割 国民所得 国民所得 失業</p> <p>&lt;内容の要約&gt;          経済学は単に机上の学問ではなく、現実の複雑な経済現象の本質を理解するために欠かせないものです。本講義の目的は、ミクロ経済学とマクロ経済学の基本的な考え方を把握し、経済学の発想を身につけることによって、わが国が直面している政治経済問題を考える際の手がかりを提供することにあります。</p> <p>&lt;学習目標&gt;          需要と供給が、価格の調整によってバランスすることを理解できるようになる。          市場の動きとその限界、市場を補う政府の役割といったことについて理解できるようになる。</p>
--------	---

授業のながれ	
イントロダクション、経済学とは何か	
マクロ経済学の基本(その1) : GDPについて	
マクロ経済学の基本(その2) : マクロ経済の鳥瞰図	
マクロ経済学の基本(その3) : 国民所得の決定	
ミクロ経済学の基本(その1) : 需要曲線と供給曲線	
ミクロ経済学の基本(その2) : 市場メカニズム	
ミクロ経済学の基本(その3) : 市場の失敗	
1~7の復習とまとめ	
政府の経済活動(その1) : 財政の3つの働き	
政府の経済活動(その2) : 国と地方の役割分担	
政府の経済活動(その3) : 財政赤字の健全化	
労働市場 : 失業について	
ゲーム理論の考え方 : 囚人のジレンマ、ナッシュ均衡	
9~13の復習とまとめ	
総復習と総まとめ	

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>テキストに基づき講義しますが、ノートは各自丁寧に作ってください。レジュメも配付しますが、ノートの代わりにはなりません。また、講義中に示す参考文献などで理解を深めてください。講義では、レジュメを適時配付します。また、講義内容に関する参考文献などがあれば、その都度示します。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;          経済学の考え方を理解するためにも、ほかの社会科学分野の科目を併せて履修することを推奨します。</p>
-------------------	--

成績評価の方法											
<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>70%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>0%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	30%	レポート	0%	中間試験	0%	定期試験	70%	その他	0%	定期試験のほか、講義時間中に確認テストを行います。
課題・小テスト	30%										
レポート	0%										
中間試験	0%										
定期試験	70%										
その他	0%										

テキスト	
<input checked="" type="checkbox"/> テキストを使用する <input checked="" type="checkbox"/> レジュメを使用する <input type="checkbox"/> 未定(最初の授業で指示する)	伊藤元重 「はじめての経済学(上・下)」 日本経済新聞出版社

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
現代子ども論	2	1	前期開講	池谷 壽夫

テーマ	今日の子どもが学校・家庭・友達関係で抱えている問題を社会文化的に考える
-----	-------------------------------------

科目のねらい	<p>【キーワード】子ども 学校 家族 友達 友達</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>この講義では、今日の子どもが抱えている問題を、①学校、②家庭、③友達関係に焦点を当てながら取り上げ、それらの社会文化的背景を皆さんと一緒に考えます。その上で、どのようにしたら相互に成熟しあえるようなくども－大人&gt;関係を築くことができるのかを考えます。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>子どもが抱えている問題が自分の問題と地続きであることを知る。</p> <p>子どもの世界を〈学校－家族〉システムと消費文化のなかで総合的にとらえる。</p> <p>今日の〈子ども－大人〉関係のかかえる問題点を知り、それとは異なる関係を模索する。</p>
--------	--

授業のながれ	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 本講義のねらいと課題、「子ども」とは何か</li> <li>2. 子ども期の「終焉」？（その1）－本の文化から映像文化へ</li> <li>3. 子ども期の「終焉」？（その2）－「教育的子ども期」から「消費的子ども期」へ</li> <li>4. 「子ども嫌いの社会」？－子育てとパーフェクト・ベビー、サイレント・ベビー</li> <li>5. 子どもと学校（その1）－「消費的教養」にもとづいたクラス・ピラミッド</li> <li>6. 子どもと学校（その2）－「いじめ・虐待」の世界</li> <li>7. 子どもと学校（その3）－「不登校」の世界</li> <li>8. 子どもと家族（その1）－期待される子ども：「共依存」的な親子関係</li> <li>9. 子どもと家族（その2）－傷つけられる子ども：「家庭内暴力」から「子ども虐待」へ</li> <li>10. 子どもと家族（その3）－見捨てられる子ども：「エヴァンゲリオン」の子ども</li> <li>11. 子どもと友達関係（その1）－「キャラ」と「ネタ」・「ノリ」の友達関係</li> <li>12. 子どもと友達関係（その2）－〈支配－被支配〉の友達関係</li> <li>13. 子どもと友達関係（その3）－友達・社会からひっそり降りる子ども</li> <li>14. 新たな〈子ども－大人〉関係を考える（その1）－「子どもの権利条約」の意義</li> <li>15. 新たな〈子ども－大人〉関係を考える（その2）－ケアと相互成熟</li> </ol>
--------	---

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>・授業は、教員と学生との基本的な信頼関係にもとづいた相互交流のなかで織り合わされていくものであることを、つねに念頭に入れておいてください。・毎回感想・意見を書いてもらいます。・子どもにかかわる小説・マンガ・音楽・映画等の文献を多数紹介しますので、興味のわいたものについては、積極的に読んだり、観たりしてください。参考文献：池谷壽夫 『〈教育〉からの離脱』 青木書店</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p> <p>子ども発達学入門</p>
-------------------	---

成績評価の方法	<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>20%</td> <td rowspan="5">課題レポートとレポート試験で評価します。</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>80%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>0%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	20%	課題レポートとレポート試験で評価します。	レポート	80%	中間試験	0%	定期試験	0%	その他	0%
課題・小テスト	20%	課題レポートとレポート試験で評価します。										
レポート	80%											
中間試験	0%											
定期試験	0%											
その他	0%											

テキスト	<input type="checkbox"/> テキストを使用する <input checked="" type="checkbox"/> レジュメを使用する <input type="checkbox"/> 未定（最初の授業で指示する）
------	--

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
心理学概論	2	1	前期開講	中村 信次

テーマ	心の問題を科学的に検討することの意義とその方法の理解
-----	----------------------------

科目のねらい	<p>【キーワード】 科学的心理学 こころの問題 意識</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>本講義では、心理学の各研究領域の概説を広く行うことにより、人間の「こころ」の成り立ちの不思議さ、その仕組みの巧妙さについて講義を行う。本講義により、心理学各領域の基礎的な知識の獲得を図るとともに、「こころの不思議」という難問にいかにして科学的にアプローチするのかという心理学的な思考法についても習得を目指す。これらの取り組みにより、以降継続的に開講される心理学領域の講義・演習の受講の際に必要とされる、心理学の基礎知識に関する教育を行う。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・心理学各領域の基礎知識を理解し、それを適切に要約できる。</li> <li>・こころの問題に関する科学的検討手法の基礎を理解し、日常の問題解決に応用できる。</li> </ul>
--------	---

授業のながれ	
第1回 ガイダンス	
第2回 心理学とは何か	
第3回 心理学の研究対象	
第4回 心理学の研究手法	
第5回 心理学の歴史	
第6回 心理学の研究領域	
第7回 知覚心理学1 錯視	
第8回 知覚心理学2 恒常性	
第9回 認知心理学1 注意	
第10回 認知心理学2 記憶	
第11回 認知心理学3 意思決定	
第12回 社会心理学 集団と人間	
第13回 感情心理学1 感情の適応的機能	
第14回 感情心理学2 感情理論	
第15回 まとめ	

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>心理学に関連する他の講義・演習の基礎となる課目であるので、心理学を中心とする学修を行う学生全員の履修を望む。私語等他の履修生の迷惑となる行為に対しては、履修資格の剥奪を含め厳格に対応する。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p> <p>心理学関連科目全般</p>
-------------------	--

成績評価の方法											
<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>50%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>50%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>0%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	50%	レポート	50%	中間試験	0%	定期試験	0%	その他	0%	講義内で複数回小テストを行い、期末レポートとあわせ評価を行う。
課題・小テスト	50%										
レポート	50%										
中間試験	0%										
定期試験	0%										
その他	0%										

テキスト	
<input type="checkbox"/> テキストを使用する <input checked="" type="checkbox"/> レジュメを使用する <input type="checkbox"/> 未定(最初の授業で指示する)	



科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
こころとからだ (子ども)	2	1	前期開講	吉田 文久

テーマ	大人への自立、こころとからだ
-----	----------------

科目のねらい	<p>【キーワード】自分の心と身体に向き合う 自立した生活主体となる セクシュアリティと健康</p> <p>&lt;内容の要約&gt; この講義は大学での生活へのオリエンテーションの意味を持っています。ここでは①自立した生活、②身体、③セクシュアリティとジェンダー、④病と健康、という4つの局面から、生きること、働くこと、学ぶこと、自立することの意味を考えていきます。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学での基本的な生活のあり方とその意義を学ぶ。</li> <li>・自他の身体と心に向き合うことを学ぶ。</li> <li>・自他を大切にせるセクシュアリティとジェンダーのあり方を学ぶ。</li> </ul>
--------	---

授業のながれ	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大学での「学び」と「自立」(学びの転換を)</li> <li>2. 大学での生活①-1 人暮らしの食生活・ダイエット</li> <li>3. 大学での生活②-サークル、アルバイトと働く権利</li> <li>4. 大学での生活③-図書館を利用する</li> <li>5. 身体に向き合う①-身体とコミュニケーション</li> <li>6. 身体に向き合う②-自分の心と体を大切にする</li> <li>7. 身体に向き合う③-アサーティヴネス・トレーニング</li> <li>8. 中間まとめ(質疑と討論)</li> <li>9. セクシュアリティとジェンダーに向き合う①-多様なセクシュアリティ</li> <li>10. セクシュアリティとジェンダーに向き合う②-性感染症、避妊を考える</li> <li>11. セクシュアリティとジェンダーに向き合う③-デートDV、セクハラ</li> <li>12. 病むこと・健やかであること①-アルコールとタバコ、その他の依存症</li> <li>13. 病むこと・健やかであること②-大学生のメンタルヘルス</li> <li>14. 病むこと・健やかであること③-保健室と学生相談センターの役割</li> <li>15. まとめ</li> </ol>
--------	---

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>・授業は、教員と学生との基本的な信頼関係にもとづいた相互交流のなかで織り合わされていくものであることを、つねに念頭に置いておいてください。・毎回感想・意見を書いてもらいます。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt; 小児保健ジェンダー論</p>
-------------------	---

成績評価の方法	<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>0%</td> </tr> </table> <p>・中間まとめの小レポートと授業末のレポートで評価します。</p>	課題・小テスト	0%	レポート	100%	中間試験	0%	定期試験	0%	その他	0%
課題・小テスト	0%										
レポート	100%										
中間試験	0%										
定期試験	0%										
その他	0%										

テキスト	<p><input type="checkbox"/> テキストを使用する</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> レジュメを使用する</p> <p><input type="checkbox"/> 未定(最初の授業で指示する)</p>
------	---

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
こころとからだ (心理)	2	1	前期開講	池谷 壽夫

テーマ	大人への自立、こころとからだ
-----	----------------

科目のねらい	<p>【キーワード】自分の心と身体に向き合う 自立した生活主体となる セクシュアリティと健康</p> <p>&lt;内容の要約&gt; この講義は大学での生活へのオリエンテーションの意味を持っています。ここでは①自立した生活、②身体、③セクシュアリティとジェンダー、④病と健康、という4つの局面から、生きること、働くこと、学ぶこと、自立することの意味を考えていきます。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学での基本的な生活のあり方とその意義を学ぶ。</li> <li>・自他の身体と心に向き合うことを学ぶ。</li> <li>・自他を大切にせるセクシュアリティとジェンダーのあり方を学ぶ。</li> </ul>
--------	---

授業のながれ	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大学での「学び」と「自立」(学びの転換を)</li> <li>2. 大学での生活①-1 人暮らしの食生活・ダイエット</li> <li>3. 大学での生活②-サークル、アルバイトと働く権利</li> <li>4. 大学での生活③-図書館を利用する</li> <li>5. 身体に向き合う①-身体とコミュニケーション</li> <li>6. 身体に向き合う②-自分の心と体を大切にする</li> <li>7. 身体に向き合う③-アサーティヴネス・トレーニング</li> <li>8. 中間まとめ(質疑と討論)</li> <li>9. セクシュアリティとジェンダーに向き合う①-多様なセクシュアリティ</li> <li>10. セクシュアリティとジェンダーに向き合う②-性感染症、避妊を考える</li> <li>11. セクシュアリティとジェンダーに向き合う③-デートDV、セクハラ</li> <li>12. 病むこと・健やかであること①-アルコールとタバコ、その他の依存症</li> <li>13. 病むこと・健やかであること②-大学生のメンタルヘルス</li> <li>14. 病むこと・健やかであること③-保健室と学生相談センターの役割</li> <li>15. まとめ</li> </ol>
--------	---

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>・授業は、教員と学生との基本的な信頼関係にもとづいた相互交流のなかで織り合わされていくものであることを、つねに念頭に置いておいてください。・毎回感想・意見を書いてもらいます。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt; 小児保健ジェンダー論</p>
-------------------	---

成績評価の方法	<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>0%</td> </tr> </table> <p>・中間まとめの小レポートと授業末のレポートで評価します。</p>	課題・小テスト	0%	レポート	100%	中間試験	0%	定期試験	0%	その他	0%
課題・小テスト	0%										
レポート	100%										
中間試験	0%										
定期試験	0%										
その他	0%										

テキスト	<p><input type="checkbox"/> テキストを使用する</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> レジュメを使用する</p> <p><input type="checkbox"/> 未定(最初の授業で指示する)</p>
------	---



科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
生物と人間	2	1	前期開講	水野 暁子

テーマ	生物としての人間を知る&人間とは違う生き方をする仲間を知る
-----	-------------------------------

科目のねらい
<p>【キーワード】 生物 動物 植物 構造と機能 構造と機能</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>私たち人間は動物である。このことをヒトを含めた様々な生物の体の構造と機能を学ぶことによって理解しよう。また、私たちのまわりにいる植物とその生活を理解することからはじめて、人間とは違う生き方をしている生物との付き合い方を考えられるようにすることを学習目標とする。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>人間も含めた生物の体の基本構造を理解する</p> <p>生物である人間は、地球上のごくあたりまえの物質から作られていることを理解する</p> <p>生物である人間は、ごくあたりまえの自然法則によって生きていることを理解する</p> <p>生物の体の構造と機能との関わりを理解する</p> <p>人間とはかなり違った生き方をする生物も我らの仲間であることを理解する</p>

授業のながれ
海岸の植物から学ぶ：大学の近くの自然を知る
我らの祖先の子孫：極限の環境に生きる細菌たち
これは動物か植物か？：動植物の構造と生き方
動物の体：アメーバからクラゲまで（クラゲがヒトになるには？）
動物の体：ミミズと魚
動物の体：我らの祖先の親類はウニ？
動物の発生：ミミズになるための体づくりとカエルになるための体づくり
動物の上陸：我らの祖先は、如何にして上陸したか？
植物の体：茎と根と葉
植物の体：水と栄養を得る仕組み
植物の体：水と栄養を得る仕組み
植物の環境適応：乾燥地に生きる植物たち
植物の発生と成長：環境に合わせられる体づくり
植物の発生と成長：老いたる部分と若い部分の協働
生物の生き方と構造：食べる・分解する・光合成するか

学ぶ上での注意・担当教員からの希望
<p>まだわかっていないことを楽しんで下さい。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p> <p>理科研究</p>

成績評価の方法											
<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>80%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>0%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	0%	レポート	20%	中間試験	0%	定期試験	80%	その他	0%	授業中の課題については、解答の正否ではなく、どれだけ考えたかを評価する。定期試験については、生物についてどれだけ理解したかを評価する。
課題・小テスト	0%										
レポート	20%										
中間試験	0%										
定期試験	80%										
その他	0%										

テキスト
<input type="checkbox"/> テキストを使用する <input checked="" type="checkbox"/> レジュメを使用する <input type="checkbox"/> 未定（最初の授業で指示する）

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
海外フィールドワーク (オーストラリア・フィリピン)	4	1	後期開講	クラス

テーマ	実施国ごとのテーマに沿ったフィールドワークと、異文化交流・英語実践
-----	-----------------------------------

科目のねらい	<p>【キーワード】 海外でのフィールドワーク 異文化交流 総合的な英語コミュニケーション力</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>この科目は、以下の国・地域の大学等で2月に実施される一連のフィールドスタディプログラム(事前学習・現地でのフィールドワーク・帰国後の報告書作成)で構成される演習科目です。詳細は nfu.jp スタディの科目ガイダンスの資料「2010年度海外研修事業(短期・2月実施分)と参加手続き」をご確認ください。オーストラリア(ケアンズ)、フィリピン(メトロマニラ)</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>それぞれの国の社会構造等を把握する力や、異文化理解力を身につけることができる。</p> <p>自身の英語力がどの程度、海外で通用するか試すことができる。</p>
--------	--

授業のながれ	
全体の研修プログラムの説明と顔合わせ	
個別の研修プログラム説明と現地研修に向けた役割分担	
現地研修に向けた作業	
現地研修に向けた作業	
危機管理研修1(他の研修との合同)	
現地研修に向けた作業	
現地研修に向けた作業	
現地研修に向けた作業	
危機管理研修2(ケーススタディ等)	
現地研修に向けた作業	
他の研修との合同発表会	
現地研修に向けた作業、渡航打ち合わせ	
出発前最終確認	
約2週間の現地フィールドワーク	
報告集取りまとめ作業	

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>事前学習は後期金曜2限に予定されています。履修者の協働作業で作り上げるプログラムなので自発的な授業参加を求めます。なお、上記の授業の流れは一つの例であって、研修先により変更する場合があります。また、フィールドワーク帰国後、報告集完成が4月になるため、実際の成績評価・単位付与は翌年度に行われます。進級がかかっている学生については、本科目の単位修得を含み込んでの履修計画を組まないでください。また4年生の履修は年度を超える可能性があるため登録を認められません。研修先独自に必読書等がある場合は事前学習の中で指示</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p>
-------------------	---

成績評価の方法											
<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>100%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	0%	レポート	0%	中間試験	0%	定期試験	0%	その他	100%	事前学習の中で分担された課題・作業への取組、現地でのフィールドワークや授業への参加の積極性、報告集の分担部分や編集作業への取組状況を総合的に勘案して評価を行います。
課題・小テスト	0%										
レポート	0%										
中間試験	0%										
定期試験	0%										
その他	100%										

テキスト	
<input type="checkbox"/> テキストを使用する <input checked="" type="checkbox"/> レジュメを使用する <input type="checkbox"/> 未定(最初の授業で指示する)	

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
スポーツと文化	2	1	後期開講	吉田 文久

テーマ	「スポーツは文化である」ことへの理解とその主体的関わり
-----	-----------------------------

科目のねらい	<p>【キーワード】近代スポーツ ルール 国民性 勝敗主義 勝敗主義 国民的教養</p> <p>&lt;内容の要約&gt; 現代社会におけるいろいろなスポーツ事情を受け止め、スポーツが歴史的にどのような発展過程を経て現在に至っているのかについて理解した上で、これからのスポーツのあり方（その意義や価値）、その関わり方について考える。授業では、受講者各自のスポーツ観を交流し、スポーツの継承発展の主体者としての自覚と役割について学ぶ。</p> <p>&lt;学習目標&gt; 現在のスポーツ事情を分析的、批判的に受け止めることができる。 スポーツの歴史的発展過程（社会的・文化的条件）について理解できる。 スポーツとの関わりについて「後代的視点」に基づいて論じることができる。 スポーツの意味や価値を受け止め、それを享受するための国民的教養について理解できる。</p>
--------	---

授業のながれ
スポーツとは
スポーツの事情あれこれ
スポーツイベントのあり方Ⅰ（オリンピックについて）
スポーツイベントのあり方Ⅱ（国体について）
スポーツメディアの功罪Ⅰ（メディアが広げた世界）
スポーツメディアの功罪Ⅱ（スポーツと商業主義、メディアがルールを変える）
ルールの変遷とその背景Ⅰ（「オフサイドはなぜ反則か」を考える）
ルールの変遷とその背景Ⅱ（勝敗主義登場の歴史、審判の発生と「引き分け」の考え方）
ルールの変遷とその背景Ⅲ（ルールが変わる理由）
スポーツと国民性Ⅰ（イギリス生まれのスポーツ vs アメリカ生まれのスポーツ）
スポーツと国民性Ⅱ（日本の伝統スポーツ）
障害者スポーツから見えること（スポーツの喜び・感動と現実）
「生涯スポーツ」の考え方（生きることや健康とスポーツの関係）
スポーツの継承発展の主体者になるためにⅠ（スポーツの国民的教養とは）
スポーツの継承発展の主体者になるためにⅡ（スポーツを学ぶ意味）

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>これまで自分がスポーツとどのようにかかわり、どのようなスポーツ観を形成してきたのかを振り返ること、新聞やテレビで報道されるスポーツの問題事象についても関心を持ち、講義の理解に役立てる。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt; 「スポーツ実技」、「アダプテッドスポーツ」、「体育科教育法」、「体育」</p>
-------------------	---

成績評価の方法		
課題・小テスト	0%	定期試験の点数によって評価するが、皆出席を前提にしているため、1回の欠席につき5点ずつ減点していく。なお定められているように、15回中3分の2以上の出席がなければ（つまり、10回以上の出席が必要）、棄権とみなす。出席確認を兼ねて毎時間ミニ・レポートを書く。
レポート	0%	
中間試験	0%	
定期試験	100%	
その他	0%	

テキスト	<input type="checkbox"/> テキストを使用する <input type="checkbox"/> レジュメを使用する <input checked="" type="checkbox"/> 未定（最初の授業で指示する）
------	--

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
スポーツ実技 (UT101 アーチェリー)	2	1	通年開講	横山 慶子

テーマ	アーチェリーを楽しみ、みんなで上手くなろう
-----	-----------------------

科目のねらい
<p>【キーワード】アーチェリー 自己・他者分析 運動学習 環境のデザイン 環境のデザイン</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>本講義では、アーチェリーというスポーツを通して、「上手くなること（運動の学習）」を体験し、その理解を深めることを目的とします。そのために、自己および他者を客観的に分析し、グループで教えあえる環境作りをします。また雨天の場合には、アーチェリー上級者の映像と、私たちが当たり前に行っている「体の動き」のメカニズムについての解説から、「上手くなること」についての理解を深めます。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アーチェリーの運動技能を上達できる。</li> <li>・自己および他者を客観的に評価できる。</li> <li>・当たり前に行っている「体の動き」を捉えなおすことができる。</li> </ul>

授業のながれ																														
<table border="1"> <tr> <td>前期ガイダンス</td> <td>後期ガイダンス</td> </tr> <tr> <td>アーチェリーの道具の使い方と備品作り</td> <td>基本フォームの復習Ⅰ</td> </tr> <tr> <td>基本フォームについてⅠ</td> <td>基本フォームの復習Ⅱ</td> </tr> <tr> <td>基本フォームについてⅡ</td> <td>近距離射法練習Ⅱ</td> </tr> <tr> <td>基本フォームについてⅢ</td> <td>中距離射法練習Ⅳ</td> </tr> <tr> <td>近距離射法練習Ⅰ</td> <td>中距離射法練習Ⅴ</td> </tr> <tr> <td>中距離射法練習Ⅰ</td> <td>遠距離射法練習Ⅱ</td> </tr> <tr> <td>中距離射法練習Ⅱ</td> <td>遠距離射法練習Ⅲ</td> </tr> <tr> <td>中距離射法練習Ⅲ</td> <td>遠距離射法練習Ⅳ</td> </tr> <tr> <td>遠距離射法練習Ⅰ</td> <td>様々な距離における射法練習</td> </tr> <tr> <td>様々な距離における射法練習Ⅰ</td> <td>競技会Ⅳ</td> </tr> <tr> <td>競技会Ⅰ</td> <td>競技会Ⅴ</td> </tr> <tr> <td>競技会Ⅱ</td> <td>競技会Ⅵ</td> </tr> <tr> <td>競技会Ⅲ</td> <td>競技会Ⅶ</td> </tr> <tr> <td>前期のまとめ：上達プロセスの分析①</td> <td>後期のまとめ：上達プロセスの分析②</td> </tr> </table>	前期ガイダンス	後期ガイダンス	アーチェリーの道具の使い方と備品作り	基本フォームの復習Ⅰ	基本フォームについてⅠ	基本フォームの復習Ⅱ	基本フォームについてⅡ	近距離射法練習Ⅱ	基本フォームについてⅢ	中距離射法練習Ⅳ	近距離射法練習Ⅰ	中距離射法練習Ⅴ	中距離射法練習Ⅰ	遠距離射法練習Ⅱ	中距離射法練習Ⅱ	遠距離射法練習Ⅲ	中距離射法練習Ⅲ	遠距離射法練習Ⅳ	遠距離射法練習Ⅰ	様々な距離における射法練習	様々な距離における射法練習Ⅰ	競技会Ⅳ	競技会Ⅰ	競技会Ⅴ	競技会Ⅱ	競技会Ⅵ	競技会Ⅲ	競技会Ⅶ	前期のまとめ：上達プロセスの分析①	後期のまとめ：上達プロセスの分析②
前期ガイダンス	後期ガイダンス																													
アーチェリーの道具の使い方と備品作り	基本フォームの復習Ⅰ																													
基本フォームについてⅠ	基本フォームの復習Ⅱ																													
基本フォームについてⅡ	近距離射法練習Ⅱ																													
基本フォームについてⅢ	中距離射法練習Ⅳ																													
近距離射法練習Ⅰ	中距離射法練習Ⅴ																													
中距離射法練習Ⅰ	遠距離射法練習Ⅱ																													
中距離射法練習Ⅱ	遠距離射法練習Ⅲ																													
中距離射法練習Ⅲ	遠距離射法練習Ⅳ																													
遠距離射法練習Ⅰ	様々な距離における射法練習																													
様々な距離における射法練習Ⅰ	競技会Ⅳ																													
競技会Ⅰ	競技会Ⅴ																													
競技会Ⅱ	競技会Ⅵ																													
競技会Ⅲ	競技会Ⅶ																													
前期のまとめ：上達プロセスの分析①	後期のまとめ：上達プロセスの分析②																													

学ぶ上での注意・担当教員からの希望
<p>動きが激しいスポーツではないですが、実技の場合には必ず、動きやすい服装（ジャージ）と靴で参加することが条件です。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p>

成績評価の方法											
<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>0%</td> <td rowspan="5">詳しくは、初回の授業で説明しますが、以下のような評価方法です。【レポート】授業ごとの自己分析シートと前期と後期のまとめに行う上達プロセスの分析レポートに基づいて評価します。【その他】アーチェリーへの取り組み方を主な評価とし、出席することを重視します。欠席が10回以上の場合は、履修放棄とみなします。</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>25%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>75%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	0%	詳しくは、初回の授業で説明しますが、以下のような評価方法です。【レポート】授業ごとの自己分析シートと前期と後期のまとめに行う上達プロセスの分析レポートに基づいて評価します。【その他】アーチェリーへの取り組み方を主な評価とし、出席することを重視します。欠席が10回以上の場合は、履修放棄とみなします。	レポート	25%	中間試験	0%	定期試験	0%	その他	75%
課題・小テスト	0%	詳しくは、初回の授業で説明しますが、以下のような評価方法です。【レポート】授業ごとの自己分析シートと前期と後期のまとめに行う上達プロセスの分析レポートに基づいて評価します。【その他】アーチェリーへの取り組み方を主な評価とし、出席することを重視します。欠席が10回以上の場合は、履修放棄とみなします。									
レポート	25%										
中間試験	0%										
定期試験	0%										
その他	75%										

テキスト
<input type="checkbox"/> テキストを使用する <input checked="" type="checkbox"/> レジュメを使用する <input type="checkbox"/> 未定（最初の授業で指示する）

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
スポーツ実技 (UT102 アダプテッド・スポーツ)	2	1	通年開講	吉田 文久

テーマ	誰もがいっしょに楽しめるスポーツの創造
-----	---------------------

科目のねらい
<p>【キーワード】 障害 主体者 ノーマライゼーション 文化の創造 文化の創造</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>スポーツは工夫することにより誰もが等しく楽しむことができる。障害があろうとなかろうと、そして高齢者であってもそこに集まった人たちがともにスポーツ楽しむことができるために、どのような条件を整えればそれが実現できるかという問題意識を持って、これまで考案されてきた障害者のスポーツに学び、また自分たちで新しいスポーツの創造にも取り組む。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>これまで考案されてきた障害者のスポーツを体験することにより、障害のあることについての理解、障害者のスポーツの世界を理解することができる。</p> <p>スポーツは、障害のあるなしに関係なく誰もがいっしょに楽しむことができるという理解とそのための工夫や方法を身につけることができる。</p> <p>自分たちがスポーツの主人公であるという認識を高めることができる。</p>

授業のながれ	
オリエンテーション（授業の進め方、障害とは、「Adapted」の意味等）	パラリンピックの世界（その歴史と現状）夏休み中に体験したアダプテッドスポーツの報告
体ほぐし・体気づき、グループ編成	シッティングバレーボールⅠ（ゲームの解説、試しのゲーム）
車いすバスケットⅠ（車いすの操作、ゲームの解説）	シッティングバレーボールⅡ（グループ練習、ルールづくり）
車いすバスケットⅡ（試しのゲーム）	シッティングバレーボールⅢ（グループ練習：作戦・戦術）
車いすバスケットⅢ（グループ練習、ルールづくり）	シッティングバレーボールⅣ（リーグ戦）
車いすバスケットⅣ（グループ練習：作戦・戦術）	肢体不自由の理解とゲームづくり
車いすバスケットⅤ（リーグ戦）	ボッチャⅠ（ゲームの解説、試しのゲーム）
脊髄損傷の理解と車いすを使ったゲームづくり	ボッチャⅠ（グループ練習、ルールづくり）
サウンドテーブルテニスⅠ（視覚障害の世界の体験、ゲームの解説）	ボッチャⅠ（グループ練習）
サウンドテーブルテニスⅡ（試しのゲーム）	ボッチャⅠ（リーグ戦）
サウンドテーブルテニスⅢ（グループ練習、ルールづくり）	脳性まひの理解とゲームづくり
サウンドテーブルテニスⅣ（リーグ戦）	スペシャルオリンピックスについて
ゴールボールⅠ（ゲームの解説、試しのゲーム）	自分たちが考案したゲームの紹介と実践Ⅰ
ゴールボールⅠ（リーグ戦）	自分たちが考案したゲームの紹介と実践Ⅱ
視覚障害の理解とゲームづくり	1年間のまとめ：アダプテッド・スポーツの可能性

学ぶ上での注意・担当教員からの希望
<p>どうすればみんなが楽しくスポーツができるか考える姿勢を持って授業に臨むこと。そのためにも授業外でアダプテッドスポーツの情報を積極的に入手するように心がける。そしてスポーツ実技の科目であるので、体操服、シューズなどの準備をして休まず出席する。必要に応じてプリントを用意する。また編成された各グループからも資料が配布される。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p> <p>スポーツと文化、スポーツ研究Ⅰ、スポーツ研究Ⅱ、スポーツ研究Ⅲ、アダプティッド・スポーツⅠ、アダプティッド・スポーツⅡ</p>

成績評価の方法											
<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>50%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>50%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	0%	レポート	50%	中間試験	0%	定期試験	0%	その他	50%	出席点（50点）前期レポート、後期レポート（修了レポート）によるレポート点（50点）で評価する。ただし、レポート点には、各グループの取り組み、それを示す提出物の評価も含まれる。
課題・小テスト	0%										
レポート	50%										
中間試験	0%										
定期試験	0%										
その他	50%										

テキスト
<input type="checkbox"/> テキストを使用する <input checked="" type="checkbox"/> レジュメを使用する <input type="checkbox"/> 未定（最初の授業で指示する）



科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
スポーツ実技 (UT103 卓球)	2	1	通年開講	伊藤 照美

テーマ	一人一人が主役となるスポーツ実践
-----	------------------

科目のねらい
<p>【キーワード】 スポーツ 文化 国民的教養 主人公 主人公 スポーツ権</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>体育・スポーツに関する教養は、現代に生きる私たちにとって非常に重要なものです。ユネスコの「体育・スポーツ憲章」に代表されるように、この教養は権利としてのスポーツ、すなわちスポーツ権として考えられています。人間が人間らしく生きる（文化的生存）ために体育・スポーツに関する国民的教養が求められているわけです。また、生涯スポーツに実践は、生涯にわたる健康の獲得と向上にも深いかかわりがあります。スポーツを履修する目的は、この国民的教養を「スポーツの主人公に」ふさわしく形成するためです。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>みんながうまくなること。集団的に取り組む中で、ともにもうまくなることによってスポーツの感動を味わってください。つまり、スポーツの得意な人だけが楽しみを独占するのではなく、授業参加者のそれぞれがスポーツ技術の向上に裏づけされてスポーツを楽しむ能力を身につけることを目指します。</p> <p>みんながうまくなるスポーツを目指すために、集団組織的・計画的活動を大切に進めます。スポーツにおけ自治能力を高めていきます。授業参加者それぞれのスポーツ技術をより向上させ、チーム力をアップさせるための方法などを学習者自身が追求し高めることを目指します。</p>

授業のながれ	
オリエンテーション	基本技術の練習1 (スマッシュ)
基本技術の練習1 (基本姿勢 フォアハンドロング 基本動作)	基本技術の練習2 (ドライブ)
基本技術の練習2 (フォアハンドロングからバックハンドショート)	シングルスリーグ戦 (試合のためのルール確認) 1
基本技術の練習3 (フォアハンド、バックハンド 基本動作)	シングルスリーグ戦 (試合のためのルール確認) 2
基本技術の練習4 (バックハンドロング 基本動作)	シングルスリーグ戦 (試合のためのルール確認) 3
基本技術の練習5 (サービス)	シングルスリーグ戦 (試合のためのルール確認) 4
シングルスルール説明、ゲームの進め方 簡易ゲーム	シングルスリーグ戦 (試合のためのルール確認) 5
グループ練習 (練習計画づくりと実践、シングルス戦略の検討) 1	ダブルスルール説明、ゲームの進め方 簡易ゲーム
グループ練習 (練習計画づくりと実践、シングルス戦略の検討) 2	ダブルス基礎練習
グループ練習 (練習計画づくりと実践、シングルス戦略の検討) 3	ダブルスリーグ戦 (試合のためのルール確認) 1
グループ練習 (練習計画づくりと実践、シングルス戦略の検討) 4	ダブルスリーグ戦 (試合のためのルール確認) 2
基本技術練習 シングルス 簡易ゲーム1	ダブルスリーグ戦 (試合のためのルール確認) 3
基本技術練習 シングルス 簡易ゲーム2	ダブルスリーグ戦 (試合のためのルール確認) 4
基本技術練習 シングルス 簡易ゲーム3	ダブルスリーグ戦 (試合のためのルール確認) 5
シングルスゲームのまとめ	ダブルスゲームのまとめ

学ぶ上での注意・担当教員からの希望
<p>実技授業ですので、種目クラスやグループの中で積極的な参加をしてください。障害および病気・怪我など履修にかかわる相談は事前に保健室および体育研究室もしくは学事課で応じています。貴重品の扱いは履修オリおよび担当教員の指示に従って各自で管理してください。その他履修に関わる詳細事項は各種目クラスのシラバスを参照してください。スポーツに関する連絡は、体育館教員控室前掲示板および nfu.jp で行います。*実技科目のため積極的な受講態度で臨むことを期待します。*運動着・体育館用のシューズを必ず持参してください。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt; 「スポーツと文化」 「アダプティッド・スポーツⅠ」 「アダプティッド・スポーツⅡ」</p>

成績評価の方法											
<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>100%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	0%	レポート	0%	中間試験	0%	定期試験	0%	その他	100%	出席 50%、実技 25%、レポート・理論等 25% 欠席数が 9 回以下の履修者について、上記の配点基準で総合的に評価する。欠席が 10 回以上の場合は規定に従って履修放棄とみなす。一回の欠席で 4 点の減点とする。
課題・小テスト	0%										
レポート	0%										
中間試験	0%										
定期試験	0%										
その他	100%										

テキスト
<input type="checkbox"/> テキストを使用する <input type="checkbox"/> レジュメを使用する <input checked="" type="checkbox"/> 未定 (最初の授業で指示する)



科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
スポーツ実技 (UT104 テニス)	2	1	通年開講	成瀬 徹

テーマ	スポーツの技術・戦術や歴史と文化をみんなで学習し、その学習成果に立ってスポーツイベント（テニス大会）を作ろう。
-----	---

科目のねらい	<p>【キーワード】 スポーツの歴史と文化 スポーツの技術や戦術 グループ学習 イベントづくり イベントづくり</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>スポーツの技術や戦術をグループで学習します。そして、技術や戦術だけではなくスポーツ（テニス）の歴史や文化的内容も学びます。そのような学習に立脚し「テニス大会」づくりというイベントを通して、企画・立案の意図や方法を学びます。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>グループで練習計画を立て、実践し、総括することができる。</p> <p>グループでの練習で、みんながうまくなりスポーツを楽しむことができる。</p> <p>スポーツの歴史や文化の学習によってスポーツ観（テニス観）をより深めることができる。</p> <p>イベント作りを通じて、企画・立案する力を伸ばす。</p>
--------	--

授業のながれ	
オリエンテーション	第一次リーグ戦（計画づくり）
実技オリエンテーション	第一次リーグ戦
実技オリエンテーション	第一次リーグ戦
グループ練習 体育理論	第一次リーグ戦
グループ練習 体育理論	第一次リーグ戦総括
グループ練習 体育理論	グループ練習 第二次リーグ戦に向けての計画作り 体育理論
グループ練習 体育理論	グループ練習 第二次リーグ戦に向けての計画作り 体育理論
グループ練習 体育理論	グループ練習 第二次リーグ戦に向けての計画作り 体育理論
グループ練習 体育理論	第二次リーグ戦
グループ練習 体育理論	第二次リーグ戦
グループ練習 ミニゲーム 体育理論	第二次リーグ戦
グループ練習 ミニゲーム 体育理論	第二次リーグ戦の総括と反省
グループ練習 ミニゲーム 体育理論	まとめ
グループ練習 ミニゲーム 体育理論	予備
グループ練習 ミニゲーム 体育理論	予備

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>性差や技能的な違いを前提に、「異質」な仲間が「共同」して授業に取り組みます。授業の初期に作る「異質集団」は原則として一年間変わりません。先ず、この点についてしっかりした確認をしてください。「教室でする体育」も大きなウエイトを占めています。「汗をかくだけの体育」ではありません。充分承知してください。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p>
-------------------	--

成績評価の方法		
課題・小テスト	25%	授業への参加状況、レポート、体育理論テストを中心に総合的に評価します。パフォーマンスの結果だけで評価はしません
レポート	50%	
中間試験	0%	
定期試験	0%	
その他	25%	

テキスト	<input type="checkbox"/> テキストを使用する <input checked="" type="checkbox"/> レジュメを使用する <input checked="" type="checkbox"/> 未定（最初の授業で指示する）
------	---

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
スポーツ実技 (UT105 バレーボール)	2	1	通年開講	藤田 紀昭

テーマ	一人ひとりが主役となるバレーボール実践
-----	---------------------

科目のねらい
<p>【キーワード】 バレーボール チーム分析 三段攻撃 アタック アタック</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>体育・スポーツに関する教養は、現代に生きる私たちにとって非常に重要なものです。ユネスコの「体育・スポーツ国際憲章」に代表されるように、この教養は権利としてのスポーツ、すなわちスポーツ権として考えられています。人間が人間らしく生きる（文化的生存）ために体育・スポーツに関する国民的教養が求められているわけです。また、生涯スポーツの実践は、生涯にわたる健康の獲得と向上にも深いかわりがあります。子ども発達学部においてスポーツを履修する目的は、この国民的教養を「スポーツの主人公」にふさわしく形成するためです。特にこの授業では、バレーボールの技術習得、技能向上を目指すとともに、チーム分析をして、自ら練習計画を立て、ゲームでの作戦を考えられるようにする。全員がアタックをうち、ラリーが続くバレーボールをめざす。ゲーム中に出来るだけ多くの3段攻撃ができるようになることを目指す。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・バレーボールの技術習得</li> <li>・チーム分析をして練習計画を立てられるようになる</li> <li>・三段攻撃ができるようになる</li> <li>・全員がアタックを打てるようになる</li> <li>・ラリーが続くようになる</li> </ul>

授業のながれ	
オリエンテーション	練習計画を立てる
基礎技術の練習（パス）&ゲーム	チーム練習-ゲーム-チーム分析-次回の練習計画
基礎技術の練習（パス）&ゲーム	チーム練習-ゲーム-チーム分析-次回の練習計画
基礎技術の練習（サーブ）&ゲーム	チーム練習-ゲーム-チーム分析-次回の練習計画
基礎技術の練習（サーブ）&ゲーム	チーム練習-ゲーム-チーム分析-次回の練習計画
基礎技術の練習（サーブレシーブ）&ゲーム	チーム練習-ゲーム-チーム分析-次回の練習計画
基礎技術の練習（サーブレシーブ）&ゲーム	チーム練習-ゲーム-チーム分析-次回の練習計画
基礎技術の練習（サーブレシーブ）&ゲーム	チーム練習-ゲーム-チーム分析-次回の練習計画
基礎技術の練習（アタック）&ゲーム ローテーションを考える	チーム練習-ゲーム-チーム分析-次回の練習計画
基礎技術の練習（アタック）&ゲーム ローテーションを考える	チーム練習-ゲーム-チーム分析-次回の練習計画
基礎技術の練習（アタック）&ゲーム ローテーションを考える	チーム練習-ゲーム-チーム分析-次回の練習計画
基礎技術の練習 3段攻撃&ゲーム	チーム練習-ゲーム-チーム分析-次回の練習計画
基礎技術の練習 3段攻撃&ゲーム	チーム練習-ゲーム-チーム分析-次回の練習計画
基礎技術の練習 3段攻撃&ゲーム	チーム練習-ゲーム-チーム分析-次回の練習計画
前期のまとめ	1年のまとめ

学ぶ上での注意・担当教員からの希望
出席重視です。遅刻、欠席をしないように。
<本科目の関連科目>
スポーツと文化、スポーツ研究Ⅰ、スポーツ研究Ⅱ、スポーツ研究Ⅲ、アダプティッド・スポーツⅠ、アダプティッド・スポーツⅡ

成績評価の方法											
<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>70%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	0%	レポート	30%	中間試験	0%	定期試験	0%	その他	70%	欠席数が9回以下の履修者について、上記の配点基準で総合的に評価する。欠席が10回以上の場合は規定に従って履修放棄とみなす。出席点50点から一回の欠席につき4点の減点とする。
課題・小テスト	0%										
レポート	30%										
中間試験	0%										
定期試験	0%										
その他	70%										

テキスト
<input type="checkbox"/> テキストを使用する <input checked="" type="checkbox"/> レジュメを使用する <input type="checkbox"/> 未定（最初の授業で指示する）

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
スポーツ (C901 アーチェリー)	2	1	通年開講	横山 慶子

テーマ	アーチェリーを楽しみ、みんなで上手になろう
-----	-----------------------

科目のねらい	<p>【キーワード】アーチェリー 自己・他者分析 運動学習 環境のデザイン 環境のデザイン</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>本講義では、アーチェリーというスポーツを通して、「上手くなること（運動の学習）」を体験し、その理解を深めることを目的とします。そのために、自己および他者を客観的に分析し、グループで教えあえる環境を作ります。また雨天の場合には、アーチェリー上級者の映像と、私たちが当たり前に行っている「体の動き」のメカニズムについての解説から、「上手くなること」についての理解を深めます。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アーチェリーの運動技能を上達できる。</li> <li>・自己および他者を客観的に評価できる。</li> <li>・当たり前に行っている「体の動き」を捉えなおすことができる。</li> </ul>
--------	--

授業のながれ	
前期ガイダンス	後期ガイダンス
アーチェリーの道具の使い方と備品作り	基本フォームの復習Ⅰ
基本フォームについてⅠ	基本フォームの復習Ⅱ
基本フォームについてⅡ	近距離射法練習Ⅱ
基本フォームについてⅢ	中距離射法練習Ⅳ
近距離射法練習Ⅰ	中距離射法練習Ⅴ
中距離射法練習Ⅰ	遠距離射法練習Ⅱ
中距離射法練習Ⅱ	遠距離射法練習Ⅲ
中距離射法練習Ⅲ	遠距離射法練習Ⅳ
中距離射法練習Ⅲ 遠距離射法練習Ⅰ	様々な距離における射法練習
様々な距離における射法練習Ⅰ	競技会Ⅳ
競技会Ⅰ	競技会Ⅴ
競技会Ⅱ	競技会Ⅵ
競技会Ⅲ	競技会Ⅶ
前期のまとめ：上達プロセスの分析①	後期のまとめ：上達プロセスの分析②

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>動きが激しいスポーツではないですが、実技の場合には必ず、動きやすい服装と靴で参加することが条件です。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p>
-------------------	---

成績評価の方法											
<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>25%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>75%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	0%	レポート	25%	中間試験	0%	定期試験	0%	その他	75%	<p>詳しくは、初回の授業で説明しますが、以下のような評価方法です。【レポート】授業ごとの自己分析シートと前期と後期のまとめに行う上達プロセスの分析レポートに基づいて評価します。【その他】アーチェリーへの取り組み方を主な評価とし、出席することを重視します。欠席が10回以上の場合は、履修放棄とみなします。</p>
課題・小テスト	0%										
レポート	25%										
中間試験	0%										
定期試験	0%										
その他	75%										

テキスト	<input type="checkbox"/> テキストを使用する <input checked="" type="checkbox"/> レジュメを使用する <input type="checkbox"/> 未定（最初の授業で指示する）
------	--

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
スポーツ (C902 サッカー)	2	1	通年開講	成瀬 徹

テーマ	スポーツの技術・戦術や歴史と文化をみんなで学習し、その学習成果に立ってスポーツイベント（サッカー大会）を作ろう。
-----	--

科目のねらい	<p>【キーワード】 スポーツの歴史と文化 スポーツ技術・戦術 グループ学習 イベントづくり イベントづくり</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>スポーツの技術や戦術をグループで学習します。そして、技術や戦術だけではなくスポーツ（サッカー）の歴史や文化的内容も学びます。そのような学習に立脚し「サッカー大会」づくりというイベントを通して、企画・立案の意図や方法を学びます。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>グループで練習計画を立て、実践し、総括することができる。</p> <p>グループでの練習で、みんながうまくなりスポーツを楽しむことができる。</p> <p>スポーツの歴史や文化の学習によってスポーツ観（サッカー観）をより深めることができる。</p> <p>イベント作りを通じて、企画・立案する力を伸ばす。</p>
--------	--

授業のながれ	
オリエンテーション	第一次リーグ戦（計画作り）
実技オリエンテーション	第一次リーグ戦
実技オリエンテーション	第一次リーグ戦
グループ練習 体育理論	第一次リーグ戦
グループ練習 体育理論	第一次リーグ戦の総括
グループ練習 体育理論	グループ練習 第二次リーグ戦に向けての計画作り 体育理論
グループ練習 体育理論	グループ練習 第二次リーグ戦に向けての計画作り 体育理論
グループ練習 体育理論	グループ練習 第二次リーグ戦に向けての計画作り 体育理論
グループ練習 体育理論	グループ練習 第二次リーグ戦に向けての計画作り 体育理論
グループ練習 体育理論	第二次リーグ戦
グループ練習 ミニゲーム 体育理論	第二次リーグ戦
グループ練習 ミニゲーム 体育理論	第二次リーグ戦
グループ練習 ミニゲーム 体育理論	反省と総括・まとめ
グループ練習 ミニゲーム 体育理論	予備
グループ練習 ミニゲーム 体育理論	予備

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>性差や技能的な違いを前提に、「異質」な仲間が「共同」して授業に取り組みます。授業の初期に作る「異質集団」は原則として一年間変わりません。先ず、この点についてしっかりした確認をしてください。「教室でする体育」も大きなウエイトを占めています。「汗をかくだけの体育」ではありません。充分承知してください。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p> <p>特になし</p>
-------------------	--

成績評価の方法		
課題・小テスト	25%	授業への参加状況、レポート、体育理論テストを中心に総合的に評価します。パフォーマンスの結果だけで評価はしません。
レポート	50%	
中間試験	0%	
定期試験	0%	
その他	25%	

テキスト	<input type="checkbox"/> テキストを使用する <input checked="" type="checkbox"/> レジュメを使用する <input checked="" type="checkbox"/> 未定（最初の授業で指示する）
------	---

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
スポーツ (C903 障がい者スポーツ)	2	1	通年開講	藤田 紀昭

テーマ	みんなが参加し、楽しみ、うまくなるために、動きながら考える
-----	-------------------------------

科目のねらい	<p>【キーワード】 障害者 スポーツ アダプテッド</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>体育・スポーツに関する教養は、現代に生きる私たちにとって非常に重要なものです。ユネスコの「体育・スポーツ国際憲章」に代表されるように、この教養は権利としてのスポーツ、すなわちスポーツ権として考えられています。人間が人間らしく生きる（文化的生存）ために体育・スポーツに関する国民的教養が求められているわけです。また、生涯スポーツの実践は、生涯にわたる健康の獲得と向上にも深いかわりがあります。社会福祉学部においてスポーツを履修する目的は、この国民的教養を「スポーツの主人公」にふさわしく形成するためです。特にこの授業では障害者がスポーツに参加するための工夫を考え、実践していくことを中心的な内容とする。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>主体的にスポーツにかかわり、人類の創造した文化財産としてのスポーツの面白さを味わう</p> <p>&lt;Adapted Sports&gt;という考え方を理解し、実践する一体をスポーツに合わせるのではなく、スポーツを体に合わせていく</p> <p>障害者スポーツのルールや技術を習得する</p>
--------	---

授業のながれ	
オリエンテーション・班分け	サウンドテーブルテニス
障害者スポーツについて	サウンドテーブルテニス
ボッチャ	サウンドテーブルテニス
ボッチャ	サウンドテーブルテニス
ボッチャ	サウンドテーブルテニス
ボッチャ	車いすバスケットボール
ボッチャ	車いすバスケットボール
フライングディスク	車いすバスケットボール
フライングディスク	車いすバスケットボール
フライングディスク	車いすバスケットボール
フライングディスク	車いすバスケットボール
スポーツを創ろう	車いすバスケットボール
スポーツを創ろう	車いすバスケットボール
スポーツを創ろう	アダプテッド・スポーツビデオ
スポーツを創ろう	1年間のまとめ

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>出席重視です。遅刻、欠席をしないように。受講生の状況により種目や実施の順番がが変更することがあります。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p>
-------------------	--

成績評価の方法	
課題・小テスト 0% レポート 30% 中間試験 0% 定期試験 0% その他 70%	出席し、授業には積極的に取り組むこと。欠席回数が9回以下のものを評価の対象とする。欠席1回につき出席点50点から、4点を減点する。

テキスト	<p><input checked="" type="checkbox"/> テキストを使用する</p> <p><input type="checkbox"/> レジュメを使用する</p> <p><input type="checkbox"/> 未定(最初の授業で指示する)</p> <p>藤田紀昭 「障害者スポーツの世界」 角川学芸出版</p>
------	---

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
スポーツ (C904 卓球)	2	1	通年開講	伊藤 照美

テーマ	一人一人が主役となるスポーツ実践
-----	------------------

科目のねらい	<p>【キーワード】スポーツ 文化 国民的教養 主人公 主人公 スポーツ権</p> <p>&lt;内容の要約&gt;          体育・スポーツに関する教養は、現代に生きる私たちにとって非常に重要なものです。ユネスコの「体育・スポーツ国際憲章」に代表されるように、この教養は権利としてのスポーツ、すなわちスポーツ権として考えられています。人間が人間らしく生きる（文化的生存）ために体育・スポーツに関する国民的教養が求められているわけです。また、生涯スポーツの実践は、生涯にわたる健康の獲得と向上にも深いかかわりがあります。子供発達学部においてスポーツを履修する目的は、この国民的教養を「スポーツの主人公」にふさわしく形成するためです。</p> <p>&lt;学習目標&gt;          みんながうまくなること。集団的に取り組む中で、ともにうまくなることによってスポーツの感動を味わってください。つまり、スポーツの得意な人だけが楽しみを独占するのではなく、授業参加者それぞれが、スポーツ技術の向上に裏づけされて、スポーツを楽しむ能力を身につけることを目指します。</p> <p>みんながうまくなるスポーツを目指すために集団組織的・計画的活動を大切に進めます。スポーツにおける自治能力を高めていきます。授業参加者それぞれがスポーツ技術をより向上させ、チーム力をアップさせるための方法などを学習者自身が追及し高めることを目指します。</p> <p>この授業で開講される各スポーツクラスでの実践を通して、体育・スポーツ科学の成果を学びつつ、今日のスポーツをめぐる状況を理解し、スポーツ文化の発展を正確に描けるような自然科学的・社会科学的認識を高めることを目指します。</p>
--------	--

授業のながれ	
オリエンテーション	基本技術の練習1 (スマッシュ)
基本技術の練習1 (基本姿勢 フォアハンドロング 基本動作)	基本技術の練習2 (ドライブ)
基本技術の練習2 (フォアハンドロングからバックハンドショート)	シングルスリーグ戦 (試合のためのルール確認) 1
基本技術の練習3 (フォアハンド、バックハンド 基本動作)	シングルスリーグ戦 (試合のためのルール確認) 2
基本技術の練習4 (バックハンドロング 基本動作)	シングルスリーグ戦 (試合のためのルール確認) 3
基本技術の練習5 (サービス)	シングルスリーグ戦 (試合のためのルール確認) 4
シングルスルール説明、ゲームの進め方 簡易ゲーム	シングルスリーグ戦 (試合のためのルール確認) 5
グループ練習 (練習計画づくりと実践、シングルス戦略の検討) 1	ダブルスルール説明、ゲームの進め方 簡易ゲーム
グループ練習 (練習計画づくりと実践、シングルス戦略の検討) 2	ダブルス基礎練習
グループ練習 (練習計画づくりと実践、シングルス戦略の検討) 3	ダブルスリーグ戦 (試合のためのルール確認) 1
グループ練習 (練習計画づくりと実践、シングルス戦略の検討) 4	ダブルスリーグ戦 (試合のためのルール確認) 2
基本技術練習 シングルス 簡易ゲーム1	ダブルスリーグ戦 (試合のためのルール確認) 3
基本技術練習 シングルス 簡易ゲーム2	ダブルスリーグ戦 (試合のためのルール確認) 4
基本技術練習 シングルス 簡易ゲーム3	ダブルスリーグ戦 (試合のためのルール確認) 5
シングルスゲームのまとめ	ダブルスゲームのまとめ

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>実技授業ですので、種目クラスやグループの中で積極的な参加をして下さい。障害および病気・怪我など履修にかかわる相談は事前に保健室および体育研究室もしくは学事課で応じています。貴重品の扱いは履修オリおよび担当教員の指示に従って各自で管理してください。その他履修に関わる詳細事項は、各種目クラスのシラバスを参照してください。スポーツに関する連絡は、体育館教員控室前掲示板および nfu.jp で行います。*実技科目のため積極的な授業態度で臨むことを期待します。*運動着・体育館用のシューズを必ず持参してください。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;スポーツと文化、アダプティッドスポーツⅠ、アダプティッド・スポーツⅡ</p>
-------------------	--

成績評価の方法	
課題・小テスト	0%
レポート	0%
中間試験	0%
定期試験	0%
その他	100%
	出席 50%、実技 25%、レポート・理論等 25%欠席数が 9 回以下の履修者について、上記の配点基準で総合的に評価する。欠席が 10 回以上の場合は規定に従って履修放棄とみなす。一回の欠席で 4 点の減点とする。

テキスト	<input type="checkbox"/> テキストを使用する <input type="checkbox"/> レジューメを使用する <input checked="" type="checkbox"/> 未定 (最初の授業で指示する)
------	--



科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
スポーツ (G905 テニス)	2	1	通年開講	小林 培男

テーマ	生涯にわたってテニスを楽しむ知識とスキルを獲得しよう
-----	----------------------------

科目のねらい
<p>【キーワード】 テニス 健康・体力づくり 生涯スポーツ スポーツコミュニケーション スポーツコミュニケーション</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>このスポーツ実習には2つの目的があります。一つは生涯スポーツや大衆スポーツとして人気上位のテニスの技術と知識を獲得し、テニスのゲームが楽しめるようになること。もう一つは、シングルの個人責任、ダブルスのペア協力、グループ対抗戦でのチームワーク共同を学ぶことです。具体的には、理論を交えながら、前期は主に個人の基本技術やシングルゲームを中心に進め、後期に入ってこの発展としてのダブルスやチーム対抗戦へと発展していく。テニスを生涯のスポーツの一つに加えるためにその理論知識と技術を身につけ、ゲームを楽しむためには、テニスの戦術や戦略まで活用できるよう楽しく積極的に取り組みましょう。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ テニスのルール・マナーの理解し、習得する</li> <li>・ サーブやストロークなど基本技術の獲得と向上させる</li> <li>・ テニスゲームの楽しさと強さを追求する</li> <li>・ テニスを通してスポーツコミュニケーションを学ぶ</li> </ul>

授業のながれ	
1. オリエンテーション、アイスブレイク、班分け	16. グループ練習 ～効果的な練習法①～
2. テニスコート・テニス用具の説明とラケットティング	17. グループ練習 ～効果的な練習法②～
3. グラウンドストローク	18. グループ対抗戦①
4. グラウンドストローク、ハーフコート・ミニゲーム	19. グループ練習
5. グラウンドストローク&サービス	20. グループ対抗戦②
6. グラウンドストローク&サービス、ハーフコート・ミニゲーム	21. グループ練習
7. ネットプレー	22. グループ対抗戦③
8. ネットプレー、ハーフコート・ミニゲーム	23. グループ練習
9. ハーフコート・ラリー練習、	24. グループ対抗戦④
10. ラリー練習、ハーフコート・ミニゲーム	25. グループ練習
11. シングル・ゲーム解説と簡易ゲーム	26. グループ対抗戦⑤
12. シングル・ゲーム	27. シングルトーナメント
13. シングル・ゲーム	28. ダブルトーナメント
14. 前期実技中間テスト・ゲーム	29. 実技試験
15. ダブルス体験ゲーム	30. 年間の振り返りと理論試験

学ぶ上での注意・担当教員からの希望
<p>身体運動やスポーツができる服装および靴底が平らでクレートニスコート（土コート）の表面が削れないような運動専用靴を着用すること（当該授業で着用準備ができない場合は、実技学習を許可しない）。 テニスラケットを持っている人は持参して下さい。ただし、個人のスポーツ備品の破損や紛失の責任は本人とします。授業以外でも自主的にプレーしたり、ゲームすることが上達への近道です。 テニス履修者は用具の準備や片づけ、コート整備、ゲームの企画・運営なども含めて授業に積極的に参加してください。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p> <p>スポーツと文化、スポーツ研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ（2年次）、スポーツ健康関連研究ゼミナール（3・4年時）など</p>

成績評価の方法										
<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>25%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>25%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>50%</td> </tr> </table> <p>大学履修規定の21回以上の出席要件を満たした者について、出席点50%（1回の欠席で4点減点）、実技点25%、理論・レポート点25%で総合的に評価する。遅刻や早退も出席手に加味する。</p>	課題・小テスト	25%	レポート	25%	中間試験	0%	定期試験	0%	その他	50%
課題・小テスト	25%									
レポート	25%									
中間試験	0%									
定期試験	0%									
その他	50%									

テキスト
<input type="checkbox"/> テキストを使用する <input checked="" type="checkbox"/> レジュメを使用する <input checked="" type="checkbox"/> 未定（最初の授業で指示する）

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
スポーツ (C906 バスケットボール)	2	1	通年開講	富野 順子

テーマ	一人ひとりが主役となるスポーツ実践
-----	-------------------

科目のねらい
--------

<p>【キーワード】 スポーツ文化 国民的教養 スポーツ権 健康生活 健康生活</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>体育・スポーツに関する教養は、現代に生きる私たちにとって非常に重要なものです。ユネスコの「体育・スポーツ国際憲章」に代表されるように、この教養は権利としてのスポーツ、すなわちスポーツ権として考えられています。人間が人間らしく生きる（文化的生存）ために体育・スポーツに関する国民的教養が求められているわけです。また、生涯スポーツの実践は、生涯にわたる健康の獲得と向上にも深いかかわりがあります。スポーツを開講する目的は、履修者がこの国民的教養を「スポーツの主人公」にふさわしく形成するためです。1) みんながうまくなること。集団的に取り組む中で、共にうまくなることによってスポーツの感動を味わってください。つまり、スポーツの得意な人だけが楽しみを独占するのではなく、授業参加者のそれぞれがスポーツ技術の向上に裏づけられて、スポーツを楽しむ能力を身につけることを目指します。2) みんなが上手くなるスポーツを目指すために、集団組織的・計画的活動を大切に進めます。スポーツにおける自治能力を高めていきます。授業参加者それぞれのスポーツ技術をより向上させ、チーム力をアップさせるための方法などを学習者自身が追及し高めることを目指します。3) この授業で開講される各スポーツクラスでの実践を通して、体育・スポーツ科学の成果を学びつつ、今日のスポーツをめぐる状況を理解し、スポーツ文化の発展を正確に描けるような自然科学的および社会科学の認識を高めることを目指します。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・みんながうまくなることができる</li> <li>・参加者自身が、「みんながうまくなる方法」を協力して考え、自分たちの活動につなげることができる</li> <li>・「スポーツの楽しさ」の幅を広げることができる</li> <li>・参加者が相互に認め合い自他ともに受け入れ、共通の目標に向かって活動することができる</li> <li>・ルールや歴史を理解することができる</li> </ul>
--

授業のながれ	
オリエンテーション	チームの目標再設定／授業内第1回大会計画（1）／練習計画（6）
クラスのメンバーを知る	授業内第1回大会計画（2）／練習計画に基づいたチーム練習（6）／練習計画（7）
チーム編成／チームメンバーを知る（1）	授業内第1回大会計画（3）／練習計画に基づいたチーム練習（7）／次回の目標確認
チームメンバーを知る（2）	第1回大会実施
チームメンバーを知る（3）	第1回大会実施（雨天の場合調整）
ルール確認（1）／チームの目標設定と練習計画（1）	第1回大会振り返り／授業内第2回大会計画（1）／練習計画（8）
ルール確認（2）／練習計画に基づいたチーム練習（1）／練習計画（2）	授業内第2回大会計画（2）／練習計画に基づいたチーム練習（8）／練習計画（9）
練習計画に基づいたチーム練習（2）／練習計画（3）	授業内第2回大会計画（3）／練習計画に基づいたチーム練習（9）／練習計画（10）
練習計画に基づいたチーム練習（3）／次回の目標確認	授業内第2回大会計画（4）／練習計画に基づいたチーム練習（10）／次回の目標確認
条件付きミニゲーム／到達度確認／練習計画（4）	授業内第2回大会実施（1）
練習計画に基づいたチーム練習（4）／練習計画（5）	授業内第2回大会実施（2）
練習計画に基づいたチーム練習（5）／次回の目標確認	授業内第2回大会実施（3）
前期到達度確認ミニリーグ（1）	授業内第2回大会（雨天回数により調整）
前期到達度確認ミニリーグ（2）（雨天の場合調整）	授業内第2回大会（雨天回数により調整）
前期のまとめ／中間レポート	1年間のまとめ／終了レポート

学ぶ上での注意・担当教員からの希望
-------------------

<p>各チームで目標を設定し、目標に近づくための練習を計画立案(宿題)し、授業内で練習をし、チームとして目標を達成していくことが大切です。そのためには積極的な参加態度、プレイをしてください。種目の経験が短いまたは浅い人は、疑問に思うこと、理解しにくいことを、自分から経験の長い人に尋ね、プレイに反映させていく努力をしてください。種目の経験の長い人は、相手が納得、理解できるように伝えてください。そして、チームとしてのプレイができるような練習をし、チームとして「うまく」なることを目指して行動してください。チームで行う</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt; スポーツと文化、スポーツ研究Ⅰ、スポーツ研究Ⅱ、スポーツ研究Ⅲ、その他関連する講義やゼミ</p>
---

成績評価の方法		
課題・小テスト	5%	出席50%（1回の欠席で4点減点）、実技25%（1回の欠席で0.5点減点）、レポート・理論等25%（1回の欠席で0.5点減点）欠席が10回以上の場合は規定に従って履修放棄とみなします。欠席回数が9回以下の履修者について総合的に評価します。詳細については初回授業時に説明します。
レポート	20%	
中間試験	0%	
定期試験	0%	
その他	75%	

テキスト
<input type="checkbox"/> テキストを使用する <input type="checkbox"/> レジュメを使用する <input checked="" type="checkbox"/> 未定(最初の授業で指示する)

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
スポーツ (C907 バレーボール)	2	1	通年開講	内田 智子

テーマ	生涯を通じて楽しめるスポーツ
-----	----------------

科目のねらい	<p>【キーワード】技術 ラリー ゲーム チーム チーム</p> <p>&lt;内容の要約&gt; ネット型の球技であるバレーボールでは技術を身につけ、ラリーを続ける楽しさ等を工夫し、1人ひとりの力を結集したチーム作りを目的とします。</p> <p>&lt;学習目標&gt; 技術を身につけることができる 楽しむことができる</p>
--------	--

授業のながれ	
オリエンテーション [1]	集団技能の理解(ポジション・フォーメーション)
個人技能を主体とした練習 [1~4]	各ポジションの個人練習と集団技能の練習[1~4]
個人技能を主体とした練習	各ポジションの個人練習と集団技能の練習
個人技能を主体とした練習	各ポジションの個人練習と集団技能の練習
個人技能を主体とした練習	各ポジションの個人練習と集団技能の練習
6人制バレーボールのルールの理解	試しのゲーム
集団技能の練習(簡易ゲーム)[1~3]	試しのゲーム
集団技能の練習(簡易ゲーム)	試しのゲーム
集団技能の練習(簡易ゲーム)	6人制リーグ戦
試しのゲーム	6人制リーグ戦
試しのゲーム	9人制バレーボールのルールとフォーメーション
試しのゲーム	試しのゲーム
前期リーグ戦(簡易ルール)	9人制リーグ戦
前期リーグ戦(簡易ルール)	9人制リーグ戦
テスト	まとめ

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>グループ活動を主体にするため、遅刻・欠席はグループのメンバーに迷惑をかけることから、日頃から日常生活や体調管理に十分留意し、授業に出席をすること。スポーツ活動は、学生相互の協力関係で成り立つことから、友好的な関係が築けるよう積極的に努力すること。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p>
-------------------	--

成績評価の方法	
課題・小テスト	25%
レポート	25%
中間試験	0%
定期試験	0%
その他	50%

テキスト	<input type="checkbox"/> テキストを使用する <input type="checkbox"/> レジユメを使用する <input checked="" type="checkbox"/> 未定(最初の授業で指示する)
------	--

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
スポーツ (C908 障がい者スポーツ)	2	1	通年開講	藤田 紀昭

テーマ	みんなが参加し、楽しみ、うまくなるために、動きながら考える
-----	-------------------------------

科目のねらい
<p>【キーワード】 障害者 スポーツ アダプテッド</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>体育・スポーツに関する教養は、現代に生きる私たちにとって非常に重要なものです。ユネスコの「体育・スポーツ国際憲章」に代表されるように、この教養は権利としてのスポーツ、すなわちスポーツ権として考えられています。人間が人間らしく生きる（文化的生存）ために体育・スポーツに関する国民的教養が求められているわけです。また、生涯スポーツの実践は、生涯にわたる健康の獲得と向上にも深いかわりがあります。子ども発達学部においてスポーツを履修する目的は、この国民的教養を「スポーツの主人公」にふさわしく形成するためです。特にこの授業では障害者がスポーツに参加するための工夫を考え、実践していくことを中心的な内容とする。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>主体的にスポーツにかかわり、人類の創造した文化財産としてのスポーツの面白さを味わう</p> <p>&lt;Adapted Sports&gt;という考え方を理解し、実践する一体をスポーツに合わせるのではなく、スポーツを体に合わせていく</p> <p>障害者スポーツのルールや技術を習得する</p>

授業のながれ	
オリエンテーション・班分け	サウンドテーブルテニス
障害者スポーツについて	サウンドテーブルテニス
ボッチャ	サウンドテーブルテニス
ボッチャ	サウンドテーブルテニス
ボッチャ	サウンドテーブルテニス
ボッチャ	車いすバスケットボール
ボッチャ	車いすバスケットボール
フライングディスク	車いすバスケットボール
フライングディスク	車いすバスケットボール
フライングディスク	車いすバスケットボール
フライングディスク	車いすバスケットボール
スポーツを創ろう	車いすバスケットボール
スポーツを創ろう	車いすバスケットボール
スポーツを創ろう	アダプテッド・スポーツビデオ
スポーツを創ろう	1年間のまとめ

学ぶ上での注意・担当教員からの希望
出席重視です。遅刻、欠席をしないように。受講生の状況により種目や実施の順番が変わることがあります
<本科目の関連科目>

成績評価の方法	
課題・小テスト 0% レポート 30% 中間試験 0% 定期試験 0% その他 70%	出席し、授業には積極的に取り組むこと。欠席回数が9回以下のものを評価の対象とする。欠席1回につき出席点50点から、4点を減点する。

テキスト	
<input checked="" type="checkbox"/> テキストを使用する <input type="checkbox"/> レジユメを使用する <input type="checkbox"/> 未定(最初の授業で指示する)	藤田紀昭 「障害者スポーツの世界」 角川学芸出版

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
スポーツ (G909 太極拳)	2	1	通年開講	小野 昌子

テーマ	心と体をほぐそう
-----	----------

科目のねらい
--------

<p>【キーワード】生涯スポーツ 健康・体力づくり スポーツコミュニケーション</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>太極拳は誰にでも親しめる体にやさしいスポーツです。その一方、中腰で行う動作により足腰が鍛えられ、バランス感覚を養い、体力向上にも効果的な全身運動です。この授業では最もポピュラーな「簡化 24 式太極拳」の習得を目指します。太極拳の内容は奥深く、焦らず根気よく続けていくことが大切で、深い意味を追求しながら自らを高めていきます。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>いちばん大きな目標は「簡化 24 式太極拳」を習得することです。「健康」について主に体力づくりを目標とするだけでなく、学習の過程において太極拳の求める陰陽哲学にも触れ、身体と精神等様々なバランスについて認識します。</p>
--

授業のながれ	
1. 太極拳とは？	16. 中国武術 長拳について
2. 太極拳の基礎 歩法	17. 長拳を体験しよう！
3. 前期は「24 式太極拳」の前半部分の習得を目指す。	18. 後期は「24 式太極拳」の後半部分の習得を目指す。
4. 24 式太極拳の 1～3 番の動作を学ぶ。	19. 授業の中で中国武術・太極拳の歴史、文化、思想などについて紹介する。
5. 毎回の授業では 1～2 つ新しい動作を学び、反復練習を行って身に付けていく。	20. 24 式太極拳の 10～11 番の動作を学ぶ。
6. 24 式太極拳の 4 番の動作を学ぶ。	21. 24 式太極拳の 12～14 番の動作を学ぶ。
7. 24 式太極拳の 5 番の動作を学ぶ。	22. 24 式太極拳の 15～16 番の動作を学ぶ。
8. 復習	23. 24 式太極拳の 17 番の動作を学ぶ。
9. 24 式太極拳の 6 番の動作を学ぶ。	24. 24 式太極拳の 18 番の動作を学ぶ。
10. 24 式太極拳の 7 番の動作を学ぶ。	25. 24 式太極拳の 19～20 番の動作を学ぶ。
11. 24 式太極拳の 8 番の動作を学ぶ。	26. 24 式太極拳の 21 番の動作を学ぶ。
12. 24 式太極拳の 9 番の動作を学ぶ。	27. 24 式太極拳の 22～24 番の動作を学ぶ。
13. 総復習	28. 総復習
14. 発表	29. 発表
15. まとめ	30. まとめ

学ぶ上での注意・担当教員からの希望
<p>室内シューズを履いてください。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p> <p>スポーツと文化，スポーツ研究Ⅰ，スポーツ研究Ⅱ，スポーツ研究Ⅲ，アダプティッド・スポーツⅠ，アダプティッド・スポーツⅡ</p>

成績評価の方法											
<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>25%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>25%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>50%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	25%	レポート	25%	中間試験	0%	定期試験	0%	その他	50%	欠席数が9回以下の履修者について、上記の配点基準で総合的に評価する。欠席が10回以上の場合は規定に従って履修放棄とみなす。一回の欠席で18点の減点とする。
課題・小テスト	25%										
レポート	25%										
中間試験	0%										
定期試験	0%										
その他	50%										

テキスト
<input type="checkbox"/> テキストを使用する <input type="checkbox"/> レジュメを使用する <input checked="" type="checkbox"/> 未定(最初の授業で指示する)



科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
スポーツ (C910 バドミントン)	2	1	通年開講	内田 智子

テーマ	一人一人が主役となるスポーツ実践
-----	------------------

<p>科目のねらい</p> <p>【キーワード】スポーツ 文化 国民的教養 主人公 主人公 スポーツ権</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>スポーツを楽しむためには、①基本的な技術を身につけること、②基本的なルールを理解すること、③安全に留意すること、④仲間づくりができること、が必要ではないでしょうか。バドミントンは誰もが楽しめるスポーツであり、この授業を通して以上のことを身につけ、レクリエーションスポーツとしてバドミントンを楽しく実践できることを目標にしています。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>みんながうまくなること。集团的に取り組む中で、ともにうまくなることによってスポーツの感動を自分のものとするわけです。つまり、スポーツの得意な人だけが幅をきかせて楽しむというのではなく、授業参加者それぞれが、スポーツ技術の向上に裏づけされたかたちで、スポーツを楽しむ能力を身につけることを意味しています。</p> <p>上記の事を保障するため、集団組織的・計画的活動を重視します。みんながうまくなるための自治能力を高めていきます。教員の指導を一方的に受け入れ、こなすだけではスポーツの面白さも半減です。このねらいは自分たちの技術をより向上させ、チーム力をアップさせるための方法などを自分たちで考えていくことを意味しています。</p> <p>スポーツ実践を通して、体育・スポーツ科学の成果を学びつつ、今日のスポーツをめぐる状況を明らかにし、スポーツ文化の発展を正確に描けるような自然科学的・社会科学的認識を高めることです。</p>
--

授業のながれ	
オリエンテーション	ダブルスについて
チーム編成、簡易ゲーム	グループ練習 (練習計画づくりと実践、ダブルスルールの学習) 1
基本技術の練習、簡易ゲーム	グループ練習 (練習計画づくりと実践、ダブルスルールの学習) 2
基本技術の練習、シングルの簡易ゲーム	グループ練習 (練習計画づくりと実践、ダブルスルールの学習) 3
グループ練習 (個人技能向上のための練習計画づくりと実践) 1	ダブルス簡易ゲーム (練習計画づくりと実践、戦術の検討) 1
グループ練習 (個人技能向上のための練習計画づくりと実践) 2	ダブルス簡易ゲーム (練習計画づくりと実践、戦術の検討) 2
グループ練習 (練習計画づくりと実践、シングルの戦術の検討) 1	ダブルス簡易ゲーム (練習計画づくりと実践、戦術の検討) 3
グループ練習 (練習計画づくりと実践、シングルの戦術の検討) 2	ダブルス簡易ゲーム (練習計画づくりと実践、戦術の検討) 4
前期 シングル リーグ (試合のためのルール確認) 1	後期 ダブルス・シングル リーグ戦 (試合のためのルール確認) 1
前期 シングル リーグ (試合のためのルール確認) 2	後期 ダブルス・シングル リーグ戦 (試合のためのルール確認) 2
前期 シングル リーグ (試合のためのルール確認) 3	後期 ダブルス・シングル リーグ戦 (試合のためのルール確認) 3
前期 シングル リーグ (試合のためのルール確認) 4	後期 ダブルス・シングル リーグ戦 (試合のためのルール確認) 4
前期 シングル リーグ (試合のためのルール確認) 5	後期 ダブルス・シングル リーグ戦 (試合のためのルール確認) 5
前期 シングル 決勝戦 (試合のためのルール確認) 6	後期 ダブルス・シングル 決勝戦 (試合のためのルール確認)
シングルスゲームのまとめ	ダブルスゲームのまとめ

<p>学ぶ上での注意・担当教員からの希望</p> <p>*実技科目のため積極的な受講態度で臨むことを期待します。 *運動着・体育館用のシューズを必ず持参してください。教職課程を希望する学生および、2年次に配当されているアダプテッド・スポーツⅠ、アダプテッド・スポーツⅡを履修するためには1年次にスポーツを修得しておく必要があります。いずれの種目も障害の有無に関係なく選択することが可能ですが、障害学生の状況により、障害学生の履修を優先する場合があります。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;「スポーツと文化」「アダプテッド・スポーツⅠ」「アダプテッド・スポーツⅡ」</p>
--

成績評価の方法											
<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>25%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>25%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>50%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	25%	レポート	25%	中間試験	0%	定期試験	0%	その他	50%	成績評価は出席状況および受講態度、実技テスト等により総合的に判断します。遅刻、欠席は減点の対象となります。積極的に授業に参加してください。
課題・小テスト	25%										
レポート	25%										
中間試験	0%										
定期試験	0%										
その他	50%										

<p>テキスト</p> <p><input type="checkbox"/>テキストを使用する</p> <p><input type="checkbox"/>レジュメを使用する</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>未定(最初の授業で指示する)</p>
--



科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
スポーツ (C911 バレーボール)	2	1	通年開講	富野 順子

テーマ	一人ひとりが主役となるスポーツ実践
-----	-------------------

科目のねらい	<p>【キーワード】スポーツ文化 国民的教養 スポーツ権 健康生活 健康生活</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>体育・スポーツに関する教養は、現代に生きる私たちにとって非常に重要なものです。ユネスコの「体育・スポーツ国際憲章」に代表されるように、この教養は権利としてのスポーツ、すなわちスポーツ権として考えられています。人間が人間らしく生きる（文化的生存）ために体育・スポーツに関する国民的教養が求められているわけです。また、生涯スポーツの実践は、生涯にわたる健康の獲得と向上にも深いかかわりがあります。スポーツを開講する目的は、履修者がこの国民的教養を「スポーツの主人公」にふさわしく形成するためです。1) みんながうまくなること。集団的に取り組む中で、共にうまくなることによってスポーツの感動を味わってください。つまり、スポーツの得意な人だけが楽しみを独占するのではなく、授業参加者のそれぞれがスポーツ技術の向上に裏づけられて、スポーツを楽しむ能力を身につけることを目指します。2) みんなが上手くなるスポーツを目指すために、集団組織的・計画的活動を大切に進めます。スポーツにおける自治能力を高めていきます。授業参加者それぞれのスポーツ技術をより向上させ、チーム力をアップさせるための方法などを学習者自身が追及し高めることを目指します。3) この授業で開講される各スポーツクラスでの実践を通して、体育・スポーツ科学の成果を学びつつ、今日のスポーツをめぐる状況を理解し、スポーツ文化の発展を正確に描けるような自然科学的および社会科学の認識を高めることを目指します。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>みんながうまくなることができる</p> <p>参加者自身が、「みんながうまくなる方法」を協力して考え、自分たちの活動につなげることができる</p> <p>「スポーツの楽しさ」の幅を広げることができる</p> <p>参加者が相互に認め合い自他ともに受け入れ、共通の目標に向かって活動することができる</p> <p>ルールや歴史を理解することができる</p>
--------	---

授業のながれ	
オリエンテーション	チームの目標再設定／授業内第1回大会計画（1）／練習計画（6）
クラスのメンバーを知る	授業内第1回大会計画（2）／練習計画に基づいたチーム練習（6）／練習計画（7）
チーム編成／チームメンバーを知る（1）	授業内第1回大会計画（3）／練習計画に基づいたチーム練習（7）／次回の目標確認
チームメンバーを知る（2）	第1回大会実施
チームメンバーを知る（3）	第1回大会実施（雨天の場合調整）
ルール確認（1）／チームの目標設定と練習計画（1）	第1回大会振り返り／授業内第2回大会計画（1）／練習計画（8）
ルール確認（2）／練習計画に基づいたチーム練習（1）／練習計画（2）	授業内第2回大会計画（2）／練習計画に基づいたチーム練習（8）／練習計画（9）
練習計画に基づいたチーム練習（2）／練習計画（3）	授業内第2回大会計画（3）／練習計画に基づいたチーム練習（9）／練習計画（10）
練習計画に基づいたチーム練習（3）／次回の目標確認	授業内第2回大会計画（4）／練習計画に基づいたチーム練習（10）／次回の目標確認
条件付きミニゲーム／到達度確認／練習計画（4）	授業内第2回大会実施（1）
練習計画に基づいたチーム練習（4）／練習計画（5）	授業内第2回大会実施（2）
練習計画に基づいたチーム練習（5）／次回の目標確認	授業内第2回大会実施（3）
前期到達度確認ミニリーグ（1）	授業内第2回大会（雨天回数により調整）
前期到達度確認ミニリーグ（2）（雨天の場合調整）	授業内第2回大会（雨天回数により調整）
前期のまとめ／中間レポート	1年間のまとめ／終了レポート

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>各チームで目標を設定し、目標に近づくための練習を計画立案（宿題）し、授業内で練習をし、チームとして目標を達成していくことが大切です。そのためには積極的な参加、プレイをしてください。種目の経験が短いまたは浅い人は、疑問に思うこと、理解しにくいことを、自分から経験の長い人に尋ね、プレイに反映させていく努力をしてください。種目の経験の長い人は、相手が納得、理解できるように伝えてください。そして、チームとしてのプレイができるような練習をし、チームとして「うまく」なることを目指して行動してください。チームで行う種目</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;スポーツと文化、スポーツ研究Ⅰ、スポーツ研究Ⅱ、スポーツ研究Ⅲ、その他関連する講義やゼミ</p>
-------------------	--

成績評価の方法		
課題・小テスト	5%	出席50%（1回の欠席で4点減点）、実技25%（1回の欠席で0.5点減点）、レポート・理論等25%（1回の欠席で0.5点減点）欠席が10回以上の場合は規定に従って履修放棄とみなします。欠席回数が9回以下の履修者について総合的に評価します。詳細については初回授業時に説明します。
レポート	20%	
中間試験	0%	
定期試験	0%	
その他	75%	

テキスト	<input type="checkbox"/> テキストを使用する <input type="checkbox"/> レジュメを使用する <input checked="" type="checkbox"/> 未定（最初の授業で指示する）
------	--

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
スポーツ (C912 フットサル)	2	1	通年開講	成瀬 徹

テーマ	スポーツの技術・戦術や歴史と文化をみんなで学習し、その学習成果に立ってスポーツイベント（フットサル大会）を作ろう。
-----	---

科目のねらい	<p>【キーワード】 スポーツの歴史と文化 スポーツの技術や戦術 グループ学習 イベントづくり イベントづくり</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>スポーツの技術や戦術をグループで学習します。そして、技術や戦術だけではなくスポーツ（サッカー）の歴史や文化的内容も学びます。そのような学習に立脚し「サッカー大会」づくりというイベントを通して、企画・立案の意図や方法を学びます。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>グループで練習計画を立て、実践し、総括することができる。</p> <p>グループでの練習で、みんながうまくなりスポーツを楽しむことができる。</p> <p>スポーツの歴史や文化の学習によってスポーツ観（サッカー観）をより深めることができる。</p> <p>イベント作りを通じて、企画・立案する力を伸ばす。</p>
--------	---

授業のながれ	
オリエンテーション	第一次リーグ戦（計画作り）
実技オリエンテーション	第一次リーグ戦
実技オリエンテーション	第一次リーグ戦
グループ練習 体育理論	第一次リーグ戦
グループ練習 体育理論	第一次リーグ戦総括
グループ練習 体育理論	グループ練習 第二次リーグ戦に向けての計画作り 体育理論
グループ練習 体育理論	グループ練習 第二次リーグ戦に向けての計画作り 体育理論
グループ練習 体育理論	グループ練習 第二次リーグ戦に向けての計画作り 体育理論
グループ練習 体育理論	グループ練習 第二次リーグ戦に向けての計画作り 体育理論
グループ練習 体育理論	第二次リーグ戦
グループ練習 ミニゲーム 体育理論	第二次リーグ戦
グループ練習 ミニゲーム 体育理論	第二次リーグ戦
グループ練習 ミニゲーム 体育理論	まとめ
グループ練習 ミニゲーム 体育理論	予備
グループ練習 ミニゲーム 体育理論	予備

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>性差や技能的な違いを前提に、「異質」な仲間が「共同」して授業に取り組みます。授業の初期に作る「異質集団」は原則として一年間変わりません。先ず、この点についてしっかりした確認をしてください。「教室でする体育」も大きなウエイトを占めています。「汗をかくだけの体育」ではありません。充分承知してください。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p>
-------------------	--

成績評価の方法		
課題・小テスト	25%	授業への参加状況、レポート、体育理論テストを中心に総合的に評価します。パフォーマンスの結果だけで評価はしません。
レポート	50%	
中間試験	0%	
定期試験	0%	
その他	25%	

テキスト	<input type="checkbox"/> テキストを使用する <input checked="" type="checkbox"/> レジュメを使用する <input checked="" type="checkbox"/> 未定（最初の授業で指示する）
------	---

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
スポーツ (C913 フライングディスク)	2	1	通年開講	伊藤 照美

テーマ	一人ひとりが主役となるスポーツ実践
-----	-------------------

科目のねらい
<p>【キーワード】スポーツ文化 国民的教養 スポーツ権 健康生活 健康生活</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>体育・スポーツに関する教養は、現代に生きる私たちにとって非常に重要なものです。ユネスコの「体育・スポーツ国際憲章」に代表されるように、この教養は権利としてのスポーツ、すなわちスポーツ権として考えられています。人間が人間らしく生きる（文化的生存）ために体育・スポーツに関する国民的教養が求められているわけです。また、生涯スポーツの実践は、生涯にわたる健康の獲得と向上にも深いかわりがあります。社会福祉学部においてスポーツを開講する目的は、履修者がこの国民的教養を「スポーツの主人公」にふさわしく形成するためです。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>みんながうまくなること。集団的に取り組む中で、共にうまくなることにやってスポーツの感動を味わってください。つまり、スポーツの得意な人だけが楽しみを独占するのではなく、授業参加者のそれぞれがスポーツ技術の向上に裏づけされて、スポーツを楽しむ能力を身につけることを目指します。</p> <p>みんながうまくなるスポーツを目指すために、集団組織的・計画的活動を大切に進めます。スポーツにおける自治能力を高めていきます。授業参加者のそれぞれのスポーツ技術をより向上させ、チーム力をアップさせるための方法などを学習者自身が追及し高めることを目指します。</p>

授業のながれ	
前期ガイダンス	後期ガイダンス 基本技能の復習
基本技能Ⅰ（基本スローイング）	基本技能Ⅳ（前期の復習）
基本技能Ⅱ（応用スローイング）	ディスクゴルフⅢ（フルラウンド）
基本技能Ⅲ（総合練習）	ドッジビーⅡ
ディスクゴルフⅠ（説明と練習）	アルティメット リードアップゲームⅣ
ディスクゴルフⅡ（ラウンド）	アルティメット リードアップゲームⅤ
個人種目Ⅰ（説明と練習）	アルティメット ゲームについて（ルール、運営など）
個人種目Ⅱ（競技会）	アルティメットの練習法Ⅰ（基本技能）
ガッツ競技	アルティメットの練習法Ⅱ（フォーメーション）
ドッジビーⅠ	アルティメットリーグ戦Ⅰ
アルティメットについて（講義）	アルティメットリーグ戦Ⅱ
アルティメット リードアップゲームⅠ	アルティメットリーグ戦Ⅲ
アルティメット リードアップゲームⅡ	アルティメットにおける戦術、作戦
アルティメット リードアップゲームⅢ	アルティメットリーグ戦Ⅳ
テスト	テスト

学ぶ上での注意・担当教員からの希望
<p>実技授業ですので、種目クラスやグループの中で積極的な参加をしてください。障害および病気・怪我など履修に関わる相談は事前に保健室および体育研究室もしくは学事課で応じています。貴重品の扱いは履修オリおよび担当教員の指示に従って各自で管理してください。その他履修に関わる詳細事項は、各種目クラスのシラバスを参照してください。スポーツの関する連絡は、体育館教員控室前掲示板および nfu.jp で行います。*フライングディスクは外で行います。*外用のシューズを必ず持参してください。*実技科目のため積極的な受講態度で臨むこと</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;スポーツと文化、スポーツ研究Ⅰ、スポーツ研究Ⅱ、スポーツ研究Ⅲ、その他関連するゼミ</p>

成績評価の方法											
<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>100%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	0%	レポート	0%	中間試験	0%	定期試験	0%	その他	100%	出席 50%、実技 25%、レポート・理論等 25%欠席数が 9 回以下の履修者について、上記の配点基準で総合的に評価する。欠席が 10 回以上の場合は規定に従って履修放棄とみなす。一回の欠席で 4 点の減点とする。
課題・小テスト	0%										
レポート	0%										
中間試験	0%										
定期試験	0%										
その他	100%										

テキスト
<input type="checkbox"/> テキストを使用する <input type="checkbox"/> レジュメを使用する <input checked="" type="checkbox"/> 未定（最初の授業で指示する）

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
スポーツ (C914 フラグフットボール)	2	1	通年開講	丸山 真司

テーマ	フラグフットボールで知的なゲームを楽しもう
-----	-----------------------

科目のねらい	<p>【キーワード】誰もが楽しめるスポーツ 「頭脳型陣取りゲーム」 作戦・戦術 みんなで取り組むグループ学習 みんなで取り組むグループ学習</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>フラグフットボールはアメリカンフットボールを男女・年齢に関係なく、誰もが楽しめるスポーツに改良したスポーツである。フラグフットボールで最も重要なのが作戦・戦術。上手に作戦をたてることで、球技の得意・不得意に関係なく誰もが活躍することができる「頭脳型陣取りゲーム」だ。1年間の授業を通して、アメリカンフットボール型のスポーツ文化の世界に触れ、知的なゲームを楽しみたい。そのために、各グループを一つの自立したクラブチームと考え、知恵を出し合い戦略・戦術・作戦を練り、自分たちで効果的な練習方法を考え実践し、チームの管理・運営も自らの手で行う学習を展開する。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>フラグフットの面白さに全員が触れることができる。</p> <p>チームで作戦・戦術を考え、実施し、プレイの質を高める。</p> <p>チームで練習計画立案ー実施ーゲーム（分析）ー反省のサイクルを展開する</p> <p>チームの管理・運営能力を身につける</p>
--------	--

授業のながれ	
オリエンテーション	後期オリエンテーション
基本的技術練習①（しっぽ取りからフラグフットの動きへ）	チーム練習⑤（前期の作戦・戦術の確認）
基本的技術練習②（2対2、3対3、ランプレイの戦術中心）＋チーム練習	チーム練習⑥（作戦・戦術研究、練習試合）
基本的技術練習③（3対3、パスプレイの戦術中心）＋チーム練習	チーム練習⑦（作戦・戦術研究、練習試合）
基本的技術練習④（5対5、ディフェンスの戦術中心）＋チーム練習	後期リーグ戦①
チーム練習①（練習試合含む）	後期リーグ戦②
チーム練習②（練習試合含む）	チームの作戦・戦術研究（教室で戦術分析）
チームの作戦・戦術学習（教室で戦術分析）及び大会企画	後期リーグ戦③
チーム練習③（練習試合含む）	チーム練習⑧（作戦・戦術研究、練習試合）
前期リーグ戦①	後期リーグ戦④
前期リーグ戦②	後期リーグ戦⑤
チーム練習④（作戦・戦術確認）	チーム練習⑨（作戦・戦術研究、練習試合）
前期リーグ戦③	後期リーグ戦⑥
チームの反省会	チームの反省会
前期まとめ	まとめ

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>・年間8回以上欠席した場合は評価対象外・自分たちで「考え、トライし、分析する」グループ（チーム）活動が中心となりますので、積極的にグループに関わり、質の高いグループ活動を期待しています</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p>
-------------------	---

成績評価の方法	
課題・小テスト 0% レポート 40% 中間試験 0% 定期試験 0% その他 60%	評価は出席点、グループ活動の評価、学期末のレポートによる評価の総合点で行います。

テキスト	<input type="checkbox"/> テキストを使用する <input checked="" type="checkbox"/> レジュメを使用する <input type="checkbox"/> 未定（最初の授業で指示する）
------	--

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
フレッシュマンイングリッシュ I (UT101)	2	1	通年開講	駒田 法子

テーマ	日本語に惑わされない英語表現
-----	----------------

科目のねらい	<p>【キーワード】適切な英語表現 基本的な英語の文法事項の確認 リスニング練習</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>日本人が英文を組み立てる際に誤りやすい表現を中心に学習します。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>普段使用している日本語に惑わされないように、英文を組み立てることができるようになる。</p> <p>基本的な英語の文法を確認し、基礎力を強化しながら応用力を身につけることができるようにする。</p> <p>英作文を組み立てるだけでなく、リスニング力も養うことができる。</p>
--------	--

授業のながれ	
イントロダクション	重要表現の解説、練習問題、リスニング等
重要表現の解説、練習問題、リスニング等	〃
〃	〃
〃	〃
〃	〃
〃	〃
〃	〃
〃	〃
〃	〃
〃	〃
〃	〃
〃	〃
〃	〃
〃	〃
まとめ	まとめ

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>授業はテキストを中心に進めていきますので、授業前に必ず予習をし、積極的に授業に参加してください。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p>
-------------------	---

成績評価の方法											
<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>45%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>45%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>10%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	0%	レポート	0%	中間試験	45%	定期試験	45%	その他	10%	試験結果、出席状況、授業態度等を含めて総合評価
課題・小テスト	0%										
レポート	0%										
中間試験	45%										
定期試験	45%										
その他	10%										

テキスト	
<input checked="" type="checkbox"/> テキストを使用する <input type="checkbox"/> レジュメを使用する <input type="checkbox"/> 未定(最初の授業で指示する)	小中秀彦 English Checklist: Essential Patterns and Practice for Japanese Learners 南雲堂



科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
フレッシュマンイングリッシュ I (UT102)	2	1	通年開講	天野 修一

テーマ	英文読解の速度と正確性を高めよう。英作文でたくさんのごことを表現しよう。
-----	--------------------------------------

科目のねらい
<p>【キーワード】素早く正確な英文読解 表現のための英作文 辞書の有効利用</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>この授業の目標は大きく分けて 2 つあります。ひとつは英語で読んだり聴いたりした内容が素早く正確に理解できるようになること、もうひとつは自分の周囲の状況や自分の意志を英語で書いて表現できるようになることです。教材としては、世界中の至るところから興味深い話題を取り上げた英文を使います。ただ単に内容を確認するだけではなく、音読など様々な課題にも取り組みます。また正確な英文を読み書きするための辞書の使い方も指導します。授業には積極的に参加してください。自主学習も必要です。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>初級から中級程度の英文を正確に読むことができる。</p> <p>初級から中級程度の英文を素早く読むことができる。</p> <p>絵や写真を見て、その状況を英語で書き表すことができる。</p> <p>簡単な手紙やメールの返事を英語で書くことができる。</p> <p>正確な英文読解、英作文のために辞書を有効に活用できる。</p>

授業のながれ	
オリエンテーション。評価基準の説明。授業内容の説明。	前期試験の解答と解説。
正確な英文読解のための辞書の使い方について。	正確な英作文のための辞書の使い方について。
テキスト Unit1 前半。	テキスト Unit8 前半。
テキスト Unit1 後半。	テキスト Unit8 後半。
テキスト Unit2 前半。	テキスト Unit12 前半。
テキスト Unit2 後半。	テキスト Unit12 後半。
テキスト Unit3 前半。	テキスト Unit14 前半。
テキスト Unit3 後半。	テキスト Unit14 後半。
テキスト Unit4 前半。	テキスト Unit16 前半。
テキスト Unit4 後半。	テキスト Unit16 後半。
テキスト Unit5 前半。	テキスト Unit17 前半。
テキスト Unit5 後半。	テキスト Unit17 後半。
テキスト Unit6 前半。	テキスト Unit18 前半。
テキスト Unit6 後半。	テキスト Unit18 後半。
前期学習内容のまとめと総復習。	後期学習内容のまとめと総復習。

学ぶ上での注意・担当教員からの希望
<p>授業の開始時にほぼ毎回小テストを行います。きちんと勉強して来れば、良い点が取れる小テストですので、そのための授業外学習の時間を必ず確保してください。また授業には毎回必ず英語の辞書を持ってきてください。電子辞書でも紙の辞書でもかまいません。紙の辞書を使う場合は英和辞書を持ってきてください。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p>

成績評価の方法											
<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>50%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>30%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	20%	レポート	0%	中間試験	0%	定期試験	50%	その他	30%	語学科目ですので、きちんと出席することが前提です。その他、定期試験、小テスト、授業への参加などを考慮して総合的に判断します。
課題・小テスト	20%										
レポート	0%										
中間試験	0%										
定期試験	50%										
その他	30%										

テキスト	
<input checked="" type="checkbox"/> テキストを使用する <input type="checkbox"/> レジューメを使用する <input type="checkbox"/> 未定(最初の授業で指示する)	Setsuko Watanabe, David Ellis, Diane Lamb A World of Change on the Web 南雲堂



科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
フレッシュマンイングリッシュ I (UT103)	2	1	通年開講	木下 恭子

テーマ	英語のリスニングと読解力のスキルを高め、英文の基本構造を押さえながら、総合的な英語力を養う。
-----	--

科目のねらい	<p>【キーワード】 英語運用能力 英文法 基礎知識 自己表現能力 自己表現能力 読む能力</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>英語有用能力とは、話す・聞く能力だけでなく、読む・書く能力を含めた総合的な自己表現能力である。英文法の基礎知識を学び、読む能力を習得することで、自己表現能力を獲得する。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>英文を聞き、要点を聞き取ることができる。</p> <p>異文化に対する理解を深める。</p> <p>英文を読む発音能力を習得する。</p>
--------	---

授業のながれ	
オリエンテーション	オリエンテーション
読解 Unit 1	読解 Unit 7
同上	同上
読解 Unit 2	読解 Unit 8
同上	同上
読解 Unit 3	読解 Unit 9
同上	同上
読解 Unit 4	読解 Unit 10
同上	同上
読解 Unit 5	読解 Unit 11
同上	同上
読解 Unit 6	読解 Unit 12
同上	同上
小テスト	小テスト
まとめ	まとめ

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>英語の学習には辞書が必要です。英和辞書を持参してください。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p> <p>英語科目全般</p>
-------------------	--

成績評価の方法											
<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>60%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>20%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	20%	レポート	0%	中間試験	0%	定期試験	60%	その他	20%	小テスト、試験、または出席状況や授業態度などから総合的に評価します。
課題・小テスト	20%										
レポート	0%										
中間試験	0%										
定期試験	60%										
その他	20%										

テキスト	
<input checked="" type="checkbox"/> テキストを使用する <input type="checkbox"/> レジューメを使用する <input type="checkbox"/> 未定(最初の授業で指示する)	John S. Landers American Culture 朝日出版社

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
フレッシュマンイングリッシュ I (UT104)	2	1	通年開講	竹多 亮子

テーマ	reading および listening ability の向上
-----	-----------------------------------

科目のねらい	<p>【キーワード】Let's read in English. Practice makes perfect.</p> <p>&lt;内容の要約&gt; 基本的文法事項を理解し、reading, listening 演習を通して、社会生活で役立つ英語運用能力を養う。</p> <p>&lt;学習目標&gt; 基本的文法事項が理解でき、文章の内容が把握できる。 reading および listening ability が向上する。</p>
--------	---

授業のながれ	
Introduction	Unit 7
Unit 1	Unit 7
Unit 1	Unit 8
Unit 2	Unit 8
Unit 2	Unit 9
Unit 3	Unit 9
Unit 3	Unit 10
Unit 4	Unit 10
Unit 4	Unit 11
Unit 5	Unit 11
Unit 5	Unit 12
Unit 6	Unit 12
Unit 6	Presentation
Review 1	Review 2
まとめと復習	まとめと復習

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>クラスでは、ペアワークやグループワークなどが中心となるので、積極的な参加が望まれます。辞書は必ず持参すること。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p>
-------------------	--

成績評価の方法	
課題・小テスト	20%
レポート	0%
中間試験	40%
定期試験	40%
その他	0%

テキスト	
<input checked="" type="checkbox"/> テキストを使用する <input type="checkbox"/> レジュメを使用する <input type="checkbox"/> 未定(最初の授業で指示する)	Nancy Douglas Reading Explorer 1 HEINLE CENGAGE Learning

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
フレッシュマンイングリッシュ I (UT105)	2	1	通年開講	山村 崇斗

テーマ	英文読解の基礎となる力を伸ばし、さまざまな種類の英文を読むために必要なリーディングスキルを習得し、英文を読む楽しさを感じられるようになること。
-----	---

科目のねらい	<p>【キーワード】リーディングスキル 語彙力の強化 英文読解力の強化 文法・語法の確認 文法・語法の確認</p> <p>&lt;内容の要約&gt; さまざまなジャンルの英文に対応できるように、毎回の授業で英文を読む際に必要なリーディングスキルを学んでいく。英文を訳出しながらか読解力を高めると同時に、リーディングスキルの定着を図る。また、本文全体を要約し主題を掴む練習も行う。</p> <p>&lt;学習目標&gt; リーディングスキルの習得 さまざまなジャンルの英文に慣れること 英文の主題を意識しながら英文を読めるようになる</p>
--------	---

授業のながれ	
イントロダクション	Time Order (2)
Inference from Titles and Pictures	Time Order (2)
Inference from Titles and Pictures	Reading Graphs and Charts
Finding Topic Sentences (1)	Reading Graphs and Charts
Finding Topic Sentences (1)	Specilaized and Technical Reading
Finding Topic Sentences (2)	Specilaized and Technical Reading
Finding Topic Sentences (2)	Material Organization
Finding Supporting Ideas	Material Organization
Finding Supporting Ideas	Story Grammar
Connecting Words (1)	Story Grammar
Connecting Words (1)	Evaluating Facts and Opinions
Connecting Words (2)	Evaluating Facts and Opinions
Connecting Words (2)	Critical Reading
Time Order (1)	Critical Reading
Time Order (1)	総復習

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>授業はテキストに沿ってリーディングスキルの解説を行った後、英文を読解していく予定である。テキストの練習問題や、本文全体の和訳を確認しながら進めていくので、予習をしっかりと行って授業に臨むようにすること。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p>
-------------------	--

成績評価の方法		
課題・小テスト	20%	平常点として出席状況も評価の対象とするので毎回授業に出席すること。小テストや試験の成績だけでなく、平常の授業時の姿勢もふまえ総合的に評価する。
レポート	0%	
中間試験	40%	
定期試験	40%	
その他	0%	

テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>■テキストを使用する</li> <li>■レジュメを使用する</li> <li>■未定(最初の授業で指示する)</li> </ul>	<p>Takeshi Tsuchiya, Rika Hanamitsu, Bill Benfiled Read Up—22 Steps to Strategic Reading — 成美堂</p>
------	---	--

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
フレッシュマンイングリッシュ I (UT106)	2	1	通年開講	福田 宏一

テーマ	日常生活の様々な状況や場面における適切な英語の表現と対応の仕方を修得する。併せて従来の受信型の英語運用能力を基盤とし、日常の様々な場面を想定した発信型の、あるいはより実践的な英語運用能力を習得する。
-----	---

科目のねらい	<p>【キーワード】ペアワークを中心とした英語による意思疎通の方法の修得。グループワーク形式による英語を介した集団での討議。英語を用いたシナリオ作成、およびオーラル発表。ゲーム形式を取り入れた英語表現の深化および語彙力の定着。ゲーム形式を取り入れた英語表現の深化および語彙力の定着。</p> <p>&lt;内容の要約&gt; 共通テキストの内容に即し、ペアワーク形式の活動を通じた英語での情報のやりとり、およびグループワークでの討議形式による意見交換を授業の中心に据え、様々な状況に合わせた「英語による臨機応変な対応」の仕方に習熟する。また、ゲーム形式を取り入れた語彙力の強化を講義の中で適宜実施する。</p> <p>&lt;学習目標&gt; ・英語を用いた適切、かつ的確な質疑応答が出来る。 ・場面設定に即して自然な英語表現を用いた臨機応変な対応が出来る。 ・日常生活の中で実際に遭遇し得る場面を想定し、各々の状況に合わせて適切な英語表現が出来る。</p>
--------	---

授業のながれ	
Lesson 1 前半部。テキストの内容把握、およびペアワークの課題設定。	Lesson 7 前半部。テキストの内容に即したオリジナル・シナリオの作成。
Lesson 1 後半部。テキスト内容に基づくペアワークの実践。	Lesson 7 後半部。オリジナル・シナリオの校正と発展、および最終稿の推敲。
Lesson 2 前半部。テキスト内容の吟味、およびグループワークの課題設定。	Lesson 8 前半部。テキスト内容の把握、およびオーラル発表 (1)
Lesson 2 後半部。グループワークの実践。	Lesson 8 後半部。テキスト内容の把握、およびオーラル発表 (2)
Lesson 3 前半部。フリートークの概要の把握、および課題設定。	Lesson 9 前半部。テキスト内容の把握、オーラル発表 (3)
Lesson 3 後半部。指示されたテーマに基づくフリートークの実践。	Lesson 9 後半部。テキスト内容の把握、オーラル発表 (4)
Lesson 1-3 の内容の総復習、および表現方法の深化と語彙の定着。	Lesson 7-9 の Review。内容の定着と深化。
Lesson 4 前半部。共通テキストの内容をベースとしたペアワークの課題設定。	Lesson 10 前半部。共通テキストの内容に基づくペアワークの課題設定。
Lesson 4 後半部。ペアワークの実践。	Lesson 10 後半部。ペアワークの実践。
Lesson 5 前半部。共通テキストおよび補助教材の内容をベースとしたグループワークの課題設定。	Lesson 11 前半部。共通テキストおよび補助教材の内容に基づくグループワークの課題設定。
Lesson 5 後半部。グループワークの実践。	Lesson 11 後半部。グループワークの実践。
Lesson 6 前半部。語彙の定着、および関連的英語表現の習得。	Lesson 12 前半部。テキストの内容に基づく対話形式による内容の深化と発展。
Lesson 6 後半部。テキスト内容の深化、および補充と副教材を用いた多様な英語表現の習得。	Lesson 12 後半部。集団討議形式による、多様な英語表現の活用とテキスト内容の深化。
Lesson 4-6 の Review、および小テスト。	Lesson 1-12 の語彙の補充と定着、および設定された場面に関連したその他の英語表現の習得。
Lesson 1-6 の内容の定着と深化、およびその他の重要な英語表現の習得。	フリートーク形式を用いた英語によるコミュニケーションの実践 (テーマを設定したカードを使ったトーキング・ゲーム)。

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>1. 公共放送の教育プログラムである「英語講座」を視聴し、講義内容の深化を図ることが望ましい。詳細については講義の中で適宜指示するが、その際必要となる教材については特に購入の必要はない。2. 私語は厳禁とする。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt; 英語を含む言語科目全般を履修していることが望ましい。</p>
-------------------	---

成績評価の方法	
課題・小テスト	10%
レポート	10%
中間試験	35%
定期試験	35%
その他	10%

1. 前期筆記試験、小テスト、後期筆記試験、長期休業期間中に作成するレポート。2. 講義の中で適宜与えるボーナス・ポイントを加点して総合的・客観的に成績を評価する。3. 欠席については忌引き・病欠等やむを得ない事情の場合を除き、一回につきマイナス 1 ポイントとして上記内容の得点の総計から減じるものとする。

テキスト	<p>■テキストを使用する  <input type="checkbox"/>レジュメを使用する  <input type="checkbox"/>未定(最初の授業で指示する)</p> <p>David Peaty NEW ALLTALK 1 Macmillan Languagehouse</p>
------	---

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
フレッシュマンイングリッシュ I (Q301)	2	1	通年開講	服部 茂

テーマ	英語基礎の習得
-----	---------

科目のねらい	<p>【キーワード】 中学・高校の既習項目の復習 基本文法の理解 基本語彙の記憶 リーディング、リスニング学習 リーディング、リスニング学習 英語圏文化の理解</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>前期では英語の語順、辞書の引き方、学習の仕方など英語の初補的な基本事項、発音、音声の特徴、基本文法を中心に学習し、前半から後期には前期に学習した項目を活かし総合的に学習する。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>英語の基礎を理解し、それを定着させる。</p> <p>英語学習の方法を身につけ、英語学習を継続し、自学力をつける。</p> <p>今後、各自の目標に応じた英語学習ができるよう力をつける。</p>
--------	--

授業のながれ
前期
1, 2 授業・学習オリエンテーション
3～15 発音、リズム、英語の音声の特徴、実際に聴こえる音、英語の語順、辞書の引き方、基本文法の学習を中心にプリント（またはテキスト）を用いての学習
後期
16～30 プリント（またはテキスト）を用いての学習

学ぶ上での注意・担当教員からの希望
<p>学習効果からも毎回授業に出席しなければなりません。したがって、安易に授業を欠席することは許されません。また、学習内容を明確にするためにも予習は不可欠です。知らない単語を調べたり、指示された箇所は必ず事前学習をしてきてください。学習環境を整え、授業に集中する意味でも特別の事情を除き飲食を禁止とします。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p>

成績評価の方法		<p>クラス全体の学習状況の如何に拠っては、定期試験の他に必要に応じて数回試験を果たすことがある。また、受講生の学習を補うため小テストを実施することがある。その際、平常点として成績評価に加味する。</p>
課題・小テスト	0%	
レポート	0%	
中間試験	50%	
定期試験	50%	
その他	0%	

テキスト	<p><input type="checkbox"/> テキストを使用する</p> <p><input type="checkbox"/> レジュメを使用する</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 未定(最初の授業で指示する)</p>
------	---

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
フレッシュマンイングリッシュ I (Q302)	2	1	通年開講	久米 祐介

テーマ	リーディングを中心とした比較文化研究
-----	--------------------

科目のねらい
<p>【キーワード】 比較文化 リーディング 文法 リスニング リスニング</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>比較文化に関する様々なテーマの文章を扱い、基礎的な文法事項の確認と正確な読解力の習得を目指します。また、ネイティブスピーカーの3分の2程度おさえられた、短めのニュースを聞き、リスニングの基礎演習も行います。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>正確な読解力の習得            基本的な文法事項の確認            他国の文化を知ることによって、自国の文化の理解を深める            リスニング能力の育成</p>

授業のながれ	
Differences in Greetings between Japan and the West (本文)	Compact Culture in Japan (演習)
Differences in Greetings between Japan and the West (演習)	Life after Death: Differences between Christianity and Buddhism (本文)
Which Is More Difficult, English or Japanese? (本文)	Life after Death: Differences between Christianity and Buddhism (演習)
Which Is More Difficult, English or Japanese? (演習)	Aging Society with the Declining Birthrate (本文)
Different Ways of Thinking: Sense of identity (本文)	Aging Society with the Declining Birthrate (演習)
Different Ways of Thinking: Sense of identity (演習)	Right Culture and Left Culture (本文)
Mysteries of Alphabet and Kanji (本文)	Right Culture and Left Culture (演習)
Mysteries of Alphabet and Kanji (演習)	Foot Culture and Hand Culture (本文)
Laughing in Culture and Science (本文)	Foot Culture and Hand Culture (演習)
Laughing in Culture and Science (演習)	What Labor Means in Japan and the West (本文)
Different Americans and the Same Japanese (本文)	What Labor Means in Japan and the West (演習)
Different Americans and the Same Japanese (演習)	Westernization of Japan and the Japanese Culture (本文)
Japanese Outlook on Religions (本文)	Westernization of Japan and the Japanese Culture (演習)
Japanese Outlook on Religions (演習)	English Education in Japan and Why Japanese Are Poor at English (本文)
Compact Culture in Japan (本文)	English Education in Japan and Why Japanese Are Poor at English (演習)

学ぶ上での注意・担当教員からの希望
<p>1つのテーマにつき2つの講義を行います。前半では本文を読み、後半では演習を行います。特に前半の本文では予習が必要となります。本文全体を和訳できるように、分からない単語、文法、構文などはあらかじめ調べておいてください。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p>

成績評価の方法	
課題・小テスト 50% レポート 0% 中間試験 0% 定期試験 50% その他 0%	毎回の小テストと授業内での発言が50%。定期試験が50%で評価します。

テキスト	
<input checked="" type="checkbox"/> テキストを使用する <input type="checkbox"/> レジュメを使用する <input type="checkbox"/> 未定(最初の授業で指示する)	Takayuki Ishii Takashi Kita Joe Ciunci Lance Burrows Hidetaka Mawatari Step UP to Better English Asahi Press



科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
フレッシュマンイングリッシュ I (Q303)	2	1	通年開講	高橋 すみれ

テーマ	英文法の基礎を踏まえ、英語の読解力や運用力を培う。
-----	---------------------------

科目のねらい
<p>【キーワード】 understanding and interpreting English reading and thinking logically basic composition</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>授業期間の前半では①テキストをもとに英文法の基礎を確認、あるいは学び直ししながら、英語を読み解く実践を積んでいく。この期間、授業の各回で重要な表現の型を取り上げ、さまざまな内容について書かれた短い文章を読んでいく。そこで得られたものを活かして後期の半ばから②実際に英語の物語を読み、解釈する課題に取り組む。この②の取り組みのなかで、読解や考えを深めながら期末課題を書いてもらうことになる。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>これまで身につけられた英語の基礎を活かし、さまざまな英語の素材を実践的に読み解くことができるようになる。英語の読解力、およびコミュニケーション能力を鍛えていくための土台をつくることができる。英語のインプット（読解、解釈）をアウトプット（表現）に創造的につなげていくことができる。</p>

授業のながれ	
ガイダンス 自己紹介	「心に残る言葉」（前期最終回を踏まえて）
不定詞の用法	節の識別
～ing の用法	基本的助動詞
過去分詞の用法	受動態の応用
疑問を表す形	S be C の複雑化
SVX	表現のエクササイズ
SVX でエクササイズ	物語のリーディング 1
SVOC	物語のリーディング 2
SVOC でエクササイズ	物語のリーディング 3
SVOX	物語のリーディング 4
it の用法	物語のリーディング 5
基本的な関係詞	物語のリーディング 6
後置修飾のまとめ	解釈を深める、ライティング指導 1
接続詞	解釈を深める、ライティング指導 2
物語を楽しむ	まとめ、解説

学ぶ上での注意・担当教員からの希望
<p>・ 授業内容をよりよく理解し、次回の授業に積極的に参加するためにも、予習・復習では辞書を活用することが望まれる。テキストや授業で不明な点がある時は遠慮せず質問するように（その質問は理解につながり、きっと他の学生の役にも立ちます）。・ 授業の成果は、各回の積み重ねを通して得られるものと考えている。そのため、普段の授業に対して学生が取り組む姿勢を評価したい。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p>

成績評価の方法											
<table border="0"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>80%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	20%	レポート	0%	中間試験	0%	定期試験	0%	その他	80%	<p>①出席点（1点×出席回数[全30回]）＋②授業への取り組み（提出物・発言…1回につき1点、自発的な発言・質問…1回につき2点）＋③期末課題（必須。最高20点まで）以上が加点項目。他の考慮すべき点に④無断欠席（-1点×回数）、⑤その他、私語が目立つなど授業態度上の問題点…（-1点×指摘）がある。主にこれら①～⑤までを総合してA～Dの評価基準に即し評価する。</p>
課題・小テスト	20%										
レポート	0%										
中間試験	0%										
定期試験	0%										
その他	80%										

テキスト	
<p><input checked="" type="checkbox"/> テキストを使用する</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> レジュメを使用する</p> <p><input type="checkbox"/> 未定（最初の授業で指示する）</p>	<p>佐藤誠司 “In Plain English - Grammar for Reading（リーディングのための英文法）” 南雲堂</p>

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
フレッシュマンイングリッシュ I (Q304)	2	1	通年開講	竹多 亮子

テーマ	reading および listening ability の向上
-----	-----------------------------------

科目のねらい
<p>【キーワード】 Le'ts read in English. Practice makes perfect.</p> <p>&lt;内容の要約&gt;            基本的文法事項を理解し、reading, listening 演習を通して、社会生活で役立つ英語運用能力を養う。</p> <p>&lt;学習目標&gt;            基本的文法事項が理解でき、文章の内容が把握できる。            reading および listening ability が向上する。</p>

授業のながれ	
Introduction	Unit 7
Unit 1	Unit 7
Unit 1	Unit 8
Unit 2	Unit 8
Unit 2	Unit 9
Unit 3	Unit 9
Unit 3	Unit 10
Unit 4	Unit 10
Unit 4	Unit 11
Unit 5	Unit 11
Unit 5	Unit 12
Unit 6	Unit 12
Unit 6	Presentation
Review 1	Review 2
まとめと復習	まとめと復習

学ぶ上での注意・担当教員からの希望
<p>クラスでは、ペアワークやグループワークなどが中心となるので、積極的な参加が望まれます。辞書は必ず持参すること。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p>

成績評価の方法	
課題・小テスト	20%
レポート	0%
中間試験	40%
定期試験	40%
その他	0%

テキスト	
<input checked="" type="checkbox"/> テキストを使用する <input type="checkbox"/> レジユメを使用する <input type="checkbox"/> 未定(最初の授業で指示する)	Nancy Douglas Reading Explorer 1 HEINLE CENGAGE Learning

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
フレッシュマンイングリッシュ I (C901)	2	1	通年開講	馬場 景子

テーマ	英語の速読のコツを知って、世界の情報を早くゲットしよう
-----	-----------------------------

科目のねらい
<p>【キーワード】英語の速読 英語の多読 洋書を読む力の養成 世界の共通語は英語になった 世界の共通語は英語になった 知的 好奇心は読む力から始まる</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>聴覚に障害を持つ人にとって、読む力を養成することは、とても重要です。特に、英語が世界の共通語になり、情報を英語から取り 入れる機会が増大しています。しかし英語を早く読むことは、日本語の文章を早く読むこととは違うのでしょうか？多くの洋書をい つも読んでいけば、英語の文章を早く読むことはできます。でも、いつもとはいかない。この授業では、速読のコツ（目の動かし方 から始めます）を一年間で身に付けていきます。受講生の英語力には差があります。オンデマンド方式（受講生の英語力に応じて学 習していきますから英語が出来ないことを嘆くことはありません）を採用します。英語の新しい学習方法で、再出発しましょう。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>一年間の英語速読学習を通して英字新聞の内容が理解できる。</p> <p>一年間の学習を振り返ると、かなり英語と親しくなった自分が発見できる。</p> <p>本を読み、少しは知的発見ができる。</p> <p>インターネットの英語が少しは好きになる。</p> <p>英語の字幕を読めるようになる。</p>

授業のながれ	
授業開始にあたって（英語の速読とは何か）	段落（パラグラフ）を知ろう（2）
英文をざっと読むこと・英文内容を予測すること（1）	段落（パラグラフ）を知ろう（3）
英文をざっと読むこと・英文内容を予測すること（2）	考えるスキル（1）
スキャンという速読方法（1）	考えるスキル（2）
スキャンという速読方法（2）	考えるスキル（3）
ざっと内容を推測する方法（1）	英文速読開始
ざっと内容を推測する方法（2）	英文速読
単語力を増やそう（1）	英文速読
単語力を増やそう（2）	英文速読
トピックって何？トピック探しは、速読の最大の武器（1）	英文速読
トピックって何？トピック探しは、速読の最大の武器（2）	英語字幕の映画を見ていく（1）
段落（パラグラフ）を知ろう（1）	英語字幕の映画を見ていく（2）
文章の構成を見つける方法	英語字幕の映画を見ていく（3）
図書館に夏休みに読む洋書を見つけに行こう	授業の総括、受講生へのメッセージ
定期試験	期末試験

学ぶ上での注意・担当教員からの希望
<p>「授業の流れ」はあくまでも、スケジュールです。学生の英語力に応じたオンデマンドの授業方式を導入するため、スケジュールは 変更になる可能性があります。英語の授業なので、辞書は必ず持参してください。電子辞書でもかまいません。もし大学入学時に購 入の予定がある受講生には相談にのります。出欠席のことに関しては、授業開始時に、詳細に関するプリントを配布します。推薦 図書は、授業時に適宜指示します。学生諸君の積極的な授業参加を期待しています。</p>

成績評価の方法											
<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>15%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>15%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>0%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	15%	レポート	15%	中間試験	30%	定期試験	40%	その他	0%	<p>受講生の英語速読の上達を目指すために、以下の割合で、中間テスト・定期試験・課題・レポー トで成績評価を算出します。</p>
課題・小テスト	15%										
レポート	15%										
中間試験	30%										
定期試験	40%										
その他	0%										

テキスト	
<input checked="" type="checkbox"/> テキストを使用する <input type="checkbox"/> レジュメを使用する <input type="checkbox"/> 未定（最初の授業で指示する）	<p>Beatric S. Mikulecky, Linda Jeffries READING POWER Longman</p>

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
フレッシュマンイングリッシュ I (C801)	2	2	通年開講	竹多 亮子

テーマ	reading 及び listening ability の向上
-----	----------------------------------

科目のねらい	<p>【キーワード】 Let's read in English. Practice makes perfect.</p> <p>&lt;内容の要約&gt;            基本的文法事項を理解し、reading, listening 演習を通して社会生活で役立つ英語運用能力を養う。</p> <p>&lt;学習目標&gt;            基本的文法事項が理解でき、文章の内容が把握できる。            reading および listening ability が向上する。</p>
--------	--

授業のながれ	
Introduction, Unit 1	Unit 7
Unit 1	Unit 7
Unit 2	Unit 8
Unit 2	Unit 8
Unit 3	Unit 9
Unit 3	Unit 9
Review 1	Review 3
Unit 4	Unit 10
Unit 4	Unit 10
Unit 5	Unit 11
Unit 5	Unit 11
Unit 6	Unit 12
Unit 6	Unit 12
Review 2	Review 4
まとめと復習	まとめと復習

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>クラスでは、ペアワークやグループワークなどが中心となるので、積極的な参加が望まれます。辞書は必ず持参すること。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p>
-------------------	--

成績評価の方法	
課題・小テスト	20%
レポート	0%
中間試験	40%
定期試験	40%
その他	0%

テキスト	<p><input checked="" type="checkbox"/> テキストを使用する</p> <p><input type="checkbox"/> レジューメを使用する</p> <p><input type="checkbox"/> 未定(最初の授業で指示する)</p>
Casey Malarcher Reading Advantage 1 GENGAGE Learning	

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
フレッシュマンイングリッシュⅡ (UT101)	2	1	通年開講	山口 智之

テーマ	英語で書かれたウェブサイトアクセスして、生きた英語に直接触れてもらうと同時に、日本語のサイトからは得られないであろう情報をいかにして手に入れるのかについて学ぶことで、今後のインターネット利用の可能性を広げることが目的です。
-----	---

科目のねらい	<p>【キーワード】生きた英語に触れる。 自分に必要な情報へのアクセス方法を学ぶ。 オンライン辞書の活用方法を学ぶ。</p> <p>&lt;内容の要約&gt; 本講義では、インターネット上を流通している情報の9割を占めると言われている英語で書かれたウェブサイトアクセスして、生きた英語に直接触れてもらうと同時に、日本語で表現されている情報からは得られないであろう自分に必要な英語による情報をいかにして得るのかについて学ぶことで、学生の皆さんの今後のインターネット利用の可能性を広げることが目的です。具体的には、まずテキストで取り上げられているさまざまな分野のトピックに関して、各自がインターネット検索を行うことによって、必要な情報を収集する。次に、集めた情報の中身を精査する。この段階で、必然的に英語を読むという作業が必要となるので、英語の運用能力（特に読解力）を高める訓練になるはずである。さらに、英語のネイティブスピーカーによって書かれた情報から得た知識によって異文化理解（特に英米の文化）を深めることができる。この一連の作業を繰り返し練習することで、学生が講義時間以外でも自主的に学習できる力が身につくようにするのが最終目標である。</p> <p>&lt;学習目標&gt; ・基礎的なコンピュータの操作が出来る。 ・英語で書かれた自分に必要な情報にアクセスできる。 ・オンライン辞書を用いて英文和訳ができる。 ・英語圏の文化を理解する。 ・正しい情報を選別できる能力を身に付ける。</p>
--------	---

授業のながれ	
コンピュータの仕組みと基本的操作について学ぶ。	Unit 7 Music
コンピュータの仕組みと基本的操作について学ぶ。	Unit 7 Music
コンピュータの仕組みと基本的操作について学ぶ。	Unit 8 Art
Unit 1 Search Engine	Unit 8 Art
Unit 1 Search Engine	Unit 9 Famous People
Unit 2 E-mail	Unit 9 Famous People
Unit 2 E-mail	Unit 10 Movies
Unit 3 Online English	Unit 10 Movies
Unit 3 Online English	Unit 11 News
Unit 4 Cooking	Unit 11 News
Unit 4 Cooking	Unit 12 Science
Unit 5 Sports	Unit 12 Science
Unit 5 Sports	Unit 13 World Heritage
Unit 6 Weather Forecast	Unit 13 World Heritage
Unit 6 Weather Forecast	今後の英語学習について。

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>授業外でも積極的にインターネットにアクセスし、様々な事象に関する情報を入手する演習を行うことが望ましい。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt; 英語科目全般</p>
-------------------	--

成績評価の方法		
課題・小テスト	0%	年度末レポート50点、授業態度及び出席を50点、計100点満点で評価する。
レポート	50%	
中間試験	0%	
定期試験	0%	
その他	50%	

テキスト	
<input checked="" type="checkbox"/> テキストを使用する <input type="checkbox"/> レジュメを使用する <input type="checkbox"/> 未定(最初の授業で指示する)	津久井良充・高木亜希子・高橋栄作 Internet English 鷹書房 弓プレス

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
フレッシュマンイングリッシュⅡ (UT102)	2	1	通年開講	久米 祐介

テーマ	ポップミュージックを通してリスニング力を高める
-----	-------------------------

科目のねらい
<p>【キーワード】 ポップミュージック リスニング ディクテーション リーディング リーディング プレゼンテーション</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>ポップミュージックを通してリスニング力を高めることを目標としています。また、アーティストの経歴についての文章を読み、その曲にこめられたメッセージを考えることによって、英語圏の文化や社会について理解を深めることを目指します。また、ネイティブスピードの3分の2程度の短めのニュースを聞き、リスニングの基礎力をつけます。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>リスニング力の向上          リーディング力の向上          英語圏の文化や社会の理解          英語独特の音声変化の理解          プレゼンテーション能力の向上</p>

授業のながれ	
Sailing (Rod Stewart) (1)	Hard to Say I'm sorry (Chicago) (2)
Sailing (Rod Stewart) (2)	All the Love in the World (The Corrs) (1)
Wild Child (Enya) (1)	All the Love in the World (The Corrs) (2)
Wild Child (Enya) (2)	Heart of Mine (Boz Scaggs) (1)
Selfish (NSYNC) (1)	Heart of Mine (Boz Scaggs) (2)
Selfish (NSYNC) (2)	Goodbye Yellow Brick Road (Elton John) (1)
I Want It That Way (Backstreet Boys) (1)	Goodbye Yellow Brick Road (Elton John) (2)
I Want It That Way (Backstreet Boys) (2)	Wind Beneath My Wings (Bette Midler) (1)
There You'll Be (Faith Hill) (1)	Wind Beneath My Wings (Bette Midler) (2)
There You'll Be (Faith Hill) (2)	プレゼンテーション
On Bended Knee (Boyz II Men) (1)	プレゼンテーション
On Bended Knee (Boyz II Men) (2)	プレゼンテーション
I'm Not a Girl, Not Yet a Woman (Britney Spears) (1)	プレゼンテーション
I'm Not a Girl, Not Yet a Woman (Britney Spears) (2)	プレゼンテーション
Hard to Say I'm sorry (Chicago) (1)	プレゼンテーション

学ぶ上での注意・担当教員からの希望
<p>1つのUnitを2回の講義で行います。リーディングのパートはあらかじめ知らない単語、熟語、文法、構文などを調べて、読んできてください。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p>

成績評価の方法											
<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>50%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>50%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>0%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	50%	レポート	0%	中間試験	0%	定期試験	50%	その他	0%	毎回の小テストと授業での発言とプレゼンテーションの50%と定期試験の50%で評価します。
課題・小テスト	50%										
レポート	0%										
中間試験	0%										
定期試験	50%										
その他	0%										

テキスト	
<input checked="" type="checkbox"/> テキストを使用する <input type="checkbox"/> レジュメを使用する <input type="checkbox"/> 未定(最初の授業で指示する)	Nobuhiro Kumai Stephen Timson 「Top of the Pops Listening」 MACMILLAN LANGUAGEHOUSE



科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
フレッシュマンイングリッシュⅡ (UT103)	2	1	通年開講	駒田 法子

テーマ	実際の会話に役立つ英語表現
-----	---------------

科目のねらい	<p>【キーワード】多様な場面での英語表現 リスニング 英作文</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>キャンパスライフ、健康、計帯電話等、学生にとって身近な話題・場面で使えるような会話表現について学びます。授業では、具体的な対話文を繰り返し聞くことによって、様々な表現パターンを身につけていきます。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>日常生活で使える英語表現を磨く。</p> <p>リスニング力を伸ばす。</p> <p>英作文力を高める。</p>
--------	--

授業のながれ	
イントロダクション	重要表現の解説、リスニング、練習問題等
重要表現の解説、リスニング、練習問題等	〃
〃	〃
〃	〃
〃	〃
〃	〃
〃	〃
〃	〃
〃	〃
〃	〃
〃	〃
〃	〃
〃	〃
〃	〃
〃	〃
まとめ	まとめ

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>授業はテキストを中心に進めていきますので、授業前に必ず予習をし、積極的に授業に参加してください。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p>
-------------------	---

成績評価の方法											
<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>90%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>10%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	90%	レポート	0%	中間試験	0%	定期試験	0%	その他	10%	各章ごとに実施(予定)する小テスト、出席状況、授業態度等を含めて総合評価。
課題・小テスト	90%										
レポート	0%										
中間試験	0%										
定期試験	0%										
その他	10%										

テキスト	
<input checked="" type="checkbox"/> テキストを使用する <input type="checkbox"/> レジュメを使用する <input type="checkbox"/> 未定(最初の授業で指示する)	安浪誠祐、Richard S. Lavin Catapult: Composition in Dialogue Style センゲージ ラーニング

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
フレッシュマンイングリッシュⅡ (UT104)	2	1	通年開講	高橋 すみれ

テーマ	コミュニケーションの役割を見つめながら、英語で「表現する」実践を積む。
-----	-------------------------------------

科目のねらい	<p>【キーワード】 (self-)expression in English writing, thinking, and talking about “yourself” importance of “communication” how to be “assertive” how to be “assertive”</p> <p>&lt;内容の要約&gt;          授業の中心となるのは、①英語の文章を読み、実際に自分について英語で表現しながら、私たちにとってコミュニケーションとはどのようなものなのかを考えていく、という実践である。また並行して、②サブテキストをもとに、日常的に用いる英会話表現を学ぶ時間を設けていく。自分からことばをただ「発信」するだけでなく、他の人の発言を受け入れたり、(困ったときには相談するなど)人に働きかけたりする姿勢も身につけてみよう。</p> <p>&lt;学習目標&gt;          英語で自分に関することを素直に、そして簡潔に説明できるようになる。          そして、それを通して自分や相手をよりよく理解し、人と関わりを築く方法について考えることができる。          ことばをつかってコミュニケーションすること、その意義や活かし方について関心を持つことができる。</p>
--------	--

授業のながれ	
ガイダンス	ライティング課題返却、発表
「自分」について話す 1	ワーク 11/たのむ 1
ワーク 1/「自分」について話す 2	ワーク 12/たのむ 2
ワーク 2/「自分」について話す 3	ワーク 13/たのむ 3
ワーク 3/「自分」について話す 4	ワーク 14/こたえる 1
質問する 1	ワーク 15/こたえる 2
質問する 2	ワーク 16/こたえる 3
辞書を使ったエクササイズ	ワーク 17/こたえる 4
ワーク 4/「コミュニケーション」について	ワーク 18/ほめる 1
ワーク 5/アサーティブなコミュニケーションとは 1	ワーク 19/ほめる 2
ワーク 6/アサーティブなコミュニケーションとは 2	ワーク 20/ほめる 3
ワーク 7/アサーティブなコミュニケーションとは 3	ワーク 21/ほめる 4
ワーク 8/アサーティブなコミュニケーションとは 4	「気持ち」を表すこと
ワーク 9/アサーティブなコミュニケーションとは 5	期末課題
前期まとめ、小課題	まとめ

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>・ 授業内容をよりよく理解し、次回の授業に積極的に参加するためにも、各課題の取り組みでは辞書を活用することが望まれる。          ・ ことばの表現について学ぶ授業なので、表現の型を覚えたり、理解したりする力もちろん大切である。しかし、やはりそうした表現を通じて育てていきたいと望むのは、人とよりよく関わっていこうとする心やそれを実践する力である。授業の中で誰かが話したり発表したりしているときには耳を傾けて聞き、また自分が何かを話す番になったら「伝えよう」という気持ちで話す、そんな授業態度を評価したい。</p>
-------------------	---

成績評価の方法	
課題・小テスト 0% レポート 0% 中間試験 0% 定期試験 20% その他 80%	①出席点 (1点×出席回数[全 30 回]) + ②ワーク課題への取り組み (1点×実践・提出[全 21 回]) + ③授業への取り組み (提出物・発言…1点×回数) + ④期末課題 (必須。最高 20 点まで) 以上が加点項目。他の考慮すべき点に⑤無断欠席 (-1点×回数)、⑥その他、私語が目立つなど授業態度上の問題点… (-1点×指摘) がある。主にこれら①～⑥までを総合して A～D の評価基準に即し評価する。

テキスト	<input checked="" type="checkbox"/> テキストを使用する <input checked="" type="checkbox"/> レジュメを使用する <input type="checkbox"/> 未定(最初の授業で指示する)	金子光茂/リチャード H. シンプソン “A Checkbook for Useful English Expressions (役に立つ英語表現チェックブック)” 南雲堂
------	---	--

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
フレッシュマンイングリッシュⅡ (UT105)	2	1	通年開講	竹多 亮子

テーマ	speaking, listening および writing skill の向上
-----	---

科目のねらい	<p>【キーワード】Let's communicate in English. Practice makes perfect.</p> <p>&lt;内容の要約&gt;            基本的文法事項を理解し、speaking, listening 演習を通して、日常生活で役立つ英語運用能力を養う。</p> <p>&lt;学習目標&gt;            基本的文法事項が理解でき、意思の伝達ができる。            speaking, listening および writing skill が向上する。</p>
--------	--

授業のながれ	
Introduction	Unit 7
Unit 1	Unit 7
Unit 1	Unit 8
Unit 2	Unit 8
Unit 2	Unit 9
Unit 3	Unit 9
Unit 3	Unit 10
Unit 4	Unit 10
Unit 4	Unit 11
Unit 5	Unit 11
Unit 5	Unit 12
Unit 6	Unit 12
Unit 6	Presentation
Review 1	Review 2
まとめと復習	まとめと復習

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>クラスでは、ペアワークやグループワークなどが中心となるので、積極的な参加が望まれます。辞書は必ず持参すること。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p>
-------------------	--

成績評価の方法	
課題・小テスト	20%
レポート	0%
中間試験	40%
定期試験	40%
その他	0%

テキスト	
<input checked="" type="checkbox"/> テキストを使用する <input type="checkbox"/> レジユメを使用する <input type="checkbox"/> 未定(最初の授業で指示する)	Gregory A. King, 塩澤正 New Activator 金星堂

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
フレッシュマンイングリッシュⅡ (UT106)	2	1	通年開講	服部 茂

テーマ	英語基礎の習得
-----	---------

科目のねらい	<p>【キーワード】 中学・高校の既習項目の復習 基本文法の理解 基本語彙の記憶 リーディング、リスニング学習 リーディング、リスニング学習 英語圏文化の理解</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>前期では英語の語順、辞書の引き方、学習の仕方など英語の初補的な基本事項、発音、音声の特徴、基本文法を中心に学習し、前期後半から後期には前期に学習した項目を活かし総合的に学習する。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>英語の基礎を理解し、それを定着させる。</p> <p>英語学習の方法を身につけ、英語学習を継続し、自学力をつける。</p> <p>今後、各自の目標に応じた英語学習ができるよう力をする。</p>
--------	---

授業のながれ	
前期	*
1, 2 授業・学習オリエンテーション	*
3～15 発音、リズム、英語の音声の特徴、実際に聴こえる音、英語の語順、辞書の引き方、基本文法の学習を中心にプリント（またはテキスト）を用いての学習	*
後期	*
16～30 プリント（またはテキスト）を用いての学習	*
*	*
*	*
*	*
*	*
*	*
*	*
*	*
*	*
*	*
*	*
*	*

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>学習効果からも毎回授業に出席しなければなりません。したがって、安易に授業を欠席することは許されません。また、学習内容を明確にするためにも予習は不可欠です。知らない単語を調べたり、指示された箇所は必ず事前学習をしてきてください。学習環境を整え、授業に集中する意味でも特別の事情を除き飲食を禁止とします。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p>
-------------------	---

成績評価の方法											
<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>50%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>50%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>0%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	0%	レポート	0%	中間試験	50%	定期試験	50%	その他	0%	<p>クラス全体の学習状況の如何に拠っては、定期試験の他に必要に応じて数回試験を果たすことがある。また、受講生の学習を補うため小テストを実施することがある。その際、平常点として成績評価に加味する。</p>
課題・小テスト	0%										
レポート	0%										
中間試験	50%										
定期試験	50%										
その他	0%										

テキスト	
<input type="checkbox"/> テキストを使用する <input type="checkbox"/> レジュメを使用する <input checked="" type="checkbox"/> 未定(最初の授業で指示する)	

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
フレッシュマンイングリッシュⅡ (Q301)	2	1	通年開講	竹多 亮子

テーマ	speaking, listening および writing skill の向上
-----	---

科目のねらい	<p>【キーワード】Let's communicate in English. Practice makes perfect.</p> <p>&lt;内容の要約&gt;          基本的文法事項を理解し、speaking, listening 演習を通して、日常生活で役立つ英語運用能力を養う。</p> <p>&lt;学習目標&gt;          基本的文法事項が理解でき、意思の伝達ができる。          speaking, listening および writing skill が向上する。</p>
--------	--

授業のながれ	
Introduction	Unit 7
Unit 1	Unit 7
Unit 1	Unit 8
Unit 2	Unit 8
Unit 2	Unit 9
Unit 3	Unit 9
Unit 3	Unit 10
Unit 4	Unit 10
Unit 4	Unit 11
Unit 5	Unit 11
Unit 5	Unit 12
Unit 6	Unit 12
Unit 6	Presentation
Review 1	Review 2
まとめと復習	まとめと復習

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>クラスでは、ペアワークやグループワークなどが中心となるので、積極的な参加が望まれる。辞書は必ず持参のこと</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p>
-------------------	---

成績評価の方法	
課題・小テスト	20%
レポート	0%
中間試験	40%
定期試験	40%
その他	0%

テキスト	
<input checked="" type="checkbox"/> テキストを使用する <input type="checkbox"/> レジユメを使用する <input type="checkbox"/> 未定(最初の授業で指示する)	Gregory A. King, 塩澤正 New Activator 金星堂

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
フレッシュマンイングリッシュⅡ (Q302)	2	1	通年開講	天野 修一

テーマ	英語での簡単なスピーチやグループでのプレゼンテーションを理解、実践できるようになる。
-----	--

科目のねらい
<p>【キーワード】 英語でのスピーチ 英語でのグループプレゼンテーション 辞書の有効利用</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>この講義の目標は、英語を聴いたり話したりする能力の基礎を身につけることです。具体的には、英語での簡単なスピーチやプレゼンテーションを理解したり、自分自身でも行えるように練習します。段階を踏んで少しずつ実践してきますので、英語が苦手な人も心配する必要はありません。またスピーチやプレゼンテーションのスク립トを読み書きするために必要な辞書の使い方についても指導します。授業には積極的に参加してください。自主学習も必要です。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>英語での簡単なスピーチやプレゼンテーションを理解できる。</p> <p>英語での簡単なスピーチやプレゼンテーションを行うことができる。</p> <p>正確な英文読解、英作文のために辞書を有効に活用できる。</p>

授業のながれ	
オリエンテーション。評価基準の説明。授業内容の説明。	前期試験の解答と解説。
正確な英文読解のための辞書の使い方について。	正確な英作文のための辞書の使い方について。
テキスト Unit1 Task1&2	テキスト Unit5 Task1
テキスト Unit1 Task3&4	テキスト Unit5 Task2
テキスト Unit2 Task1	テキスト Unit6 Task1
テキスト Unit2 Task2&3	テキスト Unit6 Task2
テキスト Unit3 Task1	プレゼンテーションスク립ト作成指導
テキスト Unit3 Task2&3	プレゼンテーションスク립ト作成指導
課題スピーチの全体練習	グループプレゼンテーション準備
テキスト Unit4 Task1	グループプレゼンテーション準備
テキスト Unit4 Task2	グループプレゼンテーション準備
テキスト Unit4 Task3	グループプレゼンテーション準備
スピーチ発表	グループプレゼンテーション発表
スピーチ発表	グループプレゼンテーションの反省
前期学習内容のまとめと総復習。	後期学習内容のまとめと総復習。

学ぶ上での注意・担当教員からの希望
<p>授業には毎回必ず英語の辞書を持ってきてください。電子辞書でも紙の辞書でもかまいません。紙の辞書を使う場合は英和辞書を持ってきてください。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p>

成績評価の方法											
<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>30%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	30%	レポート	0%	中間試験	0%	定期試験	40%	その他	30%	語学科目ですので、きちんと出席することが前提です。その他、定期試験、発表の評価、授業への参加などを考慮して総合的に判断します。
課題・小テスト	30%										
レポート	0%										
中間試験	0%										
定期試験	40%										
その他	30%										

テキスト	
<input checked="" type="checkbox"/> テキストを使用する <input type="checkbox"/> レジュメを使用する <input type="checkbox"/> 未定(最初の授業で指示する)	岡田圭子/Robert Betts 改訂増補版 リーディングからはじめる英語プレゼンテーション入門 アルク



科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
フレッシュマンイングリッシュⅡ (Q303)	2	1	通年開講	木下 恭子

テーマ	英語のリスニングとスピーキングのスキルを高め、実践的な英語力を養う
-----	-----------------------------------

科目のねらい	<p>【キーワード】 英語運用能力 自己表現能力 リスニング スピーキング スピーキング 正確に理解</p> <p>&lt;内容の要約&gt; 英語運用能力は、話す・聞く能力だけでなく、読む・書く能力を含めた総合的な自己表現能力を伸ばすことである。この授業では、特に英会話の基礎的な表現を学び、リスニングとスピーキングのスキルを高めることで、英語を正確に理解できるようにしていきます。</p> <p>&lt;学習目標&gt; 英会話を聞き、要点を聴き取ることができる。 テキストで学習した表現を使って、英会話を作成することができる。 ペアワークを通して、英語による意思伝達能力を高める。 異文化に対する理解を深める。</p>
--------	--

授業のながれ	
オリエンテーション	オリエンテーション
リスニング+会話 1. School Life	リスニング+会話 7. Music
リスニング+会話 1. School Life	リスニング+会話 7. Music
リスニング+会話 2. Part-time Job/Weekend	リスニング+会話 8. Sports
リスニング+会話 2. Part-time Job/Weekend	リスニング+会話 8. Sports
リスニング+会話 3. Movies	リスニング+会話 9. Study Abroad
リスニング+会話 3. Movies	リスニング+会話 9. Study Abroad
リスニング+会話 4. Phone Calls/Appointment	リスニング+会話 10. Parties
リスニング+会話 4. Phone Calls/Appointment	リスニング+会話 10. Parties
リスニング+会話 5. TV Programs/Weather	リスニング+会話 11. Traveling Overseas
リスニング+会話 5. TV Programs/Weather	リスニング+会話 11. Traveling Overseas
リスニング+会話 6. Future Plans/Jobs	リスニング+会話 12. American and Japanese Cultures
リスニング+会話 6. Future Plans/Jobs	リスニング+会話 12. American and Japanese Cultures
まとめ スピーチ	まとめ 会話発表
まとめ	まとめ

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>英語の学習には辞書が必要です。英和辞書を持参してください。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt; 英語科目全般</p>
-------------------	---

成績評価の方法											
<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>60%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>20%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	20%	レポート	0%	中間試験	0%	定期試験	60%	その他	20%	学期の途中で行うスピーチ、試験、また出席状況や授業態度などから総合的に評価します。
課題・小テスト	20%										
レポート	0%										
中間試験	0%										
定期試験	60%										
その他	20%										

テキスト	
<input checked="" type="checkbox"/> テキストを使用する <input type="checkbox"/> レジューメを使用する <input type="checkbox"/> 未定(最初の授業で指示する)	塩澤 正 New Activator 金星堂

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
フレッシュマンイングリッシュⅡ (Q304)	2	1	通年開講	小泉 純一

テーマ	高校までとは異なる視点から、英語を捉えなおす。
-----	-------------------------

科目のねらい	<p>【キーワード】フレーズ・リーディング 英語の音変化</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>英文を日本語に翻訳したり、文法を学ぶのとは異なる視点から英語に接します。英語を英語のまま読み、聞く方法を身につけてもらいます。洋画のディクテーション（聞き取り）、英語で書かれた絵本の読解を通し、直読直解のイメージを持ってもらいます。それを基礎として、英語での自己表現を行うことを目指します。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>英語を英語の語順のまま読み取ることができる</p> <p>英語を聞き取ることができる</p>
--------	--

授業のながれ	
イントロダクション	後期 イン트로ダクション
映像と耳で学ぶ英語 (1)	映画で学ぶ英語 (1)
映像と耳で学ぶ英語 (2)	映画で学ぶ英語 (1)
フレーズリーディングの方法	映画で学ぶ英語 (1)
映像と耳で学ぶ英語 (3)	映画で学ぶ英語 (1)
フレーズリーディング発表 (1)	映画で学ぶ英語 (1)
フレーズリーディング発表 (2)	映画で学ぶ英語 (1)
英語の名言集を作る (1)	映画で学ぶ英語 (1)
英語の名言集を作る (2)	映画で学ぶ英語 (1)
Happiness is プロジェクト (1)	ムービーメーカーを使った英語による自己表現 (1)
Happiness is プロジェクト (2)	ムービーメーカーを使った英語による自己表現 (1)
マザーグースのパロディを作る (1)	ムービーメーカーを使った英語による自己表現 (1)
マザーグースのパロディを作る (2)	ムービーメーカーを使った英語による自己表現 (1)
I Wish... I Dream... プロジェクト	ムービーメーカーを使った英語による自己表現 (1)
前期まとめ	まとめ

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>授業内での小テスト、レポート課題の作成、授業での発表などを行います。それぞれの作業には授業以外の時間が必要ですからしっかり取り組んでください。予習ではなく、指示された課題への取り組みと、復習をしっかり行うこと。授業に関することは話してもかまいませんが、それ以外の私語はやめること。授業を受ける態勢ができていない場合はできていない場合は、退室してもらいます。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p> <p>英語演習</p>
-------------------	---

成績評価の方法											
<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>50%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>50%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>0%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	50%	レポート	50%	中間試験	0%	定期試験	0%	その他	0%	授業内での小テスト、レポート課題、授業内での発表など、指示された課題への取り組みを総合的に評価します。
課題・小テスト	50%										
レポート	50%										
中間試験	0%										
定期試験	0%										
その他	0%										

テキスト	
<input type="checkbox"/> テキストを使用する <input checked="" type="checkbox"/> レジュメを使用する <input type="checkbox"/> 未定(最初の授業で指示する)	

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
フレッシュマンイングリッシュⅡ (C901)	2	1	通年開講	馬場 景子

テーマ	新しい機器を使ってアメリカ手話の自分史を記録しよう。プラス、英語の語順を知ろう
-----	---

科目のねらい
<p>【キーワード】アメリカの手話 (ASL) 英語の語順 二次元ドットコード アメリカ手話のライブラリー化 アメリカ手話のライブラリー化</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>アメリカ手話 (ASL) は、アメリカのろう者にとっての独自の言語です。ASL の成立の歴史的根幹は、アメリカのろう者たちの中で使われてきた手話と、フランスの手話が2大潮流です。しかし、アメリカに住んでいるろう者は、ASL を記述する時には英語を使用して説明しています。このとは「借用」という考え方です。英語は語順重視の言語ですが、ASL は、むしろ手の表現に法則があるため、語順よりは、手の表現が重要になるという言語です。ASL と英語の語順の違いを知ることによって、2つの言語の言語的な背景を理解していきます。さらに ASL 学習のライブラリー化を進めていき、聴覚障害学生の ASL 理解を深めていきます。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>ASL 手話のライブラリー化を実現できる。</p> <p>なんとなく学習していた英語の語順を、この授業で再確認できる。</p> <p>日本で最初に使われる二次元ドットコードを使うことができる。</p>

授業のながれ	
授業開始にあたって (ASL とは何か? 英語とは何か?)	英語バージョン (1): 5つの基本文型を中心とした問題
ASL アルファベットの実践 (ビデオ教材からの学習)	英語バージョン (2): 助動詞
ASL アルファベットの実践 (ビデオ教材からの学習)	英語バージョン (3): 完了時制
ASL で自己紹介・自分のサインを作っていこう	英語バージョン (4): 進行形
ASL で自己紹介・自分のサインを作っていこう	英語バージョン (5): 受動態
ASL の基礎的な単語と文法 (1)	英語バージョン (6): 比較
ASL の基礎的な単語と文法 (2)	英語バージョン (7): 5つの基本文型を中心とした問題から比較までの小テスト
ASL の基礎的な単語と文法 (3)	英語バージョン (8): 不定詞 (to 不定詞)
ASL の基礎的な単語と文法 (4)	英語バージョン (9): 分詞 (形容詞的用法)
ASL の基礎的な単語と文法 (5)	英語バージョン (10): 動名詞
ASL の基礎的な単語と文法 (6)	英語バージョン (11): 関係代名詞
ASL の基礎的な単語と文法 (7)	英語バージョン (12): 関係副詞
ASL の日常会話の練習 (1)	英語バージョン (13): 接続詞
ASL の日常会話の練習 (2)	総括
ASL ライブラリー録画	定期試験

学ぶ上での注意・担当教員からの希望
<p>「授業の流れ」はあくまでも目安です。スケジュールが変更になる場合もあります。前期授業に関しては、テキストは使用しません。後期は、テキストを使用しますので、テキストは前期のテキスト販売時に購入しておいて下さい。英語の授業なので辞書は必ず持参すること。大学入学を機会に電子辞書購入を考えている受講生には、相談に乗ります。出欠席に関して、あるいは授業参加に関しては、最初の授業時に詳細を書いたプリントを配布します。参考資料は、授業時に適宜指示します。学生諸君の積極的な授業参加で有意義な授業をしていきましょう。</p>

成績評価の方法											
<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>50%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>30%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	20%	レポート	0%	中間試験	0%	定期試験	50%	その他	30%	小テスト・その他・定期試験の成績評価割合は下記に示す。この割合に則り成績評価を算出する。
課題・小テスト	20%										
レポート	0%										
中間試験	0%										
定期試験	50%										
その他	30%										

テキスト	
<input checked="" type="checkbox"/> テキストを使用する <input type="checkbox"/> レジュメを使用する <input type="checkbox"/> 未定 (最初の授業で指示する)	登美博之、Glen Norris 新・語順が身につく英作文 朝日出版社

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
フレッシュマンイングリッシュⅡ (C801)	2	2	通年開講	山口 智之

テーマ	英語で書かれたウェブサイトアクセスして、生きた英語に直接触れてもらうと同時に、日本語のサイトからは得られないであろう情報をいかにして手に入れるのかについて学ぶことで、今後のインターネット利用の可能性を広げるのが目的です。
-----	--

科目のねらい	<p>【キーワード】生きた英語に触れる。 自分に必要な情報へのアクセス方法を学ぶ。 オンライン辞書の活用方法を学ぶ。</p> <p>&lt;内容の要約&gt; 本講義では、インターネット上を流通している情報の9割を占められている英語で書かれたウェブサイトアクセスして、生きた英語に直接触れてもらうと同時に、日本語で表現されている情報からは得られないであろう自分に必要な英語による情報をいかにして得るのかについて学ぶことで、学生の皆さんの今後のインターネット利用の可能性を広げるのが目的です。具体的には、まずテキストで取り上げられているさまざまな分野のトピックに関して、各自がインターネット検索を行うことによって、必要な情報を収集する。次に、集めた情報の中身を精査する。この段階で、必然的に英語を読むという作業が必要となるので、英語の運用能力（特に読解力）を高める訓練になるはずである。さらに、英語のネイティブスピーカーによって書かれた情報から得た知識によって異文化理解（特に英米の文化）を深めることができる。この一連の作業を繰り返し練習することで、学生が講義時間以外でも自主的に学習できる力が身につくようにするのが最終目標である。</p> <p>&lt;学習目標&gt;・基礎的なコンピュータの操作が出来る。 ・英語で書かれた自分に必要な情報にアクセスできる。 ・オンライン辞書を用いて英文和訳ができる。 ・英語圏の文化を理解する。 ・正しい情報を選別できる能力を身に付ける。</p>
--------	--

授業のながれ	
コンピュータの仕組みと基本的操作について学ぶ。	Unit 7 Music
コンピュータの仕組みと基本的操作について学ぶ。	Unit 7 Music
コンピュータの仕組みと基本的操作について学ぶ。	Unit 8 Art
Unit 1 Search Engine	Unit 8 Art
Unit 1 Search Engine	Unit 9 Famous People
Unit 2 E-mail	Unit 9 Famous People
Unit 2 E-mail	Unit 10 Movies
Unit 3 Online English	Unit 10 Movies
Unit 3 Online English	Unit 11 News
Unit 4 Cooking	Unit 11 News
Unit 4 Cooking	Unit 12 Science
Unit 5 Sports	Unit 12 Science
Unit 5 Sports	Unit 13 World Heritage
Unit 6 Weather Forecast	Unit 13 World Heritage
Unit 6 Weather Forecast	今後の英語学習について。

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>授業外でも積極的にインターネットにアクセスし、様々な事象に関する情報を入手する演習を行うことが望ましい。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt; 英語科目全般</p>
-------------------	--

成績評価の方法											
<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>50%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>50%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	0%	レポート	50%	中間試験	0%	定期試験	0%	その他	50%	年度末レポート 50 点、授業態度及び出席を 50 点、計 100 点満点で評価する。
課題・小テスト	0%										
レポート	50%										
中間試験	0%										
定期試験	0%										
その他	50%										

テキスト	
<input checked="" type="checkbox"/> テキストを使用する <input type="checkbox"/> レジユメを使用する <input type="checkbox"/> 未定(最初の授業で指示する)	津久井良充・高木亜希子・高橋栄作 Internet English 鷹書房 弓プレス

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
言語と文化（韓国・朝鮮）（C101）	2	1	通年開講	洪 順愛

テーマ	韓国語を基礎から学ぶ
-----	------------

科目のねらい	<p>【キーワード】ハングルの構成と正確な書き方・発音 挨拶言葉と決まり文句 基礎文法 使える韓国語 使える韓国語 文化、生活習慣、社会事情</p> <p>&lt;内容の要約&gt; 韓国語を基礎から学ぶための授業である。ハングルの書き方、発音、基礎文法の学習、平易な文章の読解などを行う。併せて、文化や生活習慣、社会事情なども学習し、韓国の諸相を理解し、国際的視野の育成につなげたい。</p> <p>&lt;学習目標&gt; これまで学習した文字とは全く異なるハングルの構成とその書き方読み方を理解する 出会いや別れに交わされる挨拶言葉や決まり文句を覚える 韓国語の基礎文法を理解する 学んだ単語と文法を駆使して話せるようにする 韓国語を通して韓国・韓国人を理解する</p>
--------	--

授業のながれ	
ハングルの構成、母音字母の書き方と発音	用言の活用
平音・濃音・激音と有声化	確認疑問文、接続語尾、位置名詞
終声	命令文、勧誘文、禁止文
仮名のハングル表記、連音	意志・推測の接辞、助詞の省略
複合終声	敬語
用言の種類、平叙文、助詞	特殊な敬語
文の構造、句読点・分ち書き	過去形、副詞的用法
疑問文	試行表現、変則活用、可能否定
二つの否定文	義務表現、
疑問詞疑問文	完了表現
指示詞、一人称代名詞、助詞	会話体
漢数詞と助数詞	願望表現、許可表現
疑問詞、助詞	進行・継続表現
固有数詞と助数詞	結果表現、詠嘆文
まとめ	まとめ

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>語学は教室の中だけで覚えられるものではないので授業外でも復習や反復練習が必要であることと、ハングルはこれまで学んだ文字とは全く異なるので、最初の読み書きの段階がかなり難しいことを念頭に置いておくこと。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt; 言語と文化(韓国・朝鮮)Ⅱ</p>
-------------------	---

成績評価の方法											
<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>20%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	10%	レポート	10%	中間試験	30%	定期試験	30%	その他	20%	成績評価は上記の割合による。小テストは前回学習したことの復習をかねて可能な限り毎回行う予定である。
課題・小テスト	10%										
レポート	10%										
中間試験	30%										
定期試験	30%										
その他	20%										

テキスト	
<input type="checkbox"/> テキストを使用する <input type="checkbox"/> レジュメを使用する <input checked="" type="checkbox"/> 未定(最初の授業で指示する)	



科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
言語と文化（韓国・朝鮮）（C102）	2	1	通年開講	李 光濟

テーマ	韓国語に親しむ
-----	---------

科目のねらい	<p>【キーワード】韓国語 韓国語の文法 韓国の文化 韓国語の日常会話 韓国語の日常会話</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>初級の授業では、「読む・書く・話す・聞く」をバランスよく学べるよう、基礎文法の学習だけでなく日常会話の練習も行う。併せて、韓国の文化・歴史・風俗・社会事情など背景知識を身につけることにより、韓国語・韓国社会を理解することを目標とする。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>ハングルの構成原理を理解し、きれいに書くことができる。</p> <p>日本語にはないパッチム（終声）や平音・濃音・激音を区別することができる。</p> <p>日常会話によく用いられる決まり文句、挨拶表現などを学び、話すことができる。</p>
--------	--

授業のながれ	
ハングルの構成（母音字母・子音字母）	前期の復習（1課～3課）
子音字母の発音（平音・濃音・激音）	4課① 漢数詞、疑問詞、助詞②
有声化（濁音化）・終声（パッチム）	4課② 練習問題（会話練習）
連音（リンキング）・濃音化	5課① 固有数詞、年齢に関する表現
激音化・鼻音化	5課② 練習問題（会話練習）
流音化・リエゾン	6課① 用言の活用①、確認疑問文、位置名詞
文字と発音のまとめ	6課② 練習問題（会話練習）
1課① 丁寧体平叙形、用言の種類	7課① 命令文、勧誘文、禁止文、助詞の省略
1課② 練習問題（会話練習）	7課② 練習問題（会話練習）
2課① 丁寧体疑問文、否定文	8課① 敬語、特殊な敬語形
2課② 練習問題（会話練習）	8課② 練習問題（会話練習）
3課① 疑問詞疑問文、指示詞、助詞①	9課① 過去形、受益表現、試行表現、変則活用
3課② 練習問題（会話練習）	9課② 練習問題（会話練習）
まとめ①	まとめ①
まとめ②	まとめ②

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>予習・復習を充分に行ってください。毎回出席して積極的に授業に参加することを期待します。参考図書、辞書などは授業中に説明します。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p>
-------------------	--

成績評価の方法											
<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>50%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>20%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	10%	レポート	20%	中間試験	0%	定期試験	50%	その他	20%	課題・小テスト、レポート、出欠状況、定期試験の成績により総合的に評価します。
課題・小テスト	10%										
レポート	20%										
中間試験	0%										
定期試験	50%										
その他	20%										

テキスト	
<input type="checkbox"/> テキストを使用する <input type="checkbox"/> レジュメを使用する <input checked="" type="checkbox"/> 未定（最初の授業で指示する）	



科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
言語と文化（中国）（C101）	2	1	通年開講	寺西 光輝

テーマ	中国語会話入門
-----	---------

科目のねらい	<p>【キーワード】発音 会話 文法の基礎 挨拶 挨拶</p> <p>&lt;内容の要約&gt;          初心者を対象とした中国語入門の授業である。まず、中国語の発音の基礎をじっくりと学び、それから基本文型を勉強する。さらに勉強した文型を用いて作文や会話の練習を繰り返す。</p> <p>&lt;学習目標&gt;          正確な発音を身につける。          基礎的な文法を身につける。          中国語による簡単な自己表現や意思疎通ができるようになる。</p>
--------	--

授業のながれ	
中国語についての説明	第9課①
発音① [第1課]	第9課②
発音② [第2課]	第10課①
発音③ [第3課]	第10課②
発音④ [第4課]	第11課①
第5課①	第11課②
第5課②	第12課①
第6課①	第12課②
第6課②	第13課①
第7課①	第13課②
第7課②	第14課①
第8課①	第14課②
第8課②	第15課①
前期まとめ①	第15課②
前期まとめ②	後期まとめ

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>予習・復習および毎回の積極的な授業への参加を期待する。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p>
-------------------	--

成績評価の方法	
課題・小テスト 0% レポート 0% 中間試験 0% 定期試験 80% その他 20%	定期試験80%、平常点20%で評価する。

テキスト	
<input checked="" type="checkbox"/> テキストを使用する <input type="checkbox"/> レジユメを使用する <input type="checkbox"/> 未定(最初の授業で指示する)	薛鳴・王武雲・張小鋼 『一目瞭然中国語入門』 白帝社

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
言語と文化（中国）（C102）	2	1	通年開講	中塚 亮

テーマ	中国語の基礎を学ぶ
-----	-----------

科目のねらい	<p>【キーワード】中国語 中国文化</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>中国語の基礎的な部分をマスターし、簡単な運用ができるようにする</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>発音をマスターし、ピンインの読み書きができる</p> <p>簡単な文章を聞いて理解できる</p> <p>簡単な文章を読んで理解できる</p> <p>簡単な文章を書くことができる</p> <p>自己紹介や、簡単な会話を話すことができる</p>
--------	--

授業のながれ	
授業紹介・中国語について説明・発音（声調）	第6課（1）
発音（母音）	第6課（2）
発音（子音1）	第7課（1）
発音（子音2）	第7課（2）
第1課（1）	第8課（1）
第1課（2）	第8課（2）
第2課（1）	第9課（1）
第2課（2）	第9課（2）
第3課（1）	第10課（1）
第3課（2）	第10課（2）
第4課（1）	第11課（1）
第4課（2）	第11課（2）
第5課（1）	第12課（1）
第5課（2）	第12課（2）
前期のまとめ	まとめ

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>本授業では復習を重視します。そのため定期的に小テストを行い習熟度を確認しますのでそのつどきちんと復習しておいてください。また、毎回新しい内容が出てきますので、あまり欠席するとついていくことが難しくなります。続けて欠席することがないように気をつけて下さい。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p>
-------------------	--

成績評価の方法											
<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>50%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>0%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	30%	レポート	0%	中間試験	20%	定期試験	50%	その他	0%	定期試験と、平常授業中の課題・小テストで評価する。ただし、全授業数の1/3以上欠席した場合は単位認定しない。
課題・小テスト	30%										
レポート	0%										
中間試験	20%										
定期試験	50%										
その他	0%										

テキスト	
<input checked="" type="checkbox"/> テキストを使用する <input type="checkbox"/> レジュメを使用する <input type="checkbox"/> 未定（最初の授業で指示する）	王武雲 張慧娟 楽しく学ぼうやさしい中国語 郁文堂

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
言語と文化（ポルトガル）（C101）	2	1	通年開講	久保原 信司

テーマ	ポルトガル語の学習を通じてブラジル社会に対する理解を深める。
-----	--------------------------------

科目のねらい	<p>【キーワード】ポルトガル語 日本のブラジル人 ブラジルの日系人</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>ポルトガル語の学習が主体だが、同時に多民族国家ブラジルにおける日本人移民の歴史、「デカセギ」として来日する日系ブラジル人コミュニティの現状についても理解を深める。ブラジル映画やビデオ・クリップの視聴、解説なども行う。</p> <p>&lt;学習目標&gt; ・基本的なポルトガル語文法が理解できる。 ・ポルトガル語で簡単な会話ができる。</p> <p>・地域のブラジル人を身近な存在として感じられるようになる。</p>
--------	--

授業のながれ	
ブラジルとポルトガル語	時間の表現（1）：時刻、時間の経過、長さなどの表現とそのヴァリエーションなど。
文字と発音：ボサノバの名曲「イパネマの娘」を空で歌えるようにする。	時間の表現（2）
ser 動詞の活用と用法（1）：ポルトガル語の be 動詞に当たる ser 動詞の活用と用法。	小テスト、実践会話練習
ser 動詞の活用と用法（2）	estar 動詞の活用と用法（1）：estar 動詞の活用の習得。ser 動詞との違い。
小テスト、実践会話練習（学習した文法を用いた、すぐに役立つフレーズを完全暗記する。）	estar 動詞の活用と用法（2）：estar com を用いた表現。場所を表す前置詞句、現在進行形など
指示詞と所有詞（1）：指示詞「この」「その」「あの」の使い方。名詞の性別など。	小テスト、実践会話練習
指示詞と所有詞（2）：「私の」「あなたの」「わたしたちの」「彼の」など所有詞の使い方。	不規則動詞（1）：不規則動詞 ter、querer。Fazer の活用と用法。
小テスト、実践会話練習	不規則動詞（2）：不規則動詞 ir、vir の活用と用法。近接未来形。交通手段の表現。
ブラジルの文化に触れよう：映画『セントラル・ステーション』を鑑賞し、生きたポルトガル語表現、リスニングのポイントなどを解説。さらにはブラジルの貧困、家族問題などについて考える。	小テスト、実践会話練習
数詞と複数形：ポルトガル語の数、名詞の複数形の作り方など。	ブラジルの文化に触れよう：映画『フランシスコの2人の息子』を鑑賞。生きたポルトガル語表現、リスニングのポイントなどを解説。さらにはブラジルの貧困、家族問題などについて考える。
形容詞：形容詞の性・数の変化、国籍、職業の表現など。	不規則動詞（3）：不規則動詞 poder の活用と用法。さまざまな依頼表現の仕方。
小テスト、実践会話練習	不規則動詞（4）：不規則動詞 saber と conseguir の活用と用法。「～できる」表現の様々な区別
規則動詞の活用と用法（1）：規則動詞の活用を習得。時を表す副詞。	不規則動詞（5）：不規則動詞 saber と conhecer の活用と用法。
規則動詞の活用と用法（2）：主な規則動詞の用法と前置詞との結合の仕方、疑問詞の使い方など。	小テスト、実践会話練習
小テスト、前期のまとめ	1年間の総まとめ

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>最初から自分の関心を限定せず、なんにでも積極的な好奇心を持つこと。学習内容と自分、社会とのつながりを意識しながら取り組むこと。授業には聴講するという受身の姿勢でなく、自分たちで作るという参加意識を持つてのぞむこと。</p>
-------------------	--

成績評価の方法											
<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>70%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>10%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	70%	レポート	20%	中間試験	0%	定期試験	0%	その他	10%	出席率、授業態度、小テスト、レポートの成績を総合して評価します。
課題・小テスト	70%										
レポート	20%										
中間試験	0%										
定期試験	0%										
その他	10%										

テキスト	<p><input checked="" type="checkbox"/> テキストを使用する</p> <p><input type="checkbox"/> レジュメを使用する</p> <p><input type="checkbox"/> 未定（最初の授業で指示する）</p>	兼安シルビア典子 ブラジル人による生きたブラジル・ポルトガル語 同学社
------	---	-------------------------------------

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
言語と文化（スペイン）（C101）	2	1	通年開講	R. フィゲロア

テーマ	*
-----	---

科目のねらい
<p>【キーワード】ラテンのノリと楽しみ方 第2の世界共通語 簡単な発音 スペインとラテンアメリカ スペインとラテンアメリカ音楽と文化、習慣</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>言語はコミュニケーションであることを念頭におきながら、実用的な外国語の習得をめざすスペイン語のおもしろさ、豊かさ、美しさを伝え好きになることが第一のねらいにしたい。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>スペイン語を話されている国々（特にラテンアメリカ）について紹介する。</p> <p>挨拶・自己紹介などの会話表現を通じて直説法現在の動詞の活用</p> <p>スペイン語圏の国々の文化、習慣、考え方、人生の楽しみ方にも興味を促す</p> <p>文法事項を暗記するのではなく聴覚機材を活用しヒヤリング力と会話力に重点をおく</p> <p>復習を重ねながら基本を確実に習得したい</p>

授業のながれ	
Alfabeto , Saludos	Repaso
Presentacion , Verbo“SER”	Compras . ?por favor
Verbo“ESTAR” , ?Estas?? ?Donde esta?	Verbos irregulares. “PODER” “TENER”
La familia hispana (costumbres)	?Que estas haciendo?
La hora , Numeros	Vamos a la fiesta “ir”
?Estudias o trabajas? Verbos en “AR”	Costumbres de Espana y Latinoamerica
Los dias de la semana	Llamar por telefono
La casa ?Donde vives? Verbos en “IR”	El tiempo-meses-estaciones
SER-ESTAR-HABER	?Cuanto cuesta ? Colores-ropa
En el restaurante , Verbos en “ER”	De vacaciones en Espana
Las comidas , frutas y verduras	El cuerpo humano , la salud
? Te gusta ?? Verbo “GUSTAR”	Verbos en el pasado. Preterito , imperfecto .
Verbos AR・ER・IR	Culturas de los Incas. Machu Picchu
Una cancion en espanol	Fiesta latinoamericana
Conversacion	Adivinanza

学ぶ上での注意・担当教員からの希望
<p>外国語の習得において最も重要なことは授業を楽しむこと、日々の積み重ねである。無遅刻・無欠席を目指すこと。毎回辞書を携行すること。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p>

成績評価の方法											
<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>20%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	20%	レポート	0%	中間試験	30%	定期試験	30%	その他	20%	試験のみでなく日頃の授業への取り組み・態度等も評価する
課題・小テスト	20%										
レポート	0%										
中間試験	30%										
定期試験	30%										
その他	20%										

テキスト	
<input checked="" type="checkbox"/> テキストを使用する <input type="checkbox"/> レジュメを使用する <input type="checkbox"/> 未定(最初の授業で指示する)	Francisca Castro , Pilar Diaz, Ignacio Rodero, Carmen sardinero 「Espanol en marcha」 エスヘル・パボン

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
日本国憲法	2	1	後期開講	前原 清隆

テーマ	それぞれの人権
-----	---------

科目のねらい
<p>【キーワード】主権 人権 平和 民主主義 民主主義</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>人権を中心に学びますが、条文の意味の理解だけでなく、社会におけるその現実、とくに「権利のためのたたかい」に目を向けます。それによって、憲法に関する基礎知識とともに、人権感覚を身につけることが目標です。それは、主権者市民としての力量を身につけることであるとともに、福祉にかかわるさいの能力やセンスを高めるためにも欠かせないと思います。生きた憲法を学ぶため、毎回の講義の冒頭で憲法に関する時事的問題を取り上げます。できるだけ新聞記事やニュース映像などを活用して進めたいと思います。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>憲法の基礎知識を身につける（日本国憲法を縦軸＝歴史と横軸＝世界に位置づけて理解する）</p> <p>人権感覚を身につける（自己の権利を主張するとともに他者の権利を尊重する）</p>

授業のながれ
憲法とは何か・・・近代立憲主義の意義
人権の発展(1)・・・自由権と社会権
人権の発展(2)・・・人権の国際的保障
日本の近代化と憲法・・・明治憲法の外見的立憲主義
日本国憲法制定の意義・・・憲法制定過程
日本国憲法のしくみ・・・憲法の基本原理と人権実現のシステム
国民主権と天皇制・・・民主制の制度と主権者の権利・責任
人権を学ぶ
自由に生きる権利・・・心の自由を中心に
豊かに生きる権利・・・健康で文化的な生活
平等に生きる権利・・・共に生きる世界をめざして
平和に生きる権利・・・平和主義の意義と現実
身近な暮らしと憲法・・・地方自治
日本社会の歩みと憲法・・・戦後憲法史と国民の運動
憲法改正と私たちの責任

学ぶ上での注意・担当教員からの希望
<p>新聞やテレビなどの報道に注意を払って下さい。「自由とは他人を害しないすべてをなしうることに存する」（＝私語の自由はありません）</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p>

成績評価の方法										
<table> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>0%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	0%	レポート	0%	中間試験	0%	定期試験	100%	その他	0%
課題・小テスト	0%									
レポート	0%									
中間試験	0%									
定期試験	100%									
その他	0%									

テキスト	
<input checked="" type="checkbox"/> テキストを使用する <input type="checkbox"/> レジユメを使用する <input type="checkbox"/> 未定(最初の授業で指示する)	現代憲法教育研究会 『憲法とそれぞれの人権』 法律文化社

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
情報処理演習 (C901)	4	1	通年開講	星野 史充

テーマ	障害のある人や支援する人のための、基礎的情報活用能力の育成
-----	-------------------------------

科目のねらい
--------

<p>【キーワード】 障害者の IT 利用支援 情報リテラシー 入力支援機器 入力支援ソフト</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>障害のある学生や障害者の IT 利用支援に興味のある学生が、障害の状況に応じた入力支援ソフトや機器を使って、情報リテラシーの基礎を学ぶ。IT を使いこなすことで、障害学生は学習でも自主活動でも大きな自由を獲得でき、支援学生にとっても、障害者の IT 利用支援の技術を獲得することで、より幅広い支援活動ができる。このクラスでは、情報活用のための基礎を身に着けるとともに、様々な障害のある学生や支援活動に興味のある学生がともに学ぶことで、お互いの能力を尊重し合い、手助けが必要なところではサポートし合うことを学び、今後一層進められるノーマライゼーション社会において有為な人材となることを目指す。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>パソコンやインターネットを使う上でのスキルの修得については、他のクラスと同等の目標で学習する。即ち、ワープロ・表計算・プレゼンテーション用のソフトなどの基本的なアプリケーションソフトを活用できるようにする。</p> <p>学内外の情報ネットワークを活用して、授業の資料をはじめ学習に必要な情報を取り入れる。</p> <p>学内外の情報ネットワークを活用して、情報の受発信が自由にできるようにする。</p> <p>障害のある学生は、障害の状況に応じたソフトやハードのフィッティングを行い、自分に適した IT 利用の方法を獲得する。</p> <p>支援に興味のある学生は、支援方法について学び、基礎的な IT 利用支援ができるようにする。</p>
---

授業のながれ	
1. 視覚障害支援システム I	1. 障害者の IT 利用支援 II (渡辺先生)
2. 学内情報環境の利用 (Eメール、学内 LAN)	2. 視覚障害支援システム II
3. 画面を見ない Windows 操作 I	3. 表計算ソフトによるデータ処理
4. 学内情報環境の利用 (ウェブ利用①)	4. 表計算ソフトによるデータ処理
5. 障害者の IT 利用支援 I (渡辺先生)	5. 表計算ソフトによるデータ処理
6. 学内情報環境の利用 (ウェブ利用②)	6. 表計算ソフトによるデータ処理
7. 画面を見ない Windows 操作 II	7. ウェブコンテンツ作成 (HTML4.0)
8. ワープロによる文書作成、編集	8. ウェブコンテンツ作成 (CSS1.0)
9. ワープロによる文書作成、編集	9. ウェブのユニバーサルデザイン
10. ワープロによる文書作成、編集	10. ウェブのユニバーサルデザイン
11. 表計算ソフトの基礎	11. パワーポイントによるコンテンツ作成
12. 表計算ソフトの基礎	12. パワーポイントによるコンテンツ作成
13. 表計算ソフトの基礎	13. マルチメディアコンテンツ作成 (パワーポイント)
14. 表計算ソフトの基礎	14. マルチメディアコンテンツ作成 (パワーポイント)
15. 総合課題作成	15. 総合課題作成

学ぶ上での注意・担当教員からの希望
-------------------

<p>各自が自分に適した IT 利用方法を身に付けること。同時に、自分とは違う方法で行なう人がいることを理解すること。できると思っている課題も、丁寧に取り組むこと (そうしないと、思いがけない落とし穴にはまっています！) 入力支援機器・ソフトのフィッティングのため、授業以外の時間を要することもあります。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p> <p>「障害者コミュニケーション」 「コンピュータと情報」</p>
--

成績評価の方法	
課題・小テスト	60%
レポート	20%
中間試験	0%
定期試験	0%
その他	20%

テキスト
<input type="checkbox"/> テキストを使用する <input checked="" type="checkbox"/> レジユメを使用する <input type="checkbox"/> 未定(最初の授業で指示する)



科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
情報処理演習 (子ども)	4	1	通年開講	クラス

テーマ	情報発信力強化のためのソフトウェアの統合的活用スキルの習得
-----	-------------------------------

科目のねらい
--------

<p>【キーワード】ソフトウェアの統合的活用 情報発信力 ICT 共同学習 共同学習</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>あらゆる場面において、人に自分の考えをわかりやすく伝えることは重要である。図やグラフによるわかりやすい資料作成、論理的で説得力のある資料作成は、そのためにも必須となるもの、これらを体験的・統合的に学習していく。大学の情報環境、インターネット環境についての理解も深め、学習や各種活動のためのリソースとして活用していくための基礎を築く。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>文書作成、表計算などのソフトウェアを統合的に扱うことができる。</p> <p>インターネットを駆使して、意図する内容を表現することができる。</p> <p>大学の情報環境を活用し、グループで共同して効果的・効率的に作業を進めることができる。</p>
---

授業のながれ
ガイダンス、アカウント配布、履修登録、nfu.jp
Windows 基礎、日本語入力、ファイル管理
インターネットについて、メール(Webメール、転送設定)、携帯電話での利用、メールマナー
インターネット情報検索、セキュリティ、情報の達人 DVD 放映 (情報検索、著作権)、書籍検索(OPAC)、記事検索(日経テレコン 21)
レポートの作成 (※脚注の設定を除く)、保存、印刷
図の挿入 (※図表番号を除く)、クリップアート、図形の作成、ヘッダーとフッター、※著作権、他者資料の引用について
表作成、ワードアート、ページ罫線、練習問題
プレゼンテーション作成、コンテンツの挿入・編集、プレゼンテーションの構成変更
プレゼンテーションの実行、特殊効果の設定、練習問題
データ入力、罫線、数式、関数 (SUM、AVERAGE) 書式
相対参照と絶対参照、関数の利用(IF)、練習問題
グラフ作成、印刷、シートの操作、練習問題
グラフを利用したレポート作成、※グラフを図として貼り付け(操作)、リンク貼り付け除く
Excel のまとめ (Excel 問題演習)、※余裕のある学生には「条件付き書式」
Word のまとめ (Word 問題演習)、前期課題の振り返り(フィードバック)、メール、添付ファイルによるレポート提出練習

学ぶ上での注意・担当教員からの希望
-------------------

<p>操作を覚えることではなく、学んだスキルをどのように活用できるかが重要である。活用場面をイメージできるよう、教員からも情報提供を行うが、自分自身でも頭をフル回転させ、効果的な活用方法を常に意識するようにしてほしい。「キャンパスネットワーク利用の手引き」や補助資料も利用します。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p> <p>総合演習 教育実習 子ども発達学専門演習</p>
--

成績評価の方法											
<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>70%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	30%	レポート	0%	中間試験	0%	定期試験	0%	その他	70%	出席、適宜行う到達度確認テスト、課題の達成状況、プレゼンテーション作品によって評価する。欠席が10回以上の場合は棄権とみなし、単位を与えない。遅刻3回で欠席1回とみなし、演習・グループワークへの取り組み姿勢も考慮する。
課題・小テスト	30%										
レポート	0%										
中間試験	0%										
定期試験	0%										
その他	70%										

テキスト	
<input checked="" type="checkbox"/> テキストを使用する <input checked="" type="checkbox"/> レジュメを使用する <input type="checkbox"/> 未定(最初の授業で指示する)	富士通エフ・オー・エム株式会社 「情報リテラシー2007」 FOM 出版

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
情報処理演習 (心理)	4	1	通年開講	クラス

テーマ	情報発信力強化のためのソフトウェアの統合的活用スキルの習得
-----	-------------------------------

科目のねらい	<p>【キーワード】ソフトウェアの統合的活用 情報発信力 ICT 共同学習 共同学習</p> <p>&lt;内容の要約&gt; あらゆる場面において、人に自分の考えをわかりやすく伝えることは重要である。図やグラフによるわかりやすい資料作成、論理的で説得力のある資料作成は、そのためにも必須となるもの、これらを体験的・統合的に学習していく。大学の情報環境、インターネット環境についての理解も深め、学習や各種活動のためのリソースとして活用していくための基礎を築く。</p> <p>&lt;学習目標&gt; 文書作成、表計算などのソフトウェアを統合的に扱うことができる。 インターネットを駆使して、意図する内容を表現することができる。 大学の情報環境を活用し、グループで共同して効果的・効率的に作業を進めることができる。</p>
--------	---

授業のながれ	
アカウント配布、履修登録、ガイダンス	
ファイル管理、nfu.jp	
インターネットについて、メール (Web メール)	
インターネット情報検索、セキュリティ、情報倫理	
文書作成ソフトの活用(1)	
文書作成ソフトの活用(2)	
文書作成ソフトの活用(3)	
プレゼンテーションソフトの活用(1)	
プレゼンテーションソフトの活用(2)	
表計算ソフトの活用(1)	
表計算ソフトの活用(2)	
表計算ソフトの活用(3)	
文書作成ソフトと表計算ソフトの統合的活用	
表計算ソフトまとめ	
前期まとめ	

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>操作を覚えることではなく、学んだスキルをどのように活用できるかが重要である。活用場面をイメージできるよう、教員からも情報提供を行うが、自分自身でも頭をフル回転させ、効果的な活用方法を常に意識するようにしてほしい。キャンパスネットワーク利用の手引き、各種補助資料</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt; 総合演習 教育実習 子ども発達学専門演習</p>
-------------------	--

成績評価の方法											
<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>70%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	30%	レポート	0%	中間試験	0%	定期試験	0%	その他	70%	出席、適宜行う到達度確認テスト、課題の達成状況、プレゼンテーション作品によって評価する。欠席が10回以上の場合は棄権とみなし、単位を与えない。遅刻3回で欠席1回とみなし、演習・グループワークへの取り組み姿勢も考慮する。
課題・小テスト	30%										
レポート	0%										
中間試験	0%										
定期試験	0%										
その他	70%										

テキスト	
<input checked="" type="checkbox"/> テキストを使用する <input type="checkbox"/> レジュメを使用する <input type="checkbox"/> 未定(最初の授業で指示する)	富士通エフ・オー・エム FOM 出版 情報リテラシー Office2007

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
福祉社会入門 (オンデマンド)	2	1	前期開講	足立 浩

テーマ	「人間福祉複合」の観点から「福祉」への接近について学ぶ
-----	-----------------------------

科目のねらい
<p>【キーワード】ユニバーサルデザイン ノーマライゼーション</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>「福祉」という言葉は、「しあわせ」を意味します。その英文であるウェルフェアは、「よりよく生きる」という意味です。福祉社会は、「いのち」「くらし」「いきがい」を大切にして、人がゆたかに生きていくことを支える社会です。福祉社会を実現するためには、社会福祉をはじめとして、さまざまな領域の研究や実践が力を合わせる必要があります。これを「人間福祉複合」と呼んでいます。「福祉社会入門」では、「人間福祉複合」の観点から「福祉」への接近について学びます。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>福祉の領域や分野が、大きな広がりを持ち、多様に課題が存在することを概括的に学ぶ。</li> <li>関心のある領域や分野において、「福祉」というキーワードがどのような意味を持つのかについて考察を深める。</li> </ol>

授業のながれ
1. 事前ガイダンス (学習方法、受講上の注意点の説明、事前アンケート、学習計画表の提出について等)
2. 「ふくし」についてのイントロダクション <子ども発達学部心理臨床学科：加藤幸雄>
3. 変わる家族と子どもの社会化 <社会福祉学部社会福祉学科：後藤澄江>
4. 生活環境のユニバーサルデザイン <健康科学部福祉工学科：田中 賢>
5. 知っておきたい乳幼児期の運動発達と認識発達 <子ども発達学部子ども発達学科：山本秀人>
6. 生活を支える支援技術、福祉用具の利用 <健康科学部福祉工学科：渡辺崇史>
7. 子どものこころを理解すること <子ども発達学部心理臨床学科：近藤直子>
8. 医療・福祉を支えるマネジメント <福祉経営学部医療・福祉マネジメント学科：足立 浩>
9. 患者の生活を医療・福祉とつなぐ MSW <社会福祉学部保健福祉学科：山口みほ>
10. アジアの国々で住民がつくる福祉 <通信教育部福祉経営学部医療・福祉マネジメント学科：穂坂光彦>
11. ヘルスケア・マネジメントへの招待 <福祉経営学部医療・福祉マネジメント学科：中島明彦>
12. 福祉国家から福祉社会へ <経済学部経済学科：丸山 優>
13. 生活安全保障制度の国際比較 <通信教育部福祉経営学部医療・福祉マネジメント学科：訓覇法子>
14. 犯罪や非行の心理学 <子ども発達学部心理臨床学科：加藤幸雄>
15. まとめ (アンケートと感想含む) <子ども発達学部心理臨床学科：加藤幸雄>

学ぶ上での注意・担当教員からの希望
<p>この授業はオンデマンド授業として開講されます。オンデマンド授業とは、インターネットにつながったパソコンを使って受講することが可能な授業のことです。学生は受講可能期間中の好きな時間に、自宅や大学のパソコンを利用して授業を受けることができます。各自のスケジュールに合わせて計画的に学習を進めてください。</p> <p>受講期間は次の3つに区分されます。</p> <p>ただし、第1講の事前アンケート、学習計画表の提出には別途期限(5月10日)が設定されています。</p> <p>詳しくは nfu.jp 内の科目掲示板をご参照ください。</p> <p>①第1講-5講:4月6日(火)-6月7日(月)</p> <p>②第6講-10講:4月30日(金)-6月30日(水)</p> <p>③第11講-15講:5月26日(水)-7月26日(月)</p> <p>*5講毎の3段階開講とする(第1講は5月10日まで)</p> <p>期間外の受講はできませんので注意して下さい</p>

成績評価の方法											
<table border="1"> <tr><td>課題・小テスト</td><td>20%</td></tr> <tr><td>レポート</td><td>0%</td></tr> <tr><td>中間試験</td><td>0%</td></tr> <tr><td>定期試験</td><td>80%</td></tr> <tr><td>その他</td><td>0%</td></tr> </table>	課題・小テスト	20%	レポート	0%	中間試験	0%	定期試験	80%	その他	0%	<p>・評価方法と配点は、小テスト 20 点、定期試験 80 点の 100 点満点とする。・小テストの対象講は第 2 講～14 講の 13 講であり、13 講中、10 講以上合格した場合に 20 点と定期試験の受験資格が与えられる(4 講以上不合格となった場合は受験資格を失う)。各講の小テストの合格基準は 6 割以上の得点とする。</p>
課題・小テスト	20%										
レポート	0%										
中間試験	0%										
定期試験	80%										
その他	0%										

テキスト
<input type="checkbox"/> テキストを使用する <input checked="" type="checkbox"/> レジュメを使用する <input type="checkbox"/> 未定(最初の授業で指示する)

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
アダプテッド・スポーツ I (C101)	2	2	通年開講	吉田 文久

テーマ	障害者にとって有用なスポーツの理解と指導及びその創造
-----	----------------------------

科目のねらい	<p>【キーワード】 アダプテッド・スポーツ プロブラムづくり ゲーム・ルールづくり 指導と助言 指導と助言</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>アダプテッド・スポーツについて基本的理解をした後、学生たちは、障害の内容に基づいて4つのグループに分かれる。各グループは担当する障害についての基礎的知識を整理し、その障害を持つ人が取り組めるスポーツやルールについて調べ(考案し)報告する。そして、各グループが指導者となり模擬指導を行い、それぞれの取り組みについて他の学生たちとともに相互に評価しあう。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>アダプテッド・スポーツについてその歴史的変遷や現状を受け止め、今日的課題を理解するとともに将来を展望できる。</p> <p>障害者が取り組むスポーツの方法やルールに精通し、実際に指導することができる。</p> <p>障害者にとって有用なスポーツやゲームを自らあるいはグループでアイデアを出し合い、考案・創造することができる。</p>
--------	--

授業のながれ	
アダプテッド・スポーツの世界 I - 基本理解と変遷	パラリンピックの教材化 I
アダプテッド・スポーツの世界 II - 指導の実態	パラリンピックの教材化 II
アダプテッド・スポーツの世界 III - プレイヤーが語る	「パラリンピック」を教材にした模擬授業
グループ別の取り組みのオリエンテーション (班分け含)	脳性マヒ者とスポーツ 1
脊髄損傷者とスポーツ 1	脳性マヒ者とスポーツ 2
脊髄損傷者とスポーツ 2	脳性マヒ者とスポーツ 3
脊髄損傷者とスポーツ 3	脳性マヒ者とスポーツ 4
脊髄損傷者とスポーツ 4	知的障害者とスポーツ 1
視覚障害者とスポーツ 1	知的障害者とスポーツ 2
視覚障害者とスポーツ 2	知的障害者とスポーツ 3
視覚障害者とスポーツ 3	知的障害者とスポーツ 4
視覚障害者とスポーツ 4	養護学校での体育実践 (ゲスト講師)
スポーツを創る I (対象: 脊髄損傷者)	スポーツを創る III (対象: 脳性マヒ者)
スポーツを創る II (対象: 視覚障害者)	スポーツを創る IV (対象: 知的障害者)
前期のまとめ	まとめ

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>教えられる側から教える側の立場へと状況に応じて切り替え、自分だったらどのように指導するかという視点を常に持ち、他の受講生の指導ぶりを批判的に見るようにする。グループで役割を分担し、各自が責任をもってグループ学習に取り組む。レジュメを用意する。また、参考図書は授業時に紹介する。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p> <p>スポーツ実技・スポーツと文化・体育科指導法・アダプテッド・スポーツ II</p>
-------------------	---

成績評価の方法											
<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>60%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	0%	レポート	40%	中間試験	0%	定期試験	0%	その他	60%	出席点 (40 点)、グループでの取り組みの評価点 (20 点)、前後期末のレポート点 (40 点) の総合点で評価する。また、毎時授業後にミニ・レポートを書き、それがレポート点にも加味される。
課題・小テスト	0%										
レポート	40%										
中間試験	0%										
定期試験	0%										
その他	60%										

テキスト	<input type="checkbox"/> テキストを使用する <input checked="" type="checkbox"/> レジュメを使用する <input type="checkbox"/> 未定 (最初の授業で指示する)
------	---



科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
アダプテッド・スポーツⅡ (C102)	2	2	通年開講	山本 秀人

テーマ	障害者スポーツ・障害児体育（知的障害）を考える
-----	-------------------------

科目のねらい	<p>【キーワード】 障害者スポーツ 障害児体育 知的障害 教材づくり 教材づくり 指導方法</p> <p>&lt;内容の要約&gt; 前期の障害者スポーツでは、対象の特徴に応じた様々な形態のスポーツがあることを学び、スポーツ文化に対する理解を深め、その理論と実践について考えていきます。取り上げるスポーツは、車椅子アーチェリー・サウンドテーブルテニス・シッティングバレーボール（フロアバレーボール）・車椅子バスケットボールです。後期の障害児体育では、子どもたちに体育・スポーツで何を教えるのか、どのような能力を身につけさせていくのかについて検討し、特別支援学校（知的障害）における教科教育としての体育の「教材づくり（研究）」とその指導のあり方について考えていきます。</p> <p>&lt;学習目標&gt; 障害に応じたスポーツのあり方について理解し、指導することができる。 知的障害について理解し、教材づくりができ、指導することができる。</p>
--------	---

授業のながれ	
オリエンテーション アダプテッド・スポーツとは	障害児の発達と体育・スポーツ①
障害者にとってのスポーツの意味	障害児の発達と体育・スポーツ②
車椅子の操作 アイマスクをつけて動く	教材研究を経ての授業実践（バケツ野球）
各グループで障害者スポーツを選択 指導案づくり①	教材研究を経ての授業実践（ペアフォールディングバレーボール）
各グループで障害者スポーツを選択 指導案づくり②	特別支援学校における体育教育の実際①
各グループで障害者スポーツを選択 指導案づくり③	特別支援学校における体育教育の実際②
指導案発表および指導①	各グループで教材づくり①
指導案発表および指導②	各グループで教材づくり②
指導案発表および指導①	各グループで教材づくり③
指導案発表および指導②	各グループで教材づくり④
指導案発表および指導①	教材発表および指導①
指導案発表および指導②	教材発表および指導②
指導案発表および指導①	教材発表および指導③
指導案発表および指導②	教材発表および指導④
前期まとめ レポート試験	1年間のまとめ 修了レポート試験

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>毎時間ミニレポートを書いてもらいます。前期の「障害者スポーツの指導案づくりとその指導」および後期の「教材づくりとその指導」を各グループに担当してもらい、指導をします。各グループで指導案を作成し授業をつくりあげていきますので、授業時間以外のグループ活動が必要となります。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt; スポーツ実技 スポーツと文化</p>
-------------------	--

成績評価の方法		
課題・小テスト	0%	出席状況、毎時間のミニレポートおよび2回のレポートにもとづいて総合的に評価します。なお、この単位を取得した者は、所定の手続きをし申請料を納めることで、財団法人日本障害者スポーツ協会公認の初級障害者スポーツ指導員資格が取得できます。
レポート	50%	
中間試験	0%	
定期試験	0%	
その他	50%	

テキスト	<input type="checkbox"/> テキストを使用する <input checked="" type="checkbox"/> レジュメを使用する <input type="checkbox"/> 未定（最初の授業で指示する）
------	--

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
ジェンダー論	2	2	後期開講	池谷 壽夫

テーマ	現代社会の諸問題をジェンダーの視点でみつめ考える
-----	--------------------------

科目のねらい	<p>【キーワード】ジェンダー セクシュアリティ 男女平等</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>現代社会において男女は本当に平等なのだろうか？ 私たちはもしやすると社会や物事を「男性のメガネ」をかけて見ていないだろうか？ 本講義では、まず社会、学校、家族、親密な性的関係における女性差別（とその裏返しとしての男性差別）の実態とその問題を考えていく。その上で、「女らしさ」「男らしさ」にとらわれない生き方を皆さんと一緒に考えてみたい。女性問題を考えることは男性問題を考えることであり、自分らしい生き方を考えることでもある。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>ジェンダーの視点で社会および自己を考察することを学び、その是正策を考える。</p> <p>ジェンダー、セクシュアリティ、セックス概念を理解する。</p>
--------	--

授業のながれ	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 本講義のねらいと意義、あなたのジェンダーチェック</li> <li>2. 「ジェンダー」とはなにか（その1）－この世には男性と女性しかいないの？</li> <li>3. 「ジェンダー」とはなにか（その2）－男女の違いはあるの？</li> <li>4. ジェンダーはどのようにして作り出されたの？（その1）－3つの支配と「家父長制」</li> <li>5. ジェンダーはどのようにして作り出されたの？（その2）－性別役割分業と「母性神話」「三歳児神話」</li> <li>6. フェミニズム運動の歴史と課題（その1）－女性問題とは何か、性差別とは何か</li> <li>7. フェミニズム運動の歴史と課題（その2）－フェミニズム運動の歴史、男女共同参画社会基本法の意義と課題</li> <li>8. 育児不安、幼児虐待の背景にあるもの（その1）－性別役割分業体制とそのもとの男性の成育</li> <li>9. 育児不安、幼児虐待の背景にあるもの（その2）－孤立した子育てと、「母性神話」「3歳児神話」</li> <li>10. なぜ夫（恋人）が暴力を振るうの？（その1）－ドメスティック・バイオレンスの背景と原因</li> <li>11. なぜ夫（恋人）が暴力を振るうの？（その2）－なぜ男は暴力を振るうのか</li> <li>12. 学校は男女平等か？（その1）－学校における隠れたカリキュラム</li> <li>13. 学校は男女平等か？（その2）－教科書の中のジェンダー、授業の中でのジェンダー、教員の男女平等意識</li> <li>14. セクシュアリティとジェンダー－性的関係に潜むジェンダーを考える</li> <li>15. なぜ男性・男子が元気がないのか？</li> </ol>
--------	---

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>この授業では、何よりも自らの生き方を謙虚に考えることが求められます。自らの中にあるジェンダーにいかにつくか、そしてどう実際生活のなかでジェンダーにこだわらない生き方をするかが問われます。ですから日ごろ生活している中にあるジェンダーに敏感になることが大切です。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p> <p>社会学</p>
-------------------	---

成績評価の方法	<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>20%</td> <td rowspan="5">課題レポートとレポートで総合的に評価する。</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>80%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>0%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	20%	課題レポートとレポートで総合的に評価する。	レポート	80%	中間試験	0%	定期試験	0%	その他	0%
課題・小テスト	20%	課題レポートとレポートで総合的に評価する。										
レポート	80%											
中間試験	0%											
定期試験	0%											
その他	0%											

テキスト	<p>■テキストを使用する</p> <p>■レジュメを使用する</p> <p>□未定(最初の授業で指示する)</p> <p>池谷壽夫ほか 大人になる前のジェンダー論 はるか書房</p>
------	--



科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
現代基礎教養 I (現代社会と市民生活)	2	2	前期開講	池谷 壽夫

テーマ	現代社会と市民生活を権利の視点から考える
-----	----------------------

科目のねらい	<p>【キーワード】消費生活と市民生活 労働と市民生活 男女共同参画社会と市民生活 環境問題と市民生活 環境問題と市民生活</p> <p>&lt;内容の要約&gt;          複雑化する現代社会の様相のなかで、市民の生活や権利を守るという視点から現状の問題点について幅広い視点から学ぶ</p> <p>&lt;学習目標&gt;          現代社会の基本的課題を学ぶ          現代社会に起こる事象を、市民の生活と権利という視点から考えること</p>
--------	---

授業のながれ	
ガイダンス	
現代社会と市民生活	
消費生活と市民生活 (1)	
消費生活と市民生活 (2)	
消費生活と市民生活 (3)	
働くことと市民生活 (1)	
働くことと市民生活 (2)	
働くことと市民生活 (3)	
男女共同参画と市民生活 (1)	
男女共同参画と市民生活 (2)	
男女共同参画と市民生活 (3)	
環境問題と市民生活 (1)	
環境問題と市民生活 (2)	
環境問題と市民生活 (3)	
これまでのまとめと質疑応答	

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>ふだん新聞等ニュースを見たりして現代の問題に目を通すこと</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;          法学概論ジェンダー論</p>
-------------------	---

成績評価の方法	
課題・小テスト 20% レポート 80% 中間試験 0% 定期試験 0% その他 0%	授業時の課題とレポートで評価する。

テキスト	
<input type="checkbox"/> テキストを使用する <input checked="" type="checkbox"/> レジュメを使用する <input type="checkbox"/> 未定(最初の授業で指示する)	

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
英語演習 I (C901)	2	2	通年開講	竹多 亮子

テーマ	reading および listening ability の向上
-----	-----------------------------------

科目のねらい	<p>【キーワード】 Let's read in English. Practice makes perfect.</p> <p>&lt;内容の要約&gt;          基本的文法事項を理解し、reading, listening 演習を通して、社会生活で役立つ英語運用能力を養う。</p> <p>&lt;学習目標&gt;          基本的文法事項が理解でき、文章の内容が把握できる。          reading および listening ability が向上する。</p>
--------	---

授業のながれ	
Introduction	Unit 7
Unit 1	Unit 7
Unit 1	Unit 8
Unit 2	Unit 8
Unit 2	Unit 9
Unit 3	Unit 9
Unit 3	Unit 10
Unit 4	Unit 10
Unit 4	Unit 11
Unit 5	Unit 11
Unit 5	Unit 12
Unit 6	Unit 12
Unit 6	Presentation
Review 1	Review 2
まとめと復習	まとめと復習

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>クラスでは、ペアワークやグループワークなどが中心となるので、積極的な参加が望まれます。辞書は必ず持参すること。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p>
-------------------	--

成績評価の方法	
課題・小テスト	20%
レポート	0%
中間試験	40%
定期試験	40%
その他	0%

テキスト	
<input checked="" type="checkbox"/> テキストを使用する <input type="checkbox"/> レジユメを使用する <input type="checkbox"/> 未定(最初の授業で指示する)	Robert Van Benthuyzen, 大山健一 他 Exploring World Heritage on DVD 成美堂

科目名	単位数	学年担当	開講形態	教員名
英語演習 I (C902)	2	2	通年開講	岡口 浩

テーマ	英文の読解
-----	-------

科目のねらい
<p>【キーワード】 英文解釈 予習</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>科目のねらいは、毎週の授業に予習して出席することをおして、英文の読解力を高める、あるいは、現在持っている読解力を落とさないということです。毎回の授業は前半と後半に分けます。前半では、語彙に関する学習を行い、後半ではテキストを用いて、標準的な現代英語で書かれた説明文を訳読します。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・英文の読解力をつける、あるいは、落とさない。</li><li>・毎週予習をすることで、英語学習の習慣をつける。</li></ul>

授業のながれ
受講生の学力によって異なるので、ここでは、最初の 4 週の予定を書くにとどめます。
オリエンテーション
テキスト第 1 章
テキスト第 2 章
テキスト第 3 章
以下は、実際に授業をした手ごたえで変わります。

学ぶ上での注意・担当教員からの希望
必ず予習をしてください。扱うテキストの内容は食文化についてです。
<本科目の関連科目>
「フレッシュマン・イングリッシュ I」

成績評価の方法	
課題・小テスト 0% レポート 0% 中間試験 0% 定期試験 0% その他 0%	前期・後期試験約 70%、平常点約 30%。

テキスト	
<input checked="" type="checkbox"/> テキストを使用する <input type="checkbox"/> レジュメを使用する <input type="checkbox"/> 未定(最初の授業で指示する)	OHASHI HISATOSHI、BAXTER, Blake The East and the West in Dietary Culture Seibido

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
英語演習 I (C903)	2	2	通年開講	井上 准治

テーマ	シェイクスピアを下敷きに人形劇の短編映画作りで英語文化を楽しもう
-----	----------------------------------

科目のねらい	<p>【キーワード】シェイクスピア劇 短編映画（人形劇） 想像力 アイアンビック・ペンタミーター アイアンビック・ペンタミーター</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>“Now is the winter of our discount!”（「お待ちかね当店恒例冬のバーゲンセール！」）という垂れ幕が以前ニューヨークのブティックに見られましたが、実は、これはシェイクスピアの『リチャード三世』冒頭の台詞“Now is the winter of our discontent made glorious summer . . .”（「我らをおおっていた不満の冬もようやく去り、栄光の夏が来た . . .」）のもじりです。この様に何気なくシェイクスピアの台詞が、「常識」として組み入れられ、キャッチコピーになったりします。翻訳文と合わせながら英語で読み、いくつかの場面を合わせて人形劇の短編映画に仕立ててもらいます。この過程で、福祉の分野でも重要な想像力を豊かにすることを目指します。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>英語の音現象の基本を具体的な台詞の発声練習で身につける</p> <p>短編映画制作を通して想像力と創造力を開発する</p> <p>人形制作などの共同作業を通じて作る喜びを共有する。</p>
--------	--

授業のながれ	
イントロダクション	人形、背景、小道具類製作
英語の音現象の基本-リズム、リエゾン、シラブル。	人形、背景、小道具類製作
英語の音現象の基本-詩形式、アイアンビック・ペンタミーターの練習	立ち稽古(プレイリーディング) 1
シェイクスピア劇の英語の発音上の問題	立ち稽古(プレイリーディング) 2
具体的作品の選定、作品の鑑賞 1	立ち稽古(プレイリーディング) 3
作品の鑑賞 2	立ち稽古(プレイリーディング) 4
作品の脚本化 1(人形劇化)	立ち稽古(プレイリーディング) 5
作品の脚本化 2 (人形劇化)	ビデオ撮り 1
配役、役割分担	ビデオ撮り 2
台詞の読み合わせ	ビデオ撮り 3
台詞の読み合わせ	ビデオ撮り 4
台詞の読み合わせ	コンピュータ編集 1
台詞の読み合わせ	コンピュータ編集 2
人形、背景、小道具類製作	コンピュータ編集 3
人形、背景、小道具類製作	DVD焼付け。

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>人形劇による短編映画作りを通して、英語のリズムやスピード感を身につけるだけでなく、その背景の文化を体験し、人間理解のための想像力を養うことが目標ですので、本気で気合を入れて、でも楽しく、取り組んでほしいと思います。みんなで協力して制作するものですから遅刻や欠席はしないでください。人形はペットボトルなどを利用して創意工夫を凝らしたものにしたいと思っています。なお、任意参加ですが、夏休み後半に1週間程度の楽しいロンドン合宿も考えています。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt; 「物語と人生」</p>
-------------------	--

成績評価の方法		
課題・小テスト	50%	出席状況と製作過程および作品成果における各自の役割と特に英語台詞の発音習熟を重視します。
レポート	0%	
中間試験	0%	
定期試験	0%	
その他	50%	

テキスト	<input type="checkbox"/> テキストを使用する <input checked="" type="checkbox"/> レジュメを使用する <input type="checkbox"/> 未定(最初の授業で指示する)
------	--

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
英語演習 I (C904)	2	2	通年開講	小泉 純一

テーマ	英語の声を作る：黙読したり英文を和訳して理解するのではなく、英文を読んだまま理解できるよう英語の声を作ることを目標とします
-----	---

科目のねらい	<p>【キーワード】パソコンの CALL を使い、英語の声を作る 連音や音の脱落、同化など、音が変化する現象を学ぶ 英文スピーチ 英語による対話 英語による対話</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>書いてある英語を読めるようになるには、それを自然な英語として読み上げる力が必要です。高校では音読や英語を発話する時間がなく、英語の声を身につけていない学生が多いです。それを克服するため、前期はパソコンの CALL を活用し、モデルの音を聞き、それに自分の声を吹き込み、聴き比べることで、英語の声を作ります。同時に英語の音の変化やマザーグースで英語のリズムを学び、自然な発声ができるようにします。後期は、英語によるスピーチや対話、英語によるポエトリー・リーディング、ムービーメーカーを使った作ったムービーに自分の声で録音するなど、声による自己表現を目指します。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>自然な発声リズムで英語を発話することができる</p> <p>自分の関心のあるものに関して英語でスピーチすることができる</p> <p>英語による対話をすることができる</p>
--------	---

授業のながれ	
イントロダクション	後期 イン트로ダクション
英語の絵本を直読直解してみる	英語スピーチ準備 (1)
英語の歌を英語のまま聞いてみる	英語スピーチ準備 (2)
英語の声を作る (1)	英語スピーチ準備 (3)
英語の声を作る (2)	英語スピーチ発表 (1)
英語の声を作る (3)	英語スピーチ発表 (2)
英語の声を作る (4)	英語による対話準備 (1)
英語の声を作る (5)	英語による対話準備 (2)
英語のポエトリー・リーディングを聞いてみる	英語による対話準備 (3)
英語で詩を書く (1)	英語による対話発表 (1)
英語で詩を書く (2)	英語による対話発表 (2)
英語で詩を書く (3)	ムービーメーカーを使って自分の作品を作る (1)
英語の詩のパフォーマンス (1)	ムービーメーカーを使って自分の作品を作る (2)
英語の詩のパフォーマンス (2)	ムービーメーカーを使って自分の作品を作る (3)
パフォーマンスを見る	ムービーメーカーを見る

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>一番に必要なのは、英語を発声して英語力をつけることに対する関心と意欲です。自分の声が相手にどのように届くのか、どのような力を持つかを意識できない学生には受講してほしくありません。高校までの英語の学び方とは異なる視点から英語をとらえますから、高校までの英語力は問いませんが、英語に関心がある人、勉強以外でも英語を面白いと感じたことがある学生、英語となかよくしたいと思う学生の履修を希望します。英語を発声することが多くなりますから、スピーチや対話などの原稿は期日までに完成させてください。数回課題の提出をしても</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt; フレッシュマン・イングリッシュ</p>
-------------------	--

成績評価の方法	
課題・小テスト 0% レポート 50% 中間試験 0% 定期試験 0% その他 50%	ペーパー試験は行いません。数回のレポートと、スピーチや対話の内容、ムービーメーカーの作成具合などにより総合的に判断します。

テキスト	<input type="checkbox"/> テキストを使用する <input checked="" type="checkbox"/> レジュメを使用する <input type="checkbox"/> 未定(最初の授業で指示する)
------	--

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
日本史	2	2	前期開講	松下 佐知子

テーマ	教員免許取得のために最低限必要だと思われる日本史の項目をコンパクトにまとめます。
-----	--

科目のねらい	<p>【キーワード】教員免許 日本通史</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>教員採用試験では、少なくとも高校の教科書以上の専門科目知識が必要です。この講座では、日本の歴史に限定し、専門知識習得の糸口を、提示します。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>日本史の流れを把握する。</p> <p>日本史と現在の社会が、どのようにリンクするのかを理解する。</p> <p>日本史に興味を持つきっかけを作る。</p>
--------	---

授業のながれ	
縄文・弥生時代のポイントを説明する。	
飛鳥から奈良時代のポイントを説明する。	
平安時代のポイントを説明する。	
鎌倉時代のポイントを説明する。	
室町時代のポイントを説明する。	
戦国時代のポイントを説明する。	
江戸時代前期のポイントを説明する。	
江戸時代中期のポイントを説明する。	
江戸時代後期のポイントを説明する。	
明治時代前期のポイントを説明する。	
明治時代後期のポイントを説明する。	
大正時代のポイントを説明する。	
昭和前期のポイントを説明する。	
昭和後期のポイントを説明する。	
各時代で頻出の史料を読む。	

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>授業で取り上げるのは、各時代のほんの一部、それも最新の研究からすれば、疑問の余地があることがらもあります。ですから、本格的に取り組むのであれば、授業だけではとても時間は足りません。特に教員採用試験を受験する予定の学生は、受験する地域の参考書や問題集に取り組む必要があります。本格的に歴史を勉強したい学生は、授業のペースに併せて、日本史概論書を読むことを勧めます。当然ですが、授業中の私語および携帯電話の私用については、厳しく対処し、甚だしく授業を妨害する場合、授業を受講することを認めません。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p>
-------------------	---

成績評価の方法											
<table border="0"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>60%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>10%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	0%	レポート	30%	中間試験	0%	定期試験	60%	その他	10%	<p>課題・小テストは特に予定はしていませんが、学生の理解度を考えて行う場合もあります。レポートを一回予定しています。課題図書を設定し、その要約およびそれに対する意見を原稿用紙8枚以内にまとめて下さい。定期試験を行います。原則として、テキスト類の持ち込みは不可です。授業態度を考慮します。</p>
課題・小テスト	0%										
レポート	30%										
中間試験	0%										
定期試験	60%										
その他	10%										

テキスト	
<input type="checkbox"/> テキストを使用する <input type="checkbox"/> レジューメを使用する <input checked="" type="checkbox"/> 未定(最初の授業で指示する)	



科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
外国史	2	2	前期開講	高木 勇夫

テーマ	19世紀フランス社会史の主題を通して西洋史の問題意識と方法を学ぶ。
-----	-----------------------------------

科目のねらい	<p>【キーワード】 ロマン主義 新聞連載小説 グラン・ブルヴァール 19世紀パリの革命 19世紀パリの革命 経済上の自由主義</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>19世紀ヨーロッパはブルジョワ支配が貫徹していたとされるが、実際には有為転変の過渡期の特徴を示して、社会はつねに揺らいでいた。ひきさかれた時代精神をかりうじて現実につなぎとめていたのは、凡庸なのに好奇心は旺盛な、どこにでも（パルトゥ）いる男の〈からだ〉である。男性優位の社会ではあるが、男だけでは舞台が進行しないので、行動力抜群の女の〈こころ〉が歴史を動かしていく。夢見がちなジェローム・パチュロとその恋人で実務にたけたマルヴィナのたどる道筋には、政治・経済・社会・文化の諸相にわたる困難な局面がたちはだかっている。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>オリジナルな図解から社会的事実を概念化する方法を学ぶ。</p> <p>生の史料を読解することによって歴史の記述法を学ぶ。</p> <p>フランス史を軸としたユニヴァーサルな価値観を学ぶ。</p>
--------	---

授業のながれ	
オリエンテーション（講義の趣旨と方法の説明）	
歴史とは何か（史料論と時代区分論）	
ヨーロッパ文明史の達成と限界（歴史主義）	
近代人の教養（三つの古典）	
ロマン主義の系譜（国民文化の型）	
19世紀のベストセラー（ロマン・ファイユトン）	
パリ・オデッセイ（近代のユートピア）	
新聞王伝説（マスメディアの成立）	
実学と虚学（非合法の最新医療）	
産業界と社交界（フランス7月王政の特徴）	
経済上の自由主義（歴史の中のバブル）	
パリ演劇事情（グラン・ブルヴァールの芝居小屋）	
社会開発の想像力（蒸気機関と保険会社）	
万国博とオリンピック（産業博覧会からエッフェル塔へ）	
全体のまとめ（成績評価）	

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>予習の必要はないが、テキストと講義の内容をてらしあわせて、あくまで自分の問題として社会的事実を捉えなおしてほしい。そういう意味で、講義を聞いてからの復習が大事になる。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p> <p>「日本史」「社会学」「比較文化論」「人類学」「経済史」</p>
-------------------	---

成績評価の方法											
<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>70%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>0%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	0%	レポート	30%	中間試験	0%	定期試験	70%	その他	0%	テストでは論述に40点、用語説明に30点、集中講義の形式にあわせたレポートに30点を配当する。
課題・小テスト	0%										
レポート	30%										
中間試験	0%										
定期試験	70%										
その他	0%										

テキスト	
<input checked="" type="checkbox"/> テキストを使用する <input checked="" type="checkbox"/> レジュメを使用する <input type="checkbox"/> 未定（最初の授業で指示する）	高木勇夫 19世紀パリ・オデッセイ—帽子屋パチュロとその時代 叢文社

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
宗教学	2	2	後期開講	岩井 洋

テーマ	宗教現象に対する社会科学的理解を深める。
-----	----------------------

科目のねらい	<p>【キーワード】世界宗教 社会現象 宗教組織論</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>本講義では、キリスト教、仏教、イスラームなどの「世界宗教」と呼ばれるものを中心に、さまざまな切り口から比較考察する。そして、世界の宗教現象に関する基礎知識を学ぶとともに、宗教現象そのものに対する理解を深めることをねらいとする。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>世界宗教の成り立ちについて理解できる。</p> <p>社会科学の視点から宗教を理解できる。</p> <p>偏見や先入観を排して宗教現象を理解することができる。</p>
--------	--

授業のながれ	
イントロダクション：「社会現象」としての宗教	
世界宗教の基礎知識（1）：ユダヤ教とキリスト教	
世界宗教の基礎知識（2）：イスラーム	
世界宗教の基礎知識（3）：仏教	
世界宗教の基礎知識：まとめ	
教祖と教団の誕生	
布教活動と教団の展開（1）	
布教活動と教団の展開（2）	
聖典の形成	
修行と儀礼	
奇跡・聖地・巡礼	
宗教の組織論（1）	
宗教の組織論（2）	
全体のまとめ（1）	
全体のまとめ（2）	

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	途中入室・途中退室や私語、携帯電話の使用など、講義を妨害する者については、大幅に減点する。
<本科目の関連科目>	

成績評価の方法	
課題・小テスト 0% レポート 0% 中間試験 0% 定期試験 60% その他 40%	出席を含めた受講態度とテストで評価する。

テキスト	
<input type="checkbox"/> テキストを使用する <input checked="" type="checkbox"/> レジュメを使用する <input type="checkbox"/> 未定（最初の授業で指示する）	

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
心理データ処理演習	2	2	前期開講	クラス

テーマ	心理学研究におけるデータ処理の技法を学ぶ。
-----	-----------------------

科目のねらい	<p>【キーワード】 データ処理 記述統計 推測統計</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>「心理学統計法」および「心理学研究法」において習得した基礎知識をもとに、実際に様々なタイプの心理データについて統計的処理を行い（SPSS使用）、データ処理の技法を学ぶ。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>SPSSを使用して記述統計の解析ができる。</p> <p>SPSSを使用して推測統計の基礎解析ができる。</p>
--------	---

授業のながれ	
イントロダクション	
SPSSの使い方1	
SPSSの使い方2	
記述統計とグラフ	
値の変換	
相関係数と散布図	
クロス集計とカイニ乗検定	
前半部の復習	
推測統計の基礎と無相関検定	
平均値の比較（1）データに対応がない場合のt検定	
平均値の比較（2）データに対応がある場合のt検定	
平均値の比較（3）1要因の分散分析（被験者間計画）	
平均値の比較（4）1要因の分散分析（被験者内計画）	
後半部の復習	
総まとめ	

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>適宜課題や小テストを課す予定である。1回ごとに違う内容を扱っていくため、極力欠席しないように心がけてほしい。演習授業の進行の妨げになるので、遅刻は厳禁とする。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p> <p>心理学統計法, 心理学研究法, 心理学実験実習, 心理学研究法演習, 子ども発達学専門演習Ⅰ, Ⅱ</p>
-------------------	---

成績評価の方法											
<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>50%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>50%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>0%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	50%	レポート	0%	中間試験	0%	定期試験	50%	その他	0%	出席, 課題, 小テスト, 定期試験の成績により総合的に評価する。
課題・小テスト	50%										
レポート	0%										
中間試験	0%										
定期試験	50%										
その他	0%										

テキスト	
<input type="checkbox"/> テキストを使用する <input checked="" type="checkbox"/> レジュメを使用する <input checked="" type="checkbox"/> 未定(最初の授業で指示する)	

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
現代基礎教養Ⅱ (市民参加と民主主義)	2	3	前期開講	前原 清隆

テーマ	市民参加と民主主義
-----	-----------

科目のねらい
<p>【キーワード】政治 参加 民主主義 人権 人権</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>民主主義、参加、人権などをキーワードに、日本と世界で市民が主体的にひろく社会にかかわるようになった歴史を学ぶとともに、現状の問題点や課題、解決の方向などを考える。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>社会の構成員として必要な基礎知識を身につけることができる</p> <p>主体的・能動的に社会にかかわっていく姿勢を身につけることができる</p>

授業のながれ
ガイダンス
政治への市民参加1 オバマへの道1
政治への市民参加2 オバマへの道2
民主主義と人権1
国際平和と市民の役割1
民主主義と人権2 選挙と政党
民主主義と人権3 裁判と民主主義
政治への市民参加3 地方自治と住民投票
市民とは誰か1～新たな社会づくりを考える1
市民とは誰か2～新たな社会づくりを考える2
市民とは誰か3～新たな社会づくりを考える3
国際平和と市民の役割2 国際社会と民主主義
地球環境問題と市民の役割
政治への市民参加4
まとめ

学ぶ上での注意・担当教員からの希望
<p>最も大事なものは、毎回出席して日本と世界のさまざまな問題について学ぶことです。新聞やテレビなどの報道には注意をはらう必要があります。「自由とは他人を害さないすべてをなしうることにある。」(＝私語の自由はありません。)</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p> <p>現代基礎教養1</p>

成績評価の方法										
<table border="1"> <tr><td>課題・小テスト</td><td>0%</td></tr> <tr><td>レポート</td><td>20%</td></tr> <tr><td>中間試験</td><td>0%</td></tr> <tr><td>定期試験</td><td>40%</td></tr> <tr><td>その他</td><td>40%</td></tr> </table> <p>出席を最も重視し、定期試験や時々のレポートなどを加味して総合的に評価します。</p>	課題・小テスト	0%	レポート	20%	中間試験	0%	定期試験	40%	その他	40%
課題・小テスト	0%									
レポート	20%									
中間試験	0%									
定期試験	40%									
その他	40%									

テキスト
<input type="checkbox"/> テキストを使用する <input checked="" type="checkbox"/> レジュメを使用する <input type="checkbox"/> 未定(最初の授業で指示する)

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
英語演習Ⅱ (C901)	2	3	通年開講	井上 准治

テーマ	心理系大学院などへの進学のための英文読解力養成
-----	-------------------------

科目のねらい	<p>【キーワード】 大学院進学 専門書英文読解力 自主的な努力</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>最近心理系大学院などへの進学希望者が増えてきていますが、その入学試験では専門に関連した英文読解力をみる試験が課されます。したがって、この試験を突破できる実力と自信をつけることを目指します。しかし、単なる受験技術的な授業ではなく、大学院進学の意味、専門的な知への意欲などを意識的に切磋琢磨する場にもしたいと思います。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>入学試験を突破できる実力と自信をつける。</p> <p>心理学の基礎的な専門用語の英語表現を習得する。</p> <p>大学院進学の意味、専門的な地への意欲などを意識的に切磋琢磨する。</p>
--------	---

授業のながれ	
イントロダクション	「モチベーションとエモーション」の章を読む 3
「心理学の目的」、「心理学の学び方」の章を読む 1	「発達心理学」の章を読む 1
「心理学の目的」、「心理学の学び方」の章を読む 2	「発達心理学」の章を読む 2
「心理学の目的」、「心理学の学び方」の章を読む 3	「発達心理学」の章を読む 3
「知覚」の章を読む 1	「発達心理学」の章を読む 4
「知覚」の章を読む 2	「発達心理学」の章を読む 5
「知覚」の章を読む 3	「異常心理学」（「臨床心理学」）の章を読む 1
「学習と記憶」の章を読む 1	「異常心理学」（「臨床心理学」）の章を読む 2
「学習と記憶」の章を読む 2	「異常心理学」（「臨床心理学」）の章を読む 3
「学習と記憶」の章を読む 3	「異常心理学」（「臨床心理学」）の章を読む 4
「思考、推論、コミュニケーション」の章を読む 1	「異常心理学」（「臨床心理学」）の章を読む 5
「思考、推論、コミュニケーション」の章を読む 2	「社会心理学」の章を読む 1
「思考、推論、コミュニケーション」の章を読む 3	「社会心理学」の章を読む 2
「モチベーションとエモーション」の章を読む 1	「社会心理学」の章を読む 3
「モチベーションとエモーション」の章を読む 2	「社会心理学」の章を読む 4

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>強い意思と自覚を持って常に英語の文に触れるよう心がけて下さい。また他の講義やゼミなどにも能動的に臨んでそれぞれの知の概念等を理解していないと試験で要求される読解力につながらないことを自覚して下さい。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p> <p>フレッシュマン・イングリッシュⅠ</p>
-------------------	--

成績評価の方法											
<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>0%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	100%	レポート	0%	中間試験	0%	定期試験	0%	その他	0%	毎回授業で発表して能力アップを評価します。
課題・小テスト	100%										
レポート	0%										
中間試験	0%										
定期試験	0%										
その他	0%										

テキスト	
<input checked="" type="checkbox"/> テキストを使用する <input type="checkbox"/> レジュメを使用する <input type="checkbox"/> 未定(最初の授業で指示する)	Gillian Butler / Freda McManus 「Psychology A Very Short Introduction」 Oxford UP

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
英語演習Ⅱ (C902)	2	3	通年開講	小泉 純一

テーマ	パレスチナ系アメリカ詩人ネオミ・シーハブ・ナイの作品を手がかりに、英語の四技能を向上させる。
-----	--

科目のねらい	<p>【キーワード】パレスチナ系アメリカ詩人 ポエトリー・リーディング</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>英語を聞く、話す、読む、書く、四技能の総合的な向上を目指します。その素材として、パレスチナ系アメリカ詩人ネオミ・シーハブ・ナイの作品の読解やネット上で得ることができる詩のリーディングの映像を活用します。英語を受け止めるだけでなく、ナイの作品の朗読や、彼女の作品を手がかりとし、自分で英語の詩を創作し、その朗読を行ってもらいます。 具体的な内容については、受講生が確定した段階で、微調整を行います。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>英語の持つリズム感を養い、英語の声を作る</p> <p>英語で書かれた詩のリーディングや演説の分析を通して、英語文化への理解を深める</p>
--------	--

授業のながれ	
イントロダクション	後期イントロダクション
パレスチナ系アメリカ詩人の紹介	英語の名言集
ネット上にある自分で学べる英語のサイト	英語の名言集を作る (1)
英語の詩のリーディングサイト (1)	英語の名言集を作る (2)
英語の詩のリーディングサイト (2)	英語の名言集を作る (3)
英語の詩の作り方 (1)	名言集ディスカッション (1)
英語の詩の作り方 (2)	名言集ディスカッション (2)
英語で詩を作る発表 (1)	名言集ディスカッション (3)
英語で詩を作る発表 (2)	クリスマスプロジェクト打ち合わせ
英語で詩を作る発表 (3)	クリスマスプロジェクト準備
ムービーメーカーの使い方 (1)	クリスマスプロジェクト準備
ムービーメーカーの使い方 (2)	クリスマスプロジェクト準備
ムービーメーカー作品発表 (1)	クリスマスプロジェクト発表
ムービーメーカー作品発表 (2)	クリスマスプロジェクトを見る
前期まとめ	後期まとめ

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>現在の英語力を確認し、さらにそれを向上させようという気持ちをしっかり持ち、それを実行する気持ちを持った学生が受講することを期待しています。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p>
-------------------	--

成績評価の方法											
<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>50%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>50%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	0%	レポート	50%	中間試験	0%	定期試験	0%	その他	50%	授業内での発表に加え、学期内、長期休暇中に書いてもらうレポートなどによって評価します。
課題・小テスト	0%										
レポート	50%										
中間試験	0%										
定期試験	0%										
その他	50%										

テキスト	
<input type="checkbox"/> テキストを使用する <input checked="" type="checkbox"/> レジュメを使用する <input type="checkbox"/> 未定(最初の授業で指示する)	



科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
英語演習Ⅱ (C903)	2	3	通年開講	菅沼 智子

テーマ	現在持っている英語の実力を高める
-----	------------------

科目のねらい	<p>【キーワード】TOEICの出題形式に習熟する 英語を読むこと、書くこと、聴くこと、話すことの高める</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>前期はTOEICの受験対策のための教科書を用い、出題形式に習熟し、スコアアップを目指すことはもちろん、それだけに止まらない、英語の総合的な実力の底上げを目指します。後期は、現在日本が抱える環境、社会制度、医療、介護等の問題について論じた英文の講読を行います。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>TOEICの出題形式に習熟することができる。</p> <p>それぞれの単語の意味、品詞、他の単語との文法的関係を分析し、正確に英文を読むことができる。</p>
--------	---

授業のながれ	
Introduction	Sufficient Food Supply
Chapter 1	Sustainable Energy
Chapter 2	Low Emission Transport and Housing
Chapter 3	Water Supply and Waste
Chapter 4	Population Reduction
Chapter 5	Useful Education
Chapter 6	Viable Economy
Chapter 7	Effective Tax Systems
Chapter 8	Global Warming, Health and Safety
Chapter 9	Fair Medical Systems
Chapter 10	Elder Care
Chapter 11	End-of-life Care
Chapter 12	Review
Mini-TOEIC Test 1	Review
Mini-TOEIC Test 2	Review

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>授業の予習は必須です。前期後期共授業の予習の行い方について第1回の授業で詳しく説明します。積極的に学習し、英語の実力を高めてください。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p> <p>フレッシュマン・イングリッシュⅠⅡ、英語演習Ⅰ</p>
-------------------	---

成績評価の方法	
課題・小テスト レポート 中間試験 定期試験 その他	0% 0% 0% 60% 40%
定期試験	60%
出席状況、小テスト、授業への参加態度	40%

テキスト	
<input checked="" type="checkbox"/> テキストを使用する <input type="checkbox"/> レジューメを使用する <input type="checkbox"/> 未定(最初の授業で指示する)	杉田麻哉ほか Practical Tips for the TOEIC Test (ストラテジーで学ぶTOEICテスト) 成美堂 Carl Becker JAPAN'S WISDOM (ジャパニーズ・ウィズダム) 英宝社

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
比較文化論	2	3	前期開講	江坂 哲也

テーマ	ヨーロッパ文化の展開を見ながら、日本のそれと比較する
-----	----------------------------

科目のねらい	<p>【キーワード】ギリシア古典文化 キリスト教 ルネサンス 宗教改革 宗教改革 啓蒙主義など</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>古代ギリシア・ローマ文化とキリスト教、それらが絡み合いながらヨーロッパの文化を展開させてきたと言えます。エポック的時代的にを絞り、それについて文学を中心に扱いながら、日本との違いを考えます。例えば、日本では取り入れた儒教の教えにより、「自分が他人からしてもらいたくないことを、人にするな」と消極的ですが、キリスト教では「人にしてもらいたいことを、他人に対してしなさい」と積極的です。こういう文化が学芸・福祉にも影響を与えませんか。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・古代ギリシア文化の理解を『オイディプス王』と『詩学』をとおして深める。</li> <li>・キリスト教の誕生、教会によるプラトンなどの哲学の摂取と教義の合理化について理解する。</li> <li>・ルネサンス、科学革命、ルターの宗教改革、啓蒙主義を経て近代的個人が誕生することの理解。</li> <li>・それについてレッシング、カント、ゲーテ、シラーの作品で具体的に理解する。</li> <li>・19世紀になると個人を作っている社会が発見されるが、その例をフォンターネの作品に見る。</li> </ul>
--------	--

授業のながれ	
1. 文化とは何か。4大文明と水。文字と紙の発明。	
2. 古代ギリシア文化総論。ソフォクレスの『オイディプス王』。	
3. 神話から脱却したギリシア哲学。アリストテレスの『詩学』。	
4. ギリシアとローマの文化の相違。キリスト教の誕生、『聖書』。	
5. キリスト教のヨーロッパへの普及と十字軍の影響。	
6. ルネサンス、「神とカイザー」の対立と分権。修道院から大学へ。	
7. ガリレオ、ニュートンなどの科学革命。アキナスと普遍論争。	
8. ルターの宗教改革。ドイツ語訳『聖書』が与えた影響。	
9. ヨーロッパ諸国（イギリス、フランス）の演劇。	
10. ドイツの啓蒙主義（ゴットシェートからレッシングへ）。	
11. ゲーテの『プロメトイス』とシラーの『群盗』。	
12. シラーの『ウィルヘルム・テル』。	
13. ゲーテの『ファウスト』。	
14. フォンターネの『エフィー・ブリスト』。	
15. 両世界大戦と文化問題。EUの誕生と《第九》。	

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>講義の中で紹介する絵画や音楽を鑑賞したり、古典的著作を少なくとも翻訳で読み、人類の文化的遺産を自分の頭で理解すること。他に、必読書などを授業中に紹介する。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p> <p>「フレッシュマン・イングリッシュⅠ・Ⅱ」「英語演習Ⅰ・Ⅱ」「言語と文化」「総合演習Ⅰ・Ⅱ」「哲学」「外国史」</p>
-------------------	--

成績評価の方法											
<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>90%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>0%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	10%	レポート	0%	中間試験	0%	定期試験	90%	その他	0%	授業中に出席確認かねて実施する数回の小テスト10%。
課題・小テスト	10%										
レポート	0%										
中間試験	0%										
定期試験	90%										
その他	0%										

テキスト	<input type="checkbox"/> テキストを使用する <input checked="" type="checkbox"/> レジュメを使用する <input type="checkbox"/> 未定（最初の授業で指示する）
------	--

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
地理学	4	3	前期開講	磯部 作

テーマ	地域の暮らしと地域問題、地域づくり
-----	-------------------

科目のねらい
<p>【キーワード】 地域 環境 暮らし 地域問題 地域問題 地域づくり</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>世界は地域で構成されていて、地域にはその特色がある地域性を有しています。地域は社会の変化につれて変化しており、資本主義社会においては、特に不均等に発展しています。このため地域格差などが生じており、過疎・過密問題や公害・環境問題などの地域問題も発生しています。本科目では、各地域の自然環境や、産業、住民の生活などの暮らしについて、「地域開発」政策と関連させながら、地域問題を重視して取り上げるとともに、地域づくりや地域のあり方を考察します。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>地域の捉え方を学ぶことができる。</p> <p>地域問題の考察の仕方を学ぶことができる。</p> <p>地域づくりのあり方について学ぶことができる。</p> <p>地域調査の方法を学ぶことができる。</p> <p>地図の読み方を学ぶことができる。</p>

授業のながれ																														
<table border="1"> <tr><td>1. 地理学とは</td><td>16. 商業の状況と都市問題</td></tr> <tr><td>2. 知多半島地域の環境と環境問題</td><td>17. 観光の状況と地域問題</td></tr> <tr><td>3. 知多半島地域の産業・生活と地域問題</td><td>18. 文化・福祉の状況と地域づくり</td></tr> <tr><td>4. 奥三河地域の暮らしと地域問題</td><td>19. 市町村合併と地域問題・地域づくり</td></tr> <tr><td>5. 愛知県の地誌と地域問題</td><td>20. 沖縄県の地誌と地域問題</td></tr> <tr><td>6. 自然環境と環境問題 地形を中心に</td><td>21. 韓国の地誌と地域問題</td></tr> <tr><td>7. 自然環境と環境問題 水環境を中心に</td><td>22. 中国の地域的展開と地域性</td></tr> <tr><td>8. 自然環境と環境問題 気候を中心に</td><td>23. 中国の地域構造と地域問題</td></tr> <tr><td>9. 農業の状況と農村地域の地域問題</td><td>24. 中国沿海地域の状況と地域問題</td></tr> <tr><td>10. 漁業の状況と漁村地域の地域問題</td><td>25. 中国内陸地域の状況と地域問題</td></tr> <tr><td>11. 農山漁村地域の地域づくり</td><td>26. EU を中心としたヨーロッパの地域構造</td></tr> <tr><td>12. 工業の状況と工業地域の公害・環境問題</td><td>27. ヨーロッパの地域問題</td></tr> <tr><td>13. 工業地域の地域環境再生</td><td>28. イタリアにおける地域構造と地域問題</td></tr> <tr><td>14. 廃棄物問題と地域環境再生</td><td>29. イタリアにおける地域づくり</td></tr> <tr><td>15. 交通の状況と地域問題</td><td>30. まとめ</td></tr> </table>	1. 地理学とは	16. 商業の状況と都市問題	2. 知多半島地域の環境と環境問題	17. 観光の状況と地域問題	3. 知多半島地域の産業・生活と地域問題	18. 文化・福祉の状況と地域づくり	4. 奥三河地域の暮らしと地域問題	19. 市町村合併と地域問題・地域づくり	5. 愛知県の地誌と地域問題	20. 沖縄県の地誌と地域問題	6. 自然環境と環境問題 地形を中心に	21. 韓国の地誌と地域問題	7. 自然環境と環境問題 水環境を中心に	22. 中国の地域的展開と地域性	8. 自然環境と環境問題 気候を中心に	23. 中国の地域構造と地域問題	9. 農業の状況と農村地域の地域問題	24. 中国沿海地域の状況と地域問題	10. 漁業の状況と漁村地域の地域問題	25. 中国内陸地域の状況と地域問題	11. 農山漁村地域の地域づくり	26. EU を中心としたヨーロッパの地域構造	12. 工業の状況と工業地域の公害・環境問題	27. ヨーロッパの地域問題	13. 工業地域の地域環境再生	28. イタリアにおける地域構造と地域問題	14. 廃棄物問題と地域環境再生	29. イタリアにおける地域づくり	15. 交通の状況と地域問題	30. まとめ
1. 地理学とは	16. 商業の状況と都市問題																													
2. 知多半島地域の環境と環境問題	17. 観光の状況と地域問題																													
3. 知多半島地域の産業・生活と地域問題	18. 文化・福祉の状況と地域づくり																													
4. 奥三河地域の暮らしと地域問題	19. 市町村合併と地域問題・地域づくり																													
5. 愛知県の地誌と地域問題	20. 沖縄県の地誌と地域問題																													
6. 自然環境と環境問題 地形を中心に	21. 韓国の地誌と地域問題																													
7. 自然環境と環境問題 水環境を中心に	22. 中国の地域的展開と地域性																													
8. 自然環境と環境問題 気候を中心に	23. 中国の地域構造と地域問題																													
9. 農業の状況と農村地域の地域問題	24. 中国沿海地域の状況と地域問題																													
10. 漁業の状況と漁村地域の地域問題	25. 中国内陸地域の状況と地域問題																													
11. 農山漁村地域の地域づくり	26. EU を中心としたヨーロッパの地域構造																													
12. 工業の状況と工業地域の公害・環境問題	27. ヨーロッパの地域問題																													
13. 工業地域の地域環境再生	28. イタリアにおける地域構造と地域問題																													
14. 廃棄物問題と地域環境再生	29. イタリアにおける地域づくり																													
15. 交通の状況と地域問題	30. まとめ																													

学ぶ上での注意・担当教員からの希望
<p>日頃から地域に目を向け、地域に関する文献を読むとともに、行政統計や地域の資料を集め、積極的に地域住民の話を聞き、自分の住んでいる地域をはじめ、各地域の状況や問題点を把握するように努力してください。5月の連休などを利用して、具体的な地域の状況や課題などについて自分で調査してレポートをまとめ、発表をしてもらいます。講義用のレジュメを使用するが、テキストは是非購入すること。できれば地理教育研究会編『授業のための世界地理第5版』（古今書院）2010年（予定）も購入すること。授業でも使用しますが、4年次の教育実習などで役立ちます。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt; 「社会科教育法Ⅳ（地理）」「地歴科教育法」</p>

成績評価の方法											
<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>0%</td> <td rowspan="5">テストとともに、具体的な地域の状況や課題などについて調査しまとめたレポートと、授業の感想や意見、質問事項などを書く講義中の小レポート、講義への出席状況などにより総合的に評価します。</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>70%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>10%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	0%	テストとともに、具体的な地域の状況や課題などについて調査しまとめたレポートと、授業の感想や意見、質問事項などを書く講義中の小レポート、講義への出席状況などにより総合的に評価します。	レポート	20%	中間試験	0%	定期試験	70%	その他	10%
課題・小テスト	0%	テストとともに、具体的な地域の状況や課題などについて調査しまとめたレポートと、授業の感想や意見、質問事項などを書く講義中の小レポート、講義への出席状況などにより総合的に評価します。									
レポート	20%										
中間試験	0%										
定期試験	70%										
その他	10%										

テキスト
<p>■テキストを使用する</p> <p>■レジュメを使用する</p> <p>□未定（最初の授業で指示する）</p> <p>地理教育研究会編 「授業のための日本地理第5版」 古今書院 「高等地図帳」 (2009～2011) 二宮書店</p>

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
政治学	2	3	前期開講	生江 明

テーマ	公共性の政治学
-----	---------

科目のねらい
--------

【キーワード】政治の概念と認識、価値、制度、論理 公共性 他者と社会 公正性 公正性 排除と共生

<内容の要約>  
政治学の基礎となる人間論・社会論を入り口とし、欧米だけでなくアフリカ・アジア・日本の政治概念や制度を国際的に比較検討する中で、社会の制度を支える規範（掟）とその運用の中に社会的公共性の基盤を探ることとする。政治学原論と現代政治論として伝統的社会を含む社会と近代国家間の政治関係、そして国際的な政治関係を論ずる。

<学習目標>  
福祉概念を生み出した政治学を、その原論（人間論、社会論、権力論、暴力論）および現代の民主政治制度及びこれを支える政治思想の内外の歴史とともに学ぶことを狙いとし、社会的合意形成のプロセスを理解することを目標とする。

3. 次世代の教育にかかわろうとする諸君自身が、主体的に未来の社会を担う次世代として育つために、何をもって自分たちの根幹となる原則を生み出していくことが必要となるのかを把握していくことを課題とする。

講義の中で紹介する参考文献などにできる限り目を通していくことを期待する。

授業のながれ
第1回：政治とは何か
第2回：人間とは何か
第3回：社会とは何か
第4回：権力とは何か
第5回：制度とは何か
第6回：権威と信頼
第7回：正当性と合法性
第8回：寛容と敵対－正統と異端
第9回：社会的排除
第10回：参加と決定
第11回：少数意見と多数意見
第12回：支配の類型
第13回：官僚制と利益集団
第14回：ネオ・リベラリズムとファシズム
第15回：暴力と平和

学ぶ上での注意・担当教員からの希望
-------------------

欲望を自動販売機的に獲得しようとするコンビニエントで直線的な、物欲しげな道からの脱構築の道を、学生諸君とともに探ることを、本講義は大きな課題とする。小論文や課題提出などとともに、時にグループワークを用いながら授業は展開する。

<本科目の関連科目>  
「歴史学」「社会学」「経済学」「論理学」「倫理学」「芸術と創造」などに関連する科目、特に「社会福祉原論」などの科目は関連する。本学部に限らず、他学部の同種類の科目も関連する。

成績評価の方法	
課題・小テスト	10%
レポート	50%
中間試験	0%
定期試験	40%
その他	0%

授業内で提示する課題小論文と期末試験で評価する。その配分は6:4である。出席は学生諸君の権利であり、欠席はその権利の放棄であると考え、この配分とした。

テキスト
<input type="checkbox"/> テキストを使用する <input checked="" type="checkbox"/> レジュメを使用する <input type="checkbox"/> 未定(最初の授業で指示する)

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
子ども発達学入門（子ども）	2	1	前期開講	亀谷 和史

テーマ	子どもの発達支援と保育・教育実践を担うしごと
-----	------------------------

科目のねらい
<p>【キーワード】 発達支援 保育・教育実践 キャリア形成 子どもの権利 子どもの権利 リレー講義</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>21世紀になったにもかかわらず、複雑化する現代社会のなかで、新たな子どもの問題が発生しています。「子ども」と「発達」の専門性の視点から、保育・教育に関わる職業の専門的な連携がますます求められています。この講義は、子ども発達学科の学科専門教育への導入として、人間のライフステージを踏まえ、現代の「子ども」の「発達」理解と、それに関わる職業、そこでの保育・教育実践を様々な観点から深めていきます。今日、どんな場でどんな仕事が保育・教育職として行なわれているのか、その現状と課題、教育と福祉の連携の大切さをリレー講義によって学びます。そして、子どもの権利を実質的に豊かに保障する視点を深めていきます。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>1年次の学科共通の入門的な専門科目として、これから学ぶ専門学習の領域の見通しを理解し、今後の学習への問題関心を形成していく。</p> <p>現代社会における「子ども発達」の課題を整理し、保育専修・初等教育専修に共通する総合的な視点（発達福祉、教育福祉等）を習得する。</p> <p>1、2をとおして、進路・就職に向けてのキャリア形成をはかり、資格・免許取得の動機づけと目標を高める。</p>

授業のながれ
オリエンテーション——子ども発達学入門で学ぶこと
子どもの権利と新しい発達観・教育観
新入生セミナーを振り返る——講演・交流の感想
現代社会と子ども
格差社会と子ども
虐待と子育て支援
特別なニーズを持つ子どもと親を支える
少年非行の現状と課題
保育所の役割と保育士の仕事
小学校と役割と小学校教諭の仕事
特別支援学校における教育の課題
保育士・教師を支援するコーディネーターの仕事
子どもの健康と保健
幼稚園の役割と幼稚園教諭の仕事
まとめ

学ぶ上での注意・担当教員からの希望
<p>子ども発達学科の入門的専門科目で全員履修の扱いです。今後も学びの動機づけにもなるので、しっかりと出席しましょう。子ども発達学部所属の教員を中心に、リレー講義の形式で授業を進めます。自分の進路・職業への目標を定め、高めていくと同時に、関連分野の保育・教育専門職の理解を深めていきましょう。</p>

成績評価の方法											
<table border="0"> <tr><td>課題・小テスト</td><td>0%</td></tr> <tr><td>レポート</td><td>20%</td></tr> <tr><td>中間試験</td><td>0%</td></tr> <tr><td>定期試験</td><td>80%</td></tr> <tr><td>その他</td><td>0%</td></tr> </table>	課題・小テスト	0%	レポート	20%	中間試験	0%	定期試験	80%	その他	0%	<p>子ども発達学科の入門的専門科目（全員履修）なので、以下の基準で評価を出します。 ①</p> <p>毎回、ミニレポートを提出してもらいます。これが出席点20%になります。 ②毎回の講義</p> <p>のキーワードを中心にした学期末テスト（80点満点）を行います。 ③以上を基本にして評価</p> <p>します。</p>
課題・小テスト	0%										
レポート	20%										
中間試験	0%										
定期試験	80%										
その他	0%										

テキスト
<input type="checkbox"/> テキストを使用する <input checked="" type="checkbox"/> レジュメを使用する <input type="checkbox"/> 未定（最初の授業で指示する）

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
子ども発達学入門（心理）	2	1	前期開講	前原 清隆

テーマ	子どもの発達支援と心理臨床・教育実践のしごと
-----	------------------------

科目のねらい	<p>【キーワード】発達支援 心理臨床 教育実践 キャリア形成 キャリア形成 子どもの権利</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>21世紀になったにもかかわらず、複雑化する現代社会のなかで、新たな子どもの問題が発生しています。「子ども」と「発達」の専門性の視点から、家族や教育現場と心理臨床に関わる職業の専門的な連携がますます求められています。この講義は、心理臨床学科の学科専門教育への導入として、人間のライフステージを踏まえ、現代の「子ども」の発達理解と教育実践・心理臨床の仕事を経験から深めてきます。今日、どんな場でどんな仕事か教育職・心理専門職としてあるのか、そこでの現状と課題、教育と福祉の連携の大切さをリレー講義によって学びます。そして、子どもの権利を実質的に豊かに保障する視点を深めていきます。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>1年次の学科共通の入門的な専門科目として、これから学ぶ専門学習の領域の見通しを理解し、今後の学習への問題関心を形成していく。</p> <p>現代社会における「子ども発達」の課題を整理し、心理臨床学科での学科共通の総合的な視点（発達福祉、教育福祉等）を習得する。</p> <p>1、2をとおして、進路・就職に向けてのキャリア形式をはかり、資格・免許取得の目標を高める。</p>
--------	---

授業のながれ	
オリエンテーション	
子どもの育ちと詩・文学	
新入生セミナーをふり返って	
現代社会と子ども（1）格差社会の中の子ども	
現代社会と子ども（2）大人の現状と子どもたち	
子どもの「問題」を理解するために（1）虐待と子育て支援	
子どもの「問題」を理解するために（2）不登校と家族支援	
子どもの「問題」を理解するために（3）非行と家族支援	
発達障害を理解するために（1）脳の働きとその障害	
発達障害を理解するために（2）心理学から見た発達障害	
発達障害を理解するために（3）発達障害は「しょうがい」か？	
特別なニーズをもつ子どもを支える（1）乳幼児期の支援	
特別なニーズをもつ子どもを支える（2）学校での支援	
特別なニーズをもつ子どもを支える（3）地域での支援	
まとめ	

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>心理臨床学科の入門的専門科目で全員履修の扱いです。今後の学びの動機づけにもなるので、しっかりと出席しましょう。子ども発達学部所属の教員を中心にゲスト講師をお招きして、リレー講義の形式で授業を進めます。自分の進路・職業への目標ほ定め、高めていくと同時に、関連分野の教育職・心理専門職の理解を深めていきましょう。</p>
-------------------	---

成績評価の方法											
<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>80%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>20%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	0%	レポート	0%	中間試験	0%	定期試験	80%	その他	20%	<p>子ども発達学科の入門的専門科目（全員履修）なので、以下の基準で評価を出します。① 毎回、ミニレポートを提出してもらいます。これが出席点 20%になります。② 毎回の講義のキーワードを中心にした学期末テスト（80点満点）を行います。③ 以上を基本にして評価します。</p>
課題・小テスト	0%										
レポート	0%										
中間試験	0%										
定期試験	80%										
その他	20%										

テキスト	<input type="checkbox"/> テキストを使用する <input checked="" type="checkbox"/> レジュメを使用する <input type="checkbox"/> 未定（最初の授業で指示する）
------	--



科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
社会福祉論	2	1	前期開講	永岡 正己

テーマ	社会福祉の原理・思想・体系を考える
-----	-------------------

科目のねらい	<p>【キーワード】社会福祉 ソーシャルワーク 人権 ケア ケア 生活支援</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>現代の社会・生活と社会福祉の関係、社会福祉の歴史、概念、価値と倫理を理解し、私たちの生活問題（ニーズ）に対して、制度・政策と実践・技術の体系がどのように対応しているか、そのしくみを理解するとともに、各分野にわたるサービスの実施体制について学ぶ。また関連領域との関係、担い手と援助技術、福祉改革の動向、地域福祉と権利擁護の課題などを取り上げ、社会福祉とは何かについて基本的な理解を行う。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>今日の生活問題と社会福祉の課題を生活者と人権の視点から把握する。</p> <p>社会福祉を総合的に理解し、福祉の原理や思想を身につける。</p> <p>社会福祉の制度と実践のしくみを把握し、専門職・保育者の役割を理解する。</p>
--------	---

授業のながれ	
1. 現代生活と社会福祉	
2. 社会福祉、福祉、社会保障、援助の概念と思想・価値	
3. 社会福祉の主体・対象・方法	
4. 世界の社会福祉の歩み	
5. 日本の社会福祉の歩み	
6. 社会福祉の法制度体系	
7. 社会福祉の行財政と公私関係	
8. 社会福祉サービスの実施体制	
9. 社会福祉の分野と組織・運営	
10. 社会保障と関連領域	
11. 専門職の仕事・資格・倫理	
12. 援助実践とソーシャルワーク	
13. 福祉社会と福祉活動	
14. 福祉動向と人権の課題	
15. まとめ	

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>私たちの暮らしと社会福祉をめぐる動きに関心を持ち、これからの課題を具体的に考えながら受講してほしいと思います。テキストは事前に読んでおくこと。質問、意見があれば遠慮なく出してください。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p> <p>「児童福祉論」</p>
-------------------	--

成績評価の方法											
<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>70%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>10%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	20%	レポート	0%	中間試験	0%	定期試験	70%	その他	10%	期末試験に授業中の小テスト、出席点を加えて評価します。
課題・小テスト	20%										
レポート	0%										
中間試験	0%										
定期試験	70%										
その他	10%										

テキスト	
<input checked="" type="checkbox"/> テキストを使用する <input type="checkbox"/> レジユメを使用する <input type="checkbox"/> 未定（最初の授業で指示する）	保育士養成講座編集委員会 社会福祉 全国社会福祉協議会

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
発達心理学	2	1	前期開講	島 義弘

テーマ	発達心理学についての基本的な知識を身に付けるとともに、“発達”という観点からの人間理解を目指す。
-----	--

科目のねらい	<p>【キーワード】発達心理学 認知・言語 社会・情動 生涯発達 生涯発達</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>発達という観点からの人間理解を目指す。人間は常に発達・変化をし続ける存在であり、年齢や発達段階に応じて多様な特徴を見せる。講義では認知・言語に関する領域、社会・情動に関する領域・生涯発達と発達障害に関する領域の3つを大きな枠組みとして、各回の講義ではそれぞれの領域の中から1つずつテーマを絞って解説していく（横系）。受講生には15回の講義を通じて発達段階ごとの特徴の理解を求める（縦系）。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>発達心理学の基本的な知識を身に付ける。</p> <p>“発達”という観点から人間の心や行動について考えることができる。</p>
--------	---

授業のながれ	
イントロダクション：人間の発達とは	
第I部（人間発達論概論）：身体と運動の発達	
第II部（認知・言語の発達）：認知の発達	
第II部（認知・言語の発達）：言語の発達	
第II部（認知・言語の発達）：知能と思考の発達	
第II部（認知・言語の発達）：記憶の発達	
第II部（認知・言語の発達）：乳児の能力	
第III部（発達障害）：発達の遅れと障害	
第IV部（社会・情動の発達）：情動の発達	
第IV部（社会・情動の発達）：気質・性格	
第IV部（社会・情動の発達）：社会性の発達	
第IV部（社会・情動の発達）：親子関係・仲間関係の発達	
第IV部（社会・情動の発達）：自己の発達とアイデンティティ	
第V部（生涯発達）：老年期の発達	
まとめ：改めて、人間の発達とは	

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>・講義で使用するレジュメをインターネットからダウンロードできるようにするので、受講者は事前に印刷して予習をし、講義に持参する（アドレスは初回講義時に連絡する）。・毎時、小テストもしくはグループディスカッションを行うので予習・復習を欠かさないこと。・講義中の私語や携帯電話等の使用には厳しく対処する。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p> <p>特になし</p>
-------------------	--

成績評価の方法											
<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>15%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>15%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>55%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>15%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	15%	レポート	15%	中間試験	0%	定期試験	55%	その他	15%	講義への参加・貢献、小テスト、定期試験で評価する
課題・小テスト	15%										
レポート	15%										
中間試験	0%										
定期試験	55%										
その他	15%										

テキスト	
<input checked="" type="checkbox"/> テキストを使用する <input type="checkbox"/> レジュメを使用する <input type="checkbox"/> 未定（最初の授業で指示する）	本郷一夫 シードブック発達心理学—保育・教育に活かす子どもの理解— 建帛社

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
保育職論	2	1	後期開講	宍戸 洋子

テーマ	保育者の職務内容を明らかにし、保育者のいきがいとめざす保育者像を学ぶ
-----	------------------------------------

科目のねらい
--------

<p>【キーワード】 保育者のいきがい めざす保育者像 職務内容 進路選択 進路選択</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>保育者の役割を幼稚園教育要領、保育所保育指針から学び、どう幼児に関わり指導、援助していくか、各年齢の保育実践をもとに具体的に検討する。さらに、保育者としての専門性と心豊かな人間性を身につけるため、専門書をはじめ絵本、童話、小説と幅広いジャンルを通して子どもを捉える目を養い、教材研究をする。併せて、保育者の職務内容を学習し、保育者としての自覚と責任をもち、教育現場、保育現場の実態を把握し、進路選択について考え学び合っていく。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育者の職務内容を理解し、保育者のいきがい、めざす保育者像を明らかにすることができる。</li> <li>2. 子どもの発達を理解し、保育技術を学び、保育者としての専門性を高めることができる。</li> <li>3. 保護者への子育てを支援する役割と具体的な方法を学ぶことができる。</li> <li>4. 教育現場、保育現場の実態を把握し、進路選択について考えることができる。</li> </ol>
---

授業のながれ
--------

1. ガイダンス、授業の概要、授業方針
2. 幼稚園教育要領にみる保育者の仕事と役割
3. 保育所保育指針にみる保育者の仕事と役割
4. 保育者の仕事と役割（教育計画、環境構成）
5. 保育者の専門性（乳児の発達と指導、援助）
6. 保育者の専門性（幼児の発達と指導、援助）
7. 保育者の専門性（教材研究）
8. 問題をかかえる子の指導、援助
9. 保護者への子育て支援
10. 職務内容の理解（研修）
11. 職務内容の理解（サービス、身分保障等）
12. 進路選択（幼稚園）
13. 進路選択（保育所）
14. 学校、地域、社会と保育者のかかわり
15. まとめ、保育者の意義と役割、職務内容の理解、進路選択

学ぶ上での注意・担当教員からの希望
-------------------

<p>保育者としての専門性と心豊かな人間性を身につけるため、専門書をはじめ絵本、童話、小説と幅広いジャンルの本を読み、子どもを捉える目を養ってほしい。また、教育現場、保育現場に積極的に足を運び、自分の目で保育者の役割とやりがいを学んでほしい。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p> <p>「保育論」 「教職入門」 「保育内容総論」 「保育内容研究」 「保育方法論」</p>
---

成績評価の方法	
課題・小テスト	0%
レポート	50%
中間試験	0%
定期試験	50%
その他	0%

レポート試験、出席状況と共に、毎授業の「小見出し文」、受講態度を総合的に評価する。

テキスト
------

<input checked="" type="checkbox"/> テキストを使用する <input type="checkbox"/> レジュメを使用する <input type="checkbox"/> 未定(最初の授業で指示する)	宍戸洋子・勅使千鶴 子どもたちの四季 ひとなる書房
--	---------------------------

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
保育原理	4	1	通年開講	亀谷 和史

テーマ	保育・幼児教育の原理と人間形成——発達援助・子育て支援の課題——
-----	----------------------------------

科目のねらい	<p>【キーワード】 保育 発達 保育内容の構造 保育者の専門性 保育者の専門性 子育て支援</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>この講義は、3部構成で進める。第1部は、現代の保育・幼児教育と子育て支援の課題をより深く理解していくうえで、まず人間形成という幅広い視点から保育の原理的な考察をおこなっていく。すなわち子育て・保育をおこなっていくうえで、前提として考えておかなければならない人間の生物学的・社会的特質や、成熟・学習・発達の捉え方、社会的環境と教育の可能性などについて学んでいく。第2部では、保育内容・方法の基礎理論や、保育計画、保育者の専門性、「保育実践力」など、保育園・幼稚園での保育活動を実践に即して取り上げる。また保育・幼児教育の歴史や思想についてもふれていく第3部では、今日の保育・幼児教育制度の現状と課題、子育て支援政策の動向を概観しつつ、その課題について検討をおこなっていく。少子化の進行、経済効率優先の社会状況のなかで、深刻な子育て不安や虐待、子育て困難な生活実態等、様々な問題が噴出しているが、こうした諸問題への解決に向けて、&lt;子どもの権利&gt;の視点から考察していく。</p> <p>&lt;学習目標&gt; ・乳幼児の発達理解と保育学の基礎知識・理論を理解し、習得する。 ・保育内容・方法と保育計画、保育園・幼稚園での保育活動の実際について深める。 ・保育所・幼稚園の制度と子育て支援制度の動向・課題を学ぶ。</p>
--------	--

授業のながれ	
はじめに（開講に当たって）——日本の保育施設の概要	日本の保育・幼児教育思想の展開①
子育て・保育の原点——誕生と出産	西欧の保育・幼児教育思想の展開②
子育てと保育の定義と保育の専門性	子どもの権利と保育・教育への権利
子ども観の歴史と子育ての習俗	「早期教育」の問題点と課題——その社会的背景を問う
人間発達の生物学的特質と保育・教育	母子関係論と集団保育——保育の社会化
人間発達における社会的環境の重要性と保育・教育	女性の働く権利と子育て・保育
乳児期の発達と保育の原理①	父親の子育て参加と家族支援
乳児期の発達と保育の原理①	少子化と子育て支援政策の課題①
乳幼児の発達と保育の原理③	少子化と子育て支援政策の課題②
保育園・幼稚園での保育計画と保育活動	保育制度「改革」の問題点と課題①
改定「保育所保育指針」と「幼稚園教育要領」	保育制度「改革」の問題点と課題②
保育実践の展開①——保育構造論の検討	幼保一元化への歴史と課題
保育実践の展開②——基本的な生活とあそび	幼保一元化への課題と展望
保育実践の展開③——課題活動（課業）の取り組み	レングの子どもから学ぶ
保育者の専門性と保育実践力	1年間のまとめ

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>この講義は、子ども発達学科の基幹科目であり、将来、保育・幼児教育分野に進む人（保育士・幼稚園教諭をめざす人）の資格・免許の必修科目です。が、将来、自分が親になったとき、自分自身の子育てのために学んでおきたいと思っている人、あるいは教育分野（教職）・児童福祉分野をめざす学生にもお勧めします。1年生配当なので、できるだけ入門的にやりたいとは思いますが、保育士資格・幼稚園免許状を取得する人向けの必修専門科目なので、かなりの予復習が求められます。保育者の専門性は、近年、ますます高度なレベルが求められていますので、心して受講してください。（考え、理解することと基礎知識の獲得（「暗記」）の両方が求められます。） 毎回、プリント・資料を配布して進めますので、ファイルして保存していただきます。適宜、ビデオ教材を活用し、ミニ・レポート等を課します。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt; 保育士資格必修科目のすべて。</p>
-------------------	--

成績評価の方法											
<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>80%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>0%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	10%	レポート	10%	中間試験	0%	定期試験	80%	その他	0%	学年末に筆記試験を行う。出席点・ミニ・レポート、前期レポート等を加味して、年度末に総合的に評価する。
課題・小テスト	10%										
レポート	10%										
中間試験	0%										
定期試験	80%										
その他	0%										

テキスト	
<input checked="" type="checkbox"/> テキストを使用する <input checked="" type="checkbox"/> レジュメを使用する <input type="checkbox"/> 未定（最初の授業で指示する）	『現代保育と子育て支援』 亀谷和史編著 （八千代出版）

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
小児保健 I	2	1	後期開講	石川 達也

テーマ	子どもの特徴を理解し、生命（いのち）を守り健康を増進する
-----	------------------------------

科目のねらい	<p>【キーワード】生命（いのち）と健康 成長と発達 事故と応急処置 感染症と予防接種 感染症と予防接種 子どもの病気とその予防</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>子どもの特徴は成長と発達にあり、おとなとはまったく異なった生理と病態を示す。子どもの生理機能、そして、病気の成因がおとなのそれと大きく異なるのは、発達の各時期に特有な外的（環境）要因と生命進化の具体的な表現である内的（遺伝的）要因が互いに連関して変化していくからである。総論において、この成長発達のダイナミズムとその過程で生ずる病態を、各論においては、麻疹（はしか）など子どもによく見られる種々の病気および事故について理解が深まるよう解説する。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>この講義を通して、学生諸君に、小児医学的なものの見方・センスを身につけてもらうこと。</li> <li>学生諸君が、将来、「保育・育児」や「特別支援教育」などに携わる際に必要となる小児保健学（子どもの生命を守り、健康を増進する医学）の基本的知識と考え方を身につけること。</li> </ol>
--------	---

授業のながれ
オリエンテーション；小児保健の基本（第1章）、身体発育（第2章）
身体発育（第2章）
生理機能（第3章）
運動機能（第4章）
精神発達・栄養・生活・委託保育（第5－9章）
新生児（第10章）
思春期（第11章）
健康と病気、異常（第12章）
事故と応急処置（第13章）
感染症と予防接種①（第14章）
感染症と予防接種②
小児期の病気①（第15章）
小児期の病気②
小児期の病気③；母子保健の現状（第16章）、母子保健行政（第17章）
復習とまとめ

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<ol style="list-style-type: none"> <li>テキストは開講までに必ず購入し、講義時に持参すること。第1回目講義（9/22 予定）から使用する。</li> <li>講義中の私語・飲食は絶対禁止。携帯電話の電源を必ず切っておくこと。</li> <li>限られた時間で多くのことを学ぶために、前もって対応する各章の予習をしておくことが望ましい。講義中の積極的な質問を歓迎する。また、講義ごとの復習が必要であり、講義推薦図書も大いに利用して頂きたい。</li> <li>小児保健に関わる情報を、新聞などで日ごろからキャッチし、自分なりに考えること。</li> </ol> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p> <p>「発達心理学」、「小児栄養」および他の子どもや医学に関連した科目の受講を薦める。</p>
-------------------	--

成績評価の方法											
<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>80%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>10%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	0%	レポート	10%	中間試験	0%	定期試験	80%	その他	10%	定期筆記試験の成績を基本とする。
課題・小テスト	0%										
レポート	10%										
中間試験	0%										
定期試験	80%										
その他	10%										

テキスト	<input checked="" type="checkbox"/> テキストを使用する <input type="checkbox"/> レジュメを使用する <input type="checkbox"/> 未定（最初の授業で指示する）	今村榮一・巷野悟郎 編 『新・小児保健 第13版』（2010年発行） 診断と治療社
------	--	---



科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
教育心理学概論 (幼小)	2	1	前期開講	小平 英志

テーマ	教育心理学の知見に触れ、乳幼児・児童との教育的なかかわりについて学ぶ
-----	------------------------------------

科目のねらい	<p>【キーワード】教育 教授・学習 発達</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>本講義では、人と教育的にかかわる上で重要な教育心理学的知見に触れていく。①学習のメカニズムに関する基礎、②乳幼児・児童の個性の理解、③教授・学習や具体的な教育行動、④評価と教育の情報化、⑤教育心理学にかかわる今日的課題の5つを柱として授業を進行する。授業では、具体的な事例や実験を織り交ぜていく予定である。授業の内容を受講生が自らの経験と結びつけていくことをねらいとしたい。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>教育心理学の基礎知識を習得し、教育的なかかわりについて自分なりの考えを持つことができる</p> <p>教育における今日的課題を理解する</p>
--------	--

授業のながれ	
ガイダンス・教育心理学入門	
学習のメカニズム①：記憶の仕組み	
学習のメカニズム②：学習の基礎と条件づけ	
学習のメカニズム③：動機づけと欲求	
個性の理解①：乳幼児・児童期の発達	
個性の理解②：パーソナリティ 1	
個性の理解③：パーソナリティ 2	
個性の理解④：知的能力と創造性	
教授・学習の方法①：クラス集団・仲間関係・教師－子ども関係	
教授・学習の方法②：教授・学習の方法と教授スキル	
教授・学習の方法③：教師の資質とミクロな教授行動	
評価と教育の情報化①：教育評価	
評価と教育の情報化②：教育の情報化と教育工学	
教育心理学に関わる今日的課題	
総括	

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>現在までに自分が受けた教育の経験を思い出しながら授業を聴いてもらいたい。評価では定期試験の結果を重視するので、特に復習をしっかりと行うこと。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p>
-------------------	---

成績評価の方法											
<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>70%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>20%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	10%	レポート	0%	中間試験	0%	定期試験	70%	その他	20%	課題・小テスト 10%、授業態度 20%、定期試験 70%の割合で評価をする。
課題・小テスト	10%										
レポート	0%										
中間試験	0%										
定期試験	70%										
その他	20%										

テキスト	<input type="checkbox"/> テキストを使用する <input checked="" type="checkbox"/> レジュメを使用する <input type="checkbox"/> 未定(最初の授業で指示する)
------	--



科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
教育心理学概論 (中高)	2	1	前期開講	小平 英志

テーマ	教育心理学の知見に触れ、人との教育的なかかわりについて学ぶ
-----	-------------------------------

科目のねらい	<p>【キーワード】教育 教授・学習 発達</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>本講義では、教育心理学の基礎とその応用を扱う。教育心理学という学問には、教育に関する事柄のみならず、人間の行動や人間関係全般を理解する上で非常に示唆的な知見が含まれている。ここでは、人間について考えるためのいくつかの視点を提供したい。最終的に、教育を日常生活と連続したものとして位置づけることができればと考えている。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>教育心理学に関する基礎知識に触れることで教育的なかかわりとは何かを考える。 知識をもとに自らの日常生活や過去の経験を捉えなおす。</p>
--------	--

授業のながれ	
ガイダンス・教育心理学入門	
乳幼児期から児童期の発達	
青年期以降の発達	
記憶と忘却	
学習の基礎と条件づけ	
動機づけと欲求	
パーソナリティの理解 1	
パーソナリティの理解 2	
知的能力と創造性	
学級集団の理解	
教授・学習の技法	
教育と学習の評価	
教育心理学に関連する今日的課題 1	
教育心理学に関連する今日的課題 2	
総括	

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>現在までに自分が受けた教育の経験を思い出しながら授業を聴いてもらいたい。評価では定期試験の結果を重視するので、特に復習をしっかりと行うこと。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p>
-------------------	---

成績評価の方法											
<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>70%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>20%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	10%	レポート	0%	中間試験	0%	定期試験	70%	その他	20%	課題・小テスト 10%、授業態度 20%、定期試験 70%の割合で評価をする。
課題・小テスト	10%										
レポート	0%										
中間試験	0%										
定期試験	70%										
その他	20%										

テキスト	<input type="checkbox"/> テキストを使用する <input checked="" type="checkbox"/> レジュメを使用する <input type="checkbox"/> 未定(最初の授業で指示する)
------	--

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
保育内容総論	2	1	前期開講	東内 瑠里子

テーマ	乳幼児の発達と保育内容との関連、子どもの発達を保障するための保育内容のあり方、保育者による指導援助のあり方、保育内容の歴史的変遷、保育内容の指導計画への内包のされ方
-----	--

科目のねらい	<p>【キーワード】 保育内容 乳幼児の発達 指導援助 指導計画 指導計画 保育者の役割</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>幼稚園教育要領、保育所保育指針の解説を行い、5領域の考え方、子ども理解の視点、保育者の役割、指導計画作成の基本など、保育にあたる際の基本的な考え方を様々な角度から学び、実際の保育場面の状況に応じた保育者の行動の取り方について考察する。その際、幼稚園・保育所を取り巻く地域や家庭と子どもの育ちとの関係をも視野に入れる。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>乳幼児期から学童期への発達・生活の基本を学ぶ。</p> <p>保育者の役割や現代の保育課題をつかみ、保育所・幼稚園の実際を知る。</p> <p>保育内容の歴史的変遷について理解する。</p> <p>保育内容の総合性、保育理念と計画および実践の関係について学ぶ。</p>
--------	---

授業のながれ	
保育内容とはなにか①	
保育内容とはなにか②	
保育内容の歴史的変遷①	
保育内容の歴史的変遷②	
発達のとらえ方と保育内容	
保育内容における遊びの意味	
保育の一日と内容	
乳児・低年齢児の生活と保育内容	
3歳児の園生活	
4歳児の園生活	
5歳児の園生活	
現代社会と保育内容の課題	
さまざまな保育課題と保育内容①	
さまざまな保育課題と保育内容②	
まとめ	

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>教科書は、毎時おおよそ1章進む。分量が多いため予習が必要。またほぼ毎時レポートがあるので、その回に書けなかった場合は、授業以外の時間にまとめておくこと。「A4 ノート」1冊準備（20枚とじ以上、種類は何でも可）</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p> <p>「保育実習Ⅰ-1」 「保育内容研究Ⅲ」</p>
-------------------	---

成績評価の方法											
<table border="0"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>20%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	0%	レポート	40%	中間試験	0%	定期試験	40%	その他	20%	<p>成績評価の基準は、本授業を真摯に受講した場合のおおよその目安である。出席状況や受講態度がよろしくない場合単位は認められない。成績評価は、レポート、試験、出席状況と受講態度等を勘案して総合的に行う。</p>
課題・小テスト	0%										
レポート	40%										
中間試験	0%										
定期試験	40%										
その他	20%										

テキスト	
<input checked="" type="checkbox"/> テキストを使用する <input checked="" type="checkbox"/> レジュメを使用する <input type="checkbox"/> 未定（最初の授業で指示する）	森上史朗・大豆生田啓友・渡辺英則編 保育内容総論 ミネルヴァ書房

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
保育内容研究Ⅰ（からだと健康）	2	1	前期開講	山本 秀人

テーマ	領域「健康」と運動発達・認識発達
-----	------------------

科目のねらい	<p>【キーワード】健康 運動発達 認識発達 ことばの発達 ことばの発達 教科内容と教材</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>乳幼児期の子どもたちの心と体の健康は、相互に密接な関連をもっており、人や物などとの多様なかわりあいのなかで伸び伸びと体を動かして遊ぶことにより、諸機能の発達が促されます。さらに、遊びを体験していくなかで体を動かす楽しさを味わい、安全について考え、自分の体について認識するようになってきます。本講義においては、子どもたちの健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくりだすための、幼稚園・保育所における領域「健康」のあり方について考えていきます。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>領域「健康」の内容について理解し、からだと健康の関係について説明できる。</p> <p>運動発達と認識発達のすじ道について理解し、それらの関係を説明できる。</p> <p>「教科内容」と「教材」について理解し、それらの関係を説明できる。</p>
--------	--

授業のながれ	
オリエンテーション 子どもたちをめぐる状況	
保育をめぐる状況	
領域「健康」とは 健康な心と体とは	
乳幼児期の運動発達と認識発達（0歳児）	
乳幼児期の運動発達と認識発達（1歳児）	
乳幼児期の運動発達と認識発達（2歳児）	
乳幼児期の運動発達と認識発達（3歳児）	
乳幼児期の運動発達と認識発達（4歳児）	
乳幼児期の運動発達と認識発達（5歳児）	
「教科内容研究」と「教材研究」①	
「教科内容研究」と「教材研究」②	
「できる」「わかる」「集団認識」	
教材選択とその科学的・系統的な指導法①	
教材選択とその科学的・系統的な指導法②	
今後の実践課題	

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>毎時間ミニレポートを書いてもらいます。必要に応じて講義に反映させます。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p> <p>体育</p>
-------------------	--

成績評価の方法											
<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>70%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>0%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	0%	レポート	10%	中間試験	20%	定期試験	70%	その他	0%	定期試験、毎時間書いてもらうミニレポート、出席状況にもとづいて総合的に評価します。
課題・小テスト	0%										
レポート	10%										
中間試験	20%										
定期試験	70%										
その他	0%										

テキスト	
<input type="checkbox"/> テキストを使用する <input checked="" type="checkbox"/> レジュメを使用する <input type="checkbox"/> 未定（最初の授業で指示する）	

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
保育内容研究Ⅱ（仲間と交わり）	2	1	前期開講	クラス

テーマ	子どもの発達と仲間づくりについて
-----	------------------

科目のねらい
--------

<p>【キーワード】子どもと発達 子ども観 人とのつながり 仲間づくり 仲間づくり</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>「人間関係」について理解を深めるために、発達年齢にあわせたさまざまな保育教育実践例から学び保育の展望を明らかにする。人と人のつながりが乳幼児期から始まり、また、過去の時代では、地域のなかで子育てされていたことも学ぶ。子どもと保育者、保護者も含めて人を信頼しあうことの大切さを理解するようにする。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>人間は、本来人とつながり助け合いながら生活を営んできた。保育を学ぶ学生たちが、授業を通して、子どもが、乳幼児期から自分以外の人たちとのつながりや存在を理解することは、その後の生活にとって大切なことであることを学んでほしい。現代は、学生を含めてあそびの体験が乏しくなっているが、楽しく遊ぶことで子どもたちは生き生きしてくる様子を、さまざまな保育教育実践例から学び、人と人のつながりの大切さについて理解を深めるようにしたい。</p> <p>さまざまな遊びを通して、子どもたちが楽しく遊び、集団生活を充実させることができるようにするための方法を学ぶ。</p>
---

授業のながれ
--------

1. 幼稚園教育要領から「人間関係」について学ぶこと 現代の子どもたちは
2. 子ども観の変遷と日本の幼児教育の歴史の概観について
3. 子どもの発達にとって人との交わることの意義について
4. 交わりのもとになるあそびとは何か・・0、1 歳児
5. 各年齢のあそびの展開例とその指導法について・・・2 歳児
6. 各年齢のあそびの展開例とその指導法について・・・3 歳児
7. 各年齢のあそびの展開例とその指導法について・・・4、5 歳児
8. 子どもの集団生活、各年齢の子どもの生活と集団のありかたについて実例から・0、1 歳児
9. 子どもの集団生活、各年齢の子どもの生活と集団のありかたについて実例から・・2 歳児
10. 子どもの集団生活、各年齢の子どもの生活と集団のありかたについて実例から・・3、4 歳児
11. 子どもの集団生活、各年齢の子どもの生活と集団のありかたについて実例から・・・5 歳児
12. あそびや集団生活発展させるための保育者の役割について
13. 子ども像・保育者像について
14. 保育者・保護者との人間関係について
15. まとめ

学ぶ上での注意・担当教員からの希望
-------------------

<p>・近くで乳幼児を見かけたら、その様子を観察しよう。親子・祖父母連れを見かけたらそのやり取りを観察しよう。 ・乳幼児とあそぶ機会を持とう。 ・保育の実践記録を読もう。幼稚園教育要領を使用する。 その都度、必要なプリントを作成する。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p> <p>「発達心理学」 「保育原理・教育原理」 「保育職論」 「保育内容・環境」 「幼児教育指導法」</p>
---

成績評価の方法	
課題・小テスト	0%
レポート	40%
中間試験	0%
定期試験	60%
その他	0%
講義中必要に応じて出したりポート（40点）。 テスト（60点）。	

テキスト
------

<input type="checkbox"/> テキストを使用する <input checked="" type="checkbox"/> レジュメを使用する <input type="checkbox"/> 未定（最初の授業で指示する）
--

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
音楽 I	2	1	通年開講	クラス

テーマ	幼児教育の教材となる歌や易しい器楽曲などを読み取る為に、最低限必要な音楽の知識・基礎理論を学ぶ
-----	---

科目のねらい	<p>【キーワード】音楽の知識 基礎理論 鍵盤楽器の奏法</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>幼稚園の教員や保育士になるためには（なっってから）、楽譜の読み書き演奏をする力が求められます。その為に、最低限必要な音楽の基礎知識を、子どもの歌や皆さんの身近な音楽を題材に学んでいきます。その上で、音楽を更に楽しむ為の理論・読譜力・演奏（楽典）の基礎を習得していきます。各個人の能力に応じた授業を行います。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 楽譜の読み書きができる。</li> <li>2. 音楽の基礎知識（楽典）が理解できた上で、音楽を聴いたり奏でたりすることができる。</li> </ol>
--------	---

授業のながれ	
鍵盤楽器の奏法・歌唱表現の基礎（音楽学習の調査とグループ分け）	音楽理論の基礎・記譜に関する理論（1）
鍵盤楽器の奏法（1）	記譜に関する理論（2）
鍵盤楽器の奏法（2）	音程（1）
鍵盤楽器の奏法（3）	音程（2）
鍵盤楽器の奏法（4）	音階（1）
歌唱表現（1）（鍵盤楽器の奏法含む）	音階（2）
歌唱表現（2）（鍵盤楽器の奏法含む）	和音（1）
歌唱表現（3）（鍵盤楽器の奏法含む）	和音（2）
学習を総合しての器楽アンサンブル（1）	リズム、楽譜に関する記号と表記（1）
学習を総合しての器楽アンサンブル（2）	リズム、楽譜に関する記号と表記（2）
学習を総合しての器楽アンサンブル（3）	実際の楽譜（1）
音楽をさく活動	実際の楽譜（2）
子どもの歌	実際の楽譜（3）
動きとリズム・まとめ（1）	まとめ（1）
まとめ（2）	まとめ（2）

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>五線譜のノートを各自忘れずに用意してきて下さい。前期では、主に各個人のレベルに合わせた課題をだします。個々でだされた課題がクリアできるように、授業外の地道な学習を心がけて下さい。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p> <p>「音楽Ⅱ」と関連しています。</p>
-------------------	--

成績評価の方法											
<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>70%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>30%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	70%	レポート	0%	中間試験	0%	定期試験	0%	その他	30%	前期・後期の最後に行うまとめ（70点）、その他の受講態度（20点）、出席（10点）から評価を行う。
課題・小テスト	70%										
レポート	0%										
中間試験	0%										
定期試験	0%										
その他	30%										

テキスト	
<input checked="" type="checkbox"/> テキストを使用する <input type="checkbox"/> レジユメを使用する <input type="checkbox"/> 未定（最初の授業で指示する）	阪井恵 小山真紀 木暮朋佳 中里南子 五線譜の約束 明星大学出版部

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
保育方法論 I	2	1	後期開講	勅使 千鶴

テーマ	保育実践における指導－子どもの把握のしかたを中心に
-----	---------------------------

科目のねらい	<p>【キーワード】幼稚園 保育所 保育・教育実践記録 乳幼児の発達 子どもの把握のしかた 子どもの把握のしかた 子どもの指導のしかた</p> <p>&lt;内容の要約&gt;          保育所、幼稚園から小学校低学年までを視野に入れ保育・教育実践記録（ビデオや文章）を素材にして保育の方法（指導）の出発点である子どもの見方を学びます。実践記録を通して①乳幼児期の子どもの発達、②子どもの把握のしかた、③子どもの指導のしかたを学びます。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ビデオで実践の場面を書取り、再度ビデオを見てまとめた内容と実際とを確認します。これを意識して繰り返すことにより、子どものしぐさ、顔の表情、ことば、内面のいくつかを見えるようにします。</li> <li>2. 子どもの把握の仕方、指導のしかたを実践記録から学びます。</li> <li>3. 「意識して子どもを見る」ことができるようになるために、文章で記録された記録からも学びます。時には受講者同士のレポートの内容や意見交換をします。「I」を基礎にして3年前期開講の保育方法論Ⅱで指導のありかたを追求します。</li> </ol>
--------	---

授業のながれ	<ol style="list-style-type: none"> <li>1回 1. 保育実践研究をすすめるために</li> <li>2回 2. 子どもの把握のしかた 1) 子どもと子どもをとりまく社会や生活の変容と実践</li> <li>3回 2) 子どもへの見方（保育・教育の実践 記録＝文章、ビデオ記録をてがかりに）</li> <li>4回 ・2歳児クラスの給食の場面から －「同じ」と言っている意味は何か（レポート）</li> <li>5回 ・3歳児クラスの給食の場面から（レポート）</li> <li>6回 ・4歳児クラスのおそびの場面から（レポート）</li> <li>7回 ・5歳児クラスのけんかの場面から（レポート）</li> <li>8回 3) 子どものみかた（その1）①子どもは大人の影響を受ける ②子どもの気持ちになってみる ③子どもの内面を読みとる</li> <li>9回 4) 子どもの発達への見方 ①保育実践のなかでの「発達」のみかた－子どもはジグザグしながら発達する</li> <li>10回 ②「できる」「できない」をどのようにみるか</li> <li>11回 5) あらためて「子どもの把握のしかた」を考える</li> <li>12回 6) 子どもの把握と指導のしかたの関係を考える保育園の実践を手がかりに（レポート）</li> <li>13回 3. 応用編－宮園小学校の教育実践から学ぶ</li> <li>14回 4. 応用編－アトム共同保育所の実践から学ぶ</li> <li>15回 5. 子どもの把握のしかた－まとめ</li> </ol>
--------	---

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義で提示する実践記録を読むこと。</li> <li>2. 付属図書館にある「実践記録」（ビデオ版）を見ることを勧めます。</li> <li>3. 毎回、プリントや資料を配布するので、保存し、講義の時に持参してください。</li> <li>4. 幼稚園や保育所でボランティアや手伝いをして、乳幼児と接触する機会を積極的に持つことを勧めます。レジュメは受講者数しか印刷しないので、自分のプリントや資料を大切に保存し、持参してください。</li> </ol> <p>&lt;本科目の関連科目&gt; 「発達心理学」「保育論」「保育内容総論」</p>
-------------------	--

成績評価の方法											
<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>80%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>0%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	0%	レポート	20%	中間試験	0%	定期試験	80%	その他	0%	①期末の試験が80点。②それに、講義中に「ビデオを見て書き取る」レポートが20点です。
課題・小テスト	0%										
レポート	20%										
中間試験	0%										
定期試験	80%										
その他	0%										

テキスト	<input type="checkbox"/> テキストを使用する <input checked="" type="checkbox"/> レジュメを使用する <input type="checkbox"/> 未定（最初の授業で指示する）
------	--



科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
初等教育原理	2	1	後期開講	亀谷 和史

テーマ	「教育的な営み」と人間形成——子どもの発達と学校教育の課題
-----	-------------------------------

科目のねらい	<p>【キーワード】教育の本質 子どもの権利 教育を受ける権利 学力 学力 競争原理</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>この講義は、初等教育の教員を目指すものが、教員の資質として、また教職教養として身につけておかなければならない教育の理念、歴史・思想の基礎を幅広い視野から学ぶ。とくに人間形成・発達の視点から、あらためて教育を広く「教育的な営み」と捉え返しつつ、教育の本質とは何かを考えていく。「教育的な営み」は、人類史的な視座からみると古代以前より始まったといえよう。それは、生物学的には、遺伝的生得的な行動様式をまねがれた存在として、先行する世代から広義の「文化遺産」を受け継いでいく営みであり、また子どもの発達からみれば、「社会化（社会適応）」と「個性化（主体形成）」の統一的なプロセスである。近代以降、学校は、公教育制度として確立してきたが、子どもの保護と「教育を受ける権利」の保障が行われると同時に、学校が「生活」や「職業（生産）」の場から切り離され、学歴主義・競争主義など、新たな問題が生じている。現代の教育問題は、複合的で解決困難な課題ではあるが、教育の歴史や先人の教育思想等を学ぶと同時に、その解決の糸口を探っていきたい。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>「教育的な営み」について人間形成や発達の視点から深める</p> <p>教育の理念やわが国及び外国の歴史・思想について学ぶ</p> <p>特に現代社会における子どもの発達・人間形成の問題状況、課題について学ぶ</p>
--------	---

授業のながれ	
講義にあたって：教育原理で学ぶこと	
教育とは何か：これまで受けてきた教育を振り返って	
日本の学校教育制度と基本法制	
保育園・幼稚園・小学校の接続と連携	
小学校生活科と幼児の協同的学び	
学校教育と家庭教育	
教育の権利と義務：日本国憲法と教育	
学力とは何か	
授業作り：模擬授業に挑戦①	
授業作り：模擬授業に挑戦②	
子どもの権利条約と子どもの育ち①	
子どもの権利条約と子どもの育ち②	
子どもの権利条約と子どもの育ち③	
教師の資質と専門性（亀谷和史）	
まとめ～講義全体を振り返って～	

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>これまで受けてきた教育を振り返り、対象化していくと同時に、学校教育の基礎知識と現代の教育問題を現代社会との関連で深めていってほしい。自ら主体的に考えて学んでいってほしい。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p>
-------------------	--

成績評価の方法											
<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>80%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>10%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	0%	レポート	10%	中間試験	0%	定期試験	80%	その他	10%	毎回の出席とミニ・レポートを加味し、最終回の筆記試験を行い、総合的に評価する。
課題・小テスト	0%										
レポート	10%										
中間試験	0%										
定期試験	80%										
その他	10%										

テキスト	<p><input type="checkbox"/> テキストを使用する</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> レジュメを使用する</p> <p><input type="checkbox"/> 未定（最初の授業で指示する）</p>
------	---

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
教職入門（幼・小）	2	1	前期開講	高須 和博

テーマ	教員の職務と生きがい
-----	------------

科目のねらい
--------

【キーワード】子どもの生活と学校 教員のしごと 「教育改革」のなかの教員 教員の地位・身分 求められる教員像と教員の生きがい 求められる教員像と教員の生きがい 教員の養成と採用

<内容の要約>

矢継ぎ早の「教育改革」のなかで、教育現場は大揺れの状態にあります。この科目は、「教育改革」の現状を見据えながら、教職をめざす皆さんに、教員の仕事や学校現場の実態、教員に求められる資質とは何か、などを、現場の先生方の教育実践や体験談を交えながら、理解を深め、探求します。また、古今東西の優れた教育思想や教師像を紹介し、教職に求められる人間的資質や実践的指導力について考え、その基礎となる力を自ら養う態度を育て、教職への思いを高めることをねらいとします。

<学習目標>

- 1、子どもと学校が今どうなっているのか、認識を深め、問題意識を育てる。
- 2、「教育改革」に揺れる教育・学校現場の現状を理解し、幅広い視野から物事を見る 目と確かな教育・教員観を育てる。
- 3、教職への目的意識を高め、教員として求められる資質・能力とは何か把握する。

授業のながれ	
1、はじめに 「教職入門」の内容と展開について	課題 1
2、教員養成の歴史としくみ	
3、子どもの生活と学校	
4、教員のしごと（1）	
5、教員のしごと（2）	課題 2
6、教育活動の実際 ①子どもの言葉・表現の発達を育てる（外部講師）	
7、同 ②障害児の発達を支える（外部講師）	
8、同 ③思春期の生徒とかかわる（外部講師）	
9、不登校・いじめについて	課題 3
10、教育活動の実際 ④いじめ問題を考える（外部講師）	
11、同 ⑤福祉の視点から教職を考える（外部講師）	
12、「教育改革」のなかの学校・教員	課題 4
13、専門職としての教員 教員の地位と身分	
14、教員の研修	
15、まとめ 「私がめざす教員像」	課題 5

学ぶ上での注意・担当教員からの希望
-------------------

1、教員として現場に立ったとき、児童や生徒に求める学習態度とは何かを考えて講義に臨んでください。2、講義のなかで、適宜、課題を提示し、報告、小論文、感想文の提出を求めます。3、教員にとって大切な資質は、幅広い教養・見識と豊かな人間性、社会性です。たくさんの本を読み、多くの人と交わり、豊かな経験をつみましょう。4、講義で配布されたプリントは各自でファイルしてください。また、講義のなかで紹介された文献は、積極的に目を通してください。

<本科目の関連科目>

「教育原理」「教育心理学」「発達心理学」「教育方法論」「教育史」「障害児教育方法論」「学習指導論」「生徒指導論」「哲学」などの教育諸学・教職課程科目

成績評価の方法		報告・小論文・感想文などの課題に加え、出席点、受講中の発言やマナー、定期試験結果を、左記の配分に従って総合的に評価する。定期試験の形態については後日連絡する。
課題・小テスト	20%	
レポート	0%	
中間試験	0%	
定期試験	70%	
その他	10%	

テキスト
<input type="checkbox"/> テキストを使用する <input checked="" type="checkbox"/> レジュメを使用する <input type="checkbox"/> 未定（最初の授業で指示する）

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
国語科研究	2	1	後期開講	小林 信次

テーマ	学習指導要領の示される国語科の教育内容に基づき、教科書の教材とはどのようなものかについて理論的に追求するとともに、具体的な教材を対象として分析・考察していく
-----	--

科目のねらい	<p>【キーワード】国語の教科書研究 文学・説明文の読み 教材研究と授業 模擬授業と学習集団 模擬授業と学習集団 教師としての力量</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>国語の教材は、話すこと・聞くこと、書くこと、読むこと、の能力を養うためのものである。本授業では、教材の分析や比較研究を通じて理解力・思考力・判断力を鍛え、種々の教材を適切に運用する方法・技術が習得できるように、国語教育の目的にふさわしい教材を選定し、工夫する能力を身に付けさせる。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>学習指導要領の示される国語科の教育内容に基づき、教科書の教材とはどのようなものかについて理論的に追求するとともに、具体的な教材を対象として分析・考察していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国語の指導要領解説を学びや教科書の教材が分析できるようにする。</li> <li>・文学作品・説明文の授業ができるようにする。</li> <li>・国語科としての全体像を理解し、教師としての資質が身に付くようにする。</li> </ul>
--------	---

授業のながれ	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス 1-授業の概要と進め方 『国語科授業研究』の進め方</li> <li>2. 小学校国語科教育における学習指導要領と教材研究の位置・意義</li> <li>3. 「音声言語」の教材研究 学生による『国語科授業研究』の発表</li> <li>4. 「文学作品」の教材研究 新美南吉と『ごんぎつね』</li> <li>5. 「説明文」の教材研究 宮沢賢治とその作品</li> <li>6. 「作文」の教材研究 松尾芭蕉と『奥の細道』</li> <li>7. 「言語事項」の教材研究 (書写を含む) 源氏物語と古典</li> <li>8. 「読書指導・読み聞かせ」の教材研究 近代文学より</li> <li>9. 関連教材づくりと教材研究の方法 外国文学より</li> <li>10. 国語科教材研究の実際①-模擬授業と授業</li> <li>11. 国語科教材研究の実際②-模擬授業と授業</li> <li>12. 国語科の基礎知識</li> <li>13. 文字の形、大きさ、配列などを理解しながら書く (書写を含む)</li> <li>14. 書写の指導法・毛筆用具の使い方の基本 (書写を含む)</li> <li>15. まとめ</li> </ol>
--------	---

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>教職課程の授業として、将来教師として生かされるように自らの学習と共同的な学習が積み重ねられるように参加してもらいたい。</p> <p>「国語科授業研究」のテキストについては、学生のまとめ・発表にも活用します。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p> <p>「国語科指導法」とも関連があります。</p>
-------------------	---

成績評価の方法	<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>20%</td> <td rowspan="5">出席、課題の提出 (小レポート)、中間・最終試験、受講態度から総合的に評価する。 授業の参加 授業のまとめの小レポート (随時) レポート (試験) などをもとに評価する。</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>10%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	20%	出席、課題の提出 (小レポート)、中間・最終試験、受講態度から総合的に評価する。 授業の参加 授業のまとめの小レポート (随時) レポート (試験) などをもとに評価する。	レポート	20%	中間試験	20%	定期試験	30%	その他	10%
課題・小テスト	20%	出席、課題の提出 (小レポート)、中間・最終試験、受講態度から総合的に評価する。 授業の参加 授業のまとめの小レポート (随時) レポート (試験) などをもとに評価する。										
レポート	20%											
中間試験	20%											
定期試験	30%											
その他	10%											

テキスト	<p>■テキストを使用する</p> <p>■レジュメを使用する</p> <p>□未定 (最初の授業で指示する)</p> <p>大熊 徹 塚田泰彦 小学校国語科授業研究 教育出版 文部科学省 小学校学習指導要領 東京書籍</p>
------	---

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
算数科研究	2	1	後期開講	渡辺 靖敏

テーマ	算数科の実践的問題点を踏まえ、教育課程編成能力を培う。
-----	-----------------------------

科目のねらい	<p>【キーワード】 学習指導要領 教育課程編成能力 量の理論 基礎学力・基本学力 基礎学力・基本学力</p> <p>&lt;内容の要約&gt;          世界一の学力を誇った日本の算数教育も、今や凋落の一途。学習内容は削られ、先進諸国よりも低水準に落ち込んでいる。何故、こんなことになってしまったのかを検証し、算数の学ぶ意義を考える。さらに、算数における「基礎・基本」とは何か。国民の共通教養として、期待される算数教育の内容を考える。</p> <p>&lt;学習目標&gt;          「数が苦」から「数楽」へ」と、算数への抵抗感をなくすことができる。          「算数」から「数学」へ」と、見通しをもった教材解釈・教材分析する力ができる。          T Tや少人数指導にも対応した教育課程編成能力を高めることができる。          「子どもたちが算数を学ぶ意義」を理解することができる。</p>
--------	--

授業のながれ	
算数を取り巻く学習環境	
学習指導要領の変遷、教科書の変遷	
算数の概要、なぜ算数を学ぶのか	
「数と計算」の指導目標・指導内容	
「量と測定」の指導目標・指導内容	
「図形」の指導目標・指導内容	
「数量関係」の指導目標・指導内容	
量の体系、算数における認識過程	
カリキュラム論 <教育課程編成能力>	
教えと学びの接点 <基礎学力・基本学力>	
理解と習熟論 <受験の算数、計算力>	
評価論 <目標と指導と評価の一体化、評価基準>	
算数用具・表記の心得	
算数教育の論争に学ぶ	
まとめ、これからの算数教育	

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>算数に対する先入観を拭き去り、算数の面白さ・楽しさを味わうため、「頭」だけでなく、「手」で学ぶように心がけてください。教える側が“算数嫌い”では、子どもは楽しく学ぶことはできません。“算数好き”になるように努めてください。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;          「算数科指導法」</p>
-------------------	--

成績評価の方法											
<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>55%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>15%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	30%	レポート	55%	中間試験	0%	定期試験	0%	その他	15%	<p>毎講義の感想文（30%）と 最終講義時のレポート（55%）と 出席率（15%）の、加点方式で行う。</p>
課題・小テスト	30%										
レポート	55%										
中間試験	0%										
定期試験	0%										
その他	15%										

テキスト	
<input type="checkbox"/> テキストを使用する <input checked="" type="checkbox"/> レジュメを使用する <input type="checkbox"/> 未定（最初の授業で指示する）	

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
社会科研究	2	1	後期開講	三橋 廣夫

テーマ	社会科の授業づくり
-----	-----------

科目のねらい	<p>【キーワード】社会科の歴史 授業研究 社会認識 歴史認識 歴史認識</p> <p>&lt;内容の要約&gt;  社会科の授業づくりをどのような観点で進めていけばよいかについて考えます。児童・生徒の関心を生かしながら、かつその認識を深めるためには不断の研究が必要ですが、現在の歴史（社会科）研究、歴史（社会科）教育研究に学ぶべきことはたくさんあります。具体的な事例を通して、授業研究ということはどういうことかを学んでいきます。</p> <p>&lt;学習目標&gt;  子どもたちの関心を活かした授業づくりが大切なことがわかる。  特に歴史の授業で子どもたちの認識を深める授業とはどういうものか考える。</p>
--------	---

授業のながれ	
日本史と世界史の二分法	
「モンゴルの襲来」の歴史と各国の歴史教育	
ナショナリズムと歴史教育	
韓国と日本の歴史教育	
東アジアから歴史を学ぶこと	
日韓歴史教育交流の実際	
歴史教科書をめぐる問題（ドイツ・フランス共同教科書をめぐって）	
単線的歴史認識と複眼的歴史認識	
ジェンダーと歴史教育	
研究発表 1	
研究発表 1	
研究発表 1	
研究発表 1	
研究発表 1	
授業研究と授業の関係	

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>今まで・現在・これらにつながる具体的な実践を通して、見えにくい社会科の理念を探究しあいます。みなさんが持っている社会科観を相対化し、社会科の理念を追究し社会科の未来を考えたいと思います。自分の問題意識からいろいろな授業実践を分析・発表してもらいます。テキストの他にも授業中に授業実践や関連する図書を紹介します。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;  社会科指導法</p>
-------------------	--

成績評価の方法											
<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>25%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>25%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>50%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	25%	レポート	25%	中間試験	0%	定期試験	0%	その他	50%	出席（50%）、小レポート（25%）、レポート（25%）です。
課題・小テスト	25%										
レポート	25%										
中間試験	0%										
定期試験	0%										
その他	50%										

テキスト	
<input checked="" type="checkbox"/> テキストを使用する <input checked="" type="checkbox"/> レジュメを使用する <input type="checkbox"/> 未定（最初の授業で指示する）	三橋広夫 歴史の授業を工夫する—中学生の疑問を解決する歴史民俗博物館の展示（歴博ブックレット 25） 歴史民俗博物館振興会

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
心理学統計法	2	1	後期開講	吉原 智恵子

テーマ	心理学統計法の基礎を学ぶ
-----	--------------

科目のねらい	<p>【キーワード】 データ 分布 記述統計 推測統計 推測統計</p> <p>&lt;内容の要約&gt; 心理学の研究遂行上必要となる記述統計学および推測統計学の基礎を学び、「心理データ処理演習」、「子ども発達学専門演習Ⅰ、Ⅱ」等において実際にデータを扱い、適切な統計的処理を行って適切な解釈を可能にするための基礎を養うことを目指す。</p> <p>&lt;学習目標&gt; 記述統計を理解し、データの特徴を正しく読みとることができる。 推測統計を理解し、適切な利用・解釈ができる。</p>
--------	--

授業のながれ	
イントロダクション	
度数分布と数値要約	
変数の変換	
相関係数	
クロス集計と連関係数	
統計的検定の基礎 1	
統計的検定の基礎 2	
復習とポイントの整理	
統計的検定法の実際 (1) t 検定	
統計的検定法の実際 (2) 1 要因の分散分析	
統計的検定法の実際 (3) 2 要因の分散分析	
統計的検定法の実際 (4) カイ二乗検定と残差分析	
統計的検定法の実際 (5) 相関係数の有意性検定	
統計的検定の問題点と適用上の留意点	
まとめ	

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>知識の積み重ねが大事なので、極力欠席しないようにしていただきたい（適宜小テストを実施する）。また、毎回予習、復習を心がけて欲しい。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt; 心理学実験実習、心理学研究法演習、心理データ処理演習、子ども発達学専門演習Ⅰ、Ⅱ</p>
-------------------	---

成績評価の方法											
<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>70%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>0%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	30%	レポート	0%	中間試験	0%	定期試験	70%	その他	0%	課題の提出、小テスト・定期試験の成績等を総合的に評価する。
課題・小テスト	30%										
レポート	0%										
中間試験	0%										
定期試験	70%										
その他	0%										

テキスト	
<input checked="" type="checkbox"/> テキストを使用する <input checked="" type="checkbox"/> レジュメを使用する <input type="checkbox"/> 未定（最初の授業で指示する）	吉田寿夫 本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本 北大路書房



科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
心理学研究法	2	1	前期開講	吉原 智恵子

テーマ	心理学の様々な研究法を学ぶ
-----	---------------

科目のねらい	<p>【キーワード】 実験法 観察法 面接法 質問紙調査法 質問紙調査法</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>実験法、観察法、面接法、質問紙調査法など心理学の代表的な研究方法に関する基礎知識を養い、「心理学実験実習」、「心理学研究法演習」、「子ども発達学専門演習Ⅰ、Ⅱ」等演習科目の習得の土台を形成する。また多岐に亘る研究法を実際に研究に適用するには、研究対象や研究目的に照らしあわせて最適な研究方法を選択をする力を養う必要があり、さらに方法論上の限界が存在することも理解しなければならない。そこで各種研究法について学ぶとともに、方法論的な諸問題についても考える力を養う。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>心理学の代表的な研究方法について理解する。</p> <p>方法論的な諸問題について理解する。</p>
--------	--

授業のながれ	
イントロダクション	
質的調査 1. 観察法	
質的調査 2. 面接法	
質的調査 3. フィールド・ワーク	
質的調査のまとめ	
量的調査 1. 質問紙調査法	
量的調査 2. 心理尺度の構成法	
量的調査 3. 相関関係の分析	
量的調査のまとめ	
実験法 1	
実験法 2	
実践研究 1	
実践研究 2	
研究の展開	
まとめ	

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>心理学研究の初学者としては、少なくともテキストは1冊読みこなしてください。また関心をもった部分については、知的好奇心をもって自主的に参考図書等を探し、調べていくといった「楽しみ」を見出して欲しいと思います。授業時は、当然のことながら私語や飲食、迷惑行為は厳禁です。他の受講生とともに、よりよい学びを目指してください。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p> <p>心理学実験実習、心理学研究法演習、子ども発達学専門演習Ⅰ・Ⅱ</p>
-------------------	---

成績評価の方法											
<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>70%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>0%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	30%	レポート	0%	中間試験	0%	定期試験	70%	その他	0%	課題の提出、定期試験の成績等から総合的に評価する。
課題・小テスト	30%										
レポート	0%										
中間試験	0%										
定期試験	70%										
その他	0%										

テキスト	
<input checked="" type="checkbox"/> テキストを使用する <input checked="" type="checkbox"/> レジュメを使用する <input type="checkbox"/> 未定(最初の授業で指示する)	南風原朝和・市川伸一・下山晴彦(編) 「心理学研究法入門 調査・実験から実践まで」 東大出版

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
認知・知覚心理学	2	1	後期開講	中村 信次

テーマ	人間の意識の基礎となる「認知・知覚」に関する基本的な知識の取得
-----	---------------------------------

科目のねらい	<p>【キーワード】知覚 認知 実験心理学</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>我々は、感覚器官を通して環境の情報を得、それらを正しく知覚・認知することによって初めて適応的に行動することが可能となる。知覚・認知的世界は、物理的世界の単なるコピーではなく、各種の内的処理を経て得られる極めて心理的な実在である。本講義では、認知・知覚心理学領域のこれまでの研究成果を説明することにより、認知・知覚の問題が心理学研究においてどのように扱われてきたのかを概観し、人の「こころ」の問題を考える際の「認知・知覚」に関する問題の意義を論ずる。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認知心理学、知覚心理学関連の基礎理論を理解し、それを適切に要約できる。</li> <li>・実験的手法を用いる心理学の理論構成法の基礎を理解し、新しい問題にそれを応用できる。</li> </ul>
--------	---

授業のながれ	
第1回	イントロダクション
第2回	心理学における認知・知覚研究の位置づけ
第3回	感覚器官
第4回	知覚中枢
第5回	知覚の特性1－時間特性－
第6回	知覚の特性2－空間特性－
第7回	知覚の特性3－恒常性－
第8回	知覚の特性4－錯視・錯覚－
第9回	認知情報処理過程の基礎
第10回	注意の働き
第11回	シーン認知（高次視覚）
第12回	聴覚
第13回	日常場面における知覚・認知
第14回	工学的応用
第15回	まとめ

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>私語等他の履修生の迷惑となる行為に対しては、履修資格の剥奪を含め厳格に対応する。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p> <p>心理学関連の各科目</p>
-------------------	--

成績評価の方法											
<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>50%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>50%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>0%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	50%	レポート	50%	中間試験	0%	定期試験	0%	その他	0%	講義内で複数回小テストを行い、期末レポートとあわせ評価を行う。
課題・小テスト	50%										
レポート	50%										
中間試験	0%										
定期試験	0%										
その他	0%										

テキスト	
<input type="checkbox"/> テキストを使用する <input checked="" type="checkbox"/> レジュメを使用する <input type="checkbox"/> 未定(最初の授業で指示する)	

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
人格心理学	2	1	後期開講	山口 智子

テーマ	人格理論を学び、 人格理解を深める
-----	-------------------

科目のねらい	<p>【キーワード】 人格 構造 形成 測定 測定</p> <p>&lt;内容の要約&gt;          人格心理学ではひとりひとりの性格はどのように記述できるのか、性格はどのように測定できるのか、性格は発達、危機的な出来事、心理療法などによって、どのように変化するのかを学ぶ。</p> <p>&lt;学習目標&gt;          本講義では、①人格に関する代表的な理論や②人格と適応の関連を理解することができる。          本講義では、自己および他者を理解する視点を身につけることができる。</p>
--------	--

授業のながれ	
1. 人格とは何か	
2. 人格の考え方 - 類型論について -	
3. 人格の考え方 - 特性論について -	
4. 人格の把握 - 心理査定 -	
5. 代表的な人格理論 - フロイトの理論 -	
6. 代表的な人格理論 - ユングの理論 -	
7. 代表的な人格理論 - ロジャースの理論 -	
8. 行動主義の考え方	
9. 人格の発達の理解 - 乳幼児期 -	
10. 人格の発達の理解 - 青年期以降 ライフサイクル論 -	
11. 人格と適応 - 適応・不適応 -	
12. 人格と適応 - 人格障害 -	
13. ストレスと人格	
14. まとめ	
15. 試験	

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>授業には主体的に関わり、積極的にワークや討論に参加しましょう。私語厳禁。公欠などの理由がある場合は申し出によりレジメを配布します（その他の理由でのレジメ配布はしません）。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p>
-------------------	--

成績評価の方法	
課題・小テスト	20%
レポート	0%
中間試験	0%
定期試験	80%
その他	0%

テキスト	<p><input checked="" type="checkbox"/> テキストを使用する</p> <p><input type="checkbox"/> レジメを使用する</p> <p><input type="checkbox"/> 未定(最初の授業で指示する)</p> <p>乾原正ほか編 「パーソナリティ・プロフィール (1999)」 八千代出版</p>
------	--

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
発達心理学概論 (中高)	2	1	前期開講	近藤 直子

テーマ	私たちの心の発達を学ぶー胎生期から高齢期までの心の発達過程のアウトラインを学び、人間発達とはどういうことか、子どもの心を理解する視点を身につける
-----	--

科目のねらい	<p>【キーワード】 発達の原理 主体性 自我の発達 マイナスの中のプラスの芽 マイナスの中のプラスの芽</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>私にもあなたにもある“こころ”。どのようにして“こころ”が形成されていくのかを自我の発達過程を通して学びます。心理学には「乳幼児心理」「児童心理」「青年心理」「老年心理」のように、ある時期の心理を対象とする領域がありますが、「発達心理学」は、人生を通じた「こころ」の発達を見つめることで、人のこころを理解する学問です。人生の中での一時期としての中高生を理解しましょう。教職科目として理解すべき基本的な発達心理学の理論、用語についても学習します。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 胎生期から死ぬまでのこころの発達の道すじについてのアウトラインと、障害がある場合の発達の特徴を学ぶ。</li> <li>2. マイナスに見える行動の中にある発達の意味の理解。</li> <li>3. 今までの自分の育ちをふりふり返ることで、自分をより理解すること。</li> <li>4. 発達心理学の基本用語、理論のアウトラインを理解すること。</li> </ol>
--------	--

授業のながれ	
1. 発達心理学を学ぶにあたって～大人の心、子どもの心	
2. 発達とは何か	
3. 胎生期から新生児期の発達	
4. 乳児期の発達①～乳児期の発達のアウトライン	
5. 乳児期の発達②～乳児期のコミュニケーションの発達	
6. 幼児期前半期の発達①～人間らしい諸能力	
7. 幼児期前半期の発達②～自我の成立から確立へ	
8. 幼児期後半期の発達①～言語機能の発達	
9. 幼児期後半期の発達②～自己形成へ	
10. 学童期の発達①～学童期前半のこころ	
11. 学童期の発達②～学童期後半のこころ	
12. 青年期の発達①～青年期前半のこころ	
13. 青年期の発達②～青年期後半のこころ	
14. 成人期から高齢期へ	
15. 発達と発達保障～生活と発達	

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>毎回のポイントを問題にして配りますので、復習するとともに試験に向けて学習して下さい。採用試験に出される発達心理学の基本用語、基本理論も問題に盛り込みます。しかし、子ども・生徒理解にとっては、細かい知識よりは、子ども・発達に関する見方をしっかりとさせることが何より重要です。テキストを予習してくることが、理解を助けることにつながります。サークル、ボランティア活動を通して、子どもと関わる機会を積極的に持ちたいものです。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p> <p>教育心理学、発達心理臨床論、知的障害児心理学</p>
-------------------	---

成績評価の方法											
<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>80%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>20%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	0%	レポート	0%	中間試験	0%	定期試験	80%	その他	20%	出席をとります。定期試験 [80%] を基本とし、出席点を加味 [20%] します。問題は、毎回の「復習問題」からの出題が基本です。友人と一緒に復習する習慣を作りましょう。
課題・小テスト	0%										
レポート	0%										
中間試験	0%										
定期試験	80%										
その他	20%										

テキスト	
<input checked="" type="checkbox"/> テキストを使用する <input checked="" type="checkbox"/> レジュメを使用する <input type="checkbox"/> 未定(最初の授業で指示する)	近藤直子 続 発達の芽をみつめて かけがえのない心のストーリー 全障研出版部

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
児童福祉論（子ども）	4	2	通年開講	渡辺 顕一郎

テーマ	児童・家庭福祉をめぐる制度・実践について理解を深め、その課題を浮き彫りにすると共に、効果的な支援のあり方を追究する
-----	---

科目のねらい	<p>【キーワード】児童の権利と発達 子ども家庭福祉 児童福祉制度 子育て支援 子育て支援 要保護児童対策</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>児童福祉の基礎として子どもの発達、子どもの権利、子どもと家庭生活との関係について概説した上で、子どもにとって最も身近な生活集団である家族や地域社会のありようにも目を向けて、児童問題の現状やその援助方法について考察する。児童福祉法を中心とする各種の制度や実践、さらには子ども家庭福祉の観点から必要とされる援助技術についても学び、効果的な支援のあり方を追究する。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>児童福祉及び関連制度についての知識  要保護児童をめぐる問題理解とその対応策  少子化社会における子育て支援の現状理解と支援のための方法  子ども家庭福祉の実践方法と援助技術</p>
--------	--

授業のながれ	
イントロダクション（導入）	児童福祉の法体系と実践①
児童と家庭生活をめぐる問題の現状①	児童福祉の法体系と実践②
児童と家庭生活をめぐる問題の現状②	児童福祉の法体系と実践③
児童の権利①	児童福祉の領域別の問題とその対応 -心身障害-①
児童の権利②	児童福祉の領域別の問題とその対応 -心身障害-②
児童の成長と発達①	児童福祉の領域別の問題とその対応 -養護・教護-①
児童の成長と発達②	児童福祉の領域別の問題とその対応 -養護・教護-②
児童と家族①	児童福祉の領域別の問題とその対応 -育成・その他-①
児童と家族②	児童福祉の領域別の問題とその対応 -育成・その他-②
少子化の現状と背景	子ども家庭福祉の観点から -家族支援の重要性-
少子化対策と子育て支援	子ども家庭福祉の観点から -専門職の役割と課題-
地域子育て支援の実践①	子ども家庭福祉の観点から -市民活動への期待-
地域子育て支援の実践②	子ども家庭福祉の観点から -地域のネットワーク-
地域子育て支援の実践③	まとめ①
中間試験	まとめ②

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>授業だけでなく、地域におけるボランティア活動や実習等を通して実践的な理解を深めるように努力してほしい。また、授業中は私語厳禁であり、他の学生の学ぶ権利を侵さないように努めること。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p> <p>「現代の社会福祉」 「発達心理学」 「保育論」 「家族援助論」 「家族福祉論」</p>
-------------------	---

成績評価の方法											
<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>40%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	0%	レポート	0%	中間試験	30%	定期試験	30%	その他	40%	中間テストと定期試験を重視しつつ、その他（出席状況）を加味して評価を行う。なお、中間試験は 15 回目の授業時に行う。
課題・小テスト	0%										
レポート	0%										
中間試験	30%										
定期試験	30%										
その他	40%										

テキスト	
<input checked="" type="checkbox"/> テキストを使用する <input checked="" type="checkbox"/> レジュメを使用する <input type="checkbox"/> 未定（最初の授業で指示する）	渡辺顕一郎 編著 「地域で子育てー地域全体で子育て家庭を支えるためにー」 川島書店

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
臨床心理学 (心理)	2	2	後期開講	蔭山 英順

テーマ	心理査定と臨床心理学的援助の理論
-----	------------------

科目のねらい	<p>【キーワード】精神分析 カウンセリング 遊戯療法 知能検査 知能検査 性格検査</p> <p>&lt;内容の要約&gt; 臨床心理学の主要領域である「心理療法」「心理査定」「事例研究法」の理論についての概説</p> <p>&lt;学習目標&gt; 心理療法の理論を学習し、心理療法実践の基礎を身につける 心理査定の方法を学習し、心理査定の実際の基礎を身につける 事例研究法を理解する</p>
--------	--

授業のながれ	
日本の臨床心理学の黎明	
青年・成人の心理療法 ①フロイト, S. の精神分析の人格理論	
青年・成人の心理療法 ②フロイト, S. の精神分析療法	
青年・成人の心理療法 ③ロジャース, C. R. の来談者中心療法	
児童の心理療法 ①フロイト, A. の児童分析	
児童の心理療法 ②クライン, M. の遊戯分析	
児童の心理療法 ③アレン, F. の関係療法	
児童の心理療法 ④アクスライン, V. M. の児童中心遊戯療法	
心理査定 ①ビネー式知能検査	
心理査定 ②ウェクスラー式知能検査	
心理査定 ③認知処理検査 K-A-B-C	
心理査定 ④性格検査(1)人格目録法・作業検査法	
心理査定 ⑤性格検査(2)投影法 ロールシャッハテスト	
心理査定 ⑥性格検査(3)投影法 T A T (主題絵画統覚検査)	
臨床心理学研究法 事例研究法	

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>15回の授業が積重ねていく構造になっているので、毎回の講義内容をしっかり復習し、学習内容を定着させること。なお講義内容の理解が十分でないときは、主体的に質問をすること。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt; 「臨床心理学Ⅱ」 「精神医学Ⅰ・Ⅱ」 「精神保健学」</p>
-------------------	--

成績評価の方法											
<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>0%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	0%	レポート	0%	中間試験	0%	定期試験	100%	その他	0%	定期試験の成績で評価する
課題・小テスト	0%										
レポート	0%										
中間試験	0%										
定期試験	100%										
その他	0%										

テキスト	<p><input type="checkbox"/> テキストを使用する</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> レジュメを使用する</p> <p><input type="checkbox"/> 未定(最初の授業で指示する)</p>
------	---



科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
保育内容研究Ⅴ（感性と表現）	2	2	後期開講	クラス

テーマ	幼児教育、保育の実践に指導者として必要な感性・表現力の育成
-----	-------------------------------

科目のねらい
--------

<p>【キーワード】 保育内容 感性 表現</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>本演習は音楽的表現と造形的表現を担当する教員がオムニバス方式で運営し、総合的な表現を学ぶ演習を両者が共同して担当する。ここでは、幼児の表現の特色と内容を理解するとともに、表現を楽しむために必要な環境構成のあり方や表現意欲を発揮するための遊具・用具などについての知識を深め、幼児一人ひとりの個性と発達に応じた指導・援助の方法を学ぶ。なお、本演習はオムニバス方式で行い、前半を守山（造形表現）、後半を中里（音楽表現）が担当する。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>幼稚園教育要領と保育所保育指針において示される領域「表現」のねらいと内容についての理解を深める</p> <p>幼児の自発的な表現を受容できる資質</p> <p>その表現意欲や感受性、想像力を豊かにするための援助と指導の方法の修得</p>
--

授業のながれ
--------

授業の概要と進め方、保育内容の領域「表現」のねらいと内容（守山）
子どもの発達と表現活動（守山）
素材・材料から展開する援助・指導方法の理解①平面的表現（守山）
素材・材料から展開する援助・指導方法の理解②立体的表現（守山）
造形的表現の指導計画（守山）
子どもの造形的表現と保育者の役割について（守山）
「表現する」とは～表現する子どもたち（中里）
手で感じる・手で作る（中里）
声を出す・声でかかわる（中里）
音・色・形・手ざわり・動き（中里）
イメージと表現（中里）
文化と学び（中里）
表現と技術（中里）
総合的表現活動の援助・指導方法の理解①、総括（中里）
総合的表現活動の援助・指導方法の理解②、総括（守山）

学ぶ上での注意・担当教員からの希望
-------------------

<p>「幼稚園教育要領解説」（フレーベル館）、「保育所保育指針解説」（フレーベル館）があれば、授業で使うことがありますので、持ってきて下さい。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p>
---

成績評価の方法		出席、課題の提出（小レポート）、最終試験、受講態度から総合的に評価する。
課題・小テスト	70%	
レポート	0%	
中間試験	0%	
定期試験	0%	
その他	30%	

テキスト
------

<input checked="" type="checkbox"/> テキストを使用する <input type="checkbox"/> レジユメを使用する <input type="checkbox"/> 未定（最初の授業で指示する）	今川恭子 宇佐美明子 志民一成 子どもの表現を見る、育てる 文化書房博文社
--	---------------------------------------

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
保育計画論	2	2	前期開講	東内 瑠里子

テーマ	子どもの発達と保育実践から保育計画の実際について理解する
-----	------------------------------

科目のねらい	<p>【キーワード】 発達と保育内容 保育内容と環境構成 道具や用具と教材研究 指導計画作成 指導計画作成</p> <p>&lt;内容の要約&gt;          幼稚園教育要領、保育所保育指針をふまえ、保育計画・教育課程と指導計画の理論や具体的な編成方法等をいくつかの代表的モデルを参照しながら、計画が実践された後の反省・評価までを視野に入れて学習する。</p> <p>&lt;学習目標&gt;          子どもの発達に沿った指導計画について理解する。          保育カリキュラムの全体構造を評価も含めて理解する。          指導計画の作成手順を具体的に理解する。</p>
--------	---

授業のながれ	
保育における計画	
発達と保育内容	
保育内容と環境構成	
活動と保育形態・指導体制	
道具や用具と教材研究	
自然環境を活かした園環境	
地域環境を取り入れる	
指導計画の評価と記録	
幼稚園における指導計画作成の実際	
保育所における指導計画作成の実際	
部分保育の指導案作成・実践（１）—グループワーク	
部分保育の指導案作成・実践（２）—グループワーク	
部分保育の指導案作成・実践（３）—グループワーク	
部分保育の指導案作成・実践（４）—グループワーク	
保育カンファレンスおよび評価の方法の実際	

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>教科書は、毎時おおよそ1章進む。分量が多いため予習が必要。またほぼ毎時レポートがあるので、その回に書けなかった場合は、授業以外の時間にまとめておくこと。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;          「保育内容研究」「保育内容総論」など</p>
-------------------	---

成績評価の方法	
課題・小テスト 0% レポート 50% 中間試験 0% 定期試験 50% その他 0%	レポート、試験、出席状況と受講態度等を勘案して、総合的に評価する。

テキスト	
<input checked="" type="checkbox"/> テキストを使用する <input checked="" type="checkbox"/> レジユメを使用する <input type="checkbox"/> 未定(最初の授業で指示する)	小田豊・神長美津子 指導計画法 北大路書房

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
特別支援教育論	2	2	前期開講	大和田 孝士

テーマ	特別支援教育の基礎理論
-----	-------------

科目のねらい
--------

<p>【キーワード】 特別支援教育 自立活動 特別支援学校 障害児教育史 障害児教育史 特別支援学級</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>今日のわが国の障害児教育は大きな転換期を迎えています。特殊教育から特別支援教育へ、教育の体制・教育現場等の変革の状況を、障害児教育の発展過程をたどりながら、特別支援教育の本質や原理、教育課程、各種障害と教育方法、個別指導計画、自立活動、特別支援学校・学級の指導・支援等について概観し、その在り方、方法などについて学びます。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援教育の基礎的な体系を理解することができる。</li> <li>・特別支援教育の大まかな指導・支援内容と実践方法が理解できる。</li> <li>・各種障害とその指導・支援の方法について理解できる。</li> <li>・従来の特殊教育の対象児の障害に加え、軽度発達障害についても理解できる。</li> </ul>
--

授業のながれ
--------

1. 特殊教育から特別支援教育へ
2. 特別支援教育の体系
3. 世界の障害児教育史
4. 日本の障害児教育史
5. 特別支援教育の原理
6. 特別支援教育と教師
7. 視覚障害と特別支援教育
8. 聴覚障害と特別支援教育
9. 知的障害と特別支援教育Ⅰ
10. 知的障害と特別支援教育Ⅱ
11. 肢体不自由と特別支援教育
12. 病弱と特別支援教育
13. 小・中学校（特殊学級、特別支援学級・教室）における特別支援教育
14. LD、ADHD と特別支援教育
15. 高機能自閉症等と特別支援教育

学ぶ上での注意・担当教員からの希望
-------------------

<p>授業の中から自ら課題を見つけ、発展的に進んで解決しようと心がけてください。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p> <p>「知的障害児教育論」 「肢体不自由教育論」 「LD・ADHD 児等の心理」「重度障害児指導法」</p>
---

成績評価の方法											
<table border="1"> <tr><td>課題・小テスト</td><td>0%</td></tr> <tr><td>レポート</td><td>0%</td></tr> <tr><td>中間試験</td><td>0%</td></tr> <tr><td>定期試験</td><td>70%</td></tr> <tr><td>その他</td><td>30%</td></tr> </table>	課題・小テスト	0%	レポート	0%	中間試験	0%	定期試験	70%	その他	30%	出席は毎時間とります。成績は、筆記試験あるいは論述試験に、平常点を加味して評価します。
課題・小テスト	0%										
レポート	0%										
中間試験	0%										
定期試験	70%										
その他	30%										

テキスト
------

<input type="checkbox"/> テキストを使用する <input checked="" type="checkbox"/> レジュメを使用する <input type="checkbox"/> 未定（最初の授業で指示する）
--

科目名	単位数	学年担当	開講形態	教員名
特別支援教育論 (オンデマンド)	2	2	前期開講	大和田 孝士

テーマ	
-----	--

科目のねらい	
【キーワード】	
<内容の要約>	
<学習目標>	

授業のながれ	

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	
<本科目の関連科目>	

成績評価の方法		
課題・小テスト	%	
レポート	%	
中間試験	%	
定期試験	%	
その他	%	

テキスト	
テキストを使用する	
レジュメを使用する	
未定 (最初の授業で指示する)	

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
小児保健Ⅱ	2	2	前期開講	石川 達也

テーマ	子どもの特徴を理解し、生命（いのち）を守り健康を増進する
-----	------------------------------

科目のねらい
<p>【キーワード】生命（いのち）と健康 成長と発達 事故と応急処置 感染症と予防接種 感染症と予防接種 子どもの病気とその予防</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>子どもの特徴は成長と発達にあり、おとなとはまったく異なった生理と病態を示す。子どもの生理機能、そして、病気の成因がおとなのそれと大きく異なるのは、発達の各時期に特有な外的（環境）要因と生命進化の具体的な表現である内的（遺伝的）要因が互いに連関して変化していくからである。総論において、この成長発達のダイナミズムとその過程で生ずる病態を、各論においては、麻疹（はしか）など子どもによく見られる種々の病気および事故について理解が深まるよう解説する。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>この講義を通して、学生諸君に、小児医学的なものの見方・センスを身につけてもらうこと。</p> <p>学生諸君が、将来、「保育・育児」や「特別支援教育」などに携わる際に必要となる小児保健学（子どもの生命を守り、健康を増進する医学）の基本的知識と考え方を身につけること。</p>

授業のながれ	
保育のなかの保健（第0章）、成長（第1章）	注：章はテキストに基いている
発達（第2章）	
生活と保健①（第3章）	
生活と保健②	
子どもと虐待（第4章）、応急手当（第5章）	
病気と異常①（第6章）	
病気と異常②	
病気と異常③	
くすり（第7章）	
感染症①（第8章）	
感染症②	
予防接種（第9章）	
事故と安全（第10章）	
地域と家庭（第11章）、温かい心を育くむ（第12章）	
復習とまとめ	

学ぶ上での注意・担当教員からの希望
<p>1. テキストは開講までに必ず購入し、講義時に持参すること。第1回目講義（4/12 予定）から使用する。2. 講義中の私語・飲食は絶対禁止。携帯電話の電源を必ず切っておくこと。3. 限られた時間で多くのことを学ぶために、前もって対応する各章の予習をしておくことが望ましい。講義中の積極的な質問を歓迎する。また、講義ごとの復習が必要であり、講義推薦図書も大いに利用して頂きたい。2009年度後期・小児保健Ⅰで使用したテキスト（新・小児保健 第13版）も適宜参照すること。4. 小児保健に関わる情報を、新聞などで日ごろからキャッチし、自分なりに考えること。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p> <p>1. 「知的障害児の生理と病理」（2年生後期の選択科目）を履修することを期待する。2. 「発達心理学」・「小児栄養」、および、他の子どもや医学に関連した科目の受講を薦める。</p>

成績評価の方法											
<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>90%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>10%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	0%	レポート	0%	中間試験	0%	定期試験	90%	その他	10%	定期筆記試験の成績を基本とする。
課題・小テスト	0%										
レポート	0%										
中間試験	0%										
定期試験	90%										
その他	10%										

テキスト	
<input checked="" type="checkbox"/> テキストを使用する <input type="checkbox"/> レジユメを使用する <input type="checkbox"/> 未定（最初の授業で指示する）	日本保育園保健協議会 編 『最新 保育保健の基礎知識 第6版改訂』（2009年発行） 日本小児医事出版社

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
小児栄養	2	2	通年開講	クラス

テーマ	妊娠期の栄養および乳幼児期の発育に適正な栄養の知識を学ぶ
-----	------------------------------

科目のねらい	<p>【キーワード】 栄養の生理 子どもの食行動の発達 青年期、妊娠期の食事 食育 食育 健康管理</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>「毎日の食事の場が心身の成長に必要である」ことを学ぶ。また栄養学は保育の現場で必ず求められる知識である事を理解する。</p> <p>1 自分の身体の栄養生理を知り自他の健康管理の基礎を学ぶ。 2 発育に伴う消化器官・肝腎の食物順応を理解する。 3 食行動の発達を学んで各成長期における適切な対応を思索する。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>食生活による自己の健康管理  子どもの発育に適正な栄養とそれを充たす食事  保育士ができる食育（実習も含む）  適正な食生活のための食品選択の知識を深める</p>
--------	--

授業のながれ	
前期； 1. ガイダンス（講義の流れの説明など）	後期； 1. 乳汁栄養（実習）
2. 人体の恒常性維持機構と適応能力発現	2. 幼児期前期、後期の食事（実習）
3. 生体のリズムと栄養	3. 幼児の給食・お弁当・間食
4. 妊娠と出産；妊娠の生理と胎児の成長	4. 幼児期食行動の発達と食事の問題
5. 消化器官の発達と食物順応	5. 食事と生活習慣病
6. 体をつくる成分と栄養素、熱量素の代謝	6. 障がいのある子どもの食事
7. 栄養素と食品成分	7. 保育園給食の意義、
8. エネルギー代謝：身体活動と摂取エネルギー	8. 保育士による栄養教育
9. 乳幼児の発育生理、水分と無機質	9. 乳幼児期の栄養アセスメント
10. 乳汁栄養と母乳の重要性	10. パネルディスカッション（望ましい食生活・妊娠期の栄養）
11. 離乳の意義、離乳食の進め方（実習を含む）	11. パネルディスカッション（乳汁栄養・離乳期）
12. 幼児期の栄養と食事	12. パネルディスカッション（幼児前期・後期）
13. 社会環境と幼児の食生活	13. パネルディスカッション（障害のある子供の食生活）
14. 望ましい食生活	14. パネルディスカッション（保育士による食育）
15. まとめ	15. 総括

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>生きるための食事は生活リズムの骨組みともなる。自らの食生活を見直すことによって幼児の望ましい発育のためには大人の自覚ある生活が必要である事を常に意識して欲しい。日常関心を持って健康に関する内容のある記事や情報を読む。また保育士として食育に関わる必要性を感じて積極的な講義参加を期待する。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p> <p>「小児保健」 「発達心理学」 「保育実習」</p>
-------------------	---

成績評価の方法											
<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>25%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>25%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>25%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>25%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	25%	レポート	0%	中間試験	25%	定期試験	25%	その他	25%	<p>課題小テストは各講義ごとのテーマに関わるレポートである。中間テストは前期のまとめとして行う。「その他」は夏期休暇に課するレポートを基盤とするパネルディスカッションの発表と討論を評価する。</p>
課題・小テスト	25%										
レポート	0%										
中間試験	25%										
定期試験	25%										
その他	25%										

テキスト	
<input checked="" type="checkbox"/> テキストを使用する <input type="checkbox"/> レジュメを使用する <input type="checkbox"/> 未定（最初の授業で指示する）	<p>峯木真知子他編 「新小児栄養」 みらい（株）</p>



科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
養護原理	2	2	前期開講	遠藤 由美

テーマ	社会的養護を必要とする子どもの現実と養護実践の課題を学ぶ
-----	------------------------------

科目のねらい	<p>【キーワード】教育と福祉の権利の統一的保障 施設における生活づくり 貧困・養護問題再生産 あたりまえの食眠遊学 あたりまえの食眠遊学 育ちあいと学びあい</p> <p>&lt;内容の要約&gt; この講義は保育士資格取得のための必修科目である。子ども自身というよりはむしろ親・家族が抱えざるを得ない問題によって、適切に養育されない子どもたちを社会的に養育・保護・教育するためのしくみと実践について学ぶ。</p> <p>&lt;学習目標&gt; 社会的養護が必要となる養護問題の現状や背景などを説明できる。 社会的養護の体系や児童福祉施設などの役割について説明できる。 児童福祉施設などにおける養護の実際を説明できる。 児童福祉施設援助者としての保育士の役割や援助について説明できる。 子ども親や社会的養護親を養い、教育と福祉の権利の統一的保障の必要性を説明できる。</p>
--------	---

授業のながれ	
オリエンテーション	
社会的養護を必要とする子どもたち	
社会的養護への出会いと利用	
社会的養護体系の整備	
社会的養護の実際：障害児施設	
社会的養護の実際：乳児院	
社会的養護の実際：児童養護施設	
社会的養護の実際：母子生活支援施設	
社会的養護の実際：情緒障害児短期治療施設・児童自立支援施設	
社会的養護：里親	
社会的養護の基本原理	
自立支援とリービングケア・生い立ちの整理と家族関係の支援	
施設における心理的ケア・性についての学習・特定の課題への支援	
社会的養護と教育福祉：青年期養護（進路保障問題を中心に）	
社会的養護の歴史とまとめ	

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>個々の児童福祉施設で作成されている報告書・年報や子どもたちの作文集を読んでおくこと</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt; 「児童福祉論」「養護内容（演習）」「教育福祉論」「保育実習Ⅰ－Ⅱ」</p>
-------------------	--

成績評価の方法											
<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>70%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>20%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	10%	レポート	0%	中間試験	0%	定期試験	70%	その他	20%	授業への参加状況並びに、授業に行う課題・小テストおよび定期試験を総合的に評価する。
課題・小テスト	10%										
レポート	0%										
中間試験	0%										
定期試験	70%										
その他	20%										

テキスト	<input type="checkbox"/> テキストを使用する <input checked="" type="checkbox"/> レジュメを使用する <input type="checkbox"/> 未定（最初の授業で指示する）
------	--

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
乳児保育	2	2	通年開講	クラス

テーマ	【前期】乳児期の心とからだをゆたかに育てる保育の内容を捉える【後期】乳児保育における指導方法を学ぶと共に乳児保育における諸問題を深く学ぶ
-----	--

科目のねらい	<p>【キーワード】誕生から這い這い、一人立ち、歩行、言葉の獲得という人間の育つ土 保育を彩る教材、教具の実際・チャレンジする意欲がもてる健康な体作り 保育士、保育士集団、と保護者の連携・地域から求められる課題と保育所の役割 乳児（0～2歳）のとりえ方、かかわり方のポイント 乳児（0～2歳）のとりえ方、かかわり方のポイント 乳児保育の現状・乳児保育の制度・</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>前期は保育園での子どもの生活・遊びの実際を通じて、「子どもの心と体が健やかに育つ、保育の内容・保育の構造」を捉えること。保育園に関わる父母の在り方から「地域社会から求められる保育園の課題」を捉える。後期は、前期の「乳児保育」をふまえ、後期では保育所実習にそなえての授業のすすめかたをします。保育現場では、3歳未満児の占める割合が年々高くなってきております。0～2歳の子どもの発達理解とかかわり方、保育のありかたをビデオで見たり、教材作成や演習等で実践的に学べるようにします。実習をふまえて、乳児保育における保育士のありかたを学びます。後半では、乳児保育の制度やとりまく諸問題を学びます。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>乳児の成長、発達を掴む・発達を保障する保育内容を掴む  保育士の役割を掴む・保育園の課題を掴む  乳児保育の具体的な指導方法を身につけることができる  乳児保育の背景にも目を向け視野を広げて学ぶことができる</p>
--------	--

授業のながれ	
授業紹介 生命誕生	子どもの発達の特徴と保育のポイント・・・・・・・・・・「0歳児前半」
0歳児の発達と保育の構造	子どもの発達の特徴と保育のポイント・・・・・・・・・・「0歳児後半～1歳前半」
1、2歳児の発達と保育の構造	子どもの発達の特徴と保育のポイント・・・・・・・・・・「1歳後半～2歳前半」
保育の実際 課業と遊び 1	子どもの発達の特徴と保育のポイント・・・・・・・・・・「2歳後半～3歳児」
同上 2	乳児保育の教材づくり
同上 3	教材を使つての実技演習
同上 4	乳児保育での保育士のあり方（実習から学ぶ） ①グループ討議
実技「教材・教具おもちゃ作り」	乳児保育での保育士のあり方（実習から学ぶ） ②報告
発表・交流	乳児保育をとりまく諸問題（母子関係論）
保育園の行事	乳児保育の現状
健康な体作り 1	乳児保育のあゆみと制度
同上 2	少子化対策と乳児保育
保育所保育指針と保育計画	少子化対策と子育て支援
保育士・保育士集団と父母連携	各国にみる少子化対策と乳児保育
乳児保育の今とこれから・子育て支援・地域活動	これからの乳児保育

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>配布するレジメを必ずファイルし毎回の授業に持参すること。乳児保育の実際に役立つ歌や手遊びなど授業時に紹介します。積極的に取り組みましょう。3歳未満児に接する機会は少ないと思いますので、保育実習では、未満児クラスを是非経験してみてください。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt; 乳児保育(前期)をふまえて授業をすすめます。</p>
-------------------	---

成績評価の方法	
課題・小テスト	0%
レポート	0%
中間試験	0%
定期試験	50%
その他	50%
	【前期】授業への出欠（15%）教材作り（20%）テスト（65%）の評価をします。【後期】は、期末試験とその他で行います。その他は、出席状況・教材づくり・演習参加で判断します。なお、前期と後期の平均が最終評価になります。

テキスト	
<ul style="list-style-type: none"> <li>■テキストを使用する</li> <li>■レジメを使用する</li> <li>■未定(最初の授業で指示する)</li> </ul>	乳児保育研究会編 改訂・新版 資料でわかる乳児の保育新時代 ひとなる書房

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
生活科研究	2	2	後期開講	松下 孜

テーマ	学習指導要領に示される生活科の教育内容に基づき、小学校「生活科」の位置づけ、学習内容、指導方法など、生活科教育の全体像を把握することを第一のねらいとする。
-----	---

科目のねらい	<p>【キーワード】「生活科」を楽しく学ぼう 生きる力「生活科」</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>小学校低学年で開設されている生活科は、具体的な活動や体験を通じて、自分自身や自分の生活について考え、生活上必要な習慣や技能を身につけ、自立の基礎を養うものである。学校や通学路等の児童の日常的で身近な地域社会、動物の飼育や植物の栽培等身近な動物や植物、季節の変化等、自然とのふれあい体験や身の回りのものを利用した遊びといった活動の中から、社会の仕組みやマナー、人々の暮らし、自然環境、生活環境、季節や時間、生活習慣、自分との関わりについて取り上げていく。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>生活科の教科目標をつかみ、将来教師になったとき自信をもって授業することができる。</p> <p>生活科の授業をするなかで児童の進歩を認めたり、児童の知的な心を向上させるような技術を身につけることができる。</p> <p>生活科の授業を楽しくやる気のある授業に組み立てることができる。</p>
--------	--

授業のながれ	
ガイダンスー授業の概要と進め方ー	
生活科の教科目標	
生活科の学年目標	
生活科の内容	
指導計画作成の要点(1) (ゆとりある計画)	
指導計画作成の要点(2) (地域環境の理解・児童理解)	
指導計画作成の要点(3) (多様な活動・協力的な指導体制)	
指導計画作成上の配慮事項	
生活科の学習の特質	
生活科の学習指導の要点(1) (児童の思いや願いを育てる)	
生活科の学習指導の要点(2) (人・社会・自然とのかかわり)	
生活科の学習指導の要点(3) (情緒的なかかわりと知的な気づき)	
生活科の学習指導の要点(4) (児童の多様性に応える)	
生活科の活動案の作成	
生活科の総合的学習	

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>生活科は何よりも身近なできごとから出発します。それには身近なことからについていつも注意深く観察し、研究する態度が求められます。これからは児童の目線に立っての生活を心がけるようにしてみてください。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p>
-------------------	--

成績評価の方法											
<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>50%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>10%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	50%	レポート	40%	中間試験	0%	定期試験	0%	その他	10%	出席、課題の提出（小レポート）、最終試験、受講態度から総合的に評価する。課題、小テストは毎時間行います。しっかり採点し次の時間返却する予定です。レポートは終りごろに提出してもらいます。
課題・小テスト	50%										
レポート	40%										
中間試験	0%										
定期試験	0%										
その他	10%										

テキスト	<input type="checkbox"/> テキストを使用する <input checked="" type="checkbox"/> レジューメを使用する <input type="checkbox"/> 未定（最初の授業で指示する）
------	---

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
音楽Ⅱ	2	2	通年開講	クラス

テーマ	音楽表現の基礎を鍵盤楽器（ピアノ）を中心に学ぶ。
-----	--------------------------

科目のねらい	<p>【キーワード】音楽表現の基礎 感性 実技</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>子どもの豊かな感性を育てる為には、教育者としての適切な援助とともに、自身の豊かな感性と表現力が必要とされます。その為に、ここでは弾き歌い、鍵盤楽器（ピアノ）の実技を通して、音楽の基礎と感性を培い表現力を高めていきます。&lt;前期&gt;グループに分かれて学習する。グループごとに次の内容を学習する。①鍵盤楽器の奏法の基礎を音楽理論（音楽1）と関連させながら学ぶ。②各自の学習経験と進度に応じた、教則本や小作品による奏法と表現を学ぶ。③学習経験や進度に応じて、連弾や2台ピアノ、リズム楽器を加えるなどしてアンサンブル力（子どもの歌を題材）を養う学習をする。&lt;後期&gt;グループに分かれて学習する。グループごとに次の内容を学習する。①鍵盤楽器の奏法の基礎と応用を（音楽1）で学習した音楽理論と関連させながら学ぶ。②各自の学習経験と進度に応じた、教則本や小作品による奏法と表現を学ぶ。③学習経験や進度に応じて、連弾や2台ピアノ、リズム楽器を加えるなどしてアンサンブル（子どもの歌を題材に）を養う学習をする。④教育現場で使用する歌唱教材の伴奏（共通教材などの伴奏法及び伴奏付け）を学び、あわせて弾き歌い（発声方法含む）の技術も習得する。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>子どもの前で歌ったり、伴奏したりする基礎技術を身に付け、教育の現場で役立つ実践力を身につける。</p> <p>音楽の基礎と感性を培い、音楽表現方法を自分で考える事ができる。</p>
--------	---

授業のながれ	
グループ分け	実技指導（共通教材及び子どもの歌・発声1）
授業のねらいと概要	実技指導（共通教材及び子どもの歌・発声2）
実技指導（教則本・奏法1）	実技指導（共通教材及び子どもの歌・発声3）
実技指導（教則本・奏法2）	実技指導（小作品・共通教材及び子どもの歌・弾き歌い1）
実技指導（教則本・奏法3）	実技指導（小作品・共通教材及び子どもの歌・弾き歌い2）
実技指導（教則本・奏法4）	実技指導（小作品・共通教材及び子どもの歌・弾き歌い3）
実技指導（教則本及び小作品1）	実技指導（小作品・共通教材及び子どもの歌・弾き歌い4）
実技指導（教則本及び小作品2）	アンサンブル1
実技指導（教則本及び小作品3）	アンサンブル2
実技指導（教則本及び小作品4）	アンサンブル3
アンサンブル1	伴奏付けの基礎
アンサンブル2	伴奏付けの演習1
アンサンブル3	伴奏付けの演習2
グループ内において前期の学習成果を発表しあう。	グループ内において後期の学習成果を発表しあう。
まとめ	まとめ

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>毎時間、グループで学習を進めます。ピアノ実技においては、授業外の地道な自己学習を心がけて下さい。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p> <p>「音楽Ⅰ」「音楽科指導法」と関連している。</p>
-------------------	--

成績評価の方法											
<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>70%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>30%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	70%	レポート	0%	中間試験	0%	定期試験	0%	その他	30%	前期のまとめ・後期のまとめの発表会（70点）、その他の受講態度（20点）、出席（10点）で評価する。
課題・小テスト	70%										
レポート	0%										
中間試験	0%										
定期試験	0%										
その他	30%										

テキスト	<input type="checkbox"/> テキストを使用する <input type="checkbox"/> レジユメを使用する <input checked="" type="checkbox"/> 未定（最初の授業で指示する）
------	--



科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
図画工作	2	2	前期/後期開講	守山 均

テーマ	幼児教育・保育の内容を理解し展開するために必要な造形に関する基本的な知識と技能の習得
-----	--

科目のねらい	<p>【キーワード】基礎技能 教科に関する科目 造形 美術 美術</p> <p>&lt;内容の要約&gt;          幼児教育・保育の内容を理解し展開するために必要な造形に関する基本的な知識と技能を習得し、教育・保育実践のなかで取り扱う教材を考案・制作しそれらを展開するために必要な知識と技能を修得する</p> <p>&lt;学習目標&gt;          児童が造形活動を行なう上で必要な材料・道具に関する知識を整理・分類し体系的な理解を深める。          絵画、工作、彫塑など平面表現及び立体表現の各演習を通じ、描き作るために必要な知識と技能を具体的かつ系統的に習得する。          児童の造形活動を理解しその指導と援助に必要な技能を身につける。</p>
--------	---

授業のながれ	
授業の概要と進め方	版画演習① 版画表現の意義と分類
造形素材の研究「紙」	版画演習② 紙版画の製版
ペーパークラフト、技法の研究①	版画演習③ プリントの実際
ペーパークラフト、技法の研究②	素材の応用「多色刷り版画あそび」
技法の応用「ポップアップ絵本の製作」①	工作遊びと接着・切断の技法について
技法の応用「ポップアップ絵本の製作」②	立体表現と素材の研究「彫塑と彫刻」
子どもの描画表現と画材の研究	造形素材ダンボールと劇人形マリオネットの製作①
平面表現と造形遊び①	造形素材ダンボールと劇人形マリオネットの製作②
平面表現と造形遊び②	造形素材白ボール紙とペーパサート・影絵の製作①
造形素材の研究「粘土」、土遊びの意義と分類	造形素材白ボール紙とペーパサート・影絵の製作②
テラコッタの製作	造形素材発泡スチロールと指人形(ギニョール)の製作①
焼き物あそび①成型の基礎(板作り・紐作り、ろくろ成形)	造形素材発泡スチロールと指人形(ギニョール)の製作②
焼き物あそび②施釉の基礎	造形素材発泡スチロールと指人形(ギニョール)の製作③
焼き物あそび③焼成の準備	子どもの造形活動における安全及び環境への保育者の配慮について
中間のまとめ	総括

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>2限連続の演習で、科目の目標を半期で達成する点</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;          「音楽」「体育」「保育内容研究Ⅴ」</p>
-------------------	---

成績評価の方法											
<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>60%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>40%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	60%	レポート	0%	中間試験	0%	定期試験	0%	その他	40%	出席、課題の提出(小レポート)、受講態度等から総合的に評価する。
課題・小テスト	60%										
レポート	0%										
中間試験	0%										
定期試験	0%										
その他	40%										

テキスト	
<input checked="" type="checkbox"/> テキストを使用する <input type="checkbox"/> レジューメを使用する <input type="checkbox"/> 未定(最初の授業で指示する)	守山均 保育を支える造形の技 愛智出版

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
図画工作	2	2	前期/後期開講	佐善 圭

テーマ	日常保育の内容を理解し展開するために必要な造形に関する基礎技能の習得
-----	------------------------------------

科目のねらい	<p>【キーワード】基礎技能 造形活動 保育内容の理解と展開</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>本授業は、子どもの造形活動を援助する保育者としての基礎的な技能や知識を身に付け、さまざまな素材による表現手法の演習に取り組みます。また、同時に造形特有の「創作することの楽しさ」、「表現することの素晴らしさ」などを体感し、子どもの喜びに共感できる豊かな感性を身につけることをねらいとします。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>造形表現の基本的な理論と技能を習得する。</p> <p>造形表現における、基礎的な素材の理解、道具の使い方を習得する。</p> <p>技法のみに偏らない、子供たちの表すものに心身で共感できる豊かな感性を身につける。</p>
--------	--

授業のながれ	
オリエンテーション	色彩のマジック③絵の具による造形表現
立体造形の基礎制作①	色彩のマジック④技法の習得
立体造形の基礎制作②	色彩のマジック⑤技法の習得
立体造形の基礎制作③	自然の素材であそぶ① 粘土遊び（練る・丸める・伸ばす・ちぎる・たた
金属の加工制作④	自然の素材であそぶ② 焼き物の制作（成形）
金属の研磨制作⑤	自然の素材であそぶ③ 焼き物の制作（成形）
シルクスクリーン版画の制作①（孔版制作）	木のおもちゃ①切る
シルクスクリーン版画の制作②版下制作	木のおもちゃ②切る
シルクスクリーン版画の制作③版下制作	木のおもちゃ③彫る
シルクスクリーン版画の制作④印刷技法	木のおもちゃ④磨く
ペーパークラフト 立体の制作	自然の素材であそぶ④ 焼き物の制作（施釉・焼成）
切り紙のステンドグラス②	版画の世界① 凸版制作
切り紙のステンドグラス①	版画の世界② 凸版制作
色彩のマジック①絵の具による造形表現	版画の世界③ 凹版制作
色彩のマジック②絵の具による造形表現	まとめ（子供の絵画・造形表現の理解）

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>・常に保育・教育実践の場面を想定し、幼児と関わる上での造形活動の在り方を考え、各自それぞれの創意工夫をしながら制作方法を模索します。また、單元ごとに自らの作品をファイリングし、就職活動においてプレゼンテーションできるものとします。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p>
-------------------	--

成績評価の方法	
課題・小テスト レポート 中間試験 定期試験 その他	0% 0% 0% 0% 100%
	提出作品 60%出席状況 10%、授業参加状況、制作過程 30%

テキスト	
<input checked="" type="checkbox"/> テキストを使用する <input type="checkbox"/> レジユメを使用する <input type="checkbox"/> 未定（最初の授業で指示する）	守山均 『保育へのステージ② 「保育を支える造形の技」』 愛智出版



科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
体育 (T101)	2	2	通年開講	吉田 文久

テーマ	「みんなができる・わかる体育の指導」(幼児の体育指導)
-----	-----------------------------

科目のねらい
<p>【キーワード】技術指導の系統性 分析・記録 幼児の発達 教材づくり 教材づくり グループ学習</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>保育、幼稚園では、まだまだ子どもたちの遊びや運動を「体育」として組織的に展開しているとは言えない状況にあります。この授業では、幼児期の子どもたちの運動に親しむ資質や能力を育てるとともに、楽しく明るい生活を営む方法を学ぶことを目的とし、保育者は遊びや運動を体育活動としてどのように組織し、指導するといいいのかについて、自分たちが指導者の役割を演じながら、指導の経験をするとともに、自分たちで運動教材づくりに取り組みます。つまり、いろいろな運動を学ぶ(教えられる)立場でそれら経験すると同時に、教える側として求められる力を養っていきます。</p> <p>&lt;学習目標&gt; ・マットやボールを使った運動遊びの学習を核にして、技術指導の系統性を理解し、子どもたちの技能の習熟(できばえ)を客観的に受け止めるための分析・記録方法を学ぶことができる。 ・技術の習得や技能の向上をめざしてグループで教えあい、分析し合う意味とその価値を学ぶことができる。 ・既存の運動教材の他に自分たちで教材を開発し、教材づくりの視点や方法を学ぶことができる。 ・人の前に立って指導することの難しさややりがいを受け止め、保育者として運動を指導する上での自身の課題を発見することができる。</p>

授業のながれ	
オリエンテーション・グループ分け	後期オリエンテーション(新しいグループ分け、後期の課題の提示と確認、各グループでの教材づくり(各グループの希望をもとに運動領域の配分))
いろいろ感覚づくり運動(体気づき、体ほぐし)	各グループでの活動Ⅰ(確定した運動領域の教材研究)
鬼遊びⅠ	各グループでの活動Ⅱ(指導案づくり①)
縄とび運動	各グループでの活動Ⅲ(指導案づくり②)
ボール遊びⅠ(ボールを扱ったいろいろな運動:個人)	各グループの指導による模擬保育Ⅰ
ボール遊びⅡ(ボールを扱ったいろいろな運動:集団)	各グループの指導による模擬保育Ⅱ
マット運動Ⅰ(マットを使ったいろいろな運動)	各グループの指導による模擬保育Ⅲ
マット運動Ⅱ(ネコちゃん体操)	模擬保育の反省会(保育の展開や内容の検討)
マット運動Ⅲ(川とびから側転へ)	各グループでの活動Ⅰ(教材開発①)
マット運動Ⅳ(側転①技術の分析・観察法を学ぶ)	各グループでの活動Ⅱ(教材開発②)
マット運動Ⅴ(側転②技術の分析記録)	開発した教材による模擬保育Ⅰ
音楽マットⅠ(曲選びや運動要素の検討)	開発した教材による模擬保育Ⅱ
音楽マットⅡ(集団演技づくり)	開発した教材による模擬保育Ⅲ
音楽マット発表会	開発した教材による模擬保育の反省会(寄せられた意見などを頼りに教材の修正、保育展開の検討)
前期まとめ・レポート試験	1年間のまとめ・修了レポート試験

学ぶ上での注意・担当教員からの希望
<p>保育職をめざす人々には、子どもたちの発達を理解し、子どもたちの様子をイメージしながら、授業を受けることで自身の学びを深めることができます。できれば授業と平行しながら自主的に幼児と触れあう経験をしてください。また授業では、教えられる側から教える側に自分を置き換えて授業を受け止める力が求められます。同じ道をめざす仲間と知恵を出し合い、議論する中で解決していくという姿勢をもって授業に臨んでください。必要に応じてこちらでレジュメを用意します。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;保育内容研究Ⅰ(からだと健康)、スポーツ実技</p>

成績評価の方法											
<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>0%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	0%	レポート	100%	中間試験	0%	定期試験	0%	その他	0%	出席状況、毎時間のミニレポート、前期レポート、修了レポートの内容に基づき総合的に評価します。皆出席を前提としますので、欠席は1回につき5点ずつ減点します。
課題・小テスト	0%										
レポート	100%										
中間試験	0%										
定期試験	0%										
その他	0%										

テキスト
<input type="checkbox"/> テキストを使用する <input checked="" type="checkbox"/> レジュメを使用する <input type="checkbox"/> 未定(最初の授業で指示する)

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
体育 (T102)	2	2	通年開講	山本 秀人

テーマ	幼稚園・保育所における体育の指導内容・方法について学ぶ
-----	-----------------------------

科目のねらい	<p>【キーワード】 教科内容 技能習熟（できる） 技術認識（わかる） 技術指導の系統性 技術指導の系統性 指導</p> <p>&lt;内容の要約&gt;  幼稚園・保育所において体育を展開していく場合問われるのは、発達課題とかかわらせたうえで、子どもたちに体育で何を教え・伝えるのかという内容が科学的・系統的に整理された取り組みであるかどうかです。そのために幼稚園教諭・保育士は、マット運動・とび箱運動・ボール運動・竹馬・なわとびなど、それぞれの教材でしか味わえないおもしろさや、そのことを実感できうる技術指導の内容・方法を系統的に整理する必要があります。そのことによって、「できる」ようになることに加え、「わかる」という技術認識を子どもたちに獲得させることが可能になってくるのです。本講義（実技）では、「保育内容研究Ⅰ（からだと健康）」の内容をふまえ、「できて・わかり・楽しい」体育の指導内容・方法について考えていきます。</p> <p>&lt;学習目標&gt;  教材固有のおもしろさについて理解し、実際に「できる」「わかる」ようになる。  技術指導の系統性について理解できる。  教材の指導案づくりができる。  実際に指導することができる。</p>
--------	--

授業のながれ	
オリエンテーション グループ分け	オリエンテーション 指導案づくりについて
身体表現としてのマット運動（感覚づくり・マット慣れ）	教材の指導案づくりと具体的指導方法の発表①
身体表現としてのマット運動（うさぎのさかだち）	教材の指導案づくりと具体的指導方法の発表①
身体表現としてのマット運動（うさぎのさかだちから川とび）	教材の指導案づくりと具体的指導方法の発表①
身体表現としてのマット運動（リズムの変化）	教材の指導案づくりと具体的指導方法の発表②
身体表現としてのマット運動（歩いてからの側転）	教材の指導案づくりと具体的指導方法の発表②
身体表現としてのマット運動（ホップ側転）	教材の指導案づくりと具体的指導方法の発表②
身体表現としてのマット運動（連続技づくり）	教材の指導案づくりと具体的指導方法の発表③
身体表現としてのマット運動（発表会）	教材の指導案づくりと具体的指導方法の発表③
空間表現としてのとび箱運動（腕立て開脚とび越し）	教材の指導案づくりと具体的指導方法の発表③
空間表現としてのとび箱運動（腕立て開脚とび越し）	教材の指導案づくりと具体的指導方法の発表④
空間表現としてのとび箱運動（腕立て横とび越し）	教材の指導案づくりと具体的指導方法の発表④
空間表現としてのとび箱運動（発表会）	教材の指導案づくりと具体的指導方法の発表④
前期まとめ	1年間のまとめ
レポート試験	修了レポート試験

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>毎時間ミニレポートを書いてもらいます。各グループで授業をつくりあげていきますので、授業時間以外のグループ活動が必要になります。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;  保育内容研究Ⅰ（からだと健康）</p>
-------------------	---

成績評価の方法	
課題・小テスト 0% レポート 50% 中間試験 0% 定期試験 0% その他 50%	出席状況、毎時間のミニレポート、前期レポート、修了レポートの内容。さらに、後期それぞれのグループで作成した教材の指導案内容と具体的指導方法の発表内容にもとづき総合的に評価します。

テキスト	<input type="checkbox"/> テキストを使用する <input type="checkbox"/> レジュメを使用する <input checked="" type="checkbox"/> 未定（最初の授業で指示する）
------	--

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
体育 (T103)	2	2	通年開講	成宮 宏俊

テーマ	幼稚園・保育所における体育の指導内容・方法について学ぶ
-----	-----------------------------

科目のねらい	<p>【キーワード】 教科内容 技能習熟（できる） 技術認識（わかる） 技術指導の系統性 技術指導の系統性 指導</p> <p>&lt;内容の要約&gt;          幼稚園・保育所において体育を展開していく場合問われるのは、発達課題とかかわらせたうえで、子どもたちに体育で何を教え・伝えるのかという内容が科学的・系統的に整理された取り組みであるかどうかです。そのために幼稚園教諭・保育士は、マット運動・とび箱運動・ボール運動・竹馬・なわとびなど、それぞれの教材でしか味わえないおもしろさや、そのことを実感できうる技術指導の内容・方法を系統的に整理する必要があります。そのことによって、「できる」ようになることに加え、「わかる」という技術認識を子どもたちに獲得させることが可能になってくるのです。本講義（実技）では、「保育内容研究Ⅰ（からだと健康）」の内容をふまえ、「できて・わかり・楽しい」体育の指導内容・方法について考えていきます。</p> <p>&lt;学習目標&gt;          教材固有のおもしろさについて理解し、実際に「できる」「わかる」ようになる。          技術指導の系統性について理解できる。          教材の指導案づくりができる。          実際に指導することができる。</p>
--------	--

授業のながれ	
オリエンテーション グループ分け	オリエンテーション 指導案づくりについて
身体表現としてのマット運動（感覚づくり・マット慣れ）	教材の指導案づくりと具体的指導方法の発表①
身体表現としてのマット運動（うさぎのさかだち）	教材の指導案づくりと具体的指導方法の発表①
身体表現としてのマット運動（うさぎのさかだちから川とび）	教材の指導案づくりと具体的指導方法の発表①
身体表現としてのマット運動（リズムの変化）	教材の指導案づくりと具体的指導方法の発表②
身体表現としてのマット運動（歩いてからの側転）	教材の指導案づくりと具体的指導方法の発表②
身体表現としてのマット運動（ホップ側転）	教材の指導案づくりと具体的指導方法の発表②
身体表現としてのマット運動（連続技づくり）	教材の指導案づくりと具体的指導方法の発表③
身体表現としてのマット運動（発表会）	教材の指導案づくりと具体的指導方法の発表③
空間表現としてのとび箱運動（腕立て開脚とび越し）	教材の指導案づくりと具体的指導方法の発表③
空間表現としてのとび箱運動（腕立て開脚とび越し）	教材の指導案づくりと具体的指導方法の発表④
空間表現としてのとび箱運動（腕立て横とび越し）	教材の指導案づくりと具体的指導方法の発表④
空間表現としてのとび箱運動（発表会）	教材の指導案づくりと具体的指導方法の発表④
前期まとめ	1年間のまとめ
レポート試験	修了レポート試験

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>毎時間ミニレポートを書いてもらいます。各グループで授業をつくりあげていきますので、授業時間以外のグループ活動が必要になります。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;          保育内容研究Ⅰ（からだと健康）</p>
-------------------	---

成績評価の方法		
課題・小テスト	0%	出席状況、毎時間のミニレポート、前期レポート、修了レポートの内容。さらに、後期それぞれのグループで作成した教材の指導案内容と具体的指導方法の発表内容にもとづき総合的に評価します。
レポート	50%	
中間試験	0%	
定期試験	0%	
その他	50%	

テキスト	<input type="checkbox"/> テキストを使用する <input type="checkbox"/> レジュメを使用する <input checked="" type="checkbox"/> 未定（最初の授業で指示する）
------	--

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
体育 (U104)	2	2	通年開講	吉田 文久、山本 秀人

テーマ	「みんなができる・わかる体育の指導」(小学校の体育指導)
-----	------------------------------

科目のねらい	<p>【キーワード】技術指導の系統性 分析・記録 グループ学習 評価 評価 発育・発達</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>「体育」では、幼小を問わず運動に親しむ資質や能力を育てるとともに、楽しく明るい生活を営む方法を学ぶことが目的とされています。そのためには、運動遊び・器械運動・ボール運動・陸上運動などそれぞれの教材でしか味わえないおもしろさに触れ、またそのことを実感できるためにも技術指導の系統性に基づく授業の展開が不可欠です。そして「できる」と「わかる」ことが一体であることを知り、理解することも必要です。この授業では、学ぶ(教えられる)立場でそれら経験すると同時に、教える側として求められる力を養っていきます。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>運動遊び、器械運動、陸上運動、ボール運動の学習を核にして、技術指導の系統性を理解し、子どもたちの技能の習熟(できばえ)を客観的に評価するための分析・記録方法を学ぶことができる。</p> <p>技術の習得や技能の向上をめざしてグループで教えあい、分析し合う意味とその価値を学ぶことができる。</p> <p>「できる」と「わかる」ことが一体であることを学ぶことができる。</p> <p>教材づくり、教材開発の視点や方法を学ぶことができる。</p>
--------	---

授業のながれ	
オリエンテーション・グループ分け	陸上運動Ⅰ(短距離走:田植ライン)
いろいろ感覚づくり運動(体気づき、体ほぐし)	陸上運動Ⅱ(短距離走:スピード曲線)
鬼遊びⅠ	陸上運動Ⅲ(リレー)
縄とび運動	陸上運動Ⅳ(ペースランニング)
ボール遊びⅠ(ボールを扱ったいろいろな運動:個人)	ボール運動Ⅰ(ゴール型、ネット型、ベースボール型)
ボール遊びⅡ(ボールを扱ったいろいろな運動:集団)	ボール運動Ⅱ(的当てからシュートボールへ)
マット運動Ⅰ(マットを使ったいろいろな運動)	ボール運動Ⅲ(シュートボールのルールづくり)
マット運動Ⅱ(ネコちゃん体操)	ボール運動Ⅳ(ゲーム分析)
マット運動Ⅲ(川とびから側転へ)	ボール運動の教材づくりⅠ(各グループで教材を開発する)
マット運動Ⅳ(側転①技術の分析・観察法を学ぶ)	ボール運動の教材づくりⅡ
マット運動Ⅴ(側転②技術の分析記録)	指導案づくり
音楽マットⅠ(曲選び、運動要素の検討)	模擬授業Ⅱ(各グループが開発した教材による指導)
音楽マットⅡ(演技づくり)	模擬授業Ⅲ
音楽マット発表会	模擬授業Ⅲ
前期まとめ・レポート試験	1年間のまとめ・修了レポート試験

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>教職をめざす人々には、教えられる側から教える側に自分を置き換えて授業を受け止める力が求められます。同じ道をめざす仲間と知恵を出し合い、議論する中で解決していくという姿勢をもって授業に臨んでください。必要に応じてこちらでレジュメを用意します。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt; 体育科指導法、スポーツ実技</p>
-------------------	---

成績評価の方法		
課題・小テスト	0%	出席状況、毎時間のミニレポート、前期レポート、修了レポートの内容に基づき総合的に評価します。皆出席を前提としていますので、欠席1回につき5点減点されます。
レポート	100%	
中間試験	0%	
定期試験	0%	
その他	0%	

テキスト	<input type="checkbox"/> テキストを使用する <input checked="" type="checkbox"/> レジュメを使用する <input type="checkbox"/> 未定(最初の授業で指示する)
------	--



科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
体育 (U105)	2	2	通年開講	成宮 宏俊

テーマ	幼稚園・保育所における体育の指導内容・方法について学ぶ
-----	-----------------------------

科目のねらい	<p>【キーワード】 教科内容 技能習熟（できる） 技術認識（わかる） 技術指導の系統性 技術指導の系統性 指導</p> <p>&lt;内容の要約&gt;          幼稚園・保育所において体育を展開していく場合問われるのは、発達課題とかかわらせたうえで、子どもたちに体育で何を教え・伝えるのかという内容が科学的・系統的に整理された取り組みであるかどうかです。そのために幼稚園教諭・保育士は、マット運動・とび箱運動・ボール運動・竹馬・なわとびなど、それぞれの教材でしか味わえないおもしろさや、そのことを実感できうる技術指導の内容・方法を系統的に整理する必要があります。そのことによって、「できる」ようになることに加え、「わかる」という技術認識を子どもたちに獲得させることが可能になってくるのです。本講義（実技）では、「保育内容研究Ⅰ（からだと健康）」の内容をふまえ、「できて・わかり・楽しい」体育の指導内容・方法について考えていきます。</p> <p>&lt;学習目標&gt;          教材固有のおもしろさについて理解し、実際に「できる」「わかる」ようになる。          技術指導の系統性について理解できる。          教材の指導案づくりができる。          実際に指導することができる。</p>
--------	--

授業のながれ	
オリエンテーション グループ分け	オリエンテーション 指導案づくりについて
身体表現としてのマット運動（感覚づくり・マット慣れ）	教材の指導案づくりと具体的指導方法の発表①
身体表現としてのマット運動（うさぎのさかだち）	教材の指導案づくりと具体的指導方法の発表①
身体表現としてのマット運動（うさぎのさかだちから川とび）	教材の指導案づくりと具体的指導方法の発表①
身体表現としてのマット運動（リズムの変化）	教材の指導案づくりと具体的指導方法の発表②
身体表現としてのマット運動（歩いてからの側転）	教材の指導案づくりと具体的指導方法の発表②
身体表現としてのマット運動（ホップ側転）	教材の指導案づくりと具体的指導方法の発表②
身体表現としてのマット運動（連続技づくり）	教材の指導案づくりと具体的指導方法の発表③
身体表現としてのマット運動（発表会）	教材の指導案づくりと具体的指導方法の発表③
空間表現としてのとび箱運動（腕立て開脚とび越し）	教材の指導案づくりと具体的指導方法の発表③
空間表現としてのとび箱運動（腕立て開脚とび越し）	教材の指導案づくりと具体的指導方法の発表④
空間表現としてのとび箱運動（腕立て横とび越し）	教材の指導案づくりと具体的指導方法の発表④
空間表現としてのとび箱運動（発表会）	教材の指導案づくりと具体的指導方法の発表④
前期まとめ	1年間のまとめ
レポート試験	修了レポート試験

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>毎時間ミニレポートを書いてもらいます。各グループで授業をつくりあげていきますので、授業時間以外のグループ活動が必要になります。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;          保育内容研究Ⅰ（からだと健康）</p>
-------------------	---

成績評価の方法		
課題・小テスト	0%	出席状況、毎時間のミニレポート、前期レポート、修了レポートの内容。さらに、後期それぞれのグループで作成した教材の指導案内容と具体的指導方法の発表内容にもとづき総合的に評価します。
レポート	50%	
中間試験	0%	
定期試験	0%	
その他	50%	

テキスト	<input type="checkbox"/> テキストを使用する <input type="checkbox"/> レジュメを使用する <input checked="" type="checkbox"/> 未定（最初の授業で指示する）
------	--

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
教育制度論 (幼小)	2	2	前期開講	川口 洋誉

テーマ	現代日本における教育制度の理念と法的構造—教育基本法を中心に—
-----	---------------------------------

科目のねらい	<p>【キーワード】教育基本法 教育を受ける権利 学校制度 教育行政 教育行政</p> <p>&lt;内容の要約&gt; この講義は、現代日本における教育制度の法的な理念と構造について講義する。特に 2006 年 12 月に改正された教育基本法に焦点を当ててそれを概説し、教育制度の基本原則とその仕組みを理解することをねらいとする。</p> <p>&lt;学習目標&gt; 日本国憲法・教育基本法を中心にした教育制度体系を総体的に理解できる。 現代学校制度の理念・法的構造を理解できる。 現代教員制度の理念・法的構造を理解できる。 現代教育行政制度の理念・法的構造を理解できる。</p>
--------	---

授業のながれ	<p>ガイダンス—「教育制度論」の授業を始めるにあたって—</p> <p>『教育小六法』の利用方法</p> <p>旧教育基本法と新教育基本法</p> <p>教育基本法の基本原理 (1) 教育の目的・目標 (前文・第 1~2 条)</p> <p>教育基本法の基本原理 (2) 生涯学習の理念・教育の機会均等 (第 3~4 条)</p> <p>教育基本法の基本原理 (3) 教育行政 (第 16 条)</p> <p>教育基本法の基本原理 (4) 教育振興基本計画 (第 17 条)</p> <p>教育基本法の基本原理 (5) 義務教育・学校教育 (第 5~8 条)</p> <p>教育基本法の基本原理 (6) 下位法における学校制度規定</p> <p>教育基本法の基本原理 (7) 教員 (第 9 条)</p> <p>教育基本法の基本原理 (8) 下位法における教員制度規定</p> <p>教育基本法の基本原理 (9) 家庭教育・社会教育ほか (第 10~15 条)</p> <p>教育制度をめぐる現代的課題 (1) 「国を愛する態度」育成と愛国心教育 (映像資料)</p> <p>教育制度をめぐる現代的課題 (2) 学校教育における日の丸・君が代</p> <p>教育制度をめぐる現代的課題 (3) 『歌わせたい男たち』</p>
--------	--

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>&lt;本科目の関連科目&gt; 日本国憲法</p>
-------------------	-----------------------------------

成績評価の方法	<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>0%</td> <td rowspan="5">全講義終了後に実施する筆記試験を中心に、授業中のレポートを加味して、評価を付けます。</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>70%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>0%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	0%	全講義終了後に実施する筆記試験を中心に、授業中のレポートを加味して、評価を付けます。	レポート	30%	中間試験	0%	定期試験	70%	その他	0%
課題・小テスト	0%	全講義終了後に実施する筆記試験を中心に、授業中のレポートを加味して、評価を付けます。										
レポート	30%											
中間試験	0%											
定期試験	70%											
その他	0%											

テキスト	<p><input checked="" type="checkbox"/> テキストを使用する</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> レジュメを使用する</p> <p><input type="checkbox"/> 未定 (最初の授業で指示する)</p> <p>市川須美子・浦野東洋一・小野田正利・窪田眞二・中嶋哲彦・成嶋隆編 『教育小六法』 (平成 22 年版) 学陽書房</p>
------	---



科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
教育相談の基礎と方法 (小)	2	2	後期開講	江口 昇勇

テーマ	児童・生徒の発達の特徴と問題を理解し、学校における教育相談の理論と実践を学ぶ。
-----	---

科目のねらい	<p>【キーワード】教育相談 カウンセリングマインド 精神力動的理解 学校査定 学校査定 保護者理解</p> <p>&lt;内容の要約&gt; 教育相談は、子どもの人格発達・成長を援助することを目的としている。そこでそれぞれの時期の人格発達上の発達課題や問題について学ぶ。そして教育相談の理論的枠組みとしてのカウンセリング理論とその技法を学習した上で、不登校やいじめ、非行などについての理解の仕方や対応のあり方について考えていく。</p> <p>&lt;学習目標&gt; 初歩的なカウンセリング理論と技法を習得し、それぞれの現場でカウンセリングマインドを生かした教育相談活動を実践できるようにする。 子どもの言動、態度の背後には、必ず保護者の育て方の問題が潜んでおり、目の現象と親子関係のつながりが見抜けるようになること。 教師として子どものさまざまなあり方について反応してしまうことがあり、こうした逆転移に敏感になる。</p>
--------	--

授業のながれ	
教育相談とは	
児童期における発達の諸相	
思春期・青年期における発達の諸相	
心理査定の方法1 (心理テスト/自分自身を知る)	
心理査定の方法2 (人間関係の性質を理解する)	
心理査定の方法3 (行動観察と生育史から子どもを理解する)	
カウンセリングの理論1 (カウンセリングマインド)	
カウンセリングの理論2 (力動的理解の仕方)	
カウンセリングの技法	
不登校の理解と対応	
いじめ・非行の理解と対応	
軽度発達障害児の理解と援助	
保護者との連携	
スクールカウンセラーや専門機関との連携	
まとめ	

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>授業中の私語・携帯電話の操作・飲食等、受講の妨げとなる行為は禁止。便宜資料を配布</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p>
-------------------	---

成績評価の方法											
<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>70%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>10%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	20%	レポート	0%	中間試験	0%	定期試験	70%	その他	10%	出席、授業内の小レポート、および試験によって総合的に評価する。
課題・小テスト	20%										
レポート	0%										
中間試験	0%										
定期試験	70%										
その他	10%										

テキスト	<input type="checkbox"/> テキストを使用する <input checked="" type="checkbox"/> レジュメを使用する <input type="checkbox"/> 未定(最初の授業で指示する)
------	--

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
小児保健実習	1	2	後期開講	小林 きよ子

テーマ	子どもたちの健やかな成長を護り育むために必要な専門的知識と、それに基づく技術を習得する。
-----	--

科目のねらい	<p>【キーワード】 護る 育む 把握・評価 緊急対応 緊急対応 健康教育</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>現代は、核家族化や出生率減少により子どもの生まれや育ちを身近に経験できる機会は減少し、同様の理由で、保護者（特に母親）も育児不安に陥りやすい。このような中で、子どもたちは、生活環境変化の影響も受け、「安心して安らいでいる時間」と「からだを思い切り使った喜びの時間」を失いがちである。このような状況の中、子どもたちが「安心」と「喜び」を実感しつつ健やかに育つために、保育者として実践できることはなにか。この現実的課題を踏まえつつ、子どもたちの健やかな発育発達を支援できる内容を組み立てた。具体的には、「望ましい発育発達支援」「健康状態の観察評価」「けがや病変時の緊急対応」「環境整備」「子どもの心の理解」など、実際に手立てが取れるよう学んでいく。子どもたちに愛おしさや興味を深めつつ、その健やかさを護り育む実践活動に向けた学びがねらいである。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>子どもの健康状態について、子どもの観察をもとに把握し、かつ評価することができる。</p> <p>緊急事態にいかに対応するかを学び、実践につなげることができる。</p> <p>子どもの健康が何によって左右されるかについて理解できる。</p> <p>より健やかな状態へと導く手だてを知り、実践することができる。</p> <p>子どもたちが、自分の健康をまもり育てようとする意欲を持つよう指導できる。</p>
--------	---

授業のながれ
「小児保健実習」授業の導入と保育者の心構え
健康管理と健康観察の留意点
保育環境（温度、湿度）の測定と清潔の保持
健康診断と身体発育状態の観察
精神と運動機能の発達
応急処置－① 内科的応急処置
応急処置－② 外科的応急処置
乳児の世話（沐浴）
保健指導①生活の見直し
保健指導②歯の健康
健康相談
視力・聴力とその検査
保健指導③性の指導
保健指導④運動、遊び、からだづくり
保育者と保護者の健康 ★実習との関連で内容の順序変更あり

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>日頃から子どもをよく観察してみてください。そのことによって、保育士として必要な「いつもの違いに気付く力」や「子どもを理解する力」がついてきます。その積み重ねによって、保育にあたることの楽しみが深まり、学びのモチベーションがあがり、結果的により良い保育活動が生まれていくと考えています。受講生の皆さんは、どうぞ日常の中でしっかりと観察する楽しみを味わってください。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt; 小児保健</p>
-------------------	---

成績評価の方法	出席と実習にたいする参加状況を重視します。また、実習内容の理解度はショートレポートの形式で求めます。出席と実習への参加態度 30%, 毎時のショートレポート 30%, 試験 40%
課題・小テスト	40%
レポート	30%
中間試験	0%
定期試験	0%
その他	30%

テキスト	<input type="checkbox"/> テキストを使用する <input type="checkbox"/> レジュメを使用する <input checked="" type="checkbox"/> 未定（最初の授業で指示する）
------	--

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
保育方法論Ⅱ	2	2	前期開講	勅使 千鶴

テーマ	保育実践における指導—ひとりひとりを大切に、仲間とともに育つ保育の指導
-----	-------------------------------------

科目のねらい
--------

<p>【キーワード】 保育方法 保育方法の基本的視点 活動領域 あそび あそび クラス運営</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>本講義は、「保育方法論Ⅰ」の内容（子どもの把握のしかたを学ぶ）を受けて、保育所や幼稚園の保育の方法（指導のしかた）について学びます。指導方法の基本的な視点を明らかにした後、諸活動領域に焦点をあて指導方法について考えます。とくに、諸領域の中でも保育で重視されているあそびに焦点を当てます。保育界では実践における「指導」をめぐり、1989年頃から混乱が起きています。21年経た今日もなおその状態が続いています。そうした実情を勘案し学んでいきます。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>①本来の指導とは何かを学びます。</p> <p>②保育のなかでの各領域の位置づけを学びます。</p> <p>③保育の領域とその指導のありかたについて学びます。</p> <p>④領域の中でもあそびと指導のありかたについて先人の保育実践を手がかりに受講生とともに考えます。</p> <p>⑤クラス集団の組織のしかたを考えます。</p>
--

授業のながれ
--------

1回 幼稚園・保育所の保育実践における保育方法とは
2回 1. 保育の方法—指導のありかたを実践から学ぶ 1) 保育方法とは何か—倉橋惣三に学ぶ
3回 2) 子どもと保育者の役割—ひとりひとりを大切に作る指導
4回 3) 子どもの発達と指導との関係
5回 4) 子どもと子どもとの関係を結ぶことを大切に作る指導
6回 2. 保育活動の領域に関わる指導 1) 生活技術・生活習慣の領域とその指導
7回 2) あそびとその指導 ①あそびの本質
8回 ②あそびの種類とあそびの発展過程
9回 ③あそびの指導 ・あそびの指導の今日的意味とその大切さ ・あそびの内容に関わる指導—実践記録に学ぶ
10回 ④あそびの展開の場面での指導のいくつかのこと ・あそびのなかでの話し合いの指導
11回 ・競争あそびの指導
12回 ・あそびの技術の指導
13回 3) クラスの運営 ①クラスの編成 ②クラスの運営
14回 3. 保育のなかでの行事の取り組み方 ・行事の意義と取り組み方
15回 4. 保育実践における方法を考える

学ぶ上での注意・担当教員からの希望
-------------------

<p>1. 本講義は、「保育方法論Ⅰ」に続いた内容で行うので「Ⅰ」を受講していること。2. 毎回、プリントや資料を配布するので、保存し、講義の時に持参してください。3. あなたの出身の保育所や幼稚園でボランティアや手伝いを積極的にして乳幼児と接触する機会を持つことを勧めます。4. 保育方法論Ⅰで紹介した実践記録は付属図書館にあります。2年次で読了してください。5. 5回目以降テキストを利用します。テキストを購入してください。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p> <p>「保育論」「保育方法論Ⅰ」「保育内容の研究Ⅰ～Ⅴ」「保育内容総論」</p>
---

成績評価の方法	
課題・小テスト 0% レポート 10% 中間試験 0% 定期試験 90% その他 0%	1. 期末の試験が90点です。2. それに、講義中に出すミニ・レポートで10点を加味します。

テキスト
------

<input checked="" type="checkbox"/> テキストを使用する <input checked="" type="checkbox"/> レジュメを使用する <input type="checkbox"/> 未定(最初の授業で指示する)	勅使千鶴 子どもの発達とあそびの指導(1999) ひとなる書房
---	---------------------------------

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
国語科指導法	2	2	前期開講	小林 信次

テーマ	学習指導要領の示される国語科の教育内容に基づき、教科書の教材とはどのようなものかについて理論的に追求するとともに、具体的な教材を対象として分析・考察していく
-----	--

科目のねらい	<p>【キーワード】国語の教科書研究 文学・説明文の読み 教材研究と授業 模擬授業と学習集団 模擬授業と学習集団 教師としての力量</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>国語の教材は、話すこと・聞くこと、書くこと、読むこと、読者の心を豊かにするためのものである。本授業では、教材の分析や比較研究を通じて理解力・思考力・判断力を鍛え、種々の教材を適切に運用する方法・技術が習得できるように、国語教育の目的にふさわしい教材を選定し、工夫する能力を身に付けさせる。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>学習指導要領の示される国語科の教育内容に基づき、教科書の教材とはどのようなものかについて理論的に追求するとともに、具体的な教材を対象として分析・考察していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国語の指導要領解説を学びや教科書の教材が分析できるようにする。</li> <li>・文学作品・説明文の授業ができるようにする。</li> <li>・国語科としての全体像を理解し、教師としての資質が身に付くようにする。</li> </ul>
--------	---

授業のながれ	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス 1－授業の概要と進め方</li> <li>2. 小学校国語科教育における学習指導要領と教材研究の位置・意義</li> <li>3. 「音声言語」の教材研究 3回目以降は、学生による『模擬授業』を行う</li> <li>4. 「文学作品」の教材研究 ◎ 模擬授業（4回より12回）各自で準備した教材で</li> <li>5. 「説明文」の教材研究</li> <li>6. 「作文」の教材研究</li> <li>7. 「言語事項」の教材研究（書写を含む）</li> <li>8. 「読書指導・読み聞かせ」の教材研究</li> <li>9. 関連教材づくりと教材研究の方法</li> <li>10. 国語科教材研究の実際①－各自の選択した教材のなかで、学年段階・文種等を考慮したうえでそれぞれについて教材研究の結果を発表する。</li> <li>11. 国語科教材研究の実際②－各自の選択した教材のなかで、学年段階・文種等を考慮したうえでそれぞれについて教材研究の結果を発表する。</li> <li>12. 国語科の基礎知識</li> <li>13. 文字の形、大きさ、配列などを理解しながら書く（書写を含む）</li> <li>14. 書写の指導法・毛筆用具の使い方の基本（書写を含む）</li> <li>15. まとめ</li> </ol>
--------	---

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>教職課程の授業として、将来教師として生かされるように自らの学習と共同的な学習が積み重ねられるように参加してもらいたい。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p> <p>『国語科研究』と関連している。模擬授業の教材などで使用する。</p>
-------------------	--

成績評価の方法	<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>20%</td> <td rowspan="5">出席、課題の提出（小レポート）、最終試験、受講態度から総合的に評価する。・授業の参加 授業のまとめの小レポート（随時）レポート（試験）などをもとに評価する。</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>10%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	20%	出席、課題の提出（小レポート）、最終試験、受講態度から総合的に評価する。・授業の参加 授業のまとめの小レポート（随時）レポート（試験）などをもとに評価する。	レポート	20%	中間試験	20%	定期試験	30%	その他	10%
課題・小テスト	20%	出席、課題の提出（小レポート）、最終試験、受講態度から総合的に評価する。・授業の参加 授業のまとめの小レポート（随時）レポート（試験）などをもとに評価する。										
レポート	20%											
中間試験	20%											
定期試験	30%											
その他	10%											

テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>■テキストを使用する</li> <li>■レジュメを使用する</li> <li>□未定（最初の授業で指示する）</li> </ul> <p>柴田義松 阿部昇 あたらしい国語科指導法 学文社 文部科学省 小学校学習指導要領 国語科 文部科学省</p>
------	---

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
算数科指導法	2	2	後期開講	渡辺 靖敏

テーマ	授業づくりの視点から、教材研究の力量を高め、授業実践力を培う。
-----	---------------------------------

科目のねらい	<p>【キーワード】量の体系 シューマ 生きて働く力 評価規(基)準 評価規(基)準</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>高学年になるほどに、学力差も大きく、算数嫌いも増える。結果として、学力低下を招いているが、“学ぶことが喜び”となるような授業づくりは、どうあるべきかを追究する。さらに、ネタ・技術を模擬授業風に体験しながら、子どもたちが“分かりやすく”“楽しい”魅力ある授業のあり方を考える。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>教材分析の力を高め、W I S E な子を育む授業方法を身につけることができる。</p> <p>授業を楽しくする技術・ネタを獲得することができる。</p> <p>量の理論に基づく自主編成能力を培うことができる。</p>
--------	---

授業のながれ	
今どきの子どもたち <学校と学習塾>	
授業構想の立て方 <授業の三角形>	
「数の導入」の教え方、学び方	
「加法・減法」の教え方、学び方	
「乗法」の教え方、学び方	
「除法」の教え方、学び方	
「小数・分数」の教え方、学び方	
「外延量」の教え方、学び方	
「内包量」の教え方、学び方	
「図形 PART I」の教え方、学び方	
「図形 PART II」の教え方、学び方	
総合学習としての算数	
学び・指導・支援のあり方 <学習指導案の立て方>	
目標・授業・評価の一体化 <学習指導案の書き方>	
まとめ <「わかる」「できる」「楽しい」授業>	

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>“すべての子を同じ授業の舞台に乗せるにはどうしたらよいか”を考える教師になるために役立つネタ・技術などを多く紹介するので、積極的に、その教材を味わうように行動してもらいたい。また、常時“はさみ”“のり”を準備しておくこと。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p> <p>「算数科研究」</p>
-------------------	---

成績評価の方法											
<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>55%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>15%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	30%	レポート	55%	中間試験	0%	定期試験	0%	その他	15%	①毎回の授業感想(30%) ②最終講義時のレポート(55%) ③出席率(15%)の加点方式で行う。
課題・小テスト	30%										
レポート	55%										
中間試験	0%										
定期試験	0%										
その他	15%										

テキスト	
<input type="checkbox"/> テキストを使用する <input checked="" type="checkbox"/> レジュメを使用する <input type="checkbox"/> 未定(最初の授業で指示する)	

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
理科研究	2	2	後期開講	水野 暁子

テーマ	教材の研究を中心として、小学校理科の授業のための基礎的知識を身につける
-----	-------------------------------------

科目のねらい
<p>【キーワード】理科 科学 自然 見えないものを見る 見えないものを見る</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>新しい学習指導要領を考慮しながら、当たり前のように思っている身近な自然を改めて科学の目で見直すことによって、小学校の理科教育で大切なことは何かを考えられるようにする。さらに、理科教育のユニバーサルデザイン化への視点とそのための技術を学ぶ。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>理科教育で大切にしたいことを考える</p> <p>自然と付き合うことや科学を学ぶことの意義を考える</p> <p>身近な自然と付き合う</p> <p>見えないものを見るための方法を知る・考える</p>

授業のながれ
理科教育とは？（人間の成長と自然と科学）・学習指導要領に見られる小学校理科
教科内容 物質・エネルギー①
教科内容 物質・エネルギー②
教科内容 物質・エネルギー③
教科内容 物質・エネルギー④
教科内容 物質・エネルギー⑤
教科内容 物質・エネルギー⑥
教科内容 生命・地球①
教科内容 生命・地球②
教科内容 生命・地球③
教科内容 生命・地球④
教科内容 生命・地球⑤
教科内容 生命・地球⑥
理科教育のユニバーサルデザイン化：障害のある子どもの理解と支援の工夫
まとめ

学ぶ上での注意・担当教員からの希望
<p>「安全」に注意！</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p> <p>「理科指導法」「生物と人間」</p>

成績評価の方法										
<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>70%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>0%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	0%	レポート	30%	中間試験	0%	定期試験	70%	その他	0%
課題・小テスト	0%									
レポート	30%									
中間試験	0%									
定期試験	70%									
その他	0%									

テキスト
<input type="checkbox"/> テキストを使用する <input checked="" type="checkbox"/> レジュメを使用する <input type="checkbox"/> 未定（最初の授業で指示する）



科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
家庭科研究	2	2	前期開講	加藤 慧子

テーマ	小学校学習指導要領に示される家庭科の教科目標に基づき家庭生活から出発し、家庭生活へと戻っていく家庭科の特色を踏まえ、衣食住について基礎的な内容を学ぶ。
-----	---

科目のねらい	<p>【キーワード】衣食住 家庭生活から発信 家庭生活へ発展 実践的な態度の育成 実践的な態度の育成</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>家庭科は衣食住に関する実践的・体験的な活動を通して、日常生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けるとともに、家庭生活を大切にしている心情をはぐくみ、家族の一員として生活をよりよくしようとする実践的な態度を身に付ける教科である。「家庭生活と家族」「日常の食事と調理の基礎」「快適な衣服と住まい」「身近な消費生活と環境」についての解説・紹介を行い、実践的な技能・態度を身に付けるとともに、家庭科教育の大切さを理解させる。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>小学校家庭科の授業内容を理解することができる。</p> <p>衣食住に関する基礎的な技能を知り、身に付けることができる。</p> <p>地球環境に配慮した賢い消費生活を理解し、実践にとができる。</p>
--------	---

授業のながれ	<p>ガイダンス 一年間の授業内容と進め方ー 家庭科とは何を教える教科かウェビングを手法として話し合う。</p> <p>家庭科教育の歴史 ー昭和22年から10年ごとに出ている指導要領の内容を比較検討していくー</p> <p>小学校家庭科の年間計画の流れと家庭科教育の工夫 ー学習環境・学習形態・指導体制はどのようにしたらよいかー</p> <p>家庭生活と家族 ー家庭生活における家族の関わりー (見つめよう家庭生活・家族との触れ合いを楽しもう)</p> <p>家庭生活と家族 ー家庭生活における自分の役割ー (住まい・衣生活に関心をもとう・裁縫の基礎を身につけよう)</p> <p>日常の食事のとり方 ー栄養と食事の役割ー (バランスのよい食事とは?)</p> <p>調理の基礎と技能 ー調理はなぜ必要?今なぜ食育に注目が?ー (野菜をゆでてみよう。どう変わるか調べてみよう)</p> <p>調理の基礎と技能 ー調理の技能と安全・衛生面への配慮ー (一人一品105分でできる調理に挑戦)</p> <p>快適な衣服と住まい ー衣服の働きと手入れ・居心地のよい住まい方ー (布の特性を知ろう・自分たちが着ている衣服のタグを調べよう)</p> <p>快適な衣服 ー衣生活における物づくりの基礎1ー (ミシンと手縫いの基礎を身につけよう)</p> <p>快適な衣服 ー衣生活における物作りの基礎2ー (ミシンと手縫いでランチボックス作りに挑戦)</p> <p>快適な衣服 ー衣生活における物作りの基礎2ー (前時からの続きを実施、ミシンと手縫いでランチボックス作りに挑戦)</p> <p>身近な消費者と生活 ー物の選び方と買い方・あなたの買い物スタイルは?消費者トラブルとは?ー</p> <p>身近な消費者と生活 ー環境に配慮した生活とは?商品にしているマークや表示は?地産地消って何?ー</p> <p>指導計画の作成と評価・評定 ー指導計画上の配慮事項とは・家庭との連携・評価評定ー</p>
--------	--

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>・私語厳禁・事前に次の授業について話をし、プリント等を用意するので準備等を忘れないこと。・飲食・携帯電話・他学生への迷惑行為禁止・出席日数・受講態度重視</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p> <p>小学校課程のすべての教科が関連している。特に生活科・保健体育・特別活動・道徳教育は家庭科とが関連強いといえる。</p>
-------------------	--

成績評価の方法	<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>50%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>20%</td> </tr> </table> <p>毎時間授業の最後を書いてもらう小レポートを大切にしたいと思っている。その授業で一人一人の学生が何を学びとった、何を考えたかが分かるレポートを書いてほしい。定期試験は試験問題と小論文とする。受講態度や作品提出も重視したいと考えている。</p>	課題・小テスト	0%	レポート	30%	中間試験	0%	定期試験	50%	その他	20%
課題・小テスト	0%										
レポート	30%										
中間試験	0%										
定期試験	50%										
その他	20%										

テキスト	<p><input checked="" type="checkbox"/> テキストを使用する</p> <p><input type="checkbox"/> レジュメを使用する</p> <p><input type="checkbox"/> 未定(最初の授業で指示する)</p> <p>文部科学省 小学校学習指導要領解説 「家庭編」 東洋館出版</p>
------	--

科目名	単位数	学年担当	開講形態	教員名
社会科指導法	2	2	後期開講	三橋 廣夫

テーマ	社会科の学習内容と教育方法の検討
-----	------------------

科目のねらい	<p>【キーワード】発達課題 社会認識</p> <p>&lt;内容の要約&gt; 小学生の発達課題と現状をもとに、授業実践を紹介し、子どもの社会認識の深まりについて分析します。指導案の作成、模擬授業を行います。</p> <p>&lt;学習目標&gt; 小学校社会科の指導案を作成する。 社会科における認識の発達と授業のかかわりを理解する。</p>
--------	---

授業のながれ	
オリエンテーション 小学校の現状と社会科	
学習指導要領と小学校社会科	
社会科授業と教科書	
高学年社会科授業の実際 (1) 実践紹介と分析	
(2) 同上	
(3) 指導案(略案)作成	
中学年社会科授業の実際 (1) 実践紹介と分析	
(2) 同上	
(3) 指導案(略案)作成	
生活科、総合的な学習の時間と社会科 (1)	
(2) 同上	
模擬授業 (1)	
模擬授業 (2)	
模擬授業 (3)	
まとめ	

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>教職科目ですので学ぶ側と教える側の両面からの受講を考えることを望みます。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt; 社会科研究</p>
-------------------	---

成績評価の方法											
<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>25%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>25%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>50%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	25%	レポート	25%	中間試験	0%	定期試験	0%	その他	50%	出席 (50%)、小レポート (25%)、レポート (25%) です。
課題・小テスト	25%										
レポート	25%										
中間試験	0%										
定期試験	0%										
その他	50%										

テキスト	
<input checked="" type="checkbox"/> テキストを使用する <input checked="" type="checkbox"/> レジュメを使用する <input type="checkbox"/> 未定(最初の授業で指示する)	三橋 ひさ子 ジャンケン・凧・トウガラシ 教育出版

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
道徳教育の指導法 (小)	2	2	前期開講	三橋 廣夫

テーマ	道徳授業の改善方向を見定める
-----	----------------

科目のねらい	<p>【キーワード】道徳教育の歴史 エンカウンター</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>具体的な授業例を検討することを通して、内包する課題を明らかにするとともに、改善の方向をとらえます。また、それらの活動を通して、授業づくりに必要な力量形成の視点を明らかにします。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>道徳授業の目的、カリキュラム上の位置づけ、実施状況などについて、具体的に知る。</p> <p>授業例の検討を通して学んだことを生かしながら実際の指導に効果的な授業の構想を立てる。</p>
--------	---

授業のながれ	
私の受けた道徳の授業	
道徳教育の歴史	
学習指導要領と道徳教育の変遷	
実際の授業事例 (1)	
実際の授業事例 (2)	
道徳の指導案を書く	
模擬授業 (1)	
模擬授業 (2)	
模擬授業 (3)	
模擬授業 (4)	
読み物資料、心のノートを使った授業	
事実にもとづく意思決定を問う授業	
ジレンマ教材を使った授業	
エンカウンター、ソーシャルスキルの授業	
まとめ	

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>いろいろな実践に即して考えます。発表や指導案作成など活動が少ないと思います。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p>
-------------------	---

成績評価の方法		100
課題・小テスト	0%	
レポート	0%	
中間試験	0%	
定期試験	0%	
その他	0%	

テキスト	<p><input checked="" type="checkbox"/> テキストを使用する</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> レジュメを使用する</p> <p><input type="checkbox"/> 未定 (最初の授業で指示する)</p>	柴田義松編 道徳の指導 学文社
------	---	-----------------

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
カウンセリング論 (中高)	2	2	前期開講	瀬地山 葉矢

テーマ	カウンセリングを通じて展開するセラピストとクライアントとの相互交流について理解するとともに、カウンセリングに必要な基礎的技法等について学ぶ
-----	---

科目のねらい	<p>【キーワード】カウンセリングの構造、生成プロセスの理解 セラピストとクライアントの関係性についての理解 カウンセラーの基本的態度とカウンセリングの基礎的技法の理解 思春期の心理発達の課題の理解 思春期の心理発達の課題の理解 カウンセリングにおける身体性についての理解</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>カウンセリングの基本的な理論、アセスメント、技法を学びながら、セラピストとクライアントの間でどのような相互交流が展開し、またその関係性のなかでクライアントがどのように変化していくのかについて学ぶ。また思春期の子どもたちの発達上の課題や、この時期の仲間関係、心理的特徴についても考える。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>カウンセリングの構造、生成のプロセスについて理解できる</p> <p>セラピストとクライアントの関係性のなかで起こるクライアントの変容プロセスについて理解できる</p> <p>カウンセラーの基本的態度およびカウンセリングの基礎的技法を理解する</p> <p>思春期の心理発達の課題について理解する</p> <p>カウンセリングにおける身体性について理解する</p>
--------	---

授業のながれ	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. カウンセリングの歴史</li> <li>2. カウンセリングの構造</li> <li>3. カウンセリングのはじめから終わりまで</li> <li>4. 心理アセスメント</li> <li>5. なぜ「傾聴」なのか</li> <li>6. カウンセリングの基本的態度と技法(1)</li> <li>7. カウンセリングの基本的態度と技法(2)</li> <li>8. 中間まとめ</li> <li>9. 思春期の心理発達の課題</li> <li>10. 他者の経験を理解するとは - talking cure と 「話さなくてもいい」という姿勢</li> <li>11. カウンセリングの生成プロセス</li> <li>12. カウンセリングにおけるクライアントの変容プロセス(1)</li> <li>13. カウンセリングにおけるクライアントの変容プロセス(2)</li> <li>14. カウンセリングにおける身体性</li> <li>15. まとめ</li> </ol>
--------	--

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>【参考文献】 一丸藤太郎・菅野信夫 編著 『学校教育相談』 ミネルヴァ書房 福島脩美 『総説カウンセリング心理学』 金子書房</p>
-------------------	---

成績評価の方法	<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>10%</td> <td rowspan="5">定期試験 70%、 講義中の配布カード 10%、 出席点 20%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>70%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>20%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	10%	定期試験 70%、 講義中の配布カード 10%、 出席点 20%	レポート	0%	中間試験	0%	定期試験	70%	その他	20%
課題・小テスト	10%	定期試験 70%、 講義中の配布カード 10%、 出席点 20%										
レポート	0%											
中間試験	0%											
定期試験	70%											
その他	20%											

テキスト	<p><input type="checkbox"/> テキストを使用する</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> レジュメを使用する</p> <p><input type="checkbox"/> 未定(最初の授業で指示する)</p>
------	---

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
カウンセリング論 (小)	2	2	前期開講	瀬地山 葉矢

テーマ	カウンセリングを通じて展開するセラピストとクライアントとの相互交流について理解するとともに、カウンセリングに必要な基礎的技法等について学ぶ
-----	---

科目のねらい	<p>【キーワード】カウンセリングの構造、生成プロセスの理解 セラピストとクライアントの関係性についての理解 カウンセラーの基本的態度とカウンセリングの基礎的技法の理解 児童期の心理発達の課題の理解 児童期の心理発達の課題の理解 カウンセリングにおける身体性についての理解</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>カウンセリングの基本的な理論、アセスメント、技法を学びながら、セラピストとクライアントの間でどのような相互交流が展開し、またその関係性のなかでクライアントがどのように変化していくのかについて学ぶ。また思春期の子どもたちの発達上の課題や、この時期の仲間関係、心理的特徴についても考える。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>カウンセリングの構造、生成のプロセスについて理解できる</p> <p>セラピストとクライアントの関係性のなかで起こるクライアントの変容プロセスについて理解できる</p> <p>カウンセラーの基本的態度およびカウンセリングの基礎的技法を理解する</p> <p>児童期の心理発達の課題について理解する</p> <p>カウンセリングにおける身体性について理解する</p>
--------	---

授業のながれ	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. カウンセリングの歴史</li> <li>2. カウンセリングの構造</li> <li>3. カウンセリングのはじめから終わりまで</li> <li>4. 心理アセスメント</li> <li>5. なぜ「傾聴」なのか</li> <li>6. カウンセリングの基本的態度と技法(1)</li> <li>7. カウンセリングの基本的態度と技法(2)</li> <li>8. 中間まとめ</li> <li>9. 児童期の心理発達の課題</li> <li>10. 他者の経験を理解するとは - talking cure と 「話さなくてもいい」という姿勢</li> <li>11. カウンセリングの生成プロセス</li> <li>12. カウンセリングにおけるクライアントの変容プロセス(1)</li> <li>13. カウンセリングにおけるクライアントの変容プロセス(2)</li> <li>14. カウンセリングにおける身体性</li> <li>15. まとめ</li> </ol>
--------	--

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>【参考文献】 一丸藤太郎・菅野信夫 編著 『学校教育相談』 ミネルヴァ書房 福島脩美 『総説カウンセリング心理学』 金子書房</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p>
-------------------	---

成績評価の方法	<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>10%</td> <td rowspan="5">定期試験 70%、講義中の配布カード 10%、出席点 20%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>70%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>20%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	10%	定期試験 70%、講義中の配布カード 10%、出席点 20%	レポート	0%	中間試験	0%	定期試験	70%	その他	20%
課題・小テスト	10%	定期試験 70%、講義中の配布カード 10%、出席点 20%										
レポート	0%											
中間試験	0%											
定期試験	70%											
その他	20%											

テキスト	<input type="checkbox"/> テキストを使用する <input checked="" type="checkbox"/> レジュメを使用する <input type="checkbox"/> 未定(最初の授業で指示する)
------	--

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
教育課程論 (幼小)	2	2	前期開講	山本 敏郎

テーマ	教育課程の編成原理と教育課程政策
-----	------------------

科目のねらい	<p>【キーワード】教育課程の領域編成 経験カリキュラムと教科カリキュラム 生活的認識と科学的認識 学習指導要領 学習指導要領</p> <p>&lt;内容の要約&gt;          学校教育の構造（領域と機能）をふまえ教育課程論を講じる。とりわけ、経験カリキュラムと教科カリキュラムに代表されるカリキュラムの編成原理をふまえ、戦後日本の学習指導要領において両者がどう具体化されてきたかについて論じる。また学習指導要領の変遷のなかで教育政策と教育実践において何が争点になっていたかを講じる。</p> <p>&lt;学習目標&gt;          学校教育の基本構造と教育課程の編成原理を理解することができる。          学習指導要領の変遷と、教育政策及び教育実践レベルでの争点が理解できる。          生活的認識と科学的認識のそれぞれの特徴が理解できる。</p>
--------	---

授業のながれ	
教育課程とは何か	
教育課程編成の四つの視点	
教育課程の編成主体	
学校教育の構造と教育課程の領域	
経験カリキュラム	
教科カリキュラム	
学習指導要領の法的根拠	
学習指導要領作成のプロセス	
学習指導要領作成の変遷 1 生活と教育	
学習指導要領作成の変遷 2 科学と教育	
学習指導要領作成の変遷 3 生きる力	
道徳の時間の特設	
国家の道徳と市民の道徳	
学習指導要領の法的拘束性	
まとめ	

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>参考文献は講義中紹介します。注意事項は講義の初回で指示します。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;          教育方法論、特別活動指導法、生徒の生活と進路の指導論</p>
-------------------	--

成績評価の方法											
<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>80%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>0%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	20%	レポート	0%	中間試験	0%	定期試験	80%	その他	0%	毎回の小テストと期末試験を総合的に判断して評価する。
課題・小テスト	20%										
レポート	0%										
中間試験	0%										
定期試験	80%										
その他	0%										

テキスト	
<input type="checkbox"/> テキストを使用する <input checked="" type="checkbox"/> レジユメを使用する <input type="checkbox"/> 未定（最初の授業で指示する）	



科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
教育方法論 (幼小)	2	2	後期開講	山本 敏郎

テーマ	学習指導 (授業づくり) に関わる思想、理念及び指導方法
-----	------------------------------

科目のねらい	<p>【キーワード】 学習指導 当事者性と応答性 学力</p> <p>&lt;内容の要約&gt; 教育実践の原理としての教育と生活の結合、教育と科学の結合、教育と福祉の結合の理念を概観したうえで、今日の学習の問題点 (空洞化・ゲーム化・商品化) を指摘し、それらを克服するための、生活と科学の結合の原則を解説する。また、学習指導の方法・技術、教材づくりと活用、情報機器の利用方法とメディアリテラシー等についてもとりあげる。</p> <p>&lt;学習目標&gt; 今日の学習の問題点とそれを克服する指導原理について理解することができる 授業づくりの方法を体験的に身につけることができる</p>
--------	--

授業のながれ	
基礎学力論争	
態度主義学力と計測可能性論	
学力と人格の関係	
新学力観	
確かな学力	
学力観の転換の背景	
指導とは何か 「働きかける—働きかけられる」 関係	
教師と子どもの関係 管理・援助・共感・受容・指導	
教育における指導の構造	
生活と科学の結合	
学びの当事者性と応答性	
授業づくりの理論と方法	
メディアリテラシー	
情報機器の活用論	
まとめ	

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>参考文献は講義中紹介します。注意事項は講義の初回で指示します。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt; 教育課程論、生徒の生活と進路の指導論、特別活動方法論</p>
-------------------	---

成績評価の方法											
<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>80%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>0%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	20%	レポート	0%	中間試験	0%	定期試験	80%	その他	0%	授業への出席状況と期末試験を総合的に判断して評価する。
課題・小テスト	20%										
レポート	0%										
中間試験	0%										
定期試験	80%										
その他	0%										

テキスト	<p><input type="checkbox"/> テキストを使用する</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> レジュメを使用する</p> <p><input type="checkbox"/> 未定 (最初の授業で指示する)</p>
------	--

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
保育実習Ⅰ－1	0	2	後期開講	クラス

テーマ	保育所(園)実習とその事前事後指導——保育実践力の獲得
-----	-----------------------------

科目のねらい
<p>【キーワード】「保育実践力」 ①対象（子ども）理解 ②コミュニケーション・スキルと自己表現力、 ③クラス担当保育士としての保育内容・方法の構想・企画と実際の保育活動 ④クラス担当保育士としての保育内容・方法の構想・企画と実際の保育活動 ④社会人（大人）としての生活実務力と社会的態度、をすべて総合したものです。</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>「保育実習Ⅰ－1」（保育所実習・事前事後指導1単位）は、2年生の2月に2週間行う保育所(園)実習に向けた事前事後指導です。クラス制の授業で、後期の総合演習Ⅱのクラスと連動させて、隔週ペースで、7回以上の授業を行います。授業では、保育士としての「保育実践力」の獲得をめざします。「保育実践力」とは、①対象（子ども）理解、②コミュニケーション・スキルと自己表現力、③クラス担当保育士としての保育内容・方法の構想・企画と実際の保育活動、④社会人（大人）としての生活実務力と社会的態度、をすべて総合したものです。①は、年齢別の子どもの心身の発達の専門的理解ということです。②は、①の子ども理解をもとに、実際に子ども(たち)の発達を促すうえでどのように関わっていけばよいのか、その方法・内容を具体的に習得することです。それは、自己の表現力をより豊かにしていくこととも深く関わっています。③は、「保育実践力」のメインの内容で、①と②を前提に、保育内容の教材研究、主活動・責任実習での日案の作成（＝企画力）と実行力、その自己評価と今後の課題検討等の事柄です。④は、食事の準備や片付け、掃除の仕方など、主に日常生活を営むうえでの基本的生活の行動力です。これらの各内容は、すでに他の講義・演習で専門的に学んでいっていますが、この授業では、それらを「統合」して自分のものにしていくと同時に、現場実習で対応できるように実際の具体的に学んでいきます。授業では、以下の内容を、ビデオを見たり、実際にグループで模擬保育を行ったりして、「保育実践力」を習得していきます。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>「統合」して自分のものにしていくと同時に、現場実習で対応できるように実際の具体的に学んでいきます。ビデオを見たり、実際にグループで模擬保育を行ったりして、「保育実践力」を習得していきます。</p>

授業のながれ	
1、保育所実習で学ぶこと	
2、実習の種類とステップを踏んだ学習目標	
3、子どもの活動・発達を観察することの意義	
4、コミュニケーション・スキルと自己表現力の獲得	
5、保育活動の実際①——部分参加実習での取り組み	
・絵本・紙芝居の研究と読み聞かせの実際、	
・手あそび・歌あそび、人形あそびの研究と実際、	
6、保育活動の実際②——責任実習での取り組み	
・製作活動など、様々な遊びの実際	
7、責任実習に向けて	
・保育内容の企画・構想と日案の作成	
・指導計画の作成・書き方	
8、保育所(園)での子育て支援・子育て相談と保育士の職務	
*	
*	

学ぶ上での注意・担当教員からの希望
保育所実習は、学外での初めての現場実習になります。保育士の「見習い」として、社会人（職業人）に準じたパブリックな行動様式とモラルが求められます。したがって、授業の欠席は原則として認められません。心して授業に毎回出席してください。

成績評価の方法											
<table border="0"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>100%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	0%	レポート	0%	中間試験	0%	定期試験	0%	その他	100%	隔週の授業の評価（実技・日案の作成レポート等）と、2月の2週間の実習園での評価とをあわせて、総合的に評価を行います。
課題・小テスト	0%										
レポート	0%										
中間試験	0%										
定期試験	0%										
その他	100%										

テキスト
<input type="checkbox"/> テキストを使用する <input type="checkbox"/> レジュメを使用する <input checked="" type="checkbox"/> 未定（最初の授業で指示する）

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
保育実習 I - 2	5	3	前期開講	クラス

テーマ	施設実習を通して児童福祉や関連領域での保育実践について理解を深める
-----	-----------------------------------

科目のねらい	<p>【キーワード】 保育士 実習及び実践的学習 施設実習</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>保育士養成における施設実習の目的は、児童福祉や関連領域での保育実践について理解を深めることである。主として児童福祉施設での実習を通して、社会的養護や障害福祉等の現状や課題について理解を深め、保育士に求められる幅広い知識と援助技術について実践的な学びを得ることに主眼を置く。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>保育士の業務の範囲とその多様性について学ぶ</p> <p>児童福祉施設における保育実践について学ぶ</p> <p>施設の社会的機能をふまえ、利用者理解を深める</p> <p>施設保育士に必要とされる知識や援助技術について学ぶ</p> <p>施設内における他職種とのチームワークや、他機関・施設との連携について学ぶ</p>
--------	--

授業のながれ	
保育実習 I - 2 の概要 (説明)	
施設実習の意義と実習に臨む態度	
施設実習と関連領域における諸問題	
実習施設の機能と概要	
実習施設と利用者理解	
実習目的の明確化	
実習計画の策定	
利用者へのかかわり方とコミュニケーション	
配属前の面接指導	
施設実習 (配属実習) 及び訪問指導①	
施設実習 (配属実習) 及び訪問指導②	
配属実習のふりかえり	
施設実習を通しての利用者理解	
施設実習を通しての自己覚知	
総括	

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>学内だけでなく、学外 (施設) における実習科目であることに留意し、誠実かつ熱意を持って事前・事後学習に取り組むこと。授業中の私語厳禁は当然のことであるが、提出物や課題レポートについては締切を厳守すること。※「保育実習 I - 1」「保育実習 I - 2」両方修得時に「保育実習 I」(5 単位) となる。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p> <p>「保育実習 I - 1」</p>
-------------------	--

成績評価の方法											
<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>60%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	20%	レポート	20%	中間試験	0%	定期試験	0%	その他	60%	授業への出席及び提出物のみでなく実習施設側の評価を重視する。
課題・小テスト	20%										
レポート	20%										
中間試験	0%										
定期試験	0%										
その他	60%										

テキスト	
<input type="checkbox"/> テキストを使用する <input type="checkbox"/> レジュメを使用する <input type="checkbox"/> 未定 (最初の授業で指示する)	



科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
法律学	2	2	前期開講	前原 清隆

テーマ	子どもと法
-----	-------

科目のねらい
<p>【キーワード】子どもの人権・子どもの権利 家族 教育・学校 児童福祉 児童福祉 少年事件</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>子どもと法とのかかわりについて、「子どもの人権」と「子どもの権利」という考え方をふまえ、家庭や学校、社会における教育や犯罪など子どもをめぐる様々な問題と法とのかかわりについて学ぶ。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>憲法における子どもの位置づけを学ぶことができる。</p> <p>子どもの権利条約の意義を学ぶことができる。</p> <p>教育法、家族法、少年法などの基礎を学ぶことができる。</p>

授業のながれ	
ガイダンス	
憲法と子どもの人権	
子どもの権利条約の意義	
家族と法（１）	
家族と法（２）	
家族と法（３）	
教育と法（１）	
教育と法（２）	
教育と法（３）	
教育と法（４）	
子どもと福祉の法	
少年事件と法（１）	
少年事件と法（２）	
国際化と子どもの権利	
未来の世代の権利という考え方	

学ぶ上での注意・担当教員からの希望
<p>新聞やテレビなどの報道に注意を払って下さい。 「自由とは他人を害しないすべてをなしうることに存する」（＝私語の自由はありません）</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p>

成績評価の方法											
<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>0%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	0%	レポート	0%	中間試験	0%	定期試験	100%	その他	0%	
課題・小テスト	0%										
レポート	0%										
中間試験	0%										
定期試験	100%										
その他	0%										

テキスト
<input type="checkbox"/> テキストを使用する <input checked="" type="checkbox"/> レジュメを使用する <input type="checkbox"/> 未定（最初の授業で指示する）

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
学校心理臨床論	2	2	後期開講	瀬地山 葉矢

テーマ	学校心理臨床独自の理論や概念について、また学校心理臨床活動の実際について学ぶ。
-----	---

科目のねらい	<p>【キーワード】学校という場の理解 学校心理臨床における相談構造についての理解 スクール・カウンセラーの活動内容の理解 教職員・スクールカウンセラー・保護者・その他の専門職による連携についての理解 教職員・スクールカウンセラー・保護者・その他の専門職による連携についての理解</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>学校における心理臨床実践を進めていくには、個人を対象としたカウンセリングや心理臨床の理論および実践方法を学校現場に応用するのではなく、学校心理臨床独自の理論や実践方法が必要となる。そこでまずは、学校という場の特徴を理解し、また学校心理臨床の担い手である教職員、スクール・カウンセラー、保護者、学外の専門職や専門機関等のそれぞれの役割や専門性について理解する。そして児童・生徒の抱える問題に対して効果的な援助ができるよう、これらのメンバーによる連携協力のあり方について考える。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>(1) 学校組織や教師の文化など、学校の特徴を理解できる</p> <p>(2) 学校心理臨床における相談構造について理解できる</p> <p>(3) スクール・カウンセラーの活動内容について理解できる</p> <p>(4) 教職員、スクール・カウンセラー、保護者、その他の職種による連携等について理解できる</p>
--------	--

授業のながれ	
第1回 学校心理臨床とは	
第2回：学校組織・教師文化の特色	
第3回：教育相談と生徒指導	
第4回：教育相談からスクール・カウンセラー導入までの経緯	
第5回：学校心理臨床における相談構造(1)	
第6回：学校心理臨床における相談構造(2)	
第7回：スクール・カウンセラーの活動内容(1)事例性と見立て	
第8回：スクール・カウンセラーの活動内容(2)カウンセリング	
第9回：スクール・カウンセラーの活動内容(3)コンサルテーション	
第10回：中間まとめ	
第11回：スクール・カウンセラーの活動内容(4)危機介入	
第12回：スクール・カウンセラーの活動内容(5)心理教育的活動	
第13回：チーム援助(1)	
第14回：チーム援助(2)	
第15回：まとめ	

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>新聞、ニュース、文部科学省のホームページなどで、近頃の学校教育や教師らが直面している課題にふれてみてください。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p> <p>発達心理学概論、特別支援教育論、LD・ADHD児等の心理、発達心理臨床論、臨床心理学Ⅰ・Ⅱ、カウンセリング論</p>
-------------------	--

成績評価の方法	
課題・小テスト	0%
レポート	0%
中間試験	0%
定期試験	70%
その他	30%

テキスト	
<input type="checkbox"/> テキストを使用する	
<input checked="" type="checkbox"/> レジユメを使用する	
<input type="checkbox"/> 未定(最初の授業で指示する)	



科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
知的障害児の生理と病理	2	2	後期開講	石川 達也

テーマ	脳障害（知的障害をきたす）基礎医学と臨床医学
-----	------------------------

科目のねらい
--------

<p>【キーワード】子ども 精神運動発達 知的障害 障害児 障害児 脳</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>子どもの特徴は成長と発達にあり、おとなとはまったく異なった病態生理を示す。子どもの障害の成因がおとなのそれと大きく異なるのは、生命進化の具体的な表現である内的（遺伝的）要因と発達の各時期に特有な外的（環境）要因とが互いに連関して変化していくからである。総論において、この成長・発達のダイナミズムとその過程で生ずる病態を、各論においては脳障害をおこす原因となる代表的な疾患を通して、知的障害をきたす医学について理解が深まるよう、また、障害を固定的に捉えないで可塑性に富んでいることも解説する。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>この講義を通して、学生諸君に、小児医学的なものの見方・センスを身につけてもらうこと。</p> <p>学生諸君が、将来、「特別支援教育」に携わる際に不可欠となる「障害児医学」の基本的知識と考え方を身につけること。</p>
--

授業のながれ
--------

オリエンテーション、総論：子どもの特徴：成長と発達（テキスト2-第I-III章）
総論：中枢性神経系のなりたちと障害①（テキスト1-p.24-、テキスト2-第I、IV章）
総論：中枢性神経系のなりたちと障害②（テキスト1-p.24-、テキスト2-第I、IV章）
総論：内因（遺伝）と外因（環境）（テキスト2-第I、IV章）
総論：遺伝のしくみと先天異常①（テキスト1-p.16-）
総論：遺伝のしくみと先天異常②（テキスト1-p.16-、テキスト2-第VIII章）
総論の復習
ダウン症候群、染色体異常（テキスト1-p.96- & p.102-）
軽度発達障害（ゲスト講義：レジュメ使用予定）
周生期における脳障害①（レジュメ使用予定）
周生期における脳障害②（レジュメ使用予定）
生後発達期における脳障害（テキスト1-p.31-）
てんかん①（レジュメ使用予定、テキスト1-p.46-）
てんかん②（レジュメ使用予定、テキスト1-p.46-）
復習とまとめ

学ぶ上での注意・担当教員からの希望
-------------------

<p>1. テキスト（2つ）は開講までに必ず購入し、講義時に持参すること。2. 講義中の私語・飲食は絶対禁止。携帯電話の電源を必ず切っておくこと。3. 限られた時間で多くのことを学ぶために、前もって対応する各章の予習をしておくことが望ましい。講義中の積極的な質問を歓迎する。また、講義ごとの復習が必要であり、講義推薦図書も大いに利用して頂きたい。4. 障害児に関わる情報を、新聞などで日ごろからキャッチし、自分なりに考えること。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p> <p>「特別支援教育」に関する科目、および他の子どもや医学に関連した科目の受講を薦める。</p>
---

成績評価の方法											
<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>80%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>10%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	0%	レポート	10%	中間試験	0%	定期試験	80%	その他	10%	定期筆記試験の成績を基本とする。
課題・小テスト	0%										
レポート	10%										
中間試験	0%										
定期試験	80%										
その他	10%										

テキスト
------

<p>■テキストを使用する</p> <p>■レジュメを使用する</p> <p>□未定（最初の授業で指示する）</p>	<p>尾崎 望、出島 直、編 新版・子どもの障害と医療 全国障害者問題研究会出版部</p> <p>竹下研三 人間発達学 一ヒトはどう育つのか 中央法規</p>
--	---

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
知的障害児の心理	2	2	前期開講	近藤 直子

テーマ	障害児の内面理解－障害児の発達を支えるための心理理解
-----	----------------------------

科目のねらい
--------

<p>【キーワード】 障害・発達・生活 障害への早期対応 「問題行動」 の発達の理解 主な知的障害とその特徴 主な知的障害とその特徴</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>知的障害児も障害児である前に、子どもとしての“当たり前”の心をもっています。“当り前の心”が障害によってどう妨げられる可能性があるのかを学び、特に親や教師が対応に困る、生活上・行動上の問題について、発生する原因と 対応のあり方について考えます。そのうえで、保育・療育・教育実践において大切にすべき、子ども理解の視点について学びます。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>1. 知的 障害児の生活上の「問題」の原因と対応のあり方の理解 2. 知的障害児の行動上の「問題」の原因と対応のあり方の理解 3. 知的 障害児のコミュニケーションの発達支援の方法の理解 4. 知的障害児の発達支援における基本視点の理解</p>
---

授業のながれ
--------

1. 知的障害児心理学の視点
2. 障害の早期発見・早期対応
3. 早期療育・統合保育そして就学
4. 知能検査の種類と位置づけ
5. 障害児の「問題行動」のとらえ方と療育方法
6. 障害児の「生活上の問題」にとりくむ ① 睡眠
7. 障害児の「生活上の問題」にとりくむ ② 食事
8. 障害児の「生活上の問題」にとりくむ ③ 排泄
9. 障害児の「行動上の問題」にとりくむ ① こだわり
10. 障害児の「行動上の問題」にとりくむ ② 多動
11. 障害児の「行動上の問題」にとりくむ ③ 自傷・他傷・パニック
12. コミュニケーションの問題 ① コトバの発達と障害
13. コミュニケーションの問題 ② コミュニケーションの発達を支えとりくみ
14. 障害のある子どもの発達を援助するために ① 生活と活動の組織化
15. 障害のある子どもの発達を援助するために ② 子どもたちの発達の場を豊かに

学ぶ上での注意・担当教員からの希望
-------------------

<p>障害の診断基準については「知的障害児の生理と病理」で学ぶ予定です。子ども発達学部生は学習の前に「発達心理学」を復習し、障害の無い子どもの発達をおさえておくこと。他学部生は、近藤直子「続 発達の芽を見つめて」で発達の特徴を把握しておいてください。ビデオを10本ていど上映しますが、部分上映なので興味のある学生は図書館で見てください。知的障害児に関しての学びなので「自分には関係ない」と興味を持たない学生もいると思います。障害児・者の施設で働きたい、特別支援教育を目指したいという人が受講する科目です。ただし、知的障害の人が示す「問題」は、実は私たちが人生の過程で示したり、老化と共に示すようになる問題だということを踏まえておいてください。そうした視点で関心がもてる人は履修してください。サークルやボランティアで障害児と関わると理解が進みます。特別支援教育実習の「ハードル科目」ですので、現場で遭遇する問題を基本にして授業を構成しています。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt; 「知的障害児の生理と病理」「発達心理臨床論」「特別支援教育論」「児童福祉論」</p>
--

成績評価の方法	
課題・小テスト	0%
レポート	0%
中間試験	0%
定期試験	100%
その他	0%

受講生数が少なければ出欠をとり、出席点を加味します。受講生数が多ければ出欠はとりません。テストでは知的障害に関する基礎知識・知的障害児のための制度、子どもの示す行動を発達的に理解する視点を問います。

テキスト
<input type="checkbox"/> テキストを使用する <input checked="" type="checkbox"/> レジュメを使用する <input type="checkbox"/> 未定(最初の授業で指示する)

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
精神医学 I	2	2	前期開講	大饗 広之

テーマ	心の病（神経症、うつ病、解離性障害など）を理解する
-----	---------------------------

科目のねらい	<p>【キーワード】 神経症 うつ病 解離性障害</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>精神疾患を被った人たちを心理学的に理解し、その基本的な対応を身につけることを目標とする。精神医学Ⅱと連続する内容であるが、精神医学Ⅰでは、主に神経症、うつ病、摂食障害、解離性障害など、比較的身近な疾患をテーマとしてとりあげる。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>心の異常とは何かを理解する</p> <p>神経症やうつ病などの疾患の見立てができるようになる</p> <p>疾患に対する基本的な対応を理解する</p>
--------	---

授業のながれ	
オリエンテーション、心の病とは	
精神疾患の分類	
摂食障害の症例	
摂食障害にどうアプローチするのか	
不安障害の基本	
パニック障害、PTSDへの対応	
社会不安障害と対人恐怖について	
気分障害（うつ病）の基本	
気分障害への対応	
解離性障害（多重人格、全生活史健忘）の症例	
解離性障害の症例（つづき）	
身体表現性障害について	
性同一性障害について	
薬物療法のまとめ	
全体の総括	

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>テキストの一部（そのつど授業内で指定）をあらかじめ読んで疑問点をもって授業にのぞむようにしてください。授業はレジュメにそっておこないますが、テキストはレポート作成のテーマとしても使用します。症例提示にあたっては、自分ならどのように面接するかをイメージすることが大切です。なお授業内容は大体の目安であり、変更することがあります。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p> <p>心理関係全般、また精神科リハビリテーションと関連しています。</p>
-------------------	--

成績評価の方法											
<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>90%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>0%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	0%	レポート	10%	中間試験	0%	定期試験	90%	その他	0%	定期試験中心ですが、出席（しばしば抜き打ち）、レポート提出とあわせて採点します。
課題・小テスト	0%										
レポート	10%										
中間試験	0%										
定期試験	90%										
その他	0%										

テキスト	
<input checked="" type="checkbox"/> テキストを使用する <input checked="" type="checkbox"/> レジュメを使用する <input type="checkbox"/> 未定（最初の授業で指示する）	大饗広之 「豹変する心」の現象学 勁草書房

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
精神医学Ⅱ	2	2	後期開講	大饗 広之

テーマ	心の病（統合失調症、人格障害など）を理解する
-----	------------------------

科目のねらい	<p>【キーワード】統合失調症 人格障害 精神病理学（異常心理学）</p> <p>&lt;内容の要約&gt; 精神医学Ⅰに引き続いて、この講義では統合失調症や人格障害、薬物中毒、認知症などの疾患について理解し、対応の基本を習得することをめざす。</p> <p>&lt;学習目標&gt; 統合失調症や人格障害の病理について理解する 疾患を見立てることができるようになる</p>
--------	---

授業のながれ	
統合失調症の分類	
統合失調症の心理について	
統合失調症への対応について	
妄想性障害、非定型精神病など統合失調症周辺の病気について	
人格障害の分類と症状について	
人格障害への対応	
発達障害（とくにアスペルガー症候群）の分類について	
発達障害（とくにアスペルガー症候群）の見立てについて	
薬物中毒について	
アルコール依存症について	
認知症の分類、症状について	
認知症への対応について	
睡眠障害、心身症について	
症例のまとめ	
授業全体のまとめ	

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>精神医学Ⅰと同様であるが、とくに疑問に思った点などについて通り過ぎるのではなく、レポート提出の機会などに表現していく習慣をつけること。質問は歓迎します。なお、授業内容は適宜変更することがあります。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt; 精神医学Ⅰと同様</p>
-------------------	--

成績評価の方法											
<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>90%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>0%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	0%	レポート	10%	中間試験	0%	定期試験	90%	その他	0%	精神医学Ⅰと同様
課題・小テスト	0%										
レポート	10%										
中間試験	0%										
定期試験	90%										
その他	0%										

テキスト	
<input checked="" type="checkbox"/> テキストを使用する <input checked="" type="checkbox"/> レジュメを使用する <input type="checkbox"/> 未定（最初の授業で指示する）	大饗広之 「豹変する心」の現象学 勁草書房

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
学習心理学	2	2	前期開講	川上 正浩

テーマ	経験により変容する人間
-----	-------------

科目のねらい	<p>【キーワード】 科学としての心理学 視点としての心理学 経験による変容 人間の適応過程 人間の適応過程</p> <p>&lt;内容の要約&gt;          学習心理学は、「経験による比較的永続的な行動の変容」を扱う学問です。この変容は、人間が環境に適応するために起こりますが、時としてそれが制約となってしまいます。</p> <p>&lt;学習目標&gt;          個々の知識のみならず、全体的な視点の獲得を目指します。</p> <p>*</p>
--------	--

授業のながれ	
学習心理学とは（イントロダクション）	
心理学の方法論（１）	
心理学の方法論（２）	
あらためて、学習とは。行動とは。	
さまざまな条件づけ（１）	
さまざまな条件づけ（２）	
学習を支える記憶（１）	
学習を支える記憶（２）	
意図的な学習と自動的な学習	
心理学の歴史	
意図的な学習と自動的な学習	
心理学の歴史	
適応と制約（１）	
適応と制約（２）	
人間の適応過程（まとめにかえて）	

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>講義という枠にとらわれず、学生自身が考える授業として、発言・相談・体験する時間を大事にしていきたいと思います。授業に自分が参加する意識のある積極的な学生を望みます。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;          認知・学習心理学</p>
-------------------	---

成績評価の方法											
<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>70%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>0%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	30%	レポート	70%	中間試験	0%	定期試験	0%	その他	0%	授業中に実施されるコースクレジット（心理学実験・調査への参加）と最終レポートにて評価します。
課題・小テスト	30%										
レポート	70%										
中間試験	0%										
定期試験	0%										
その他	0%										

テキスト	<input type="checkbox"/> テキストを使用する <input checked="" type="checkbox"/> レジュメを使用する <input type="checkbox"/> 未定（最初の授業で指示する）
------	--

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
心理学研究法演習	4	2	後期開講	クラス

テーマ	心理学各領域における研究法の発展的な理解
-----	----------------------

科目のねらい
--------

<p>【キーワード】 実験法 調査法 観察法 面接法 面接法</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>本演習では、「心理学実験・実習」を引き継ぎ、心理学各領域の研究法に関する演習を行うことにより、心理学における研究手法に対する発展的理解を目指す。履修生自身により実験・調査を実施することにより、研究計画の立案、データ収集、統計処理、成果発表までの一連の心理学研究を、自立して遂行するために必要な知識・スキルを身に付ける。履修者は、グループで課題（一般課題A～D・自由課題）に取り組み、課題ごとに実験レポートを作成する。教員からの助言により、実験レポートのまとめ方についても繰り返し練習を行う。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>心理学研究を自立して遂行するために必要な知識・スキルを身につける。 実験（調査）レポートの作成方法に習熟する。</p>
---

授業のながれ	
オリエンテーション（1） イントロダクション	*C-5 観察法演習⑤ まとめ or D-5 面接法演習⑤ まとめ
A-1 実験法演習① 心理学実験：実験法の概要	E-1 自由課題 ガイダンス
A-2 実験法演習② 実験計画	E-2 演習内容決定
A-3 実験法演習③ データ収集	E-3 研究計画①
A-4 実験法演習④ データ分析	E-4 研究計画②
A-5 実験法演習⑤ まとめ	E-5 研究計画③
B-1 調査法演習① 心理尺度の構成法：心理尺度の構成法の概要	E-6 データ収集①
B-2 調査法演習② 心理尺度の作成	E-7 データ収集②
B-3 調査法演習③ データ収集	E-8 データ分析①
B-4 調査法演習④ データ分析（信頼性・妥当性の検討）	E-9 データ分析②
B-5 調査用演習⑤ まとめ	E-10 結果の整理・考察
*C-1 観察法演習① 観察による行動測定：観察法の概要 or D-1 面接法演習① 調査的面接法：調査的面接法の概要	E-11 プレゼンテーション準備①
*C-2 観察法演習② 観察の企画 or D-2 面接法演習② 研究テーマの決定、面接内容の構成	E-12 プレゼンテーション準備②
*C-3 観察法演習③ 観察の実施 or D-3 面接法演習③ 面接の準備と実施	E-13 発表会①
*C-4 観察法演習④ データの整理と分析 or D-4 面接法演習④ 面接結果の整理	E-14 発表会②

学ぶ上での注意・担当教員からの希望
-------------------

<p>演習はグループ単位で行われる。遅刻・欠席があると、グループ全体の演習の進捗に影響が生じるので、やむをえない理由のない限り遅刻・欠席をしないこと。演習時間以外にも実験実施・データ整理等でグループ作業が必要となる事がある。履修生の自主的な取り組みが重視される。上記「授業の流れ」 * : CコースあるいはDコースを受講する。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt; 心理学実験・実習, 心理学研究法, 心理学統計法</p>
--

成績評価の方法		
課題・小テスト	0%	課題ごとのレポート提出と出席状況により評価を決定する。
レポート	50%	
中間試験	0%	
定期試験	0%	
その他	50%	

テキスト
<input type="checkbox"/> テキストを使用する <input checked="" type="checkbox"/> レジユメを使用する <input type="checkbox"/> 未定（最初の授業で指示する）



科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
心理学実験・実習	4	2	前期開講	クラス

テーマ	心理学の基礎的な実験・実習を体験し、心理学研究法の基礎を学ぶ。
-----	---------------------------------

科目のねらい	<p>【キーワード】 実験法 観察法 面接法 心理検査法 心理検査法</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>心理学研究の代表的な方法である実験法、観察法、面接法、心理検査法等を実際に体験し、心理学の研究方法およびレポート作成の方法を習得する。発達観察法、心理測定法Ⅰ・Ⅱ、面接法、生理心理学、知覚心理学、社会心理学の7分野・7ルーム（A～G）で行われる実験・実習に、小集団ごとにローテーションしながら参加し、心理学的な考え方、研究方法、レポートのまとめ方を学ぶ。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>心理学の基礎的な研究方法を身につける。</p> <p>実験（実習）レポートの書き方を身につける。</p>
--------	--

授業のながれ	
オリエンテーション（1）	<D-2> 面接法（同上）
オリエンテーション（2）	<D-3> 面接法（臨床心理学実習：箱庭療法）
実験・実習<A-1> 発達観察法（心理検査法実習：乳児の移動能力の発達）	<D-4> 面接法（同上）
<A-2> 発達観察法（同上）	実験・実習<E-1> 生理心理学（行動科学基礎実験：自律訓練法）
<A-3> 発達観察法（心理検査法実習：新版K式発達検査）	<E-2> 生理心理学（同上）
<A-4> 発達観察法（同上）	<E-2> 生理心理学（行動科学基礎実験：バイオフィードバック）
実験・実習<B-1> 心理測定法Ⅰ（心理検査法実習：質問紙と投映法）東大式エゴグラムの実習	<E-4> 生理心理学（同上）
<B-2> 心理測定法Ⅰ（心理検査法実習：質問紙法について）	実験・実習<F-1> 知覚心理学（精神物理学的測定：ミュラーリヤ一錯視）
<B-3> 心理測定法Ⅰ（心理検査法実習：バウム・テストの実習）	<F-2> 知覚心理学（同上）
<B-4> 心理測定法Ⅰ（心理検査法実習：投映法について）	<F-3> 知覚心理学（遂行時間計測：鏡映描写）
実験・実習<C-1> 心理測定法Ⅱ（心理検査法実習：職業適性検査と作業検査法）	<F-4> 知覚心理学（同上）
<C-2> 心理測定法Ⅱ（同上）	実験・実習<G-1> 社会心理学（集団に関する実験：集団成極化）
<C-3> 心理測定法Ⅱ（同上）	<G-2> 社会心理学（同上）
<C-4> 心理測定法Ⅱ（同上）	<G-3> 社会心理学（社会的交換の実験：社会的ジレンマ）
実験・実習<D-1> 面接法（臨床心理学実習：カウンセリング）	<G-4> 社会心理学（同上）

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>積極的な取り組みを望む。また、授業の進行に著しい支障が生じるため、極力遅刻・欠席はしないように注意していただきたい。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p> <p>心理学研究法、心理学研究法演習</p>
-------------------	--

成績評価の方法		
課題・小テスト	0%	出席を重視する。各分野の成績を加算して、総合的に評価する。
レポート	60%	
中間試験	0%	
定期試験	0%	
その他	40%	

テキスト	<p><input checked="" type="checkbox"/> テキストを使用する</p> <p><input type="checkbox"/> レジュメを使用する</p> <p><input type="checkbox"/> 未定（最初の授業で指示する）</p> <p>担当教員による 「心理学実験実習の手引き」（日本福祉大学子ども発達学部心理臨床学科）</p>
------	---

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
臨床心理学Ⅰ（心理）	2	2	後期開講	蔭山 英順

テーマ	心理査定と臨床心理学的援助の理論
-----	------------------

科目のねらい	<p>【キーワード】精神分析 カウンセリング 遊戯療法 知能検査 知能検査 性格検査</p> <p>&lt;内容の要約&gt; 臨床心理学の主要領域である「心理療法」「心理査定」「事例研究法」の理論についての概説</p> <p>&lt;学習目標&gt; 心理療法の理論を学習し、心理療法実践の基礎を身につける 心理査定の方法を学習し、心理査定の実際の基礎を身につける 事例研究法を理解する</p>
--------	--

授業のながれ	<p>日本の臨床心理学の黎明</p> <p>青年・成人の心理療法 ①フロイト, S. の精神分析の人格理論</p> <p>青年・成人の心理療法 ②フロイト, S. の精神分析療法</p> <p>青年・成人の心理療法 ③ロジャース, C. R. の来談者中心療法</p> <p>児童の心理療法 ①フロイト, A. の児童分析</p> <p>児童の心理療法 ②クライン, M. の遊戯分析</p> <p>児童の心理療法 ③アレン, F. の関係療法</p> <p>児童の心理療法 ④アクスライン, V. M. の児童中心遊戯療法</p> <p>心理査定 ①ビネー式知能検査</p> <p>心理査定 ②ウェクスラー式知能検査</p> <p>心理査定 ③認知処理検査 K-A-B-C</p> <p>心理査定 ④性格検査(1)人格目録法・作業検査法</p> <p>心理査定 ⑤性格検査(2)投影法 ロールシャッハテスト</p> <p>心理査定 ⑥性格検査(3)投影法 TAT(主題絵画統覚検査)</p> <p>臨床心理学研究法 事例研究法</p>
--------	--

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>15回の授業が積重ねていく構造になっているので、毎回の講義内容をしっかり復習し、学習内容を定着させること。なお講義内容の理解が十分でないときは、主体的に質問をすること。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt; 「臨床心理学Ⅱ」「精神医学Ⅰ・Ⅱ」「精神保健学」</p>
-------------------	--

成績評価の方法											
<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>0%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	0%	レポート	0%	中間試験	0%	定期試験	100%	その他	0%	定期試験の成績で評価する
課題・小テスト	0%										
レポート	0%										
中間試験	0%										
定期試験	100%										
その他	0%										

テキスト	<p><input type="checkbox"/> テキストを使用する</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> レジュメを使用する</p> <p><input type="checkbox"/> 未定(最初の授業で指示する)</p>
------	---

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
子ども文化論	2	3	後期開講	小木 美代子

テーマ	〈子ども〉と〈文化〉の関わりを学ぶとともに、手づくりの文化財づくりを楽しむ
-----	---------------------------------------

科目のねらい	<p>【キーワード】文化 子ども文化 子どもの権利条約 文化権 文化権 手づくりの文化</p> <p>＜内容の要約＞</p> <p>子どもの育ちは、親や専門家による直接的な働きかけ（教育、保育）よりも、家庭や地域で生活する中で各々が個性的に文化を内面化し、豊かに育っていく側面の方が大きい。その意味において、今日の子どものとりまく文化状況を分析的に捉えるとともに、子どもの権利条約にもうたわれている生活権や発達権と並ぶ第3の権利としての“文化権”について講じていく。また、手づくりの文化（財、活動）の重要性や楽しさを再認識し、時中に体験して楽しむ。</p> <p>＜学習目標＞</p> <p>① 文化概念の把握ができるとともに、子ども時代の文化環境の重要性を理解する。</p> <p>② 絵本の読み聞かせや紙芝居、手づくりおもちゃで遊ぶことを通し、遊びの楽しさを追体験する。</p>
--------	---

授業のながれ	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. “子どもの文化”を学ぶ意義</li> <li>2. 子どもの権利条約と子どもの文化権</li> <li>3. 〈文化〉と〈子ども〉とのかかわり</li> <li>4. 子どものための〈文化〉の構造</li> <li>5. 子どものための文化財を学ぶ（1）テレビ、おもちゃ、絵本、紙芝居など</li> <li>6. 子どものための文化財を学ぶ（2）テレビ、おもちゃ、絵本、紙芝居など</li> <li>7. 子どものための文化財を学ぶ（3）テレビ、おもちゃ、絵本、紙芝居など</li> <li>8. 子どものための文化財を学ぶ（4）テレビ、おもちゃ、絵本、紙芝居など</li> <li>9. 手づくりの子どものための文化財で楽しむ（1）絵本の読み聞かせ、紙芝居を演ずるなどの実技</li> <li>10. 手づくりの子どものための文化財で楽しむ（2）絵本の読み聞かせ、紙芝居を演ずるなどの実技</li> <li>11. 手づくりの子どものための文化財で楽しむ（3）絵本の読み聞かせ、紙芝居を演ずるなどの実技</li> <li>12. 手づくりの子どものための文化財で楽しむ（4）絵本の読み聞かせ、紙芝居を演ずるなどの実技</li> <li>13. 子ども向け文化政策、メセナ活動、文化運動、文化関係のNPOについて総括的に学ぶ（1）</li> <li>14. 子ども向け文化政策、メセナ活動、文化運動、文化関係のNPOについて総括的に学ぶ（2）</li> <li>15. まとめと今後に向けて</li> </ol>
--------	--

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>1. 実技をとまなうことが多いので、出席することが大切。 2. 講義中のプリント類は、各自ファイルを用意し、整理に努めること。 3. 子どもの権利条約がベースになるので、基礎的に学習しておくこと。</p> <p>＜本科目の関連科目＞</p>
-------------------	---

成績評価の方法	<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>20%</td> </tr> </table> <p>評価は、前期末のレポートだけで行うのではなく、いくつかの課題や実技（絵本の読み聞かせや紙芝居等）などと合わせ、総合的に行う。</p>	課題・小テスト	40%	レポート	40%	中間試験	0%	定期試験	0%	その他	20%
課題・小テスト	40%										
レポート	40%										
中間試験	0%										
定期試験	0%										
その他	20%										

テキスト	<p><input type="checkbox"/> テキストを使用する</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> レジュメを使用する</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 未定（最初の授業で指示する）</p>
------	--

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
保育臨床相談	2	3	前期開講	堀 美和子

テーマ	発達や育児などに何らかの困難や課題を抱える親子や家族への理解を深め、臨床的な介入および相談の実際について学ぶ
-----	--

科目のねらい	<p>【キーワード】 保育臨床 子育て不安 乳幼児発達 発達の問題 発達の問題</p> <p>&lt;内容の要約&gt;          保育現場で求められる子ども・保護者を対象とした臨床相談の実際について学習する。なかでも、発達に何らかの困難や課題を抱えている児とその家族への理解を深めながら、家族との関わりを築いていくこと、そしてそれらの理解を、家族と協力しつつ日常の保育にどう生かしていくかについて考える授業である。</p> <p>&lt;学習目標&gt;          相手の立場に立って話を聴くということの意味をしる          問題の把握をするための相談のあり方を理解する          気持ちと事実の把握のバランスを知る</p>
--------	---

授業のながれ	
保育臨床相談とは何か	
乳幼児期の発達課題と家族①	
乳幼児期の発達課題と家族②	
集団の中の子ども理解	
子育て不安とそのサポート	
家族の気持ちを聴く①	
家族の気持ちを聴く②	
乳幼児の発達の問題と相談①	
乳幼児の発達の問題と相談②	
乳幼児の発達の問題と相談③	
相談演習①	
相談演習②	
地域における支援	
保育臨床相談の実際①	
保育臨床相談の実際②	

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>相談を受ける側として、相手の話の何を聴き、何をわかっていなければいけないのかを理解する必要があります。単に受身的に講義を聴くだけではいざ相談を受ける場合に不適切な受け答えをしてしまうことになります。積極的に参加してください。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p>
-------------------	---

成績評価の方法											
<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>35%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>35%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>20%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	10%	レポート	35%	中間試験	0%	定期試験	35%	その他	20%	以下の割合は参加者の授業への関与状況や理解度に応じて変更する場合がある
課題・小テスト	10%										
レポート	35%										
中間試験	0%										
定期試験	35%										
その他	20%										

テキスト	
<input type="checkbox"/> テキストを使用する <input type="checkbox"/> レジュメを使用する <input checked="" type="checkbox"/> 未定(最初の授業で指示する)	

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
生活科指導法	2	3	前期開講	松下 孜

テーマ	生活科を通じて、子どもは何を学びとり、どのような活動を実践すると心豊かな生活に結びつくかをしっかり把握する。学生は、教師の立場と子どもの立場の両方から実践的な活動を行う中で生活科に必要とされる資質の向上を図る。
-----	---

科目のねらい	<p>【キーワード】生活科学習と子どもたち 生活科の授業構造と授業 生活科の指導案作成と模擬授業</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>生活科の基本的な考え方について学び、学習指導要領に示される内容を理解し、子どもの生活実態に基づく授業構想の手順と方法を学び、具体的な授業の実践を学習指導案を作り模擬授業を行うことによりつかむことができるようにする。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>生活科の趣旨を学習指導要領をもとに理解し、授業実践のための基本的な考えかたと方法を身につける。</p> <p>生活科の授業構想と実践の実際について知り、生活科がねらいとする本質を理解し、生活科の授業を組み立てることができる。</p> <p>生活科の模擬授業を行い、教育技術のいくつかを実践し学ぶことができる。</p>
--------	--

授業のながれ	
シラバスに基づくガイダンス	
学習指導要領と生活科授業づくりの基本的な考え方（1）	
学習指導要領と生活科授業づくりの基本的な考え方（2）	
生活科の学習指導案づくり（1）	
生活科の学習指導案づくり（2）	
生活科の授業構想と授業実践	
生活科の授業構想と授業実践	
生活科の授業構想と授業実践	
生活科の授業構想と授業実践	
演習 生活科の指導案づくりと模擬授業	
演習 生活科の指導案づくりと模擬授業	
演習 生活科の指導案づくりと模擬授業	
演習 生活科の指導案づくりと模擬授業	
演習 授業実践の反省と討議（1）	
演習 授業実践の反省と討議（2）	

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>（1）予習はほとんど必要ないが、1回ごとの講義内容についてしっかりと復習しておくこと。（2）生活科の授業実践においては、自分の周辺の環境が取り上げられるので、どんなものを取り入れることができるかを考えてみるとよい。（3）出席は厳重にとるので、既定の出席日数に満たない者の単位取得はできないものとする。（4）一回ごとに、講義時間内でその日の簡単なレポートを作成し提出する。提出しない場合は出席を認めない。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p> <p>小学校の理科や社会科の内容ともからむので、この科目の学習指導要領もしっかり読み、理解しておく。総合化の学習に発展することもできるので、この科目の内容についても把握しておく。</p>
-------------------	--

成績評価の方法											
<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>50%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>30%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	20%	レポート	50%	中間試験	0%	定期試験	0%	その他	30%	主として毎時間のレポートにより、評価する。また、生活科の授業構想や学習指導案の内容も評価する。小テストを2回おこなう。
課題・小テスト	20%										
レポート	50%										
中間試験	0%										
定期試験	0%										
その他	30%										

テキスト	
<input checked="" type="checkbox"/> テキストを使用する <input type="checkbox"/> レジユメを使用する <input type="checkbox"/> 未定（最初の授業で指示する）	文部科学省 小学校学習指導要領 文部科学省 東京書籍株式会社

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
障害児心理学	2	3	前期開講	蔭山 英順

テーマ	障害児の内面理解－障害児の発達を支えるための心理理解
-----	----------------------------

科目のねらい	<p>【キーワード】 自閉性障害児 発達障害児 情緒障害児 障害児の発達支援 障害児の発達支援 特別支援教育</p> <p>&lt;内容の要約&gt;          障害児も子どもとしての“当たり前”の心をもっています。“当り前の心”が障害によってどう妨げられるのかを学び、対応のあり方を考えます。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 障害児の早期発見と心理的支援</li> <li>2. 障害児の行動上の「問題」の原因と対応のあり方の理解</li> <li>3. 発達障害児の発達支援の方法</li> <li>4. 特別支援教育の理念と実際</li> </ol>
--------	--

授業のながれ	
1. 障害児心理学の視点	
2. 障害児の早期発見	
3. 障害児の早期療育・統合保育そして就学	
4. 特別支援教育	
5. 知能検査・発達検査の種類	
6. 発達障害児の種類	
7. 自閉性障害児の心理 ①対人関係の発達	
8. 自閉性障害児の心理 ②ことばの発達	
9. 自閉性障害児の心理 ③興味関心の偏りとこだわり	
10. 学習障害児 (LD) の心理	
11. ADHD の心理	
12. 情緒障害児について	
13. 情緒障害児の心理治療	
14. 自閉性障害児の発達援助	
15. 発達障害児の生涯にわたる支援	

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>障害の診断基準については「障害児の医学」で学ぶように。「発達心理学」を復習し、障害のない子どもの発達をおさえておくこと。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;          「障害児の医学（障害児の病理と保健）」 「発達心理臨床論（発達心理学Ⅱ）」</p>
-------------------	--

成績評価の方法											
<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>0%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	0%	レポート	0%	中間試験	0%	定期試験	100%	その他	0%	<p>受講生数が少なければ出欠をとります。－ミニレポート 受講生数が多ければ出欠はとりません。テストでは子どもの行動を発達的に理解する視点を問います。</p>
課題・小テスト	0%										
レポート	0%										
中間試験	0%										
定期試験	100%										
その他	0%										

テキスト	
<input checked="" type="checkbox"/> テキストを使用する <input checked="" type="checkbox"/> レジュメを使用する <input type="checkbox"/> 未定(最初の授業で指示する)	<p>近藤直子 ぐんぐん伸びろ 発達の芽 全障研出版部</p>



科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
教育史 (小)	2	3	前期開講	柿沼 肇

テーマ	国民の教育要求と教育運動の歴史－現代の教育と教師の課題－
-----	------------------------------

科目のねらい	<p>【キーワード】「帝国憲法＝教育勅語」 体制 「日本国憲法＝教育基本法」 体制 教育要求・教育運動 教育の「戦争責任」、「学制」 教育の「戦争責任」、「学制」</p> <p>&lt;内容の要約&gt; 近代日本における教育の歴史を、民衆の生活現実とそこから派生する教育要求、およびその実現をめざす教育運動に焦点をあてて論述する。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 近代日本の教育の歴史を理解し、「戦前」と「戦後」の「断絶」「連続」「連続・飛躍」の関係を把握する。</li> <li>2. 史料を読み、そこから歴史上の「事実」と「意義」を読み解く力を獲得する。</li> <li>3. 「過去」を知ることは「現在」を知ること、そして「未来」を予測する手がかりを得ること、という歴史をみる「目」を養う。</li> </ol>
--------	---

授業のながれ	<p>[第一部] 1. 教育史学習・研究の意義－本年度講義の「テーマ」と「ねらい」</p> <p>2. 教育とは何か、日本教育の現実</p> <p>3. 「戦前」教育の基本構造 (1) 「戦前」教育の教育理念・教育目的</p> <p>4. 「戦前」教育の基本構造 (2) 教育の国家統制・国家支配</p> <p>5. 「戦後」教育の出発 (1) 敗戦と新しい教育の成立</p> <p>6. 「戦後」教育の出発 (2) 「戦後」教育の変革主体</p> <p>[第二部] 7. 教育(運動)史研究の課題と方法</p> <p>8. 近代公教育制度の成立と民衆の教育要求</p> <p>9. 天皇制教育体制確立期における人民の教育、要求、教育活動</p> <p>10. 日本帝国主義と教育、教育運動</p> <p>11. 政治体制下の教育、教育運動</p> <p>12. 「戦前」教育の帰結とその教訓</p> <p>13. 「戦前」教育と「戦後」教育</p> <p>14. 本年度講義のまとめ①</p> <p>15. 本年度講義のまとめ②</p>
--------	---

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>時間がとれば、ビデオの活用など授業方法に色々と工夫を加える努力をしたいと思っている。授業に対する批判、要望などの積極的な提起を期待する。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt; 「教育学Ⅰ」「歴史の学び」「社会福祉発達史」「日本史」「外国史」</p>
-------------------	--

成績評価の方法	<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>0%</td> <td rowspan="5">筆記試験あるいはレポートによる評価を中心に、平常点等を加味して行う。なお、詳しいことについては授業中に話す予定である。</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>100%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	0%	筆記試験あるいはレポートによる評価を中心に、平常点等を加味して行う。なお、詳しいことについては授業中に話す予定である。	レポート	0%	中間試験	0%	定期試験	0%	その他	100%
課題・小テスト	0%	筆記試験あるいはレポートによる評価を中心に、平常点等を加味して行う。なお、詳しいことについては授業中に話す予定である。										
レポート	0%											
中間試験	0%											
定期試験	0%											
その他	100%											

テキスト	<p><input checked="" type="checkbox"/> テキストを使用する</p> <p><input type="checkbox"/> レジユメを使用する</p> <p><input type="checkbox"/> 未定(最初の授業で指示する)</p> <p>柿沼 肇 「教育学・講義Ⅲ 近代日本の教育史」 教育史料出版会</p>
------	--

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
養護内容	1	3	前期開講	遠藤 由美

テーマ	子どもの福祉と社会的養護実践
-----	----------------

科目のねらい	<p>【キーワード】子どもの権利保障と権利擁護 学びあいと育ちあい</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>授業全体の最初と最後に講義を行う。講義と演習を組み合わせ、実践を分析し、その課題に迫る。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育士に必要な知恵・技・観（観方）を理解することができる。</li> <li>・児童福祉施設における養護実践事例を読み拓くことができる。</li> <li>・児童福祉施設における子ども集団、親・家族への働きかけを検討し、施設職員の役割を知ることができる。</li> </ul>
--------	---

授業のながれ	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション（グループ分け、演習テーマ決定）。</li> <li>2. 講義：「実践記録を読み拓くために」。</li> <li>3. 講義：子どもの権利と社会的養護（1）</li> <li>4. 講義：子どもの権利と社会的養護（2）</li> <li>5. 演習：担当グループによる報告・受講者全員による質疑・まとめ</li> <li>6. 演習：担当グループによる報告・受講者全員による質疑・まとめ</li> <li>7. 演習：担当グループによる報告・受講者全員による質疑・まとめ</li> <li>8. 演習：担当グループによる報告・受講者全員による質疑・まとめ</li> <li>9. 演習：担当グループによる報告・受講者全員による質疑・まとめ</li> <li>10. 演習：担当グループによる報告・受講者全員による質疑・まとめ</li> <li>11. 演習：担当グループによる報告・受講者全員による質疑・まとめ</li> <li>12. 演習：担当グループによる報告・受講者全員による質疑・まとめ</li> <li>13. 演習：担当グループによる報告・受講者全員による質疑・まとめ</li> <li>14. 講義：児童福祉施設における子ども集団、親・家族への働きかけ。児童福祉施設における「生活」の意味</li> <li>15. まとめ</li> </ol>
--------	--

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4年次の児童福祉施設実習に向けて、演習では児童福祉施設現場中心の事例を扱う。必ず出席すること。・出欠確認を行う。・テキストとは児童福祉施設における実践事例が書かれたものを使用する。グループごとに実践事例を1つ取り上げ検討し報告してもらう。</li> </ul> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p> <p>「養護原理」「児童福祉論」「教育福祉論」「保育実習Ⅰ－Ⅱ」</p>
-------------------	---

成績評価の方法											
<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>50%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>10%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	0%	レポート	40%	中間試験	0%	定期試験	50%	その他	10%	演習時に行うレポート発表と授業への出席状況、試験によって総合的に評価します。
課題・小テスト	0%										
レポート	40%										
中間試験	0%										
定期試験	50%										
その他	10%										

テキスト	<input type="checkbox"/> テキストを使用する <input type="checkbox"/> レジュメを使用する <input checked="" type="checkbox"/> 未定（最初の授業で指示する）
------	--

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
家族援助論（子ども）	2	3	前期開講	渡辺 顕一郎

テーマ	家族への支援が必要とされる背景をふまえつつ、その理論や実践について学び、考察を深める
-----	--

科目のねらい	<p>【キーワード】 家族支援 子育て支援 子ども・家庭福祉 障害児の家族支援 障害児の家族支援</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>本講義では、家族支援が必要とされる社会的背景を概観した上で、北米におけるファミリーサポートやファミリーサービスの動向も踏まえ、効果的な支援のあり方や今後の課題について考えていきます。とくに、子ども・家庭福祉の観点から、地域子育て支援や障害児の家族支援の実践に着目し、理論だけでなく、より具体的な支援方法についても検討を加えます。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>社会福祉における家族支援の意義や目的、限界について理解する。</p> <p>子育てをめぐる諸問題、及び予防的支援の必要性を理解する。</p> <p>家族支援の諸理論や支援について考察を深める。</p>
--------	---

授業のながれ	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の導入（イントロダクション）</li> <li>2. 家族支援が求められる背景 ①子育てをめぐる現状</li> <li>3. 家族支援が求められる背景 ②障害福祉をめぐる現状</li> <li>4. 家族支援が求められる背景 ③高齢者福祉をめぐる現状</li> <li>5. 北米における動向：ファミリーサポートとファミリーサービス</li> <li>6. 家族援助・家族支援の方法論的枠組</li> <li>7. 家族アセスメント</li> <li>8. 地域における子育て支援 ①理論と制度</li> <li>9. 地域における子育て支援 ②サービス体系</li> <li>10. 地域における子育て支援 ③支援の実際</li> <li>11. 地域における子育て支援 ④効果と課題</li> <li>12. 障害児の家族支援 ①家族理解</li> <li>13. 障害児の家族支援 ②サービス体系と支援の実際</li> <li>14. 障害児の家族支援 ③限界と課題</li> <li>15. まとめ</li> </ol>
--------	--

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>・机上の学習だけでなく、各種の実習やボランティア活動に積極的に取り組み、学生の皆さんが主体的に学びを深めることを期待します。</p> <p>・授業中の私語など、他の学生の学ぶ権利を妨げるような行為は厳禁です。参考資料としてテキストを使用しつつ、毎回レジュメも配布します。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p> <p>「家族社会学」 「家族福祉論」 「家族心理臨床学」</p>
-------------------	---

成績評価の方法	<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>0%</td> <td rowspan="5">定期試験のほか、出席点（60%）を重視します。</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>60%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>40%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	0%	定期試験のほか、出席点（60%）を重視します。	レポート	0%	中間試験	0%	定期試験	60%	その他	40%
課題・小テスト	0%	定期試験のほか、出席点（60%）を重視します。										
レポート	0%											
中間試験	0%											
定期試験	60%											
その他	40%											

テキスト	<p><input checked="" type="checkbox"/> テキストを使用する</p> <p><input type="checkbox"/> レジュメを使用する</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 未定（最初の授業で指示する）</p> <p>渡辺顕一郎 子ども家庭福祉の基本と実践 一子育て支援・障害児支援・虐待予防を中心にー 金子書房</p>
------	---

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
保育内容研究Ⅲ（生活と環境）	2	3	前期開講	東内 瑠里子

テーマ	環境教育や食育、生活教育など、子どもの発達に沿った生活と環境を組み立てる力を身に付ける。
-----	--

科目のねらい	<p>【キーワード】生活教育 環境教育 食育</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>今日の子どもを取り巻く社会・自然環境を考えた時、子どもの発達を阻害する要因が多い。保育者には、子どもの発達に沿った生活と環境を組み立てる力量がますます求められている。本授業では、演習活動を通して、「生活と環境」を柱に子どもの発達を支える保育内容を考えていく。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>自らが、周囲の様々な環境に好奇心や探究心を持って関わる力をつける。</p> <p>子どもの成長段階に応じた環境構成を理解する。</p> <p>領域「環境」における現代的課題と実践について理解する。</p>
--------	--

授業のながれ
領域「環境」のねらい・内容
環境を通しての保育と領域「環境」
現代の乳幼児が育つ生活の現状と課題
保育の基本と領域「環境」－エピソードから考える
環境を通じた保育の実際①
環境を通じた保育の実際②
環境を通じた保育の実際③
環境を通じた保育の実際④
環境を通じた保育の実際⑤
環境を通じた保育の実際⑥
環境を通じた保育の実際③
現代的課題と領域「環境」①食育について
現代的課題と領域「環境」②環境問題について
地域の生活文化・伝統文化と領域「環境」－地域資源を保育に活かす
まとめ

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>演習活動を行うので積極的に参加すること。また授業時間以外にも「生活と環境」の視点から子どもの姿をよく観察しておくこと。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p> <p>保育内容総論、保育内容研究など</p>
-------------------	---

成績評価の方法											
<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>30%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	0%	レポート	40%	中間試験	0%	定期試験	30%	その他	30%	本授業では演習活動を行うため、積極的な授業態度を評価の観点とする。
課題・小テスト	0%										
レポート	40%										
中間試験	0%										
定期試験	30%										
その他	30%										

テキスト	<input type="checkbox"/> テキストを使用する <input checked="" type="checkbox"/> レジュメを使用する <input type="checkbox"/> 未定(最初の授業で指示する)
------	--

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
保育内容研究Ⅳ（発達と言葉）	2	3	後期開講	服部 裕子

テーマ	乳幼児期のことばの発達とその指導法
-----	-------------------

科目のねらい	<p>【キーワード】乳幼児期のことばの発達 話す・聞く活動、読む・書く活動 絵本 紙芝居・ストーリーテリング 紙芝居・ストーリーテリング ペープサート・パネルシアター</p> <p>&lt;内容の要約&gt; ことばの発達、ことばに関する基礎知識を学ぶとともに、子どものことばを豊かに育てるための表現力を身につける。</p> <p>&lt;学習目標&gt; 乳幼児期のことばの発達に関する基礎知識を理解する。 保育園・幼稚園における年齢別の指導法を理解する。 絵本を選択する眼を養い、上手な絵本の読み聞かせの方法を習得する。 紙芝居、ストーリーテリングなどの特質を知り、表現力を高める。 実際にパネルシアター、ペープサートなどを製作発表し、実践力を磨く。</p>
--------	---

授業のながれ	
オリエンテーション	
幼児教育とことば、ことばの機能	
ことばの発達とことばの指導 乳児期	
ことばの発達とことばの指導 幼児前期 (1)	
ことばの発達とことばの指導 幼児前期 (2)	
ことばの発達とことばの指導 幼児後期 (1)	
ことばの発達とことばの指導 幼児後期 (2)	
ことばの発達とことばの指導 幼児後期 (3)	
よい絵本の特徴、絵本の読み聞かせの方法	
紙芝居とストーリーテリング 特質と演じ方	
人形劇 (パネルシアター・ペープサート等) の特質と演じ方	
人形劇の発表 (1)	
人形劇の発表 (2)	
人形劇の発表 (3)	
まとめ	

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>パネルシアター、ペープサートなど、人形劇を自分たちで一つ製作し、授業中に発表することを課題の一つとする。合格点に達するまで何度も挑戦する。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p>
-------------------	--

成績評価の方法											
<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>80%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>10%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	80%	レポート	10%	中間試験	0%	定期試験	0%	その他	10%	実技課題テスト（人形劇の製作発表）、小テスト、ことばに関するレポート、受講態度により総合的に判断する。
課題・小テスト	80%										
レポート	10%										
中間試験	0%										
定期試験	0%										
その他	10%										

テキスト	
<input checked="" type="checkbox"/> テキストを使用する <input checked="" type="checkbox"/> レジユメを使用する <input type="checkbox"/> 未定（最初の授業で指示する）	大久保愛他編 「保育言葉の実際」 建帛社

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
精神保健	2	3	前期開講	大饗 広之

テーマ	心の健康と異常について、主に社会的次元において考えていく
-----	------------------------------

科目のねらい	<p>【キーワード】心の健康 精神障害 自殺 いじめ いじめ 不登校</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>現代社会の抱える心の問題を、主に社会的、集団的観点から考えていく。そこには心の健康をどう保つのかというテーマから、精神疾患を被った人たちが世の中でどのように生きていけばよいのかといったテーマまで、さまざまな観点が可能であるが、授業ではテーマ別に話題を掘り下げていく予定である。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>現代社会のかかえる心の問題について、その大雑把なシェーマを描くことができる</p> <p>自殺やいじめなど各テーマについて、自分なりにその原因、対策などを描くことができる</p>
--------	--

授業のながれ	
オリエンテーション、心の健康とは	
現代人の心はどうなっているのか	
学校の精神保健 不登校、いじめなどについて	
職場の精神保健	
家庭の精神保健	
地域における精神保健	
自殺問題	
自殺問題	
アルコール、薬物対策	
精神障害者対策Ⅰ	
精神障害者対策Ⅱ	
ターミナルケアについて	
認知症対策Ⅰ	
認知症対策Ⅱ	
全体の総括	

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>心の健康を考えるうえには、現代人の心的傾向や精神疾患の理解が必要になる。授業はレジュメにそって行うが、テキストで授業中に指摘した箇所をあらかじめ読んでおくようにする。レポート課題もテキストにそって提示する。なお授業内容については変更することがある。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p> <p>精神医学Ⅰ、Ⅱや心理関係の授業、精神科リハビリテーションとは深い関係にある。</p>
-------------------	---

成績評価の方法											
<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>90%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>0%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	0%	レポート	10%	中間試験	0%	定期試験	90%	その他	0%	定期試験が中心であるが、出席、レポートも含めて評価する。
課題・小テスト	0%										
レポート	10%										
中間試験	0%										
定期試験	90%										
その他	0%										

テキスト	
<input checked="" type="checkbox"/> テキストを使用する <input type="checkbox"/> レジュメを使用する <input type="checkbox"/> 未定(最初の授業で指示する)	大饗広之 「豹変する心」の現象学 勁草書房



科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
障害児保育	1	3	前期開講	クラス

テーマ	すべての障害児に豊かな乳幼児期を
-----	------------------

科目のねらい	<p>【キーワード】 障害のある子ども 障害児保育 保育</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>障害のある子どもも、その歩みはゆっくりであっても、必ず発達します。個別的な働きかけを基本に、仲間と一緒に遊び、生活する中でその子どもの意欲、要求がふくらみ、それが発達につながります。保育の方法は保育士のみで計画し、実践するだけでは不十分で父母の子育てへの思いを聞き、連携しながらの保育づくりも重要です。さらに、地域や関係機関などとのネットワークづくりも子どもの将来にとって大切です。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>障害の基本知識と保育を学ぶ。</p> <p>障害児保育の実践から保育の方法や技術を学ぶ。</p> <p>子育てを支援するために、父母の思いを知る。父母と保育士との連携の大切さを学ぶ。</p>
--------	---

授業のながれ	
オリエンテーション	
障害とは	
保育実践（１）	
障害児保育の歴史と制度	
保育実践（２）	
早期発見・早期対応の意義	
家族と園の連携（１）	
障害のある乳幼児のための保育の場	
保育実践（３）－障害のある子どもの母親の思い	
保育実践（４）	
保育実践（５）－統合保育の現場からの報告	
家族と園の連携（２）	
障害の基礎知識と保育	
地域・関係機関とのネットワークづくり	
まとめ	

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>授業はテキストを基本としながらも、保育現場での実践や家族への援助などを皆さんに伝えていきます。2人の担任が交互で授業をします。時々演習も行います。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p> <p>「社会福祉援助技術演習（保育・前期）」</p>
-------------------	---

成績評価の方法											
<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>25%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>25%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>50%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	0%	レポート	25%	中間試験	0%	定期試験	25%	その他	50%	出席、毎回のリアクション・ペーパー（レポート）、試験の結果を総合的に評価する。
課題・小テスト	0%										
レポート	25%										
中間試験	0%										
定期試験	25%										
その他	50%										

テキスト	
<input checked="" type="checkbox"/> テキストを使用する <input checked="" type="checkbox"/> レジュメを使用する <input type="checkbox"/> 未定（最初の授業で指示する）	近藤直子、白石正久、中村尚子 新版テキスト 障害児保育 全国障害者問題研究会

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
社会福祉援助技術（保育）	2	3	通年開講	大岡 孝司、水谷 暎子

テーマ	【前期】保育所における子育て支援の実際【後期】子どもの成長と子ども同士の喧嘩への援助の方法を考えます。
-----	---

科目のねらい	<p>【キーワード】保育・保育所 子育て・子育て支援 子どもの成長と子ども同士の喧嘩への援助の方法を考えます。子どもの成長を援助する保育士のスキルを高めます。子どもの成長を援助する保育士のスキルを高めます。保護者、地域のニーズに応える保育実践を考えます。子どもの成長を促す保育環境を考えます。</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>【前期】少子化問題の解決は国の重要な施策ですが、出生率は向上しません。一方、核家族化の現代は、児童虐待の増加に見られるように、子育てに悩む父母は増え続けています。今や保育所の果たす役割は、園児の保育、父母の就労の保障や子育て支援の他に、子育てに悩む地域の父母への子育てセンター的役割も担っています。父母との連携をキーポイントに子育て支援のあり方を演習します。【後期】子どもが成長過程で見せる特徴的な事柄を取り出し、子どもの発達を援助する具体的な手立てを考え、スキルを高めます。子どもの成長には保育士、保育園と父母との連携が不可欠です。父母との連携の課題を考えます。子どもの成長を促す保育室について考えます。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育士として、子育て支援の方法や技術を学ぶ。</li> <li>・父母の子育ての思いを聞き、連携して保育をつくる。</li> <li>・子育てに悩む地域の父母たちへの子育て支援のあり方を考える。</li> <li>・保育現場の実際を学ぶ。</li> </ul>
--------	---

授業のながれ	
1. オリエンテーション	オリエンテーション 保育所の現状と課題
2. 保育所の実際	子どもの喧嘩、トラブル 1
3. 演習・子どものけんか、トラブル（1）	子どもの喧嘩、トラブル 2
4. 演習・子どものけんか、トラブル（2）	子どもとおけいごと 1
5. 演習・父母との連携（1）	子どもとおけいごと 2
6. 演習・父母との連携（2）	保育のスキルを高める 1. 歌・わらべうた・手遊び
7. 演習・発達がゆっくりな子どもの保育	2. 紙工作
8. 夜間保育の実際	3. 子どもの成長に必要なあそび
9. 演習・アレルギー給食の取り組み	子どもの荒れと保育を考える 1
10. アレルギー給食の実際	子どもの荒れと保育を考える 2
11. 演習・地域の子育て支援（1）	乳児院の実際（ゲスト講師）
12. 演習・地域の子育て支援（2）	子どもが育つ保育室を考える 1
13. 演習・発達と援助（1）	子どもが育つ保育室を考える 2
14. 演習・発達と援助（2）	特別保育-長時間、延長、夜間、日・祝日、病後・病後児保育を考える
15. まとめ	まとめ

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	保育の現場で実際にあった事例で演習（グループ討議など）を行います。他人の意見を尊重しながらも、自分の考えや意見をまとめる演習にして欲しい。
<本科目の関連科目>	「障害児保育」

成績評価の方法	
課題・小テスト レポート 中間試験 定期試験 その他	0% 50% 0% 0% 50%
授業（演習）への参加態度、レポートの提出、出席状況などを勘案して評価する。	

テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>■テキストを使用する</li> <li>■レジュメを使用する</li> <li>■未定（最初の授業で指示する）</li> </ul>
------	---

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
児童文学（絵本論）	2	3	後期開講	林 美千代

テーマ	子どもの発達にとって絵本や児童文学は大きな役割を果たす。また大人にとっては児童文学から子どもの心を知ること もできる。こうした絵本や児童文学の世界を子どもと共に楽しむ方法について学ぶ。
-----	---

科目のねらい	<p>【キーワード】 物語 ジャンル 対象年齢 読み聞かせ 読み聞かせ</p> <p>&lt;内容の要約&gt; 児童文学は大人によって書かれ、子どもに享受される。子どもと児童文学をつなぐ媒介者（親・保育士・教師など）の役目は大きい。子どもと絵本や児童文学とのかかわりを考え、どのような時にどのような本を手渡すのか、作品の紹介や批評ができるようになることを目指す。</p> <p>&lt;学習目標&gt; 絵本、児童文学の面白さを子どもに伝えることができる。 絵本・児童文学のテーマや構造を知って、子どもの本を批評することができる。 子どもの個性・対象年齢などを考えて本を読み聞かせることができる。 絵本・児童文学を保育・教育の現場に生かすことができる。</p>
--------	---

授業のながれ	
オリエンテーション—児童文学とは	
子どもに物語を手渡す意味	
子どもに物語を手渡す方法—絵本・紙芝居・語り	
子どもの発達と絵本 ①0歳から	
子どもの発達と絵本 ②3歳から	
子どもの発達と絵本・幼年童話 ③6歳頃から	
子どもの発達と絵本・児童文学 ④8歳頃から	
絵本・児童文学のテーマ	
絵本・児童文学の構造	
絵本・児童文学のジャンル	
①昔話の本	
②知識の本	
③動物物語・ファンタジーなど	
④学校物語・リアリズムなど	
まとめ—絵本・児童文学と大人	

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	
図書館・本屋などへ積極的に出かけ、子どもの本の現状を知る。必要に応じて資料を配布する。	
<本科目の関連科目>	

成績評価の方法											
<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>50%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>50%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	0%	レポート	50%	中間試験	0%	定期試験	0%	その他	50%	授業内の小レポートと発表（40%）、期末レポート（50%）、授業への参加態度（10%）などで総合的に評価する。
課題・小テスト	0%										
レポート	50%										
中間試験	0%										
定期試験	0%										
その他	50%										

テキスト	
<input type="checkbox"/> テキストを使用する <input checked="" type="checkbox"/> レジューメを使用する <input type="checkbox"/> 未定（最初の授業で指示する）	

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
理科指導法	2	3	前期開講	鈴木 久

テーマ	「自然認識を通して人間形成を図る教科」としての理科教育の理論と実践についての理解を深める。
-----	---

科目のねらい	<p>【キーワード】理科教育の実践 実験・観察技術の活用</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>子どもたちの、知的好奇心や探究心を引き出し、観察・実験を通じて科学的に調べる能力や態度を育て、科学的な見方や考え方を養い、楽しい理科授業をするための方法を身に付けさせる。自然体験や日常生活との関連を図り、問題解決の能力や多面的・総合的な見方を培う指導法を紹介する。実験・観察におけるコンピューター等の機器の活用方法や、事故防止のための知識や指導法についても考えさせる。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>学校現場で行われている理科指導の進め方を理解する。</p> <p>学習指導案が作成できるようになる。</p>
--------	---

授業のながれ	
理科の授業とは	
理科の授業のすすめ方	
理科教育の指導の実際	
理科指導の原則・素材の教材化	
問題解決型授業の展開	
授業における安全管理	
授業研究と研究授業	
学習指導案の書き方	
模擬授業 1	
模擬授業 2	
模擬授業 3	
理科の評価	
評価の原則と実際	
理科教育の周辺	
総括	

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	
<p>ガスバーナーの使用も検討しています。夏季ですが、服装には注意をして下さい。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p> <p>理科研究</p>	

成績評価の方法											
<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>100%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	0%	レポート	0%	中間試験	0%	定期試験	0%	その他	100%	出席を重視します。集中講義ですので休まないようにしましょう。成績評価については授業内で説明します。
課題・小テスト	0%										
レポート	0%										
中間試験	0%										
定期試験	0%										
その他	100%										

テキスト	
<input checked="" type="checkbox"/> テキストを使用する <input checked="" type="checkbox"/> レジュメを使用する <input type="checkbox"/> 未定(最初の授業で指示する)	文部科学省 小学校学習指導要領解説「理科編」 東洋館出版社

科目名	単位数	学年担当	開講形態	教員名
音楽科指導法	2	3	後期開講	クラス

テーマ	小学校における音楽科教育に必要な基礎的な知識や技術、指導方法を身につける。
-----	---------------------------------------

科目のねらい	<p>【キーワード】音楽科教育 基礎的な知識 技術 指導方法 指導方法</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>小学校における音楽科教育に必要な基礎的な理念・知識・技術を学び、自ら声を出して歌う、楽器に触れる、音楽を聴く活動を通して指導方法を身につけていきます。教科書のみならず幅広い分野での音楽の教材研究を行いながら、将来教育現場で通用する実践力を身につける事を目指していきます。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>小学校における音楽科教育に必要な基礎的な理念・知識を学ぶ。</p> <p>教材研究方法や指導の方法を、学習指導案作成や模擬授業を通して身につけることができる。</p>
--------	--

授業のながれ	
小学校音楽科教育の目的・内容	
学習指導要領、学習指導案の作成方法	
歌唱授業の教材研究	
器楽授業の教材研究	
音楽づくりの教材研究	
鑑賞授業の教材研究	
歌唱授業の教材研究と指導演習（1）	
器楽授業の教材研究と指導演習（1）	
音楽づくりの教材研究と指導演習（1）	
鑑賞授業の教材研究と指導演習（1）	
歌唱授業の教材研究と指導演習（2）	
器楽授業の教材研究と指導演習（2）	
音楽づくりの教材研究と指導演習（2）	
鑑賞授業の教材研究と指導演習（2）	
様々な音楽教育の研究とまとめ	

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>他の学生の発表や演奏を聞くのも勉強です。出来る限り欠席しないよう心がけて下さい。授業外の地道な学習を心がけ、実技等の活動への積極的な取り組みを期待します。テキスト『ハートフルメッセージ』に関しては、初等教育専修の学生は2年の際に全員購入して持っていると思いますので、再び購入する必要はありません。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p> <p>「音楽Ⅰ」「音楽Ⅱ」と関連しています。</p>
-------------------	--

成績評価の方法											
<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>50%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>20%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	30%	レポート	0%	中間試験	0%	定期試験	50%	その他	20%	課題（30点）、試験（50点）、その他の受講態度（10点）、出席（10点）で総合的に評価します。
課題・小テスト	30%										
レポート	0%										
中間試験	0%										
定期試験	50%										
その他	20%										

テキスト	
<input checked="" type="checkbox"/> テキストを使用する <input type="checkbox"/> レジユメを使用する <input type="checkbox"/> 未定（最初の授業で指示する）	阪井恵・小山真紀 『ハートフルメッセージ（初等音楽科教育法）』 明星出版

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
図画工作指導法	2	3	前期開講	守山 均

テーマ	小学校学習指導要領「図画工作科」に示される内容を理解し、授業を展開するために必要な基本的な知識と技能の習得すること
-----	---

科目のねらい	<p>【キーワード】 小学校学習指導要領「図画工作」 教職に関する科目 指導法に関する科目 美術 美術</p> <p>&lt;内容の要約&gt;          小学校学習指導要領「図画工作」に示される内容を適切に理解し、授業を運営するために必要な知識と技能を習得する。そのため学習指導要領の理念や民間美術運動の歴史の変遷を的確に把握する。また、指導案の作成、模擬授業の実践を通じ、小学校教育のなかで取り扱う図画工作の教材を考案し、授業を展開するための実践力を身につける。</p> <p>&lt;学習目標&gt;          小学校学習指導要領「図画工作」の目標と内容を正確に理解すること          「図画工作科」の授業を運営できる実践的な指導力を身につけること          児童の造形活動を理解しその指導と援助に必要な知識と技能を身につけること          児童が造形活動を行なう上で必要な材料・道具に関する知識を整理・分類し体系的な理解を深めること</p>
--------	--

授業のながれ	
授業の概要と進め方	
学習指導要領「図画工作」の概要と改訂のポイント	
学習指導要領「図画工作」の歴史の変遷①	
学習指導要領「図画工作」の歴史の変遷②	
民間美術運動の歴史①	
民間美術運動の歴史②	
「共通事項」と学校種間の連携	
指導案の理解と作成	
模擬授業の実践「A表現」①	
模擬授業の実践「A表現」②	
模擬授業の実践「A表現」③	
模擬授業の実践「B鑑賞」①	
模擬授業の実践「B鑑賞」②	
模擬授業の実践「B鑑賞」③	
総括	

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>模擬授業への積極的な参加が期待される。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;          「音楽科教育法」「体育科教育法」「教育方法論」</p>
-------------------	---

成績評価の方法											
<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>60%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>0%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	40%	レポート	0%	中間試験	0%	定期試験	60%	その他	0%	出席、課題の提出（指導案・レポート）、模擬授業への参加、筆記テストの結果等から総合的に評価する。
課題・小テスト	40%										
レポート	0%										
中間試験	0%										
定期試験	60%										
その他	0%										

テキスト	
<input checked="" type="checkbox"/> テキストを使用する <input type="checkbox"/> レジューメを使用する <input type="checkbox"/> 未定（最初の授業で指示する）	藤江充・三沢一実編著 「小学校学習指導要領の解説と展開「図画工作編」 教育出版



科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
体育科指導法	2	3	後期開講	吉田 文久

テーマ	学習指導要領に示された体育科の「目標及び内容」の理解し、また民間教育団体の実践に学びながら、授業計画づくり、具体的な授業展開、そして評価という一連の体育の授業づくりについて学ぶ。
-----	---

科目のねらい	<p>【キーワード】 教科内容 できる・わかる 体育の学習集団論 異質協同 異質協同 教材開発・教材づくり</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>小学校学習指導要領体育科において、体育の目標はもとより、第1学年から第6学年までに設定された目標を知り、その内容として位置づけられた各領域の学習内容、加えて体育理論についても理解する。その上で、小学校現場における官製の研究指定校での実践、民間教育団体の実践を比較検討しながら、体育の授業づくりについて学ぶ。そこでは、教科内容の明確化、教材選択の方法、教材開発・教材づくり、教授行為、評価という授業づくりの核となる作業への理解とその実践力を身につける。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>学習指導要領に示された体育の目標、内容について理解することができる。</p> <p>体育の授業づくりに求められる教科内容の明確化から評価活動まで、授業構成要素の理解ができる。</p> <p>具体的な授業づくりの視点をもって体育の授業づくりの今日的課題を見いだすことができる。</p> <p>体育実践を批判的に分析し、自身の授業づくりのイメージを持つことができる。</p>
--------	--

授業のながれ	<p>オリエンテーション ～私が受けた体育の授業～</p> <p>体育の授業はどのようにつくられているか</p> <p>「体育の好き嫌い」を越えて ～みんながうまくなる体育指導とは～</p> <p>教科内容を明確にする意味と必要性 ～体育では「なに」を「なぜ」教えるのか～</p> <p>学習指導要領に示された「目標」「内容」とは</p> <p>体育における「教材」とは</p> <p>教師による「教材開発」の必要性とは ～自前の教材開発・教材づくりが子どもを支える～</p> <p>「できる」「わかる」「生きる」授業のイメージ ～目標・内容・方法・評価の一貫性～</p> <p>学び合う授業づくり ～異質協同の学び～</p> <p>教授行為・行動として求められること ～ティーチャーとコーチの違い～</p> <p>小学校における体育理論の授業づくりとは ～その試行的実践の成果と課題～</p> <p>体育の授業分析の方法とは</p> <p>体育行事について考える ～運動会のあり方と位置づけ～</p> <p>体育の「評価」について考える ～評価の意義と課題～</p> <p>まとめ ～体育指導の意味とやりがい～</p>
--------	--

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>授業づくりには子ども理解が欠かせません。小学校の子どもたちと触れ合い、接する機会を積極的につくって子どもたちの姿を受け止め、授業に臨んでください。そうすると授業の理解が深まり、自身の課題もよく見えてきます。同じ小学校教員免許を取得しようとする仲間とディスカッションしながら授業を進めていければと思っています。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p> <p>「体育」(2年生)、「スポーツと文化」(1年生)、「各教科指導法」</p>
-------------------	--

成績評価の方法	<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>10%</td> <td rowspan="5">授業期間内に課すレポート、毎回のミニレポート及び出席で評価します。</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>50%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>40%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	10%	授業期間内に課すレポート、毎回のミニレポート及び出席で評価します。	レポート	50%	中間試験	0%	定期試験	0%	その他	40%
課題・小テスト	10%	授業期間内に課すレポート、毎回のミニレポート及び出席で評価します。										
レポート	50%											
中間試験	0%											
定期試験	0%											
その他	40%											

テキスト	<p><input type="checkbox"/> テキストを使用する</p> <p><input type="checkbox"/> レジューメを使用する</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 未定(最初の授業で指示する)</p>
------	--

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
家庭科指導法	2	3	後期開講	加藤 慧子

テーマ	小学校学習指導要領に示されている家庭科の教科目標に基づき、家庭生活から出発し、家庭生活へと戻っていく家庭科の特色を踏まえ、前年度に学んだ衣食住の知識をより深める。そして、小学校における授業実践にに必要な指導案の書き方・実技の習得・模擬授業を通して家庭科教育の指導方法を学ぶ。
-----	---

科目のねらい	<p>【キーワード】衣食住 家庭生活から発信 家庭生活へフィードバック 実践的な態度の育成 実践的な態度の育成 個を生かした授業</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>家庭科の成り立ち、目標・内容・指導方法・評価等について解説する。小学校家庭科の領域、「家庭生活と家族」「日常の食事と調理の基礎」「快適な衣服と住まい」「身近な消費生活と環境」を授業方法を中心とするが、新しい指導要領ではより鮮明になった中学校との関連についても考慮する。本講義を通じて家庭科の意義を理解させ、教員としての自覚と自分なりの目標をもち、生活へのフィードバックを視野に入れて実践できる力を育成する。授業実践に必要な指導案の書き方・技能の習得・模擬授業を通して家庭科教育の指導方法を指導する。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>小学校家庭科の授業内容を理解することができ、指導法を考え演習することができる。</p> <p>衣食住に関する知識・技能を知り、身に付けることができる。</p> <p>一人一人の児童を大切にしたい授業の展開を考え、模擬授業をすることができる。</p>
--------	--

授業のながれ	<p>ガイダンス ー授業のねらい・進め方ー 生活の変化と児童の実態は？</p> <p>家庭科教育の課題と内容 ー生活力を育てる家庭科・横断的学習・個を大切にしたい家庭科の授業の工夫・評価方法ー</p> <p>調理の基礎と技能 1 ー家族が喜ぶ献立を考えグループでー食分を調理しよう（栄養のバランスを考えた食品選びと調理計画）ー</p> <p>調理の基礎と技能 2 ー計画に従って食品をむだにせず、安全で手際よく作業を進めようー（次時の計画書づくり）</p> <p>快適な衣服と住まい 1 ー生活に役立つ物を考えて作ろう（小ふくろ・ナップザック・ペットボトル入れ・クッションカバーウォールポケット等）ー</p> <p>快適な衣服と住まい 2 ー生活に役立つ物を考えて作ろうー</p> <p>単元構成と指導案の作成の方法 ー児童の実態の把握・教材のねらいと分析・学習過程の構想・評価計画・単元展開・本時の流れー</p> <p>教材研究と指導案づくり ー略案を作成してみようー グループで検討</p> <p>教材研究と内容発表・指導案づくり・ー同じ領域の者でグループ編成をし、指導案の検討をしようー</p> <p>模擬授業と授業観察・授業研究・討議 1</p> <p>模擬授業と授業観察・授業研究・討議 2</p> <p>模擬授業と授業観察・授業研究・討議 3</p> <p>模擬授業と授業観察・授業研究・討議 4</p> <p>模擬授業と授業観察・授業研究・討議 5</p> <p>まとめ</p>
--------	--

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>・私語厳禁・次の授業で用意しなければならない物がある場合は事前に連絡をするので忘れないこと。忘れたためにまったく授業ができなくなって しまう場合がある。・飲食・携帯電話・他学生への迷惑行為等禁止・出席日数・受講態度重視</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p> <p>小学校課程のすべての教科・領域が関連している。特に関連性が強い教科は、体験を重視している生活科、栄養や食育の関連が強い保健体育科・家族を大切に思う心情をはぐくむため道徳教育だと考えられる。</p>
-------------------	--

成績評価の方法	<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>0%</td> <td rowspan="5">毎時間の授業の最後に書いてもらう小レポートを大切にしたいと考えている。この授業において一人一人の学生が何を学び取り、何を考えたかをしっかり書いてほしいと思う。定期テストは試験問題と小論文とする。受講態度や作品提出も重視したいと考えている。</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>50%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>20%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	0%	毎時間の授業の最後に書いてもらう小レポートを大切にしたいと考えている。この授業において一人一人の学生が何を学び取り、何を考えたかをしっかり書いてほしいと思う。定期テストは試験問題と小論文とする。受講態度や作品提出も重視したいと考えている。	レポート	30%	中間試験	0%	定期試験	50%	その他	20%
課題・小テスト	0%	毎時間の授業の最後に書いてもらう小レポートを大切にしたいと考えている。この授業において一人一人の学生が何を学び取り、何を考えたかをしっかり書いてほしいと思う。定期テストは試験問題と小論文とする。受講態度や作品提出も重視したいと考えている。										
レポート	30%											
中間試験	0%											
定期試験	50%											
その他	20%											

テキスト	<p><input checked="" type="checkbox"/> テキストを使用する</p> <p><input type="checkbox"/> レジュメを使用する</p> <p><input type="checkbox"/> 未定（最初の授業で指示する）</p> <p>文部科学省 小学校学習指導要領解説 「家庭編」 東洋館出版社</p>
------	---

科目名	単位数	学年担当	開講形態	教員名
特別活動方法論 (小)	2	3	後期開講	山本 敏郎

テーマ	教科外活動の理論と方法
-----	-------------

科目のねらい	<p>【キーワード】教科外活動 集団づくり 自治</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>学校教育の構造(領域と機能)をふまえ、教科外活動の指導法を講じる。教科外活動はたんに教育課程の一領域であるにとどまらず、その指導内容は学校の管理・経営過程にも及ぶ。その点から学校行事、異学年活動、児童会・生徒会活動を指導する必要があること、子どもの学校生活の基礎集団である学級(ホーム)における活動の指導法や学年集団の指導法について講じる。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>教科外活動の意義と歴史について理解することができる。</p> <p>集団づくりの基本的な考え方を身につけることができる。</p>
--------	---

授業のながれ	
特別活動と教育課程	
特別活動の領域編成の変遷	
学校の構造と教科外活動	
管理－経営への子どもの参加(1)	
管理－経営への子どもの参加(2)	
教科外活動の指導原理	
集団とは何か	
三つの子ども集団	
学級経営と学級集団づくり	
集団づくりの三つのテーゼ	
対話・討論・討議の指導	
リーダーの指導	
班・グループの指導	
行事と文化的実践の指導	
まとめ	

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>参考文献は講義中紹介します。注意事項は講義の初回で指示します。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p> <p>教育課程論、教育方法論、生徒の生活と進路の指導</p>
-------------------	---

成績評価の方法											
<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>80%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>0%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	20%	レポート	0%	中間試験	0%	定期試験	80%	その他	0%	出席、課題の提出(小レポート)、最終試験をもとに総合的に評価する。
課題・小テスト	20%										
レポート	0%										
中間試験	0%										
定期試験	80%										
その他	0%										

テキスト	
<input type="checkbox"/> テキストを使用する <input checked="" type="checkbox"/> レジュメを使用する <input type="checkbox"/> 未定(最初の授業で指示する)	

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
教育実習 I (幼小) (幼稚園)	0 (1)	3	後期開講	東内 瑠里子

テーマ	幼稚園教育実習入門
-----	-----------

科目のねらい	<p>【キーワード】 幼稚園の役割 責任実習 (主活動) 指導案</p> <p>&lt;内容の要約&gt; 教育実習 (幼稚園) に行くにあたって、あそびや主活動 (課題活動) など、保育内容の構想および指導方法について、模擬保育、日案 (指導案) などの作成を通して、実習での実践のイメージづくりを行う。</p> <p>&lt;学習目標&gt; 一日の保育活動のイメージをもつことができる 幼稚園教育のイメージをもつことができる 教育実習への動機を高めることができる</p>
--------	--

授業のながれ	
オリエンテーション 教育実習の意味と意義	
幼児のとらえかた	
保育実践力獲得ゼミナール1 保育内容・教材研究と子ども研究	
保育実践力獲得ゼミナール2 主活動 (責任実習) の構想と指導案づくり	
保育実践力獲得ゼミナール3 模擬保育とその分析1	
保育実践力獲得ゼミナール4 模擬保育とその分析2	
クラスづくりゼミナール1 子ども関係の分析と指導構想	
クラスづくりゼミナール2 クラス活動のシナリオづくり	
幼稚園行事ゼミナール 学校行事の指導構想	
園経営ゼミナール 先生のクラス担任以外の仕事	
実習直前オリエンテーション	
教育実習のまとめ1 責任実習 VTR 分析1	
教育実習のまとめ2 責任実習 VTR 分析2	
教育実習のまとめ3 クラスづくり・園行事の検討	
教育実習の全体的な総括	

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>保育所 (園) 実習を2年次にすでに行っているため、その成果をさらに発展させて保育園と異なる幼稚園教育の実際を、学びます。クラス運営や日案 (指導案) の作成などをさらに学びます。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt; 保育原理、保育内容総論、保育方法論、保育計画論、保育内容研究 I ~ V、保育職論、初等教育原理、発達心理学など</p>
-------------------	--

成績評価の方法	
課題・小テスト	50%
レポート	50%
中間試験	0%
定期試験	0%
その他	0%

テキスト	
<input type="checkbox"/> テキストを使用する	
<input checked="" type="checkbox"/> レジュメを使用する	
<input checked="" type="checkbox"/> 未定 (最初の授業で指示する)	

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
教育実習 I (幼小) (小学校)	0 (1)	3	後期開講	クラス

テーマ	小学校教育実習入門
-----	-----------

科目のねらい	<p>【キーワード】 学習指導 生活指導 学級づくり</p> <p>&lt;内容の要約&gt; 教育実習に行くにあたって、授業や教科外活動の構想および指導方法について、模擬授業、学習指導案、授業や学級活動等のシナリオ作成を通して、指導のイメージづくりを行う。</p> <p>&lt;学習目標&gt; 学習指導のイメージをもつことができる 学級づくりのイメージをもつことができる 教育実習への動機を高めることができる</p>
--------	---

授業のながれ	
オリエンテーション 教育実習の意味と意義	
小学生のとらえかた	
授業づくりゼミナール1 教科内容・教材研究と子ども研究	
授業づくりゼミナール2 授業指導の構想と指導案づくり	
授業づくりゼミナール3 模擬授業とその分析1	
授業づくりゼミナール4 模擬授業とその分析2	
学級づくりゼミナール1 子ども関係の分析と指導構想	
学級づくりゼミナール2 学級指導・学級活動のシナリオづくり	
学校行事ゼミナール 学校行事の指導構想	
学校経営ゼミナール 学校の校務分掌	
実習直前オリエンテーション	
教育実習のまとめ1 学習指導 VTR 分析1	
教育実習のまとめ2 学習指導 VTR 分析2	
教育実習のまとめ3 学級づくり・学校行事の記録の検討	
教育実習の全体的な総括	

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>グループワークを中心に行います。グループワークへの参加度が低いと成績を出せないことがあります。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt; 教育課程論、教育方法論、各教科指導法、各教科研究、道徳教育の指導法、特別活動指導法、生徒の生活と進路の指導、教育相談の理論と方法、教職インターンシップ I・II</p>
-------------------	---

成績評価の方法	
課題・小テスト	50%
レポート	50%
中間試験	0%
定期試験	0%
その他	0%

テキスト	
<input type="checkbox"/> テキストを使用する	
<input checked="" type="checkbox"/> レジュメを使用する	
<input checked="" type="checkbox"/> 未定(最初の授業で指示する)	

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
司法福祉論	2	3	後期開講	木村 隆夫

テーマ	司法福祉が社会問題をどのように解決しようとしているのか、その制度と援助法について学ぶ。
-----	---

科目のねらい	<p>【キーワード】少年司法・刑事司法と福祉制度の有機的結合 少年司法制度 少年院教育 更生保護制度 更生保護制度 医療観察制度</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>司法福祉は、法制度活用による規範的解決と、社会福祉の援助技術による実体的解決を結合した援助方法によるところに特徴があります。活用分野は、少年司法制度と更生保護を基軸にしなが、高齢者や子どもの虐待防止と救済、DV 被害をはじめとした女性の救済、法律扶助など社会的弱者への援助方法として、広く活用されるようになっていきました。この授業では、少年司法制度と更生保護制度を重点としながらも、講師が保護観察官時代に行った、学校ソーシャルワーク実践や、今後問題となる、高齢犯罪者や障害犯罪者の更生支援と社会再統合のあり方についても、取り上げる予定です。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>少年司法・刑事司法が、法的手続きのみではなく、福祉的・教育的支援と結合して実施される理由と必要性について学ぶ。</p> <p>少年法の手続き、家庭裁判所の役割、非行克服専門期間の役割と、少年達へ教育・指導の実態について学ぶ。</p> <p>少年院における教育と対人援助技術を活用した、性格・生活姿勢のゆがみを矯正し、社会生活に適応できる人格に高めるための指導方法を学ぶ。更生保護制度、保護観察の指導方法と、更生保護関係者の非行少年・成人犯罪者への更生と社会復帰のための、対人支援法について学ぶ。医療観察制度の理念を学び、触法精神障害者の治療と社会復帰支援活動から学ぶ。</p>
--------	---

授業のながれ	<p>司法福祉の概説（司法福祉とはどのような学問か、司法福祉の活用分野、司法福祉の方法）</p> <p>少年司法と司法福祉 1（少年法の内容と運用実態、家庭裁判所の役割）</p> <p>少年司法と司法福祉 2（少年司法に関係する専門機関と処遇の実態）</p> <p>少年院教育 1（少年院教育の実態を映像で見る）</p> <p>少年院教育 2（少年院教育の理念、教育内容、対人支援法）</p> <p>更生保護制度 1（更生保護実践を映像で見る）</p> <p>更生保護制度 2（更生保護の歴史、理念、法制度、更生保護の機関）</p> <p>更生保護制度 3（仮釈放、生活環境調整、恩赦）</p> <p>更生保護制度 4（保護観察の種類、指導援助の方法、良好・不良措置、処遇プログラム、社会参加活動など）</p> <p>更生保護制度 5（応急の救護、更生緊急保護、犯罪被害者支援）</p> <p>更生保護制度 6（医療観察—生活環境調査、医療観察の審判、生活環境調整、精神保健観察など）</p> <p>更生保護制度 7（更生保護の担い手—保護観察官、社会復帰調整官、保護司、BBS、協力雇用主、更生保護施設など）</p> <p>更生保護制度 8（更生保護と関係機関・団体等との連携—司法機関、就労支援機関、福祉・医療機関、学校、自助グループ、個人協力者など）</p> <p>事例研究（保護観察官として実施した、学校ソーシャルワークの事例）</p> <p>事例研究（高齢犯罪者及び障害犯罪者の救済システムの構築を考える）</p>
--------	--

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>授業ごとに感想文の提出を求めます。この感想文の内容についても評価の対象とします。授業中私語の禁止は当然のことで、遅刻もしないよう心がけて下さい。司法福祉は、教育や心理を学ぶ人にとって、解りにくい科目ですので、解らないところは積極的に質問して下さい。授業中でもかまいませんし、終了後感想文に記載することも可能です。授業はレジュメを用意し、それに沿って進めます。ただし、レジュメでは詳細なことまで触れることはできないので、可能な限り「更生保護制度」のテキストで学習して下さい。</p>
-------------------	---

成績評価の方法	<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>70%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>30%</td> </tr> </table> <p>最終レポートと、授業ごとの感想文で評価します。感想文については、授業で理解したことが、自分なりにまとめられているかどうかを見ていきます。授業感想文も評価対象としますので、出席率が低いと不利になることがあることをあらかじめ承知しておいて下さい。</p>	課題・小テスト	0%	レポート	70%	中間試験	0%	定期試験	0%	その他	30%
課題・小テスト	0%										
レポート	70%										
中間試験	0%										
定期試験	0%										
その他	30%										

テキスト	<p><input type="checkbox"/> テキストを使用する</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> レジュメを使用する</p> <p><input type="checkbox"/> 未定（最初の授業で指示する）</p>
------	---



科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
臨床心理学Ⅱ	2	3	前期開講	工藤 昌孝

テーマ	心の諸問題と臨床心理学的援助の実際
-----	-------------------

科目のねらい	<p>【キーワード】ライフサイクル 発達課題 心理的障害</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>臨床心理学Ⅰで学んだ理論と技法を踏まえ、臨床心理学的な対人援助の実際について学ぶ。ライフサイクルにおける心理的課題や心の問題に対する援助の実際について論じる。いくつかの心理的な障害や問題について取り上げて、実際の臨床場面でどのような援助が可能かについて考える。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>ライフサイクルに応じた課題と援助の実際を理解する。</p> <p>心理的な障害や問題の理解と援助に必要な観点を身につける。</p>
--------	--

授業のながれ	
臨床心理学と援助 1	
臨床心理学と援助 2	
児童の心理的課題と援助	
「不登校」の理解と援助	
「虐待」の理解と援助	
思春期の心理的課題と援助	
「摂食障害」の理解と援助	
青年期の心理的課題と援助	
「不安障害」の理解と援助	
「統合失調症」の理解と援助	
中年期の心理的課題と援助	
「うつ病」の理解と援助	
老年期の心理的課題と援助	
「痴呆」「ターミナルケア」の理解と援助	
まとめとレポート	

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	臨床心理学の基本的な援助の理論と技法の実際については、臨床心理学Ⅰなどですでに学んでいることが望ましい。
<本科目の関連科目>	「臨床心理学Ⅰ」「精神医学Ⅰ・Ⅱ」「精神保健学」「心理療法論」

成績評価の方法											
<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>70%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>0%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	30%	レポート	70%	中間試験	0%	定期試験	0%	その他	0%	講義での小レポートと最終レポートにより評価する。ただし、最終レポートの提出がない場合は評価の対象外となります。
課題・小テスト	30%										
レポート	70%										
中間試験	0%										
定期試験	0%										
その他	0%										

テキスト	
<input type="checkbox"/> テキストを使用する <input type="checkbox"/> レジユメを使用する <input checked="" type="checkbox"/> 未定(最初の授業で指示する)	

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
心理療法論	2	3	後期開講	工藤 昌孝

テーマ	心理療法の基本姿勢と課題
-----	--------------

科目のねらい	<p>【キーワード】 心理療法 想像力 関係性・身体性</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>この授業では既存の各理論の学習ではなく、心理療法の実践なかで問題となるいくつかのテーマを取り上げて、心理療法にとって本質的な問題について触れていく。また後半は、深層心理学、分析心理学的視点から、心理療法におけるイメージの捉え方や扱い方について、芸術的手法や夢、イメージーションを用いた技法を臨床の実際に即して学ぶ。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>心理療法の基本的な考え方や原則を理解し説明できること</p> <p>心理療法の背景にあるイメージーションの動きとその過程について、体験的に知ること</p>
--------	--

授業のながれ	
心理療法とは	
心理療法の実際 1 構造と技法	
心理療法の実際 2 原則と目的	
心理療法のプロセス 1	
心理療法のプロセス 2	
心理療法における身体性 1	
心理療法における身体性 2	
セラピストとクライアント、関係性の視点 1	
セラピストとクライアント、関係性の視点 2	
心理療法と夢分析	
心理療法と物語・神話・昔話・伝説 1	
心理療法と物語・神話・昔話・伝説 2	
心理療法と遊び・想像力 1	
心理療法と遊び・想像力 2	
まとめとレポート	

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>臨床心理学Ⅰ，臨床心理学Ⅱなどを受講し，心理臨床の理論，基本的な技法，対象となる問題領域と発達段階についての概要を理解していることが望ましい。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p> <p>「臨床心理学Ⅰ」「臨床心理学Ⅱ」</p>
-------------------	--

成績評価の方法											
<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>70%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>0%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	30%	レポート	70%	中間試験	0%	定期試験	0%	その他	0%	講義での小レポートと最終レポートにより評価する。ただし、最終レポートの提出がない場合は評価の対象外となります。
課題・小テスト	30%										
レポート	70%										
中間試験	0%										
定期試験	0%										
その他	0%										

テキスト	
<input type="checkbox"/> テキストを使用する <input type="checkbox"/> レジュメを使用する <input checked="" type="checkbox"/> 未定(最初の授業で指示する)	

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
犯罪・非行心理学	2	3	後期開講	山田 麻紗子

テーマ	犯罪・非行の心理を加害者と被害者、取り調べの場など多面的視点から、その実際を知る。
-----	---

科目のねらい	<p>【キーワード】 犯罪・非行の心理 犯罪心理鑑定 犯罪被害者の心理 取調べの心理 取調べの心理 虐待と犯罪・非行</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>犯罪・非行は社会的関心が常に高く、少年事件や大きな事件は起こると直ぐに新聞やテレビ等により報道される。だが、私たちは事件の背景やそこに至る経過、何故そのようなことを実行してしまったのかについてはほとんどその実態を知らないといえる。この講義では犯罪・非行心理学の基礎、実際の事件の心理鑑定、立ち直りへの支援の実際、被害者の心情などを中心に犯罪の背景や実態を通して心理を学ぶ。また、真の更正の在り方、更正を支援する仕事についても学ぶ。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>犯罪・非行を要因や至る心情・経過を知り、心理面・社会的な面から理解する。</p> <p>司法手続きに臨床心理学的アプローチである犯罪心理鑑定の必要性その技法を理解する。</p> <p>犯罪被害者を巡る様々な問題、その心情を理解する。</p> <p>犯罪・非行の処遇と立ち直りを支援している専門職を知る。</p> <p>児童虐待と犯罪・非行の深い関係を知る。</p>
--------	--

授業のながれ	
犯罪・非行心理学への招待	
犯罪・非行心理学の基礎（１）	
同（２）	
犯罪心理鑑定（１）	
同（２）	
同（３）	
中間のまとめ（レポート作成）	
取調べの心理	
犯罪非行理論(1)	
犯罪非行理論(2) 非行少年の特性等	
被害者の心理	
ゲスト講師	
裁判の心理・裁判員裁判の実際	
犯罪・非行の処遇と専門職	
総まとめ（レポート作成）	

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>参考文献や新聞などを読み、問題意識を持って授業に臨んでほしい。私語や他の学生の迷惑になる行為は禁止します。その年に起こった事件等を講義で取り上げることもありますので、シラバスに記載した内容に変更がある場合もあります。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p> <p>家族心理臨床論、発達心理学 児童福祉論 臨床心理学 司法福祉論など</p>
-------------------	--

成績評価の方法											
<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>80%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>10%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	0%	レポート	10%	中間試験	0%	定期試験	80%	その他	10%	講義の中でレポートを2回書いてもらいます。それが出席と併せて20点、定期試験が80点で採点します。
課題・小テスト	0%										
レポート	10%										
中間試験	0%										
定期試験	80%										
その他	10%										

テキスト	
<ul style="list-style-type: none"> <li>■テキストを使用する</li> <li>■レジュメを使用する</li> <li>■未定(最初の授業で指示する)</li> </ul>	加藤幸雄・藤原正範編 少年事件と裁判員裁判 明石書店

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
家族心理臨床論	2	3	前期開講	山田 麻紗子

テーマ	変革期における家族の臨床心理的理解と支援方法を学ぶ
-----	---------------------------

科目のねらい	<p>【キーワード】 多彩な家族の登場 新たな家族支援の必要性とその方法 家族危機と家族の変容</p> <p>&lt;内容の要約&gt;          未曾有の変革期にある家族をとりまく心の危機を家族発達論、臨床心理学などを基にその深層を解明し、具体的かつ効果的な対応策についての理解を深める。家族臨床心理学は誕生間もない学問である。狭義の臨床心理学の枠にとどまらない多面的な発展可能性と問題群を抱えている。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 誕生間もない家族臨床心理学の視点を学ぶ。</li> <li>2. 近接する学校教育、医療看護、介護福祉、産業労働、司法矯正、生涯発達、ジェンダー論など、数多くの専門領域の壁を越え、現代家族を総合的視野から理解し、支援するための知的基盤を学ぶ。</li> <li>3. 家族の危機を臨床心理的視点から理解し、その実際を知ることができる。</li> </ol>
--------	---

授業のながれ	
1. 家族臨床心理学への招待等	
2. 生涯発達からみた家族危機 (1)	
3. 生涯発達からみた家族危機 (2)	
4. 精神保健と家族臨床	
5. 看護・介護と家族臨床	
6. 児童福祉における家族の役割	
7. 中間のまとめ	
8. 非行と家族の関わり (1)	
9. 職場と家族・非行と家族の関わり (2)	
10. 家族心理臨床の理論モデル	
11. 家族療法の技法と実践 (1)	
12. 家族療法の技法と実践 (2)	
13. 夫婦療法の理論と実際、家事調停	
14. 家族の未来と可能性	
15. 総まとめ	

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>・私語・携帯電話の操作・飲食など、授業を妨害する行為を禁止する。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p> <p>・社会学、社会福祉、心理学、精神保健系の科目と関連づけ、関心を持って学ぶ姿勢を持つ。</p>
-------------------	---

成績評価の方法											
<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>90%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>0%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	0%	レポート	10%	中間試験	0%	定期試験	90%	その他	0%	1. ミニレポートを2回実施し、出席点10点とする。2. レジメから出題する期末試験を90点とする。3. 以上を基本に評価する。
課題・小テスト	0%										
レポート	10%										
中間試験	0%										
定期試験	90%										
その他	0%										

テキスト	
<input type="checkbox"/> テキストを使用する <input checked="" type="checkbox"/> レジユメを使用する <input type="checkbox"/> 未定(最初の授業で指示する)	

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
発達心理臨床論	2	3	前期開講	堀 美和子

テーマ	発達援助の視点からひとの発達を考える
-----	--------------------

科目のねらい	<p>【キーワード】発達支援 母子相互作用 発達障害</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>人はひとりひとり異なる個性をもった存在であり、それぞれが自分の生きている環境の中で相互作用しながら発達している。発達をとらえるためには、一般的な発達過程の理解とそこでの個別性への理解の両者の視点が必要となる。また、ある個人の発達支援は、本人だけではなく、その家族への支援や生活環境の調整などを欠かすことはできない。本講義では心理・教育・福祉どの対人援助実践のために必要な、多様で実際的な視点について受講する皆さんがそれぞれ考えることのできる講義にしていきたいと考えています。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>発達に関わる「問題」とは何かを理解する。</p> <p>発達支援の観点から発達をとらえなおす。</p>
--------	---

授業のながれ	
導入 本講五の目的と概要	
発達の「問題」をとらえるまなざし①	
発達の「問題」をとらえるまなざし②	
ライフサイクルと心理臨床	
子どもの発達と家族①	
子どもの発達と家族②	
社会性の発達と対人関係①	
社会性の発達と対人関係②	
青年期の発達臨床①	
青年期の発達臨床②	
発達障害への理解と支援①	
発達障害への理解と支援②	
発達支援について考える①	
発達支援について考える②	
心理臨床と発達心理学	

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>必要な部分は改めて復習しますが、「発達心理学」の基礎を理解していることを前提で講義を進めます。内容をきちんと復習しておいてください。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p> <p>発達心理学 臨床心理学など</p>
-------------------	--

成績評価の方法	
課題・小テスト	0%
レポート	0%
中間試験	0%
定期試験	80%
その他	20%

テキスト	
<input type="checkbox"/> テキストを使用する	
<input type="checkbox"/> レジュメを使用する	
<input checked="" type="checkbox"/> 未定(最初の授業で指示する)	

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
社会心理学	2	3	後期開講	吉原 智恵子

テーマ	社会的存在としての人間の行動や認知について学ぶ
-----	-------------------------

科目のねらい	<p>【キーワード】社会性 自己 集団 アイデンティティ アイデンティティ</p> <p>&lt;内容の要約&gt; ヒトは社会的動物であり、他者や集団との関係の中で相互に影響を及ぼしあって生きている。本講義では、特に個人と集団との関係および集団間の関係に焦点をあて、各種理論や知見について解説し、ヒトの社会的行動や認知、さらには集団的現象に関する知識を養っていく。また、本講義を通して日頃意識化されることのない個人と集団との関係に関する問題意識を醸成し、ヒトの「社会性」について考察する。</p> <p>&lt;学習目標&gt; 所属集団との関わりの中で生きることについての理解を深める。 集団的現象について理解する。</p>
--------	--

授業のながれ	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 イントロダクション 社会心理学とは？</li> <li>2 我々を取り巻く文化（1） 文化普遍主義 vs 文化相対主義</li> <li>3 我々を取り巻く文化（2） 文化の再生産過程、文化的自己観</li> <li>4 我々を取り巻く文化（3） 信頼の解き放ち理論</li> <li>5 集団間関係（1） 社会的アイデンティティ理論</li> <li>6 集団間関係（2） ステレオタイプ・偏見・差別</li> <li>7 集団間関係（3） ステレオタイプ・偏見の解消</li> <li>8 集団と個人（1） 集団の斉一性と同調</li> <li>9 集団と個人（2） 社会的手抜き／社会的補償</li> <li>10 集団と個人（3） 集団による問題解決</li> <li>11 集団と個人（4） 集団の意思決定</li> <li>12 コミュニケーションと対人関係（1） 社会的交換</li> <li>13 コミュニケーションと対人関係（2） ソーシャル・サポート</li> <li>14 コミュニケーションと対人関係（3） CMCと対面コミュニケーション</li> <li>15 まとめ</li> </ol>
--------	---

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>講義ノートを作成し、講義内容を復習することを望む。また、私語、遅刻等、他の受講生に迷惑となり授業の進行の妨げになる行為は厳禁とする。授業時に適宜参考書を紹介する。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt; 心理学Ⅰ・Ⅱ、人間関係学、コミュニケーション論</p>
-------------------	--

成績評価の方法	<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>20%</td> <td rowspan="5">課題・定期試験の成績や出席状況等を総合的に評価する。</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>70%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>10%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	20%	課題・定期試験の成績や出席状況等を総合的に評価する。	レポート	0%	中間試験	0%	定期試験	70%	その他	10%
課題・小テスト	20%	課題・定期試験の成績や出席状況等を総合的に評価する。										
レポート	0%											
中間試験	0%											
定期試験	70%											
その他	10%											

テキスト	<input type="checkbox"/> テキストを使用する <input checked="" type="checkbox"/> レジュメを使用する <input type="checkbox"/> 未定（最初の授業で指示する）
------	--



科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
コミュニティ心理学（子ども）	2	3	後期開講	江口 昇勇

テーマ	コミュニティ心理学とは何か（基礎入門）
-----	---------------------

科目のねらい	<p>【キーワード】個人臨床の限界とコミュニティ支援の方法論 コミュニティ意識 コンサルテーション 予防的介入 予防的介入 コミュニティ査定</p> <p>&lt;内容の要約&gt; 複雑化する社会、疎外が進む都市生活、人々の健康度が低下していく現状では、個人臨床的支援では太刀打ちできない状況が生じている。そこに対する援助として、コミュニティ・アプローチ（地域援助）という方法論が提唱されている。この授業ではそこでいうコミュニティとは何か、コミュニティ心理学の概念を紹介したい。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティ心理学の基礎を理解し、コミュニティ心理学の理念と特徴について説明できる。</li> <li>・コミュニティ心理学の実践について学び、コミュニティ心理学的発想を将来の活動に利用できる。</li> <li>・コミュニティを査定する方法論の習得</li> <li>・虐待、非行、機能不全家庭などへの理解とコミュニティ・アプローチによる援助方法</li> </ul>
--------	--

授業のながれ	
1. オリエンテーション コミュニティ心理学とは？	
2. コミュニティ心理学の基本理念と目標	
3. 虐待の問題とコミュニティ心理学	
4. 学校というコミュニティをどのように見るか	
5. 非行臨床とコミュニティ心理学	
6. ひきこもりとコミュニティ心理学	
7. コミュニティ心理学における重要なテーマ⑤	
8. 障害者とコミュニティ心理学	
9. 精神障害者とコミュニティ心理学	
10. 発達障害児とコミュニティ心理学	
11. 機能不全家庭とコミュニティ心理学	
12. 子育て支援とコミュニティ心理学	
13. 危機介入の方法論	
14. コンサルテーションにおける注意事項	
15. まとめ	

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>一方的な講義でなく、双方向的に進めることで理解を深めたいので、積極的に質問をして欲しいと思います。各授業ごとにコンパクトにまとめたレジユメを用意し、それによって講義を進めます。?レジユメはパワーポイントを使用し、電子データは添付が必要な学生にメールで送付する</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p>
-------------------	--

成績評価の方法											
<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>50%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>50%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	0%	レポート	50%	中間試験	0%	定期試験	0%	その他	50%	レポート課題を実施する。出席状況と授業中の質問など受講態度を重視する（評価の半分）。レポート課題で残り半分を評価する。
課題・小テスト	0%										
レポート	50%										
中間試験	0%										
定期試験	0%										
その他	50%										

テキスト	
<input type="checkbox"/> テキストを使用する <input type="checkbox"/> レジユメを使用する <input type="checkbox"/> 未定（最初の授業で指示する）	

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
生徒の生活と進路の指導 (小)	2	3	前期開講	山本 敏郎

テーマ	日本社会の構造的な変化のもとで求められている働き方と生き方の指導にかかわる考え方、子どもの発達の苦悩の理解と指導方法について学ぶ。
-----	---

科目のねらい	<p>【キーワード】 加害者の被害者性 生きづらさ 構造的暴力 キャリア教育 キャリア教育</p> <p>&lt;内容の要約&gt;          学校から企業社会への移行が困難になった状況や今求められている労働者像にふれつつ、学校における進路指導(「働くことの教育」、キャリア教育)のカリキュラムづくりと、指導の進め方を講じる。また、宮坂哲文の生活指導の4類型論(ガイダンス・仲間づくり・集団づくり・生徒指導)をもとに、「生きることの教育」に関する理論と方法を講じる。</p> <p>&lt;学習目標&gt;          1990年代以降の日本社会の構造的変化のもとで、経済界が求める新しい働き方と生き方について理解することができる。          子どもと大人に共通する〈生きづらさ〉について理解することができる。          発達の苦悩を抱えた子どもたちへのアプローチの原則を身につけることができる。</p>
--------	---

授業のながれ	
生活指導概念の成立と展開 生活綴方	
生活指導概念の成立と展開 北方教育	
戦後生活指導の4類型 ガイダンス、学級づくり	
戦後生活指導の4類型 集団づくり、生徒指導	
子どもたちの〈生きづらさ〉とは何か	
子どもの困難さの中に親の困難さを見る	
生きづらさを抱えた子どもへのアプローチ	
構造的暴力の中の子どもたち	
加害者の被害者性	
実践分析1	
実践分析2	
雇用環境の変容	
ワーキングプア	
キャリア教育の方法	
まとめ	

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	
参考文献は講義中紹介します。注意事項は講義の初回で指示します。	
<本科目の関連科目> 教育課程論、教育方法論、特別活動指導論、教育福祉論、児童福祉論	

成績評価の方法											
<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>80%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>0%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	20%	レポート	0%	中間試験	0%	定期試験	80%	その他	0%	課題の提出(小レポート)、期末試験をもとに総合的に評価する。
課題・小テスト	20%										
レポート	0%										
中間試験	0%										
定期試験	80%										
その他	0%										

テキスト	
<input type="checkbox"/> テキストを使用する <input checked="" type="checkbox"/> レジュメを使用する <input type="checkbox"/> 未定(最初の授業で指示する)	

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
家族社会学	2	3	後期開講	長沢 孝司

テーマ	家族の歴史と現在
-----	----------

科目のねらい
<p>【キーワード】 家族 家父長制 近代家族 家族変動 家族変動</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>家族は社会の最も基礎となる集団である。だから、社会福祉の実践においては家族についての的確で深い洞察が求められる。ところでその家族はいま、歴史上の大きな曲り角に立っている。離婚の増大、少産化の進行、子育ての困難化、老親扶養の困難など枚挙にいとまがない。家族のこうした問題状況は直接・間接に社会福祉のニーズの高まりとなって現れる。しかし、こうした現象を個々に見て振りまわされては、事の全体像と本質は見えてこない。現代家族の問題の本質を正しく捉えるためには、第一に、まわりくどいようでもまずは日本家族の歴史的な歩みを押えておくこと、第二に、客観的な正確なデータを深く分析することが必要である。講義ではこうした家族論の基礎を押える。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p>

授業のながれ
1 I 「家族」を理解するために
2 家族を捉える視点
3 家族の多様なカタチ
4 II 日本家族の歩み
5 家父長制度とイエ制度 (1)
6 家父長制度とイエ制度 (2)
7 近代家族の形成
8 戦後高度経済成長と家族〈予備〉
9 III 現代日本の家族
10 現代家族の基礎構造
11 配偶者選択と性行動
12 現代の結婚と離婚
13 現代の夫婦関係
14 現代の親子関係
15 現代家族と高齢者〈予備〉

学ぶ上での注意・担当教員からの希望
<p>1. 講義はすべて板書するので、ノートテイクをしっかりと行うこと（レジュメの配布はあえて行わない）。2. 私語は厳禁。それ以外は自由。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p>

成績評価の方法											
<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>0%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	0%	レポート	0%	中間試験	0%	定期試験	100%	その他	0%	<p>期末のテスト期間（1月）に行う。講義内容に沿った記述問題（5題中3題を選択）。ノート持込み可（ノートテイクをしっかりとっておかないと解答できないので注意）。</p>
課題・小テスト	0%										
レポート	0%										
中間試験	0%										
定期試験	100%										
その他	0%										

テキスト
<p>■テキストを使用する</p> <p>■レジュメを使用する</p> <p>■未定（最初の授業で指示する）</p>

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
対人関係論	2	3	前期開講	齋藤 信

テーマ	他者とのコミュニケーションや自己に関するこれまでの研究成果や諸理論について学ぶ。
-----	--

科目のねらい	<p>【キーワード】自己呈示 対人認知 対人魅力 社会的影響 社会的影響 対人葛藤</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>現代社会においては、多くの人々が対人関係に問題を抱え、対人緊張を強めていると言われるが、そもそも対人関係とはどのようなものなのかについて、社会心理学的な視点から検討する。具体的なトピックとして、関係性の中での自己や他者の認知、対人関係の発展や他者との不和への対処、他者との相互的な影響過程等について取り上げる。これまでの実験結果や諸理論について概観することで、自己や他者を見るときに起こる歪みや対人関係のありようについての理解を深める。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>対人コミュニケーションをとる際の認識の歪みを理解する 円滑なコミュニケーションを行うために注意すべき点を知る</p>
--------	--

授業のながれ	
対人関係とは	
印象の操作	
対人認知 1	
対人認知 2	
対人魅力 1	
対人魅力 2	
ノンバーバル・コミュニケーション 1	
ノンバーバル・コミュニケーション 2	
社会的影響 1	
社会的影響 2	
説得的コミュニケーション 1	
説得的コミュニケーション 2	
葛藤・紛争への対処 1	
葛藤・紛争への対処 2	
まとめ	

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>講義、演習で身につけた知識や技術を確認するために適宜小課題を課すので、授業内容について毎回復習を欠かさない姿勢が求められる。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p>
-------------------	---

成績評価の方法	
課題・小テスト	50%
レポート	0%
中間試験	0%
定期試験	50%
その他	0%

テキスト	<p><input type="checkbox"/> テキストを使用する</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> レジュメを使用する</p> <p><input type="checkbox"/> 未定(最初の授業で指示する)</p>
------	---

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
病弱児の生理と病理	1	3	前期開講	石川 達也

テーマ	病弱児の医学
-----	--------

科目のねらい
<p>【キーワード】子ども 慢性疾患</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>「病弱」とは、慢性疾患のため長期にわたり医療や生活規制を必要とする状態をいう。子どもの慢性疾患は多数あり、成長・発達と関連した各疾患の理解が深まるよう代表例を挙げて解説する。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>この講義を通して、学生諸君に、小児医学的なものの見方・センスを身につけてもらうこと。</p> <p>学生諸君が、将来、「特別支援教育」に携わる際に不可欠となる「子どもの慢性疾患」の基本的知識と考え方を身につけること。</p>

授業のながれ
子どもの成長と発達 (レジュメ使用予定)
循環器疾患 (心臓病) (テキスト-I-p.118- など使用予定)
呼吸器疾患 (レジュメ使用予定)
腎臓疾患 (レジュメ使用予定)
代謝・内分泌疾患 (レジュメ使用予定)
血液疾患・悪性新生物 (レジュメ使用予定)
心因性疾患 (テキスト-I-p.124-など使用予定)
病弱児の心理 (非常勤講師による関連講義) [石川の担当は第1-7回]
同上
同上
同上
同上
同上
同上
同上

学ぶ上での注意・担当教員からの希望
<p>1. テキストは開講までに必ず購入し、講義時に持参すること。第1回目講義(9/10予定)から使用する。2. 講義中の私語・飲食は絶対禁止。携帯電話の電源を必ず切っておくこと。3. 限られた時間で多くのことを学ぶために、前もって対応する各章の予習をしておくことが望ましい。講義中の積極的な質問を歓迎する。また、講義ごとの復習が必要であり、講義推薦図書も大いに利用して頂きたい。4. 障害児に関わる情報を、新聞などで日ごろからキャッチし、自分なりに考えること。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p> <p>「特別支援教育」に関する科目、および、他の子どもや医学に関連した科目の受講を薦める。</p>

成績評価の方法											
<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>100%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	0%	レポート	0%	中間試験	0%	定期試験	0%	その他	100%	授業内における筆記試験の成績を基本とする。
課題・小テスト	0%										
レポート	0%										
中間試験	0%										
定期試験	0%										
その他	100%										

テキスト	
<input checked="" type="checkbox"/> テキストを使用する <input checked="" type="checkbox"/> レジュメを使用する <input type="checkbox"/> 未定(最初の授業で指示する)	尾崎 望、出島 直、編 新版・子どもの障害と医療 全国障害者問題研究会出版部

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
病弱児の心理	1	3	前期開講	平賀 健太郎

テーマ	*
-----	---

<b>科目のねらい</b> 【キーワード】慢性疾患 心理的ストレス アドヒアランス <内容の要約> 各回のテーマに沿って、病弱の子どもの心理社会面への支援について説明する <学習目標> 病弱の子どもの心理的特徴が理解できる 病弱の子どもへの心理的支援の方法が理解できる
--

<b>授業のながれ</b> 病弱児に共通する心理的負担 病弱児の心理的ストレスとその支援 適切なアドヒアランス維持のための指導 代表的な疾患での教育的配慮（1）①小児がん，②糖尿病 代表的な疾患での教育的配慮（2）①腎臓病，②筋ジストロフィー 代表的な疾患での教育的配慮（3）①アレルギー性疾患，②心身症 病弱児の家族の心理 <b>授業のまとめ</b> * * * * * * *
---

<b>学ぶ上での注意・担当教員からの希望</b> * <本科目の関連科目> 病弱児教育論（平賀担当）を受講しておくことが望ましい
---

<b>成績評価の方法</b> 課題・小テスト 20% レポート 30% 中間試験 0% 定期試験 0% その他 50%	課題・小テスト20% レポート30% 出席50%
--	--------------------------

<b>テキスト</b> <input type="checkbox"/> テキストを使用する <input checked="" type="checkbox"/> レジュメを使用する <input type="checkbox"/> 未定（最初の授業で指示する）
---



科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
病弱児教育論	1	3	後期開講	平賀 健太郎

テーマ	*
-----	---

<b>科目のねらい</b> 【キーワード】病弱児 特別支援教育 復学 <内容の要約> 各回のテーマに沿って、病弱児の教育的支援の基礎・応用を学ぶ <学習目標> 病弱の子どもの教育的支援が理解できる 病弱の子どもへの教育的支援の方法が理解できる
---

<b>授業のながれ</b> イントロダクション／病弱児の定義／障害としての病弱／体験としての病弱 特別支援教育の中の病弱教育 一人ひとりのニーズを捉えることの困難さ 病弱教育の場 入院中と退院後の病弱教育 病弱児の指導法 ①教育課程, ②教科指導, ③職業教育および進路指導, ④情報機器の活用とその留意点 セルフケアの維持の困難さとその支援法 各関係機関との連携 ー特別支援教育コーディネーターの重要性ー 前籍校への復学の現状と課題 <b>授業のまとめ</b> * * * * * * *
--

<b>学ぶ上での注意・担当教員からの希望</b> * <本科目の関連科目> 病弱児の心理（平賀担当）を受講しておくことが望ましい
---

<b>成績評価の方法</b> <table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>20%</td> <td rowspan="5">課題・小テスト20% レポート30% 出席50%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>50%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	20%	課題・小テスト20% レポート30% 出席50%	レポート	30%	中間試験	0%	定期試験	0%	その他	50%
課題・小テスト	20%	課題・小テスト20% レポート30% 出席50%									
レポート	30%										
中間試験	0%										
定期試験	0%										
その他	50%										

<b>テキスト</b> <input type="checkbox"/> テキストを使用する <input checked="" type="checkbox"/> レジュメを使用する <input type="checkbox"/> 未定(最初の授業で指示する)
---

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
肢体不自由児の生理と病理	2	3	前期開講	石川 達也

テーマ	身体障害についての基礎医学と臨床医学
-----	--------------------

科目のねらい
<p>【キーワード】子ども 運動発達 障害児 発達 発達 脳</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>子どもの特徴は成長と発達にあり、おとなとはまったく異なった病態生理を示す。子どもの障害の成因がおとなのそれと大きく異なるのは、生命進化の具体的な表現である内的（遺伝的）要因と発達の各時期に特有な外的（環境）要因とが互いに連関して変化していくからである。総論において、この成長・発達のダイナミズムとその過程で生ずる病態を、各論においては脳障害をおこす原因となる代表的な疾患を通して、肢体不自由をきたす医学について理解が深まるよう、また、障害を固定的に捉えないで可塑性に富んでいることも解説する。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>この講義を通して、学生諸君に、小児医学的なものの見方・センスを身につけてもらうこと。</p> <p>学生諸君が、将来、「特別支援教育」に携わる際に不可欠となる「障害児医学」の基本的知識と考え方を身につけること。</p>

授業のながれ
総論：胎生期から誕生へ（テキスト2-第II章）
総論：乳幼児期（テキスト2-第III章）
総論：育ちの概念と支える機構（テキスト2-第I章、テキスト1-I-p.16-）
総論：神経系の成長と成熟（テキスト2-第IV章、テキスト1-I-p.24-）
脳性麻痺①（テキスト1-p.36-）
脳性麻痺②（テキスト1-p.36-）
筋疾患①（テキスト1-p.74-）
筋疾患②（テキスト1-p.74-）
言語聴覚障害（ゲスト講義の予定）
リハビリテーション医学（ゲスト講義の予定）
日常の健康管理①（テキスト1-II）
日常の健康管理②（テキスト1-II）
重症児の医療①（テキスト-III）
重症児の医療②（テキスト-III）
復習とまとめ

学ぶ上での注意・担当教員からの希望
<p>1. テキスト(2つ)は開講までに必ず購入し、講義時に持参すること。第1回目講義(4/9 予定)から使用する。2. 講義中の私語・飲食は絶対禁止。携帯電話の電源を必ず切っておくこと。3. 限られた時間で多くのことを学ぶために、前もって対応する各章の予習をしておくことが望ましい。講義中の積極的な質問を歓迎する。また、講義ごとの復習が必要であり、講義推薦図書も大いに利用して頂きたい。4. 障害児に関わる情報を、新聞などで日ごろからキャッチし、自分なりに考えること。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p> <p>「特別支援教育」に関する科目、および他の子どもや医学に関連した科目の受講を薦める。</p>

成績評価の方法											
<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>10%</td> <td rowspan="5">定期筆記試験の成績を基本とする。</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>80%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>10%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	10%	定期筆記試験の成績を基本とする。	レポート	0%	中間試験	0%	定期試験	80%	その他	10%
課題・小テスト	10%	定期筆記試験の成績を基本とする。									
レポート	0%										
中間試験	0%										
定期試験	80%										
その他	10%										

テキスト	
<p>■テキストを使用する</p> <p>■レジュメを使用する</p> <p>□未定(最初の授業で指示する)</p>	<p>尾崎 望、出島 直、編 新版・子どもの障害と医療 全国障害者問題研究会出版部</p> <p>竹下研三 人間発達学 一ヒトはどう育つのか 中央法規</p>

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
肢体不自由児の心理	2	3	後期開講	船橋 篤彦

テーマ	肢体障害児の発達と心理的診断
-----	----------------

科目のねらい	<p>【キーワード】 児童理解 発達的特徴 心理的特徴 診断・評価 診断・評価</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>肢体不自由児の心理といっても障害をもたらす要因によって、その発達的特徴はそれぞれ異なる。そこで、肢体不自由児の発達について、各発達領域を中心に一般的な特徴を分析するほか、肢体不自由児の大部分を占める脳性マヒ、知的障害を随伴した肢体不自由児の心理的特徴についても分析する。さらには、肢体不自由児の心理、運動発達の診断、評価の方法について、症例を中心に学ぶ。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 肢体不自由児の心理的発達を理解する。</li> <li>2. 各障害児の心理的特徴について理解する。</li> <li>3. 肢体不自由児の診断・評価について理解する。</li> </ol>
--------	---

授業のながれ	
第1回 肢体不自由児の教育と児童理解	
第2回 肢体不自由児の発達的特徴	
第3回 肢体不自由児の発達と環境関係	
第4回 肢体不自由児の感覚・知覚の発達	
第5回 肢体不自由児の言語・認識の発達	
第6回 肢体不自由児の運動感覚の発達	
第7回 肢体不自由児の身体意識・ボディーイメージの発達	
第8回 肢体不自由児の情緒・社会性の発達	
第9回 脳性マヒ児の心理的特徴①	
第10回 脳性マヒ児の心理的特徴②	
第11回 進行性筋ジストロフィー症児の心理的特徴	
第12回 重度重複障害児の心理的特徴	
第13回 肢体不自由児の診断・評価の意義	
第14回 肢体不自由児の診断・評価の方法	
第15回 まとめ	

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>本講義は集中講義でおこなうため、前もっての予習が大切です。「知的障害児の心理」で学んだことを、講義が始まる前に各自で振り返ってください。また、肢体不自由児と接する機会(ボランティア等)を設けて、肌で感じ取る体験をしておくことを強く薦めます。学内のボランティア募集掲示を参照するなど、各自、工夫してフィールドを探してみてください。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p>
-------------------	---

成績評価の方法											
<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>0%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	0%	レポート	0%	中間試験	0%	定期試験	100%	その他	0%	まとめの試験ですべての評価をおこないます。
課題・小テスト	0%										
レポート	0%										
中間試験	0%										
定期試験	100%										
その他	0%										

テキスト	<input type="checkbox"/> テキストを使用する <input checked="" type="checkbox"/> レジュメを使用する <input type="checkbox"/> 未定(最初の授業で指示する)
------	--

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
LD・ADHD児等の心理	2	3	後期開講	堀 美和子

テーマ	発達障害児の理解と対応について学習する
-----	---------------------

科目のねらい	<p>【キーワード】発達障害 学習障害 (LD) 注意欠陥多動性障害 (ADHD) 高機能自閉症 高機能自閉症 学校臨床</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>LD・ADHD などの発達障害の概要を理解する。特に彼らのパーソナリティの発達や集団の中での自己形成認知などを心理学的視点から学習する。さらに、それらの障害を持つ“子ども自身を理解する”とはどういうことかについて検討する。また、近年学校現場で課題となっている重複障害についても触れる</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>発達障害の生理・病理を含め、その心理特性についても具体的に理解する。</p> <p>特別支援教育において、発達障害をもつ子ども一人一人への具体的な支援計画について考えることができる。</p> <p>学校集団での効果と問題点について知る</p> <p>児童・生徒理解のためのアセスメントについて学習する</p> <p>特別支援教育の中での様々な障害やそれらの障害の重度・重複化との関連についても学習する</p>
--------	--

授業のながれ	
導入 発達障害などについて学ぶ意味	
注意欠陥多動性障害①	
注意欠陥多動性障害②	
高機能自閉症 (高機能広汎性発達障害) ①	
高機能自閉症 (高機能広汎性発達障害) ②	
学習障害①	
学習障害②	
その他の障害 (言語障害・情緒障害など) の理解と対応	
理解のためのアセスメント①	
理解のためのアセスメント②	
教育・集団場面での理解と対応	
家族へのアプローチ	
支援とは何か 教育の場・臨床の場で	
発達障害への対応の実際①	
発達障害への対応の実際②	

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>随時、ミニ演習や小課題を取り入れる予定である。受動的な態度ではなく積極的に取り組んでほしい。発達障害に関連する他の講義の内容を必ず復習しておくこと。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p>
-------------------	---

成績評価の方法											
<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>70%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>30%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	0%	レポート	0%	中間試験	0%	定期試験	70%	その他	30%	定期試験を中心に授業内で指示する
課題・小テスト	0%										
レポート	0%										
中間試験	0%										
定期試験	70%										
その他	30%										

テキスト	<input type="checkbox"/> テキストを使用する <input type="checkbox"/> レジュメを使用する <input checked="" type="checkbox"/> 未定 (最初の授業で指示する)
------	---

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
教育福祉論	2	3	後期開講	遠藤 由美

テーマ	教育と福祉の権利の統一的保障について考える
-----	-----------------------

科目のねらい	<p>【キーワード】教育と福祉の権利の統一的保障 貧困による学習権の剥奪 教育と福祉の谷間にある問題 学びと暮らしと心 学びと暮らしと心</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>「児童養護施設に入ると高校に行きにくくなる」「小学校に入る前の子どもたちを育て導いているのに、専門職としての位置づけがずいぶん違う」「児童自立支援施設に入ると、地域の学校との関係がなくなる」そのような問題が生じていた。子どもが育つためには、毎日の暮らしを安心して眠り、食べ、遊ぶだけではなく、いろいろなことを吸収して、試して力をつけていくことが必要である。行政的に何かの対象になると、他の行政で扱っている子どもの権利が忘れられるということはあってはならないことである。子どもの教育と福祉の権利の統一的保障を中核として子どもの権利を総合的に保障していくことが子どもにとって重要であることを、歴史的な考察や事例を検討するなかで明らかにしていく。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>児童福祉施設における教育権保障の歴史について説明することができる。</p> <p>教育と福祉の権利の統一的保障の意義について説明することができる。</p>
--------	--

授業のながれ
オリエンテーション
子どもの権利条約を学ぶ① 子どもの権利条約って何が書いてあるの？
子どもの権利条約を学ぶ② わたしたちの考える「子どもの権利地図」
子どもの権利条約を学ぶ③ 子どもの権利の歴史と構造
子どもの権利条約を学ぶ④ 生きることと学ぶこと
子どもの権利条約を学ぶ⑤ 子どもの権利擁護の取り組みと子どもの意見表明
子どもたちと児童福祉・社会的養護との出会い
児童自立支援施設の子どもの教育権保障問題① 児童自立支援施設の歴史と役割
児童自立支援施設の子どもの教育権保障問題② 児童自立支援施設における教育権保障問題
児童養護施設の子どもの教育権保障問題① 児童養護施設の歴史と役割
児童養護施設の子どもの教育権保障問題② 児童養護施設における教育権保障と自立支援
学校福祉の問題（学校建築・学校保健・学校給食など）
教育福祉概念の提唱と歴史的役割
教育と福祉の権利の統一的保障（行政の谷間から、ひとり一人の子どもの権利保障の観点から、教育実践・条件を育む観点から）
まとめ

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>授業で取り上げる内容について、自分なりの感想や意見をもつことは大切です。したがって折に触れて意見を聞きたいと思いますので、積極的に語ってください。内容についての疑問点等は何かの方法で提出してもらおう予定です。次の授業の内容に反映させるなどして、回答していきたいと思います。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p> <p>「養護原理」「初等教育原理」</p>
-------------------	---

成績評価の方法	<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>50%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>30%</td> </tr> </table> <p>課題・小テストと定期試験ならびに出席状況について総合的に評価します。</p>	課題・小テスト	20%	レポート	0%	中間試験	0%	定期試験	50%	その他	30%
課題・小テスト	20%										
レポート	0%										
中間試験	0%										
定期試験	50%										
その他	30%										

テキスト	<input type="checkbox"/> テキストを使用する <input checked="" type="checkbox"/> レジュメを使用する <input type="checkbox"/> 未定（最初の授業で指示する）
------	--

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
教職入門（中・高）	2	2	前期開講	高須 和博

テーマ	教員の職務と生きがい
-----	------------

科目のねらい
--------

【キーワード】子どもの生活と学校 教員のしごと 「教育改革」のなかの教員 教員の地位・身分 求められる教員像と教員の生きがい 求められる教員像と教員の生きがい 教員の養成と採用

<内容の要約>

矢継ぎ早の「教育改革」のなかで、教育現場は大揺れの状態にあります。この科目は、「教育改革」の現状を見据えながら、教職をめざす皆さんに、教員の仕事や学校現場の実態、教員に求められる資質とは何か、などを、現場の先生方の教育実践や体験談を交えながら、理解を深め、探求します。また、古今東西の優れた教育思想や教師像を紹介し、教職に求められる人間的資質や実践的指導力について考え、その基礎となる力を自ら養う態度を育て、教職への思いを高めることをねらいとします。

<学習目標>

- 1、子どもと学校が今どうなっているのか、認識を深め、問題意識を育てる。
- 2、「教育改革」に揺れる教育・学校現場の現状を理解し、幅広い視野から物事を見る 目と確かな教育・教員観を育てる。
- 3、教職への目的意識を高め、教員として求められる資質・能力とは何か把握する。

授業のながれ	
1、はじめに 「教職入門」の内容と展開について	
2、教員養成の歴史としくみ	課題 1
3、子どもの生活と学校	
4、教員のしごと（1）	
5、教員のしごと（2）	課題 2
6、教育活動の実際 ①子どもの言葉・表現の発達を育てる（外部講師）	
7、同 ②障害児の発達を支える（外部講師）	
8、同 ③思春期の生徒とかかわる（外部講師）	
9、不登校・いじめについて	課題 3
10、教育活動の実際 ④いじめ問題を考える（外部講師）	
11、同 ⑤福祉の視点から教職を考える（外部講師）	
12、「教育改革」のなかの学校・教員	課題 4
13、専門職としての教員 教員の地位と身分	
14、教員の研修	
15、まとめ 「私がめざす教員像」	課題 5

学ぶ上での注意・担当教員からの希望
-------------------

1、教員として現場に立ったとき、児童や生徒に求める学習態度とは何かを考えて講義に臨んでください。2、講義のなかで、適宜、課題を提示し、報告、小論文、感想文の提出を求めます。3、教員にとって大切な資質は、幅広い教養・見識と豊かな人間性、社会性です。たくさんの本を読み、多くの人と交わり、豊かな経験をつみましょう。4、講義で配布されたプリントは各自でファイルしてください。また、講義のなかで紹介された文献は、積極的に目を通してください。

<本科目の関連科目>

「教育原理」「教育心理学」「発達心理学」「教育方法論」「教育史」「障害児教育方法論」「学習指導論」「生徒指導論」「哲学」などの教育諸学・教職課程科目

成績評価の方法	
課題・小テスト	20%
レポート	0%
中間試験	0%
定期試験	70%
その他	10%

報告・小論文・感想文などの課題に加え、出席点、受講中の発言やマナー、定期試験結果を、左記の配分に従って総合的に評価する。定期試験の形態については後日連絡する。

テキスト
<input type="checkbox"/> テキストを使用する <input checked="" type="checkbox"/> レジュメを使用する <input type="checkbox"/> 未定（最初の授業で指示する）



科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
教育制度論 (中高)	2	2	前期開講	片山 信吾

テーマ	現代の教育制度と教育改革
-----	--------------

科目のねらい
<p>【キーワード】教育制度 教育政策 教育行政 教育法 教育法 教育改革</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>この講義では、主に学校制度、教育行政の組織・運営を対象にして、日本の教育行政の理念、現状、課題を扱います。そのために、まず憲法・教育基本法の理念を理解した上で、義務教育、学校制度、最近の教育改革について検討していきます。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>教育制度の仕組みや働きについて基礎的な事項が理解できる。</p> <p>近年の教育改革の方向性を踏まえて自らの見識が持てる。</p>

授業のながれ
オリエンテーション 講義の内容、進め方、テキストなどについて説明します。
憲法・教育基本法の理念 憲法や教育基本法がどのような教育理念を持っているのか。
義務教育における「義務」と「権利」 日本の義務教育制度のなかで、誰がどのような権利、義務を持っているのかを理解します。
就学義務を問いなおす 不登校問題から、「就学義務」を問い直します。
障害児の就学 障害児の就学に関わる歴史と課題を概説します。
在日外国人・在外日本人の就学 国内の外国人、国外の日本人の就学問題の重要性と課題を認識します。
教育委員会制度の創設 教育委員会制度が創設された時代状況、理念を振り返ります。
教育委員会制度の展開 今日に至るまでの教育委員会制度の変容をたどっていきます。
近年の教育改革理念 選択と競争を重視する近年の教育改革の理念を概説します。
公立小・中学校の選択制 公立小・中学校で生徒・保護者が学校を選択できることの意義を考えます。
指導力不足教員の排除 指導力不足教員を排除する仕組みについて、最近の教員政策の中で検討します。
新しい教員評価システム 評価の結果を給与や昇任に反映させる教員評価システムの特徴と運用実態を取り上げます。
学校運営協議会 学校運営に保護者や地域の人々が参画するための制度の導入理由を探ります。
校長のマネジメント能力 校長の資質能力として企業経営的なマネジメント能力が求められていることを確かめます。
まとめ

学ぶ上での注意・担当教員からの希望
<p>受講にあたっては、テーマに対して自らの経験を省みつつ考察を深めてください。教員免許状を取得しようとする教職課程履修生にふさわしい受講態度を心がけてください。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p>

成績評価の方法											
<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>80%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>20%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	0%	レポート	0%	中間試験	0%	定期試験	80%	その他	20%	<p>定期試験の得点を原則とし、受講態度、出欠状況を加味します。1)出席：欠席回数が多い場合には減点します。2)平常点：受講態度を繰り返し注意されるような場合は、退室を求め欠席扱いとします。3)筆記・レポート試験：筆記試験を行います。自筆ノート持ち込み。重要語句・事項の理解、テーマに関する自分の考えを問います。</p>
課題・小テスト	0%										
レポート	0%										
中間試験	0%										
定期試験	80%										
その他	20%										

テキスト	
<input checked="" type="checkbox"/> テキストを使用する <input type="checkbox"/> レジュメを使用する <input type="checkbox"/> 未定(最初の授業で指示する)	<p>篠原清昭・原田信之編著 『学校のための法学(第2版)』 ミネルヴァ書房</p>

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
教育課程論 (中高)	2	2	前期開講	柴田 康正

テーマ	今日における教育課題と教育課程
-----	-----------------

科目のねらい	<p>【キーワード】教育課程 子どもの成長発達 学校づくりと教育課程</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>今日における学校教育のあり方を鑑みると教育課程の問題は大切な意味を持つ。複雑で重層的な教育課程を多角的な視点から読み解いていく。特に、学校教育の根幹ともいべき教育課程の問題を次の4つの視点から学び、編成方法を習得する。①「だれが学校の教育課程を編成するか」という編成主体のあり方。②「何を教育内容として選択し、構成するか」という内容選定の基準と原理の問題。③学校の教育活動を全体としてどう構成するかという教育課程の全体構造の問題。④学校の教育課程をどのように評価・改善するのかという問題。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>教育課程を支える基本的な考え方と仕組みを理解する。</p> <p>教育課程改革の変遷を理解する。</p> <p>教育課程編成のための基礎的な能力の獲得をめざす。</p> <p>学校づくりにおける教育課程の意義の理解を深める。</p>
--------	---

授業のながれ	<p>今日の教育課題と教育課程 - 教育活動の全体計画としての教育課程</p> <p>学習指導要領と教育課程</p> <p>教育課程編成の基本問題① - 編成主体と編成原理</p> <p>教育課程編成の基本問題② - 子どもの発達と教育課程</p> <p>教育課程編成の基本問題③ - 教育課程の構造</p> <p>教育課程改革の歴史① - 近代日本の教育課程の歩み</p> <p>教育課程改革の歴史② - 現代日本の教育課程の歩み</p> <p>今日の教育改革における教育課程 - 総合的な学習の時間をめぐって</p> <p>今日的課題に挑戦する教育実践① - 鳥山敏子の授業実践 -</p> <p>今日的課題に挑戦する教育実践② - 金森俊郎の授業実践 -</p> <p>教育実践における教育課程の諸問題</p> <p>教育課程編成の実践例 兵庫県府中小学校 北海道稚内中学校</p> <p>教育課程の創造① 教育課程の再定義</p> <p>教育課程の創造② 学校づくりをめぐって</p> <p>まとめ</p>
--------	---

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>1. 教師として教育現場に立った時、どうあるべきかを常に考えて講義にのぞんでほしい。2. 今日の教育問題に対しても常に関心を持ち、参考文献なども読み進めてほしい。3. 遅刻や私語などをしない。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p> <p>「教育原理」「教育方法論」「教育史」「学習指導論」「生活指導論」「教職入門」</p>
-------------------	---

成績評価の方法	<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>0%</td> <td rowspan="5">感想のレポートに加え、受講中の発言やマナー、定期試験の結果を総合的に評価する。</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>70%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>10%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	0%	感想のレポートに加え、受講中の発言やマナー、定期試験の結果を総合的に評価する。	レポート	20%	中間試験	0%	定期試験	70%	その他	10%
課題・小テスト	0%	感想のレポートに加え、受講中の発言やマナー、定期試験の結果を総合的に評価する。										
レポート	20%											
中間試験	0%											
定期試験	70%											
その他	10%											

テキスト	<p><input type="checkbox"/> テキストを使用する</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> レジユメを使用する</p> <p><input type="checkbox"/> 未定(最初の授業で指示する)</p>
------	---

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
教育学概論	2	2	後期開講	柿沼 肇

テーマ	教育とは何かー現代の学校と子ども・青年の発達をめぐる諸問題
-----	-------------------------------

科目のねらい	<p>【キーワード】教育とは何か 人間（子ども）の発達 学校と教師の役割 公教育制度 国民の教育要求</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>本年度の講義は、現在の学校と教職員、そして子どもたち・若者たちの現実の姿を見つめ直し、改めて「教育とは何か」「学校とは何か」そしてそのあるべき姿はどのようなのか、などといった問題に迫ってみることにしたい。現象の表面をいじくりまわして「嘆き・悲しむ」のではなく、事柄の本質に少しでも迫っていけるよう心がけるつもりである。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育という営み（活動）についての認識を改めたり、深めたりする。</li> <li>2. 学校、教職員の果たすべき役割について再認識する。</li> <li>3. 子ども・青年の置かれている問題状況（現状）を理解し、「教育改革・学校づくり」への知見を豊かにする。</li> </ol>
--------	--

授業のながれ	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. はじめに ・本年度講義の「テーマ」とねらい ・偏見・固定観念からの脱却 ・科学的認識の獲得をめざして</li> <li>2. 子ども・青年のおかれている基本的問題状況</li> <li>3. 教育とは何かー人間の特性と教育の定義化</li> <li>4. 学校と子ども・青年をめぐる諸問題 ① 学校教育の広がり・普及と反面での「貧困」</li> <li>5. 学校と子ども・青年をめぐる諸問題 ② 子ども・青年の人格発達と矛盾の顕在化（非行・校内暴力、家庭内暴力、「いじめ」など）</li> <li>6. 学校と子ども・青年をめぐる諸問題 ③ 学力の問題ー「低学力」と「学力の歪み」</li> <li>7. 学校と子ども・青年をめぐる諸問題 ④ 「学級崩壊」「学校崩壊」</li> <li>8. 学校と子ども・青年をめぐる諸問題 ⑤ 「学校忌避」（学校嫌い、登校拒否、中退）と青少年の「自殺」</li> <li>9. 学校の管理・運営と教育行政</li> <li>10. 学校「再生」、教育改善のための努力と課題 ① 国民の教育要求と教育運動</li> <li>11. 学校「再生」、教育改善のための努力と課題 ② 「能力主義」「競争・序列主義」の払拭</li> <li>12. 学校「再生」、教育改善のための努力と課題 ③ 「管理主義教育」の克服</li> <li>13. 学校「再生」、教育改善のための努力と課題 ④ 教育行政の民主化と学校・職場づくり</li> <li>14. 教育改革の展望ー改めて「教育とは何か」「学校とは何か」</li> <li>15. まとめ</li> </ol>
--------	---

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>①四つのなろう（・聞き取り上手になろう。・読み取り上手になろう。・書き取り上手になろう。そして自分の頭で考えるようになろう） ②自他の学習権を保障・尊重しよう。 ③「自己教育」への主体形成をはかろう。テキストは使用しない。かなりたくさんの資料を配布する。参考文献については、講義中に紹介する。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p> <p>「教育学Ⅱ」「発達心理学」「教育心理学」「教職入門」</p>
-------------------	---

成績評価の方法	<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>100%</td> </tr> </table> <p>筆記試験あるいはレポートによる評価を中心に、平常点等を加味して行う。なお、詳しいことについては授業中に話す予定である。</p>	課題・小テスト	0%	レポート	0%	中間試験	0%	定期試験	0%	その他	100%
課題・小テスト	0%										
レポート	0%										
中間試験	0%										
定期試験	0%										
その他	100%										

テキスト	<p><input type="checkbox"/> テキストを使用する</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> レジュメを使用する</p> <p><input type="checkbox"/> 未定（最初の授業で指示する）</p>
------	---

科目名	単位数	学年担当	開講形態	教員名
教育方法論（中高）	2	2	後期開講	

テーマ	
-----	--

科目のねらい
【キーワード】 <内容の要約>  <学習目標>

授業のながれ

学ぶ上での注意・担当教員からの希望
<本科目の関連科目>

成績評価の方法		
課題・小テスト	%	
レポート	%	
中間試験	%	
定期試験	%	
その他	%	

テキスト	
<input type="checkbox"/> テキストを使用する <input type="checkbox"/> レジユメを使用する <input type="checkbox"/> 未定（最初の授業で指示する）	

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
社会科教育法 I	2	2	前期開講	三橋 廣夫

テーマ	社会への関心と認識を深める社会科教育のあり方
-----	------------------------

科目のねらい	<p>【キーワード】社会科教育の歴史 社会認識を育てる 社会科の展開指導例 主体的な学び 主体的な学び</p> <p>&lt;内容の要約&gt; 社会科教育は、民主主義を担う主権者としての基礎を培うことが目的です。その目的を達成するには、日本という枠組の中だけで実践しては自ずから限界があります。戦後社会科の中から生みだされた実践に学びつつ、社会科の授業づくりに取り組みます。</p> <p>&lt;学習目標&gt; 社会科教育の歴史をふまえて社会科教育の役割を考察できる。 時間数削減や受験体制の中で社会科教育のあるべき姿を考える。</p>
--------	---

授業のながれ	
社会科の授業とは（オリエンテーション）	
授業実践の紹介①（小学校歴史）	
同②（高校日本史）	
同③（高校世界史）	
社会科の教材研究と授業実践（地理的分野1／世界と地域）	
社会科の教材研究と授業実践（地理的分野2／地域の取り上げ方）	
社会科の教材研究と授業実践（歴史的分野1／モノ教材の活用）	
社会科の教材研究と授業実践（歴史的分野2／近現代史の学び方）	
社会科の教材研究と授業実践（公民的分野1／現代の教材を探る）	
社会科の教材研究と授業実践（公民的分野2／討論とディベート）	
社会科授業づくりの可能性と課題	
韓国の歴史教育実践に学ぶ①	
同②	
日韓交流の歴史教育実践	
まとめ	

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>私自身の実践も含め実際の授業をビデオなどを通して示し、具体的に社会科の授業づくりの内容と方法を考えあいます。また、テキストを通して授業づくりに迫ります。発表もしてもらいます。テキストの他にも授業中に授業実践や関連する図書を紹介します。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt; 社会科教育法Ⅱ（公民）、社会科教育法Ⅲ（公民）、社会科教育法Ⅳ（地理）</p>
-------------------	--

成績評価の方法											
<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>25%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>25%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>50%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	25%	レポート	25%	中間試験	0%	定期試験	0%	その他	50%	出席（50%）、小レポート（25%）、レポート（25%）です。
課題・小テスト	25%										
レポート	25%										
中間試験	0%										
定期試験	0%										
その他	50%										

テキスト	
<input checked="" type="checkbox"/> テキストを使用する <input checked="" type="checkbox"/> レジュメを使用する <input type="checkbox"/> 未定（最初の授業で指示する）	二谷貞夫・和井田清司編 中等社会科の理論と実践 学文社

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
社会科教育法Ⅱ（公民）	2	2	後期開講	平野 征人

テーマ	現代社会の諸問題を主体的に探求する公民教育のあり方
-----	---------------------------

科目のねらい	<p>【キーワード】「公民」の歴史 現代社会の課題の認識 現代社会における人間のあり方 先哲の思想 先哲の思想 創意ある指導 展開例</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>公民的分野のうち、人間の在り方生き方に特に深く関係するテーマを取り上げて、学習主体の生徒の問題意識をどう育てるか、そのために授業のあり方をどう工夫するかを中心に学びます。そのための前提として、やがて教壇に立って生徒を指導するはずの受講生自身が、現代社会の抱える諸問題とその中で生きている人間について、問題意識をもち、認識を深めなくてはなりません。この両面を視野に入れてともに探求を進めたいと思います。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 現代社会と現代の人間が抱える問題についての認識を育てることができる。</li> <li>2 生徒が主体的に問題を深めるとはどういうことかを把握できる。</li> <li>3 公民教育の役割についての認識を深めることができる。</li> <li>4 創意ある授業展開についての認識を深めることができる。</li> </ol>
--------	--

授業のながれ	
1 はじめにー社会科教育法Ⅱの内容と展開	
2 公民教育の歴史	
3 学習指導要領「公民的分野」及び「公民科」の内容	
4 指導の展開を考える（1）ー青年期の特徴と課題（1）	
5 指導の展開を考える（2）ー青年期の特徴と課題（2）	
6 指導の展開を考える（3）ー現代社会の特質（1）	
7 指導の展開を考える（4）ー現代社会の特質（2）	
8 指導の展開を考える（5）ー民主主義の思想（1）	
9 指導の展開を考える（6）ー民主主義の思想（2）	
10 指導の展開を考える（7）ー人類の思想史（1）	
11 指導の展開を考える（8）ー人類の思想史（2）	
12 指導の展開を考える（9）ー現代と思想（1）	
13 指導の展開を考える（10）ー現代と思想（2）	
14 創意と工夫にあふれた「公民」授業の展開	
15 まとめ	

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 新聞を読み時事問題を把握しているのは、受講の前提条件です。</li> <li>2 毎回レジュメを用意します。保存し以後の学習につなげてください。</li> <li>3 レポートとして文献についての読後感を提出してもらう予定ですが、それにとどまらず講義中に紹介する文献をぜひ読んでください。</li> <li>4 講義中に、時事問題や公民授業のあり方について自分の意見をまとめ、発表する機会を設定します。積極的な態度を期待します。</li> <li>5 欠席・遅刻・受講マナー、課題提出についてはきちんとした態度を求めます。</li> </ol> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p> <p>「社会科教育法Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ」「憲法」「哲学」「政治学」「社会学」その他社会科の教育内容を構成する諸科目。社会科教員には幅広い基礎的教養が重要です。可能な限り多くの科目を履修することを勧めます。</p>
-------------------	--

成績評価の方法											
<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>50%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>10%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	40%	レポート	0%	中間試験	0%	定期試験	50%	その他	10%	以下の配分を目安に総合的に判定する。「その他」とは授業中の意見発表や出席状況などを指す。なお定期試験の形式については、追って指示する。
課題・小テスト	40%										
レポート	0%										
中間試験	0%										
定期試験	50%										
その他	10%										

テキスト	
<input checked="" type="checkbox"/> テキストを使用する <input type="checkbox"/> レジュメを使用する <input type="checkbox"/> 未定(最初の授業で指示する)	文部科学省 「中学校学習指導要領解説 社会編」 東京書籍 文部科学省 「高等学校学習指導要領解説 公民編」 実教出版



科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
教育相談の基礎と方法（中高）	2	2	後期開講	早川 すみ江

テーマ	生徒の発達的特徴と問題を理解し、学校における教育相談の理論と実践を学ぶ。
-----	--------------------------------------

科目のねらい	<p>【キーワード】教育相談 カウンセリングマインド 精神力動的理解</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>教育相談は、生徒の人格発達・成長を援助することを目的としている。そこでそれぞれの時期の人格発達上の発達課題や問題について学ぶ。そして教育相談の理論的枠組みとしてのカウンセリング理論とその技法を学習した上で、不登校やいじめ、非行などについての理解の仕方や対応のあり方について考えていく。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>初歩的なカウンセリング理論と技法を習得し、それぞれの現場でカウンセリングマインドを生かした教育相談活動を実践できるようにする。</p> <p>人格発達上の発達課題や問題について理解し、発達段階に応じた適切な援助ができるようにする。</p>
--------	--

授業のながれ	
教育相談とは	
児童期における発達の諸相	
思春期・青年期における発達の諸相	
心理査定の方法1（心理テスト／自分自身を知る）	
心理査定の方法2（人間関係の性質・精神力動的理解の仕方）	
カウンセリングの理論	
カウンセリングの技法	
思春期・青年期に生じやすい心理的問題の理解と対応1	
思春期・青年期に生じやすい心理的問題の理解と対応2	
不登校の理解と対応	
いじめの理解と対応	
非行の理解と対応	
軽度発達障害児の理解と援助	
保護者やスクールカウンセラー・専門機関との連携	
まとめ	

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>授業中の私語・携帯電話の操作・飲食等、受講の妨げとなる行為は禁止。関連する参考文献などで自主的な学習も積極的にすること。</p> <p>便宜資料を配布</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p>
-------------------	--

成績評価の方法											
<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>70%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>10%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	20%	レポート	0%	中間試験	0%	定期試験	70%	その他	10%	出席、授業内の小レポート、および試験によって総合的に評価する。
課題・小テスト	20%										
レポート	0%										
中間試験	0%										
定期試験	70%										
その他	10%										

テキスト	<p><input type="checkbox"/> テキストを使用する</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> レジュメを使用する</p> <p><input type="checkbox"/> 未定（最初の授業で指示する）</p>
------	---

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
知的障害児教育論 (オンデマンド)	2	2	後期開講	伊勢田 亮

テーマ	知的障害児教育における教育課程の構造と内容
-----	-----------------------

科目のねらい	<p>【キーワード】教育課程 教育課程の内容 教育課程編成の基本原則 軽度・重度重複障害児 軽度・重度重複障害児 生活・障害・発達</p> <p>&lt;内容の要約&gt; 知的障害のある子どもの生活・障害・発達の実態に即した教育課程の編成と実施は、個別指導計画の要請に現れているように、極めて重要な課題です。そこで、本講義においては特別支援学校・学級の教育課程について、その構造と内容に視点を置いて学びます。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・知的障害児教育における教育課程の構造と編成の基本原則が分かる。</li> <li>・知的障害児教育における教育課程の内容と実践方法が分かる。</li> <li>・軽度、重度重複の障害に対応した教育課程の内容と実践方法が分かる。</li> </ul>
--------	--

授業のながれ	
1. 障害児教育の体系	
2. 障害児教育と教育課程	
3. 教師と教育課程	
4. 知的障害児教育と教育課程の枠組み	
5. 生活・障害・発達と教育課程	
6. 学校生活と教育課程	
7. 生活サイクルと教育課程	
8. 基本的な生活習慣の形成	
9. 健康な身体の育成	
10. 遊ぶ力の育成	
11. 認識の力の育成	
12. 労働する力の育成	
13. 創造する力の育成	
14. 軽度知的障害児の教育課程	
15. 重度重複障害児の教育課程	

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>・本科目はオンデマンド授業によって行われます。・基本文献として茂木俊彦著「障害児と教育」岩波書店、を読んでおいてください。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt; 旧カリキュラムの障害児教育論Ⅱ、新カリキュラムの特別支援教育論などです。 &lt;受講期間について&gt; 受講開始日：9/17（金）～（履修登録完了後、翌日より開始） 受講終了日：2011 1/17（月） 16：00</p>
-------------------	--

成績評価の方法											
<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>0%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	0%	レポート	100%	中間試験	0%	定期試験	0%	その他	0%	期間中に講義を視聴していることが成績評価の前提となっています。レポートは3回、提出してもらいます。
課題・小テスト	0%										
レポート	100%										
中間試験	0%										
定期試験	0%										
その他	0%										

テキスト	
<input type="checkbox"/> テキストを使用する <input type="checkbox"/> レジューメを使用する <input type="checkbox"/> 未定（最初の授業で指示する）	

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
知的障害児教育論	2	2	後期開講	伊勢田 亮

テーマ	知的障害児教育における教育課程の構造と内容
-----	-----------------------

科目のねらい	<p>【キーワード】教育課程 教育課程の内容 教育課程編成の基本原則 軽度・重度重複障害児 軽度・重度重複障害児 生活・障害・発達</p> <p>&lt;内容の要約&gt; 知的障害のある子どもの生活・障害・発達の実態に即した教育課程の編成と実施は、個別指導計画の要請に現れているように、極めて重要な課題です。そこで、本講義においては特別支援学校・学級の教育課程について、その構造と内容に視点を置いて学びます。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・知的障害児教育における教育課程の構造と編成の基本原則が分かる。</li> <li>・知的障害児教育における教育課程の内容と実践方法が分かる。</li> <li>・軽度、重度重複の障害に対応した教育課程の内容と実践方法が分かる。</li> </ul>
--------	--

授業のながれ	
1. 障害児教育の体系	
2. 障害児教育と教育課程	
3. 教師と教育課程	
4. 知的障害児教育と教育課程の枠組み	
5. 生活・障害・発達と教育課程	
6. 学校生活と教育課程	
7. 生活サイクルと教育課程	
8. 基本的な生活習慣の形成	
9. 健康な身体の育成	
10. 遊ぶ力の育成	
11. 認識の力の育成	
12. 労働する力の育成	
13. 創造する力の育成	
14. 軽度知的障害児の教育課程	
15. 重度重複障害児の教育課程	

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>・基本文献として茂木俊彦著「障害児と教育」岩波書店、を読んでおいてください。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt; 特別支援教育論・知的障害児指導法などです。</p>
-------------------	---

成績評価の方法											
<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>60%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>0%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	60%	レポート	0%	中間試験	0%	定期試験	40%	その他	0%	出席と定期試験によって行う。
課題・小テスト	60%										
レポート	0%										
中間試験	0%										
定期試験	40%										
その他	0%										

テキスト	
<input type="checkbox"/> テキストを使用する <input checked="" type="checkbox"/> レジューメを使用する <input type="checkbox"/> 未定(最初の授業で指示する)	

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
肢体不自由児教育論	2	2	前期開講	伊勢田 亮

テーマ	肢体不自由児教育の原理と構造
-----	----------------

科目のねらい	<p>【キーワード】 肢体不自由教育の歴史 肢体不自由児の教育課程 重度重複障害 自立活動 自立活動</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>本講座においては肢体不自由児教育の歴史的発展を踏まえながら、特別支援学校における教育の到達点を明らかにしつつ、その基礎・基本について追究します。特に肢体不自由児教育の特質から派生する教育原理、方法原理や教育課程について概括し、肢体不自由と知的障害を重複する子ども達に対する教育の位置づけと教育課程についても、生活・障害・発達といった観点から理解を深めます。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 肢体不自由児教育の歴史的発展過程と現状・課題が分かる。</li> <li>・ 肢体不自由児教育の基本原理や教育課程の構造が分かる。</li> <li>・ 知的障害を重複する肢体不自由児の教育や肢体不自由児教育における自立活動や医療との関係が分かる。</li> </ul>
--------	--

授業のながれ	
1. 世界の肢体不自由児教育の歴史と動向	
2. 日本の肢体不自由児教育の歴史と動向	
3. 肢体不自由児教育の現状と課題	
4. 肢体不自由児の理解 (1)	
5. 肢体不自由児の理解 (2)	
6. 特別支援教育の体系と肢体不自由児教育	
7. 肢体不自由児の教育原理	
8. 肢体不自由児教育の特質と方法原理 (1)	
9. 肢体不自由児教育の特質と方法原理 (2)	
10. 肢体不自由児教育と教育課程の構造	
11. 軽度肢体不自由児の教育と教育課程	
12. 知的障害を重複する肢体不自由児の教育と教育課程 (1)	
13. 知的障害を重複する肢体不自由児の教育と教育課程 (2)	
14. 肢体不自由児の教育と自立活動	
15. 肢体不自由児の教育と医療機関との連携	

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>特別支援教育に関する基礎理論はもちろん、医学的、心理学的な理解が必須ですから、これまでに得た知識を整理しておくこと。また、障害のある人達と関わる機会（ボランティア等）を探して、積極的に参加するようにして下さい（受講の際に必ず役に立ちますよ）。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p> <p>「特別支援教育論」 「肢体不自由児教育論」 「肢体不自由児指導法」</p>
-------------------	---

成績評価の方法											
<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>60%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	40%	レポート	0%	中間試験	0%	定期試験	0%	その他	60%	<p>集中講義（全4日間）の為、各日の最後に小レポートを課し、評価します。（全4回で40点を満点とする）。出席率と講義中の態度を60点満点で評価します。以上の合計、100点満点を基準として成績評価を行います。</p>
課題・小テスト	40%										
レポート	0%										
中間試験	0%										
定期試験	0%										
その他	60%										

テキスト	
<input checked="" type="checkbox"/> テキストを使用する <input type="checkbox"/> レジュメを使用する <input type="checkbox"/> 未定（最初の授業で指示する）	<p>日本肢体不自由教育研究会 「+BP134 肢体不自由教育の基本とその展開」（2007）」 慶応義塾出版会</p>

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
教育史（中高）	2	3	前期開講	柿沼 肇

テーマ	国民の教育要求と教育運動の歴史－現代の教育と教師の課題－
-----	------------------------------

科目のねらい	<p>【キーワード】「帝国憲法＝教育勅語」体制 「日本国憲法＝教育基本法」体制 教育要求・教育運動 教育の「戦争責任」、「学制」 教育の「戦争責任」、「学制」</p> <p>&lt;内容の要約&gt; 近代日本における教育の歴史を、民衆の生活現実とそこから派生する教育要求、およびその実現をめざす教育運動に焦点をあてて論述する。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>近代日本の教育の歴史を理解し、「戦前」と「戦後」の「断絶」「連続」「連続・飛躍」の関係を把握する。</li> <li>史料を読み、そこから歴史上の「事実」と「意義」を読み解く力を獲得する。</li> <li>「過去」を知ることは「現在」を知ること、そして「未来」を予測する手がかりを得ること、という歴史をみる「目」を養う。</li> </ol>
--------	--

授業のながれ	<p>[第一部] 1. 教育史学習・研究の意義－本年度講義の「テーマ」と「ねらい」</p> <p>2. 教育とは何か、日本教育の現実</p> <p>3. 「戦前」教育の基本構造（1）「戦前」教育の教育理念・教育目的</p> <p>4. 「戦前」教育の基本構造（2）教育の国家統制・国家支配</p> <p>5. 「戦後」教育の出発（1）敗戦と新しい教育の成立</p> <p>6. 「戦後」教育の出発（2）「戦後」教育の変革主体</p> <p>[第二部] 7. 教育（運動）史研究の課題と方法</p> <p>8. 近代公教育制度の成立と民衆の教育要求</p> <p>9. 天皇制教育体制確立期における人民の教育、要求、教育活動</p> <p>10. 日本帝国主義と教育、教育運動</p> <p>11. 政治体制下の教育、教育運動</p> <p>12. 「戦前」教育の帰結とその教訓</p> <p>13. 「戦前」教育と「戦後」教育</p> <p>14. 本年度講義のまとめ①</p> <p>15. 本年度講義のまとめ②</p>
--------	---

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>時間がとれば、ビデオの活用など授業方法に色々と工夫を加える努力をしたいと思っている。授業に対する批判、要望などの積極的な提起を期待する。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt; 「教育学Ⅰ」「歴史の学び」「社会福祉発達史」「日本史」「外国史」</p>
-------------------	--

成績評価の方法	<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>0%</td> <td rowspan="5">筆記試験あるいはレポートによる評価を中心に、平常点等を加味して行う。なお、詳しいことについては授業中に話す予定である。</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>100%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	0%	筆記試験あるいはレポートによる評価を中心に、平常点等を加味して行う。なお、詳しいことについては授業中に話す予定である。	レポート	0%	中間試験	0%	定期試験	0%	その他	100%
課題・小テスト	0%	筆記試験あるいはレポートによる評価を中心に、平常点等を加味して行う。なお、詳しいことについては授業中に話す予定である。										
レポート	0%											
中間試験	0%											
定期試験	0%											
その他	100%											

テキスト	<p><input checked="" type="checkbox"/> テキストを使用する</p> <p><input type="checkbox"/> レジユメを使用する</p> <p><input type="checkbox"/> 未定（最初の授業で指示する）</p> <p>柿沼 肇 「教育学・講義Ⅲ 近代日本の教育史」 教育史料出版会</p>
------	--

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
生徒の生活と進路の指導 (中高)	2	3	後期開講	池田 憲一

テーマ	学級担任として自主的・自治的な活動を指導することを通してどのような児童・生徒を育てるのか、とりわけ子どもの発達の苦悩の理解(受容、共感)および指導方法について学ぶ。
-----	--

科目のねらい	<p>【キーワード】 集団づくり 生きづらさ 他者との関係性 子どもの貧困 子どもの貧困</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>生徒の生活は、多様な様相を現している。教室には、そうした多様な境遇の子どもたちがいる。個々の児童・生徒は、「生きづらさ」を抱えて生活している。そして、それぞれの児童・生徒は教師の応答を求めている。だからこそ学級担任として、児童・生徒に他者とのつながりや出会い直しを通して、他者との関係と自己の自立の意味を学ぶことを援助し、導く必要がある。生活指導の諸課題を継続的に探りながら具体化する実践形態に集団づくりがある。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>学級集団づくりの構造を理解することができる。</p> <p>学級担任として指導する諸活動についてのイメージを豊かにできる。</p>
--------	--

授業のながれ	
授業の進め方のガイダンス	
生徒の生活を指導するとは、どういうことか	
学級担任のしごと	
子どもの貧困	
学級集団づくりの基本	
学級集団づくりの展開	
いま、学校はどうなっているのか	
教育実践とは何か	
実践記録を読む①	
実践記録を読む②	
実践記録を読む③	
実践記録を読む④	
文化活動の指導	
子どもの進路お考える	
学校の問題と教師の責任	

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>授業は、問題提起と意見交流を基本とします。自分で考えることを大切にして、多様な意見から体験的に学んでほしい。授業中に参考文献や実践記録を紹介するので、できるだけ積極的に読んでください。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p>
-------------------	---

成績評価の方法											
<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>50%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	30%	レポート	20%	中間試験	0%	定期試験	0%	その他	50%	① 出席を重視します。出席は、授業の感想・小論文の提出をもって判断します。② 授業中に行う活動とレポート、小論文をもとに総合的に評価する。
課題・小テスト	30%										
レポート	20%										
中間試験	0%										
定期試験	0%										
その他	50%										

テキスト	
<input type="checkbox"/> テキストを使用する <input checked="" type="checkbox"/> レジュメを使用する <input type="checkbox"/> 未定(最初の授業で指示する)	



科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
特別活動方法論 (中高)	2	3	前期開講	藤岡 恭子

テーマ	特別活動の教育的意義と内容, 教育課程における位置づけ, 特別活動の指導法について学ぶ
-----	---

科目のねらい	<p>【キーワード】 なすことによって学ぶ 参加・共同・自治 社会性・自主性の発達 民主的な集団づくり 民主的な集団づくり</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>「なすことを通して学ぶ」を指導原理とする特別活動の教育的意義を理解し, 小・中・高校における学級(ホームルーム)活動, 児童会(生徒会)活動, 学校行事の各内容に即した「望ましい集団活動を通して」行う指導方法を検討する。学級・学校生活における, 子どもたちの社会性・自主性を育む活動や, 社会に主体的に関与していこうとする「生き方」についての指導を考える。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>「望ましい集団活動を通して」行われる特別活動の特質と教育的意義を理解することができる。</p> <p>一つ一つの体験活動を, 子どもたちの人間的な成長発達における, 意味ある経験として高める意義を理解することができる。</p> <p>受講生各自が, 特別活動の具体的な指導計画を作成することができる。</p>
--------	--

授業のながれ	<p>オリエンテーション 授業の全体計画の説明, 受講生の役割分担きめ(受講予定者は必ず出席のこと)</p> <p>特別活動の目標 「望ましい集団活動を通して」行う特別活動の特質とその教育的意義</p> <p>学習指導要領と特別活動 学習指導要領における特別活動の位置づけー「体験活動の充実」の意味ー</p> <p>学級(ホームルーム)活動 (1)学級や学校の生活づくり</p> <p>学級(ホームルーム)活動 (2)適応と成長及び健康安全</p> <p>学級(ホームルーム)活動 (3)学業と進路</p> <p>児童会・生徒会活動 目標, 内容, 配慮事項等, 具体的な事例の検討</p> <p>学校行事(1)儀式的行事 ー目標, 内容, 配慮事項等ー</p> <p>学校行事(2)文化的行事 ー目標, 内容, 配慮事項等ー</p> <p>学校行事(3)健康安全・体育的行事 ー目標, 内容, 配慮事項等ー</p> <p>学校行事(4)旅行・集団宿泊的行事 ー目標, 内容, 配慮事項等ー</p> <p>学校行事(5)勤労生産・奉仕的行事 ー目標, 内容, 配慮事項等ー</p> <p>指導案作成(作業1): 上記第4回~第12回を通じて, 受講生各自, 順次, 指導案作成を進めていく。</p> <p>指導案の完成(作業2): 受講生各自による特別活動の指導案を完成させる。</p> <p>まとめ 各自の指導案の合評会特別活動とは何か</p>
--------	---

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>グループワークおよび発表・討論を主たる活動とするので, 各自の積極的な参加を期待します。下記は参考書です。最初の授業で紹介をしますので, 事前に購入する必要はありません。</p> <p>『小学校学習指導要領解説, 特別活動編』, 『中学校学習指導要領解説, 特別活動編』, 『高等学校学習指導要領』, 『特別支援学校学習指導要領』。折出健二編 『特別活動』(教師教育テキストシリーズ12巻)学文社, 2008年。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p>
-------------------	---

成績評価の方法	<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>60%</td> <td rowspan="5">①出席と各回のミニレポート, ②グループによる発表, ③最終レポート(各自の指導案作成)の3つを要件として, 総合的に評価する。</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>20%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	60%	①出席と各回のミニレポート, ②グループによる発表, ③最終レポート(各自の指導案作成)の3つを要件として, 総合的に評価する。	レポート	20%	中間試験	0%	定期試験	0%	その他	20%
課題・小テスト	60%	①出席と各回のミニレポート, ②グループによる発表, ③最終レポート(各自の指導案作成)の3つを要件として, 総合的に評価する。										
レポート	20%											
中間試験	0%											
定期試験	0%											
その他	20%											

テキスト	<p><input type="checkbox"/>テキストを使用する</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>レジュメを使用する</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>未定(最初の授業で指示する)</p>
------	---

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
道徳教育の指導法 (中高)	2	2	前期開講	井上 陽子

テーマ	道徳教育は、人間尊重の精神を基本として、児童・生徒一人一人が社会の形成者として「人間としての在り方・生き方」を考えあい、道徳的実践力を培うことを目標としている。このことは今日の児童・生徒を取りまく状況の中で益々重要な課題となっている。道徳教育の目標・内容を理解し、教育活動全体の中での道徳教育と道徳の時間における構想力と実践力を培う。
-----	---

科目のねらい	<p>【キーワード】二つの道徳 子どもたちの生活現実 生き方と道徳</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>本講座では、今日の児童・生徒の生活現実を読み解くなかで、道徳教育の意義を理解し、道徳教育の授業構想力を培いたい。講座の内容を①ガイダンス・私にとっての道徳とは②道徳教育の目標と内容③児童・生徒の生活現実と道徳教育の意義④道徳の時間の授業づくりの4つで構成する。実践記録の分析、道徳教材の開発、グループ討論を通して実践的な構想力と指導力を養う。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>ガイダンスの中で、自身の道徳観を振り返り、問い直し、深める。</p> <p>道徳教育の変遷を学び、現在の児童・生徒の生活現実を読み開くことを通して、今日的な道徳教育の意義と目標を理解する。</p> <p>道徳教育の教材開発の楽しさを感じ、実践的な構想力と指導力を養うことができる。</p>
--------	---

授業のながれ	<p>[1] ガイダンス ①あなたにとっての道徳とは?</p> <p>[1] ガイダンス ②わたしにとっての道徳 グループ討論</p> <p>[2] 道徳教育の目標と今日的な意義①道徳教育の変遷②修身の教え</p> <p>[2] 道徳教育の目標と今日的な意義③学習指導要領</p> <p>[3] 道徳教育と生活指導①発達障害児と道徳教育 実践記録を読む</p> <p>[3] 道徳教育と生活指導②「非行」と道徳教育 実践記録を読む</p> <p>[3] 道徳教育と生活指導③虐待と道徳教育 実践記録を読む</p> <p>[3] 道徳教育と生活指導④実践記録の分析 グループ討論</p> <p>[3] 道徳教育と生活指導⑤実践分析についてグループ発表</p> <p>[3] 道徳教育と生活指導⑥いじめ問題と道徳教育 グループ討論</p> <p>[4] 道徳の時間を創る①教材研究と授業のすすめ方</p> <p>[4] 道徳の時間を創る②心のノートと道徳教育</p> <p>[4] 道徳の時間を創る③読み物教材と道徳教育</p> <p>[4] 道徳の時間を創る④授業計画書の作成 グループ討論</p> <p>まとめ</p>
--------	---

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>今を生きる子どもたちは、何に苦しみ、何を喜び、どんな希望をもって生きているのでしょうか。子どもたちの生活現実を読み解き、一人一人が社会の形成者として生きていくために、今求められる道徳とは何かを探っていきたいと思います。そして、あなた自身の道徳観も共に問い直し深めていきましょう。レジュメを毎回用意します。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p>
-------------------	---

成績評価の方法	グループ討論の参加状況、小テスト、定期試験を総合的に評価します。
課題・小テスト	30%
レポート	0%
中間試験	0%
定期試験	40%
その他	30%

テキスト	<input type="checkbox"/> テキストを使用する <input checked="" type="checkbox"/> レジュメを使用する <input type="checkbox"/> 未定(最初の授業で指示する)
------	--

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
社会科教育法Ⅲ（公民）	2	3	前期開講	高須 和博

テーマ	中学社会科・高校公民科授業のめざすもの
-----	---------------------

科目のねらい
<p>【キーワード】公民教育の歴史 現代社会の諸課題を考える 集団討議による探求心と問題意識の深化 主権者を育てる地理歴史・公民科授業の創造 主権者を育てる地理歴史・公民科授業の創造</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>中学校社会科と高等学校公民科の基本的知識の再確認をするとともに、現代社会に対する見方や考え方を主体的な学びを通して深めます。高校公民科の学習内容を通して、生徒が身につけるべき社会認識や学力とは何かを考察する。生徒が現代社会の諸事象に対する関心を高め、多面的・多角的に考察し、主権者意識を育てる創意ある授業展開をともに考えます。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 中学社会科・高校公民科授業に求められる基礎的基本的な知識の習得をめざす。</li> <li>2. 現代社会の諸課題について多面的・多角的に考察し、課題の解決をはかる態度を育てる</li> <li>3. 社会科授業のスキルや生徒が主体的に学ぶ指導展開例をともに考え工夫する。</li> </ol>

授業のながれ
1 はじめに 「社会教育法Ⅲ」の内容と展開について
2 公民教育の歴史から学ぶ
3 教育根本法を考える 課題 1
4 学習指導要領「中学校社会」「高等学校公民科」の目標と内容
5 教科指導の実際 (1)・・・学習指導案の書き方
6 教科指導の実際 (2)・・・班別の学習指導案づくり 班別課題
7 教科指導の実際 (3)・・・班別の学習指導案づくり 班別課題
8 教科指導の実際 (4)・・・班別の学習指導案づくり 班別課題
9 教科指導の実際 (5)・・・授業を分析する(授業づくり)
10 地域の歴史を考える(半田図書館見学) 課題 2
11 指導の展開を考える(6)・・・模擬授業(日本国憲法の制定) 班別課題
12 指導の展開を考える(6)・・・模擬授業(地球環境を考える) 班別課題
13 現代の課題を考える(7)・・・格差社会と労働問題(外部講師)
14 指導の展開を考える(8)・・・模擬授業(市場経済のしくみ) 班別課題
15 生徒の主体的な学習をうながす社会科授業のスキルについて(まとめ)

学ぶ上での注意・担当教員からの希望
<p>1, 複数の新聞に目を通し、社会の動きを知っておくことは受講の前提条件です。2, 国内外の政治・経済に関する文献を読み、読後感想やレポート課題として提出してもらいます。3, 社会科の基礎的知識の定着をはかるために小テストを行います。4, 学習指導案を自ら作成し、作成された指導案について発表・質疑・討議をおこない実践力の養成を行います。5, 教職につくという自覚のもとで受講することを希望します。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p> <p>「教育方法論」「教育史」「学習指導論」「教職入門」などの教育諸学・教職課程科目に加え、幅広い知識・教養を身につけるための読書と豊かな体験を積んでください。</p>

成績評価の方法	
課題・小テスト	40%
レポート	0%
中間試験	0%
定期試験	50%
その他	10%
小テスト、ミニ論文・感想文などの提出に加え、出席状況、受講中の発言やマナー、課題、定期試験結果を、左記の配分に従って総合的に評価する。定期試験の形態については後日連絡します。	

テキスト	
<p>■テキストを使用する</p> <p>■レジュメを使用する</p> <p>□未定(最初の授業で指示する)</p>	<p>文部科学省 『中学校学指導要領解説 社会編』 文部科学省</p> <p>文部科学省 『高等学校指導要領解説 公民編』 文部科学省</p>

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
社会科教育法Ⅳ	2	3	後期開講	林 克次

テーマ	公民的な資質の基礎を涵養する社会科教育のあり方と方法ー地理的分野を中心としてー
-----	---

科目のねらい
<p>【キーワード】社会認識 地理的認識 社会科の基礎・基本 教材研究と学習指導案づくり 授業実践と評価</p> <p>＜内容の要約＞</p> <p>社会科は、学習の主体者である子どもが、社会事象をしっかりと見据えた社会認識の下、民主的な主権者としての公民的な資質の基礎を培っていく教科である。本講義では、社会科の地理的分野を中心にして、社会科教育の理念について学ぶとともに、実際の授業方法について、発表や模擬授業なども含めて、できるだけ実践的に学んでいく。具体的には、社会科教育でとりわけ重要である教材の内容や教材研究の仕方、学習指導案の作り方、授業実践の仕方、視聴覚機器をはじめとする教育機器の使用法などについて学んでいく。</p> <p>＜学習目標＞</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会科教育の理念と構造</li> <li>2. 教材と教材研究の方法</li> <li>3. 授業づくりの仕方</li> <li>4. 学習指導案の作り方と模擬授業の実践</li> <li>5. 教育機器の活用方法</li> </ol>

授業のながれ
1. 社会認識と社会科教育法
2. 社会科のカリキュラムと教科書
3. 社会科における授業のあり方
4. 社会科の学力と評価
5. 地域調査と授業
6. 自然の扱い方と授業
7. 産業の扱い方と授業
8. 生活と文化の扱い方と授業
9. 日本の地域の扱い方と授業
10. 世界の地域の扱い方と授業
11. 地域問題の取り上げ方と授業
12. 環境問題の取り上げ方と授業
13. 食糧問題の取り上げ方と授業
14. 社会科における体験学習と総合学習
15. まとめ

学ぶ上での注意・担当教員からの希望
<p>日頃から社会の事象に関心を持ち、そこからの問題意識を基にして子ども達に何を伝えたいのかについて考察すること。そして、具体的に教材研究を行い、学習指導案を作成し、講義の中で発表を行い討論ができるようにすること。</p> <p>＜本科目の関連科目＞</p> <p>「社会科教育法Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」 「地理学」</p>

成績評価の方法											
<table border="1"> <tr><td>課題・小テスト</td><td>10%</td></tr> <tr><td>レポート</td><td>20%</td></tr> <tr><td>中間試験</td><td>0%</td></tr> <tr><td>定期試験</td><td>60%</td></tr> <tr><td>その他</td><td>10%</td></tr> </table>	課題・小テスト	10%	レポート	20%	中間試験	0%	定期試験	60%	その他	10%	<p>テストとともに、教材研究のまとめと学習指導案、講義における発表討論の状況、講義の時のレポート、講義の出席状況などにより総合的に行う。</p>
課題・小テスト	10%										
レポート	20%										
中間試験	0%										
定期試験	60%										
その他	10%										

テキスト	
<p><input checked="" type="checkbox"/> テキストを使用する</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> レジュメを使用する</p> <p><input type="checkbox"/> 未定(最初の授業で指示する)</p>	<p>堀内一男ほか編著 『中学校新学習指導要領の展開(社会科編)』(2008) 明治図書</p>

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
病弱児指導法	1	3	後期開講	伊勢田 亮

テーマ	病弱児教育に関する指導法を学ぶ
-----	-----------------

科目のねらい	<p>【キーワード】病弱児教育 個別指導計画 学習指導 自立活動 自立活動</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>病弱児は何らかの病気をもち、病院に短期・長期に入院して治療しながら、特別支援学校・学級において教育を受けている。この病弱児の教育指導法について、生活・発達の実態を踏まえながら考察していく。また病弱児の内面理解を深めることの重要性や病弱児教育の生活指導についても学ぶ。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>特別支援学校・学級における病弱児教育の教育課程について理解する。</p> <p>病弱児教育における指導計画の作成について理解する</p>
--------	---

授業のながれ	
わが国における病弱児教育指導の導入	
病弱児の個別指導計画	
病弱児の学習指導	
病弱児の自立活動	
病弱児の生活指導	
病弱児の病識教育	
重症児の指導	
病弱児教育の指導案づくり	

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	
<本科目の関連科目>	

成績評価の方法		
課題・小テスト	40%	出席回数（60%）、授業内における提出物によって行う（40%）
レポート	0%	
中間試験	0%	
定期試験	0%	
その他	60%	

テキスト	
<input type="checkbox"/> テキストを使用する	
<input checked="" type="checkbox"/> レジュメを使用する	
<input type="checkbox"/> 未定（最初の授業で指示する）	

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
知的障害児指導法	2	3	前期開講	伊勢田 亮

テーマ	知的障害児の身体と表現
-----	-------------

科目のねらい	<p>【キーワード】 身体発達 表現教育 身体機能と表現 認知機能と表現 認知機能と表現 表現教育の内容・方法</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>知的障害児の動作・言語、音楽、造形などによる表現には、多くの困難があります。その困難を分析してみると、そこには身体の発達の問題が潜んでいることが分かります。そこで本講義においては、身体の問題について多角的に分析しつつ表現の発達を踏まえながら、知的障害児教育の究極目的ともいえる表現力の育成について、その在り方、方法などについて实际的に学びます。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>知的障害児の身体発達と表現の関係を理解する。</p> <p>身体発達と表現との関係について、身体機能、認知機能の観点から理解する。</p> <p>表現活動の組織化について、遊び、言葉、音楽、造形、演劇などの領域において理解する。</p>
--------	--

授業のながれ	
第1回 障害児の身体発達	
第2回 障害児の教育と表現教育	
第3回 発達段階と表現教育	
第4回 教育課程と表現教育	
第5回 運動機能と表現教育	
第6回 協応運動と表現教育	
第7回 身体像と表現教育	
第8回 感覚・知覚と表現教育	
第9回 言葉・認識と表現教育	
第10回 社会性と表現教育	
第11回 遊びと表現教育	
第12回 言葉と表現教育	
第13回 音楽と表現教育	
第14回 造形と表現教育	
第15回 演劇と表現教育	

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>身体の発達と表現について、基本文献を読んでおいてください。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p> <p>知的障害児教育論</p>
-------------------	--

成績評価の方法											
<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>60%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	0%	レポート	40%	中間試験	0%	定期試験	0%	その他	60%	<p>出席、レポートによって総合的に判断する。基本的には知的障害児の指導における劇的指導法を中心に、実践的に学ぶことから受講生の積極性が問われます。また、本講座は聴講学生特別支援学校における教育実習など、実践の場に応用可能でありますから期待が持てると思います。</p>
課題・小テスト	0%										
レポート	40%										
中間試験	0%										
定期試験	0%										
その他	60%										

テキスト	
<input checked="" type="checkbox"/> テキストを使用する <input type="checkbox"/> レジュメを使用する <input type="checkbox"/> 未定(最初の授業で指示する)	<p>伊勢田亮 障害児の身体と表現協力 大学図書出版</p>



科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
肢体不自由児指導法	2	3	後期開講	伊勢田 亮

テーマ	肢体不自由児教育の指導原理と方法・内容
-----	---------------------

科目のねらい	<p>【キーワード】肢体不自由児教育の指導原理 教育課程 指導形態 知的障害の重複児 各教科の指導法 各教科の指導法 合わせた指導の指導法 自立活動の指導法</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>肢体不自由児教育において最も重要なことは、肢体不自由という障害に合わせた適切な指導を行うことです。また、知的障害などの重複児や重度児に対する指導については、特に自立活動の位置づけや指導に配慮や工夫が求められます。こうした状況を踏まえ、本講座においては肢体不自由児教育の指導原理を明らかにしつつ、指導内容や指導形態、指導法について各教科・領域について具体的に学びます。さらに自立活動については、その指導法に関して基本的な方法を学びます。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>肢体不自由児教育における指導原理・形態について分かる。</p> <p>肢体不自由児教育における指導内容・方法について分かる。</p> <p>自立活動の指導法について分かる。</p>
--------	--

授業のながれ	
第1回 肢体不自由児教育の指導原理?	
第2回 肢体不自由児教育の指導原理?	
第3回 子ども理解と実態把握の方法	
第4回 教育課程と指導内容?	
第5回 教育課程と指導内容?	
第6回 肢体不自由児と指導形態	
第7回 知的障害の重複児と教育課程編成	
第8回 知的障害の重複児と指導形態	
第9回 各教科の指導法?	
第10回 各教科の指導法?	
第11回 合わせた指導の指導法	
第12回 特別活動・道徳の指導法	
第13回 上肢・下肢に関する自立活動の指導法	
第14回 日常生活動作に関する自立活動の指導法	
第15回 知覚・運動に関する自立活動の指導法	

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>本講座においては、肢体不自由の基礎にある病理的要因についての専門的理解はもちろん、特別支援教育の基礎理論などを基礎としています。したがって、関連の科目の復習をお願いします。また、できるだけ実践に引き寄せて講義を進めていきますが、特別支援学校を見学してその状況を把握しておくなどの努力を期待したいと思います。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p>
-------------------	--

成績評価の方法	
課題・小テスト	0%
レポート	0%
中間試験	0%
定期試験	60%
その他	40%

テキスト	<p><input type="checkbox"/> テキストを使用する</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> レジュメを使用する</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 未定(最初の授業で指示する)</p>
------	--

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
聴覚障害児指導法	2	3	後期開講	藤井 克美

テーマ	聴覚障害児教育のあり方を、障害、歴史、言語指導法、インテグレーション・インクルージョンから考える。
-----	---

科目のねらい	<p>【キーワード】特別支援学校と聾学校・難聴学級 聴覚口話法 手指コミュニケーション バイリンガル バイリンガル 手話法</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>今日、わが国の聴覚障害児教育は大きな転換期の中で、聴覚口話法だけでなく手話を導入した教育指導法を創造しようとしている。聴覚障害児は日本語と手話を言語とし、必要な場合代替補助手段を含めての方法論を学ぶ。聴覚障害児の生理や心理及びその教育史を概観し、この教育の課題の論点を学び、現場の実態や手話も学習する。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>聴覚障害について、医学モデルと社会モデルの両面から理解する。</p> <p>国際的な視野も持って聴覚障害児教育史を理解する。</p> <p>聴覚障害児の言語指導法について論点と課題を理解する。</p> <p>聴覚障害児教育をめぐるインテグレーション・インクルージョンの潮流を理解する。</p> <p>特別支援教育体制の中での聴覚障害児教育にあり方についての理解を深める。</p>
--------	--

授業のながれ	科目オリエンテーション・聴覚障害とは・世界の聴覚障害児教育史 日本の聴覚障害児教育史 先達の教師たちの方法論 子どもの言語発達と聴覚障害 聴覚障害児の心理（内面の育ちと援助・指導） 言語獲得指導法論争をめぐる（手話口話論争と指導法） 聴覚障害乳幼児の二言語獲得（聴覚口話と手話） 9・10歳頃の節を越える聴覚障害児の教育方法 バイリンガル教育と手話法 聴覚障害児教育と教育課程 聴覚障害児とインテグレーション インクルージョンと聴覚障害児教育（先進国と発展途上国） インクルージョンと共同学習・共同教育 聴覚障害児教育の国際動向・インクルージョン・障害者権利条約 特別支援教育とコーディネーターの果たす役割・講義のまとめ
--------	--

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>聴覚障害児教育は、一般教育の応用教育であることと、言語獲得の指導法は言語発達や障害についての深い理解や技術が求められることや環境創りが重要になる教育分野であるので、それらの基礎的な学習をすることが重要である。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;</p> <p>特別支援教育、心理学、障害者コミュニケーション、障害者福祉</p>
-------------------	--

成績評価の方法	<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>0%</td> <td rowspan="5">毎回、受講感想文を提出し、それを出席点として30%、中間レポートを2回で30%、期末試験40%の配分で総合的に評価する。感想文、レポート内容は教職科目としての自覚的内容を問う。</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>60%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>0%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	0%	毎回、受講感想文を提出し、それを出席点として30%、中間レポートを2回で30%、期末試験40%の配分で総合的に評価する。感想文、レポート内容は教職科目としての自覚的内容を問う。	レポート	60%	中間試験	0%	定期試験	40%	その他	0%
課題・小テスト	0%	毎回、受講感想文を提出し、それを出席点として30%、中間レポートを2回で30%、期末試験40%の配分で総合的に評価する。感想文、レポート内容は教職科目としての自覚的内容を問う。										
レポート	60%											
中間試験	0%											
定期試験	40%											
その他	0%											

テキスト	<input type="checkbox"/> テキストを使用する <input checked="" type="checkbox"/> レジュメを使用する <input type="checkbox"/> 未定（最初の授業で指示する）
------	--

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
重度障害児指導法	2	3	後期開講	大和田 孝士

テーマ	重度障害児の理解と指導・支援
-----	----------------

科目のねらい	<p>【キーワード】 重度障害 重複障害 重症心身障害 重度・重複障害 訪問教育 自立活動 盲 聾 盲 聾 知的障害 肢体不自由</p> <p>&lt;内容の要約&gt;          教育の場には障害が重く、あるいは障害が重複していて、重度の障害児と呼ばれる子どもがいます。多くは常時介護を必要とする子どもたちです。このような子どもたちの発達段階に応じた指導・支援、あるいは多様な障害に応じた指導・支援等について考えます。</p> <p>&lt;学習目標&gt;          重度障害についての理解          重度障害児の指導・支援の内容や方法の理解</p>
--------	---

授業のながれ	
重度障害とは	
重度障害児への教育的対応	
重度障害の原因と分類	
重度・重複障害の現状（重複学級と医療的ケア）	
重度障害児の実態把握	
重度障害児の指導・支援の基本	
重度障害児の教育課程Ⅰ	
重度障害児の教育課程Ⅱ	
指導・支援の実際Ⅰ	
指導・支援の実際Ⅱ	
指導・支援の実際Ⅲ（学校参観）	
指導・支援の実際Ⅳ 訪問指導（訪問教育）	
重度障害児の発達評価	
重度障害児・者の社会参加と自立	
問題と今後の課題	

学ぶ上での注意・担当教員からの希望	<p>特別支援教育全般にわたり基礎的な知識・理解が必要です。また、障害児の障害の状態、生活やケア等に関する基礎的な知識が必要です。講義を通して、重度障害児に対する自分なりの指導・支援の在り方を考えてください。</p> <p>&lt;本科目の関連科目&gt;          「特別支援教育論」「知的障害児教育論」「肢体不自由教育論」</p>
-------------------	---

成績評価の方法											
<table border="1"> <tr> <td>課題・小テスト</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>80%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>20%</td> </tr> </table>	課題・小テスト	0%	レポート	0%	中間試験	0%	定期試験	80%	その他	20%	<p>上記の配分を目安に総合的に判定する。「その他」とは授業中の意見発表や出席状況などを指す。なお、定期試験の形式については、追って指示する。</p>
課題・小テスト	0%										
レポート	0%										
中間試験	0%										
定期試験	80%										
その他	20%										

テキスト	
<input type="checkbox"/> テキストを使用する <input checked="" type="checkbox"/> レジュメを使用する <input type="checkbox"/> 未定（最初の授業で指示する）	

科目名	単位数	学年担当	開講形態	教員名
教育実習Ⅰ（中高）	0（1）	3	通年開講	林 克次、高須 和博 岡 多枝子、伊藤 敦

テーマ	円滑で有意義な教育実習実現に備えて
-----	-------------------

科目のねらい
<p>【キーワード】専門高校としての商業高校の特質 商業の学習指導案と学習指導法の特質 商業高校の生徒の特質 商業高校生と検定試験 商業高校生と検定試験 商品開発・地域商店街振興と商業高校</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>学習指導案の作成：短時間のうちに学習指導案を作成するためのトレーニングを課し、作成技術と指導案の意義を理解できる。</p> <p>学習指導法の学習：教科教育法において模擬授業を実践するが、その成果を出し合い相互に意見交換を行い一層効果的な学習指導法を会得することができる。</p> <p>商業高校の特質：120年の伝統に培われた商業教育の意味は重い。そこから何を学び何を得ることが出来るか、考えることができる。</p>

授業のながれ
学習指導案の作成①：すでに教科教育法Ⅰ・Ⅱにおいて模擬授業を実践済みである。そこでの経験をこの「教育実習Ⅰ」に生かすべく、模擬授業よりさらに学習指導案の作成に力を入れる。
学習指導案の作成②：正確で魅力ある指導案作成を短時間でい行い得るのは、教育実習を成功させる有効な手段である。一層力を入れたい。
学習指導案の作成③：複数科目の指導案を作成しより指導案作りに精通する。
学習指導法の学習：代表者による模擬授業を行う。後に意見交換（評価、改善意見等）

学ぶ上での注意・担当教員からの希望
<本科目の関連科目>

成績評価の方法	
課題・小テスト	%
レポート	%
中間試験	%
定期試験	%
その他	%

テキスト
<input type="checkbox"/> テキストを使用する
<input type="checkbox"/> レジューメを使用する
<input type="checkbox"/> 未定（最初の授業で指示する）